

埼玉県加須市

# 騎西城武家屋敷跡

KB大英寺・1・2区調査

—中近世編—

2011  
加須市教育委員会

加須市埋蔵文化財調査報告書 第2集

騎西城武家屋敷跡

KB大英寺・1・2区調査 —中近世編—

加須市教育委員会

埼玉県かぞ加須市

き さい じょう ぶ け や しき あと  
騎西城武家屋敷跡

KB大英寺・1・2区調査

—中近世編—

2011

加須市教育委員会







大英寺区遺物出土



大英寺区出土陶器



口絵 2



KB1区 (南~中央部) 完掘



KB1区標準土層 (ローム層)





71



99



98



100



219



290



297



298



305



367



366



134

口絵 4











KB 2区 25・28溝完掘



KB 2区 炭化物分布範囲



KB 2区 166号土壙完掘





KB 2区 77号土壙遺物出土



KB 2区 155号土壙遺物出土



口絵 8



KB 2 土器類 1



口絵 10







漆碗



茶器



曲物側板



田下駄



櫛



桶側板



鉄製品



銅製品

## 序

加須市は埼玉県の北東部に位置し、利根川をはじめ多くの河川を擁する豊かな田園地帯であります。

今回報告いたします騎西地区はその中央に延喜式内社玉敷神社が鎮座する、歴史の古い地区であります。

地区内には、旧石器時代から江戸時代までの遺跡が所在いたしますが周辺の市町村とともに都市化が進み、景観が著しく変貌しております。

今回の調査報告は、昭和58～59年に実施された根古屋地区に所在する騎西城武家屋敷跡 KB 大英寺・1・2区の記録であります。調査の結果、当時の堀や井戸の跡、居住した武士が使用した陶磁器など貴重な遺構・遺物が検出され、城館跡を研究する上で、騎西城の重要性を再認識することとなりました。

本報告が文化財の保護に対する理解の一助として、また郷土資料として広く活用されることを望んでおります。

最後になりましたが、調査の実施、本書の刊行に当たりまして深いご理解と多くのご協力をいただきました開発者の方々をはじめ関係各位の皆様に対しまして深く感謝申し上げます。

平成23年3月

加須市教育委員会

教育長 若山 勝彦



# 例 言

1 本書は埼玉県加須市に所在する騎西城武家屋敷跡の発掘調査報告書である。今回は原始古代分を除く中近世の遺構遺物について報告する。

2 発掘調査は根古屋外川土地地区画整理に先立つもので、昭和58～59年に実施した。

## 3 発掘調査組織

調査主体者 騎西町教育委員会

担当者 各調査に記載

調査協力員

相関広治 青木幸子 青山進作 梓澤ユキ子  
網野のぶ 飯塚剛一 五十嵐喜一郎 五十嵐清  
五十嵐まさ子 五十嵐米太郎 五十嵐由紀子  
石坂正幸 鶴飼美代子 江原福太郎 会森甲寅一  
岡田金之助 大久保良尚 岡田博文 小川征子  
小熊嘉助 小熊富子 小澤守 小野田誠 小野田靖  
籠宮義人 木崎明美 川島久男 木下雅子  
久保田晴子 倉持繁雄 栗原政子 小林徳治郎  
小森谷アサ 小森谷照次 斉藤悦子 斉藤年治  
斉藤光良 斉藤はる子 斉藤久夫 斉藤光良  
斉藤豊 酒巻勇 坂本一政 坂本ゲン 坂本純子  
坂本セイ 坂本久夫 坂本波江 坂本ふく  
佐藤ヨシ 塩野繁一 篠塚よね 須永善之助  
関口つや 関口千代 関口登喜子 関口のぶ  
関根長一 高鳥一郎 高鳥長吉 高原真実  
滝沢万里子 田口島蔵 田島松五郎 谷山博巳  
田村源太郎 土屋トヨ 中島かつ江 長島忠彦  
長島瑤子 内藤ふく 中根聡 根岸清美  
野原よし子 萩原ヨネ 橋本一雄 橋本ヨシ  
細野年一 福島利夫 福島秀夫 細野年一  
若林美知子 若林慶助 増田勝彦 増田留次郎  
松村清子 松村重明 松村一枝 柳田由弘  
山口保夫 吉野武一 吉沢初江 吉沢幸夫  
渡辺美幸 渡辺真帆

## 4 整理組織

(平成22年度) 加須市教育委員会

教育長 若山勝彦

教育部長 松本 清

教育副部長 小暮 弘

騎西教育事務所 所長 正能晴雄

主幹 嶋村英之

主査 坂本征男

本書の刊行に際して次のように分担して業務に当たった。

(1) 執筆 土器類 島村範久

(加須市教育委員会生涯学習課)

木製品 嶋村薫

ほか 嶋村英之

(2) 写真撮影は現場のものは調査担当者が、その他は嶋村英之の下、整理協力員が行った。

(3) 出土品の整理・図版の作成は下記の指導者の下、整理協力員が行った。

指導者

土器類、金属・石製品の一部 島村範久

銭貨 坂本征男

ほか 嶋村英之

木製品は嶋村薫が実測した。『騎西町史考古資料編1』掲載のものは本報告の図を優先する。

板碑の拓本は『騎西町史考古資料編2』掲載のものを加工した。

整理協力員

青木幸子 秋山ノリ子 新井博子 石渡とみ江

石坂正幸 小熊富子 小川美津子 小野田誠

小野田靖 小澤守 方波見良子 籠宮義人

酒巻勇 斉藤豊 塩崎順子 鈴木房子 遠井恭子

中根聡 長谷川恵 松村順子 渡辺美幸

5 本書の編集は嶋村英之が行った。

6 資料は加須市教育委員会が保管している。

## 7 挿図について

○縮尺は以下の通りである。

遺構 溝 土層堆積 1/40

溝断面・井戸状遺構・土壌 1/60

遺物出土 1/40・1/20

遺物

陶磁器類・木製品 1/3 金属製品 1/2

銭貨 1/1 土製品・石製品 1/4～1/2

石器 1/2～1/3 石塔類 1/4

○遺構断面図の基準標高は各々に記載した。

○遺物の図ナンバーは土器類・木製品類などの製品毎に通しとした。

## 8 本文および表について

○（ ）の数値は残存値である。

○※は不確定な推定復元値

○土層説明は土層色調/含有物の順に記載した。

## 略称凡例

※テフラ=T、ローム=L、炭化物=C、焼土=S、  
酸化鉄=FE、黒褐色=BB、黒色=B、褐色=Br

※粒子=R、ブロック=B

※非常に多い=☆、多量=◎、少量=△、微量=▲、  
万遍なく=アンダーライン

※やや明るい=やや明、やや暗い=やや暗、

※非常に軟らかい=軟度高・軟らかい=軟質・やや  
軟らかい=軟度低 ・硬い=堅緻

※締まり良し=締良・締まり悪し=締悪・粘性強し  
=粘強・粘性有り=粘有

○銭貨の文字は欠損等しているが確定できるものは明記し、不明なものは□とした。

9 騎西城は私市城とも表すがここでは武家屋敷が存在していた時期の古文書等により騎西城とする。

10 整理報告に際して下記の方々からご指導・ご協力をいただいた。記して感謝の意を表します。

(敬称略)

豊田勝彦 林宏一 藤澤良祐 三浦一郎



KB大 調査風景



# 目次

序／例言／目次		第3節 金属製品	112
第I章 遺跡の立地・環境		(1) 鉄製品	112
第1節 遺跡の位置	1	(2) 銅製品	112
第2節 遺跡の地理的環境	1	(3) 銭貨	118
第3節 遺跡の歴史的環境	2	第4節 石製品類	126
第II章 調査に至る経過	6	(1) 石製品	126
		(2) 石造物	126
第III章 調査概要と検出された遺構		第5節 補遺	148
第1節 KB大英寺区	8	第V章 まとめ	
第2節 KB1区	12	第1節 KB大英寺区	149
第3節 KB2区	24	第2節 KB1区	149
第IV章 出土した遺物		第3節 KB2区	149
第1節 土器類	49	第4節 遺構の変遷	151
第2節 木製品	109	引用参考文献／図版／報告書抄録	

# 挿図目次

第1図 遺跡の位置	1	第21図 KB2遺構3	36
第2図 周辺の微地形分類と縄文・古墳時代遺跡	3	第22図 KB2遺構4	37
第3図 周辺の微地形分類と城館跡	3	第23図 KB2遺構5	38
第4図 各調査区的位置	7	第24図 KB2遺構6	39
第5図 KB大遺構位置図	9	第25図 KB2遺構7	40
第6図 KB大遺構1	10	第26図 KB2遺構8	41
第7図 KB大遺構2（1号溝遺物出土）	11	第27図 KB2遺構9	42
第8図 KB1遺構位置図	15	第28図 土器類1	55
第9図 KB1遺構1	17	第29図 土器類2	56
第10図 KB1遺構2	18	第30図 土器類3	57
第11図 KB1遺構3	19	第31図 土器類4	58
第12図 KB1遺構4	20	第32図 土器類5	59
第13図 KB1遺構5	21	第33図 土器類6	60
第14図 KB1遺構6	22	第34図 土器類7	61
第15図 KB2遺構位置図1	27	第35図 土器類8	62
第16図 KB2遺構位置図2	29	第36図 土器類9	63
第17図 KB2遺構位置図3	31	第37図 土器類10	64
第18図 KB2遺構位置図4	33	第38図 土器類11	65
第19図 KB2遺構1	34	第39図 土器類12	66
第20図 KB2遺構2	35	第40図 土器類13	67

第41図	土器類14	68	第72図	金属製品 2 (鉄 2)	114
第42図	土器類15	69	第73図	金属製品 3 (銅 1)	116
第43図	土器類16	70	第74図	金属製品 4 (銅 2)	117
第44図	土器類17	71	第75図	金属製品 5 (銭貨 1)	119
第45図	土器類18	72	第76図	金属製品 6 (銭貨 2)	120
第46図	土器類19	73	第77図	金属製品 7 (銭貨 3)	121
第47図	土器類20	74	第78図	金属製品 8 (銭貨 4)	122
第48図	土器類21	75	第79図	金属製品 9 (銭貨 5)	123
第49図	土器類22	76	第80図	金属製品10 (銭貨 6)	124
第50図	土器類23	77	第81図	金属製品11 (銭貨 7)	125
第51図	土器類24	78	第82図	石製品 1 (石臼 1)	127
第52図	土器類25	79	第83図	石製品 2 (石臼 2)	128
第53図	土器類26	80	第84図	石製品 3 (石臼ほか)	129
第54図	土器類27	81	第85図	石製品 4 (砥石 1)	130
第55図	土器類28	82	第86図	石製品 5 (砥石 2)	131
第56図	土器類29	83	第87図	石製品 6 (砥石 3)	132
第57図	土器類30	84	第88図	石製品 7 (磨石 1)	133
第58図	土器類31	85	第89図	石製品 8 (磨石 2)	134
第59図	土器類32	86	第90図	石製品 9 (磨石 3)	135
第60図	土器類33	87	第91図	石製品10 (板碑 1)	136
第61図	土器類34	88	第92図	石製品11 (板碑 2)	137
第62図	土器類35	89	第93図	石製品12 (板碑 3)	138
第63図	土器類36	90	第94図	石製品13 (板碑 4)	139
第64図	土器類37	91	第95図	石製品14 (板碑 5)	140
第65図	土器類38	92	第96図	石製品15 (板碑・五輪塔)	141
第66図	土器類39	93	第97図	石製品16 (五輪塔ほか)	142
第67図	土器類40	94	第98図	出土遺物補遺 (木・銅)	148
第68図	土器類41 (土製品)	95	第99図	『絵図』との対照図	150
第69図	木製品 1	110	第100図	遺跡の変遷 1	152
第70図	木製品 2	111	第101図	遺跡の変遷 2	153
第71図	金属製品 1 (鉄 1)	113			

## 表目次

第 1 表	KB 大遺構一覽表	10	第 8 表	KB 2 遺構一覽表 5	47
第 2 表	KB 1 遺構一覽表 1	14	第 9 表	KB 2 遺構一覽表 6	48
第 3 表	KB 1 遺構一覽表 2	23	第10表	土器類一覽表 1	96
第 4 表	KB 2 遺構一覽表 1	43	第11表	土器類一覽表 2	97
第 5 表	KB 2 遺構一覽表 2	44	第12表	土器類一覽表 3	98
第 6 表	KB 2 遺構一覽表 3	45	第13表	土器類一覽表 4	99
第 7 表	KB 2 遺構一覽表 4	46	第14表	土器類一覽表 5	100

第15表	土器類一覽表 6	101	第24表	金屬製品一覽表 1	115
第16表	土器類一覽表 7	102	第25表	金屬製品一覽表 2	118
第17表	土器類一覽表 8	103	第26表	金屬製品一覽表 3	125
第18表	土器類一覽表 9	104	第27表	石製品類一覽表 1	143
第19表	土器類一覽表 10	105	第28表	石製品類一覽表 2	144
第20表	土器類一覽表 11	106	第29表	石製品類一覽表 3	145
第21表	土器類一覽表 12	107	第30表	石製品類一覽表 4	146
第22表	土器類一覽表 13	108	第31表	石製品類一覽表 5	147
第23表	木製品一覽表	111	第32表	出土遺物補遺一覽表	148

## 図版目次

図版 1	遺構 1	KB 大-1	図版 20	遺構 20	KB 2-14
図版 2	遺構 2	KB 1-1	図版 21	遺構 21	KB 2-15
図版 3	遺構 3	KB 1-2	図版 22	遺構 22	KB 2-16
図版 4	遺構 4	KB 1-3	図版 23	遺構 23	KB 2-17
図版 5	遺構 5	KB 1-4	図版 24	遺構 24	KB 2-18
図版 6	遺構 6	KB 1-5	図版 25	遺構 25	KB 2-19
図版 7	遺構 7	KB 2-1	図版 26	遺構 26	KB 2-20
図版 8	遺構 8	KB 2-2	図版 27	遺構 27	KB 2-21
図版 9	遺構 9	KB 2-3	図版 28	土器類 1	
図版 10	遺構 10	KB 2-4	図版 29	土器類 2	
図版 11	遺構 11	KB 2-5	図版 30	土器類 3	
図版 12	遺構 12	KB 2-6	図版 31	土器類 4	
図版 13	遺構 13	KB 2-7	図版 32	土器類 5	
図版 14	遺構 14	KB 2-8	図版 33	土器類 6	
図版 15	遺構 15	KB 2-9	図版 34	金屬製品	
図版 16	遺構 16	KB 2-10	図版 35	石製品類 1	
図版 17	遺構 17	KB 2-11	図版 36	石製品類 2	
図版 18	遺構 18	KB 2-12	図版 37	石製品類 3	
図版 19	遺構 19	KB 2-13			

# 第1章 遺跡の立地・環境

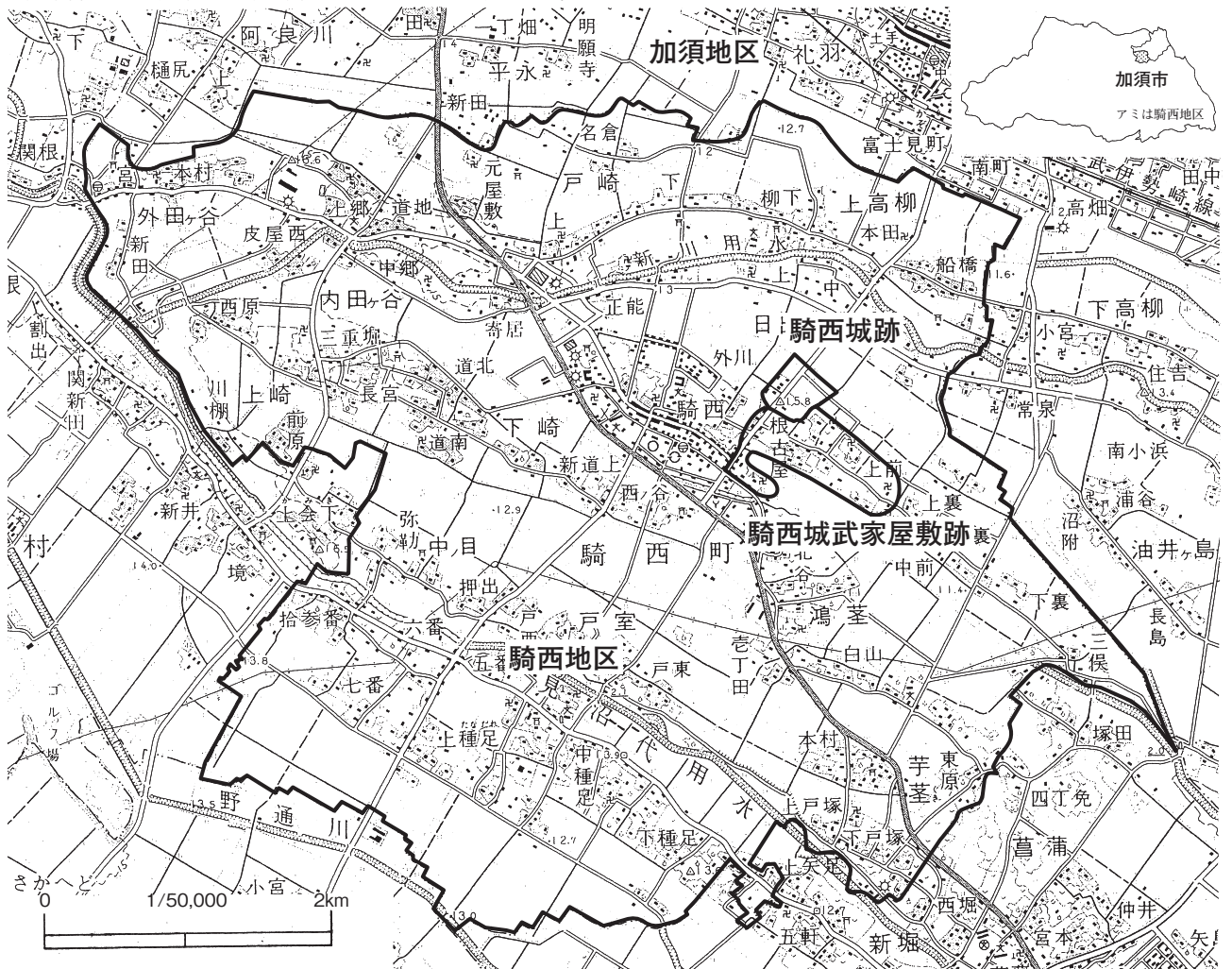
## 第1節 遺跡の位置(第1図-遺跡の位置)

加須市騎西地区は埼玉県北東部に位置し騎西城武家屋敷跡はそのほぼ中央にある。行政上では加須市根古屋字道上・中宿・前・道下、牛重上前・中前・上裏その他に所在する。戦国から江戸時代の城跡で、昭和56年度実施の騎西町遺跡詳細分布調査や明治9年の「地引番号全図根古屋」、江戸時代に描かれた「武州騎西之絵図」などにより城の形状や武家屋敷の範囲が明らかである。遺跡の範囲は騎西生涯学習センターから南東へ1.2km、南西へ約0.5kmである。

## 第2節 遺跡の地理的環境

(第2図-周辺の微地形分類と縄文・古墳時代遺跡)

大宮台地の北東から南東方向には肥沃な水田地帯



第1図 遺跡の位置

である加須低地・中川低地が広がっている。加須低地には、騎西島状台地群をはじめとして笠原支台より断続的に続く埋没ローム台地がいくつか存在し、造盆地運動によって台地や低地が沈降した。その上に利根川などの氾濫による河成堆積物が堆積し、自然堤防・埋没ローム台地・後背湿地・沼沢地が形成されたものである。

現在騎西地区内で確認されている原始から近世までの遺跡は埋没ローム台地と自然堤防上に立地していると言われてきた。しかし発掘調査では、旧石器時代から奈良・平安時代の遺跡は自然堤防とされている見沼代用水両岸に位置しいずれもローム台地上に展開している。



## 第3節 遺跡の歴史的環境

(第2図及び第3図)

※(遺跡名)は騎西町史考古資料編1に準じたものである。城館跡名では不適切となるため小字による遺跡名を付け直した。

### 1 旧石器時代

約2万年前以降、ナイフ形石器や尖頭器が盛行した頃、萩原遺跡をはじめ(前)・(中宿)遺跡で該期の遺物が出土している。(前)遺跡では尖頭器及び剥片の集中箇所が2カ所確認されている。

細石刃石器群が出現した約1万5千年前以降では下崎中郷遺跡で北方系の削片、(道上)遺跡では同系の荒屋型彫刻器が出土している。

### 2 縄文時代

草創期に(中宿)遺跡で有舌尖頭器が見られるのみで土器は発見されていない。早期は修理山・小沼耕地・(前)・(道上)遺跡で撚糸文系土器、(前)遺跡では集石遺構が、(道上)遺跡で沈線文系土器、条痕文系は修理山・(前)・(中宿)・(道上)遺跡で土器が出土しており、特に修理山・(中宿)遺跡では炉穴が確認された。

前期では前半花積下層・関山・黒浜式土器が小沼耕地・(前)・(道上)で出土している。後半諸磯から十三菩提式期までは前半に加え萩原遺跡で諸磯式土器が、小沼耕地遺跡では県内では希少な花積下層式期の住居跡状落ち込みが検出されている。

中期前半に(道上)・萩原遺跡で五領ヶ台式・勝坂式が確認されている。後半は加曾利E式期その後半に(中宿)遺跡で柄鏡形住居・(道上)遺跡で竪穴住居が、萩原・修理山遺跡では集落が展開した。修理山遺跡では10軒の竪穴住居、萩原遺跡では数軒の住居跡と墓壇などが見つかっている。

両遺跡は後期前半堀の内期までは集落を継続し少数ながら住居跡や貯蔵穴が検出された。後半になると再び遺物のみの出土となるが萩原・中郷・(前)・(中宿)・(道上)遺跡で加曾利B~後期安行式が出土している。晩期では安行3a~3d式が修理山・町並・(道上)・(前)・(中宿)遺跡で出土している。

### 3 弥生時代

騎西地区内の遺跡は少なく中期では上種足三番遺跡で磨製石鎌が、(道上)遺跡では後期の壺や器台の破片が出土しており、中種足五番遺跡の絵画土器や小沼耕地遺跡の土器片は弥生時代終末期から古墳時代初頭のものである。

### 4 古墳時代

古墳跡は小沼耕地遺跡※で6~7世紀の前方後円墳1基・円墳5基が、(内田ヶ谷中郷)遺跡で勾玉や埴輪片、(前)遺跡の埴輪片や隣接する(中宿)遺跡の切子玉・さらにその周辺で出土したと伝えられる石棺部材(町内の玉敷神社所在)を考えあわせるとこれらの地域にも古墳が所在していたものと考えられる。また、集落は前期の住居跡が小沼耕地遺跡・(中宿)遺跡、中期の住居跡が萩原遺跡、後期の住居跡は萩原遺跡・(道上)遺跡・(中宿)遺跡で確認されており、なかでも萩原遺跡は地区内屈指の集落遺跡である。そのほかにも古墳時代の土師器が中種足五番遺跡・観音堂遺跡から出土し集落の所在を予想させる。他に古墳時代前期の方形周溝墓が修理山遺跡・小沼耕地遺跡で確認されている。

以上のように現在遺跡が確認されている台地には古墳及び集落がそれぞれ所在するものと考えられる。

※町史の上種足三番遺跡を含む

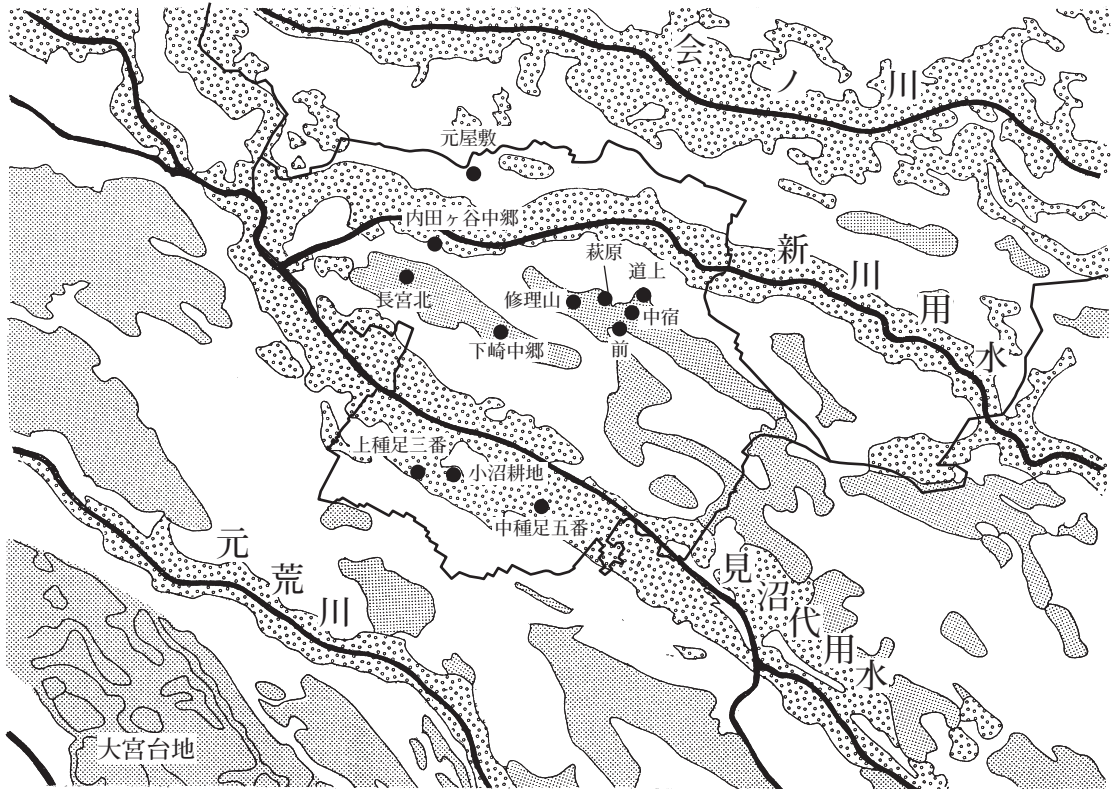
### 5 奈良・平安時代

住居跡が確認されているのは(道上)遺跡・上種足三番遺跡で8世紀代のものである。下崎中郷遺跡では湖西産とみられる須恵器が、観音堂・中種足五番遺跡で須恵器や土師器が、(中宿)遺跡では小金銅仏が出土している。元屋敷遺跡では墨書土器や瓦が出土している。

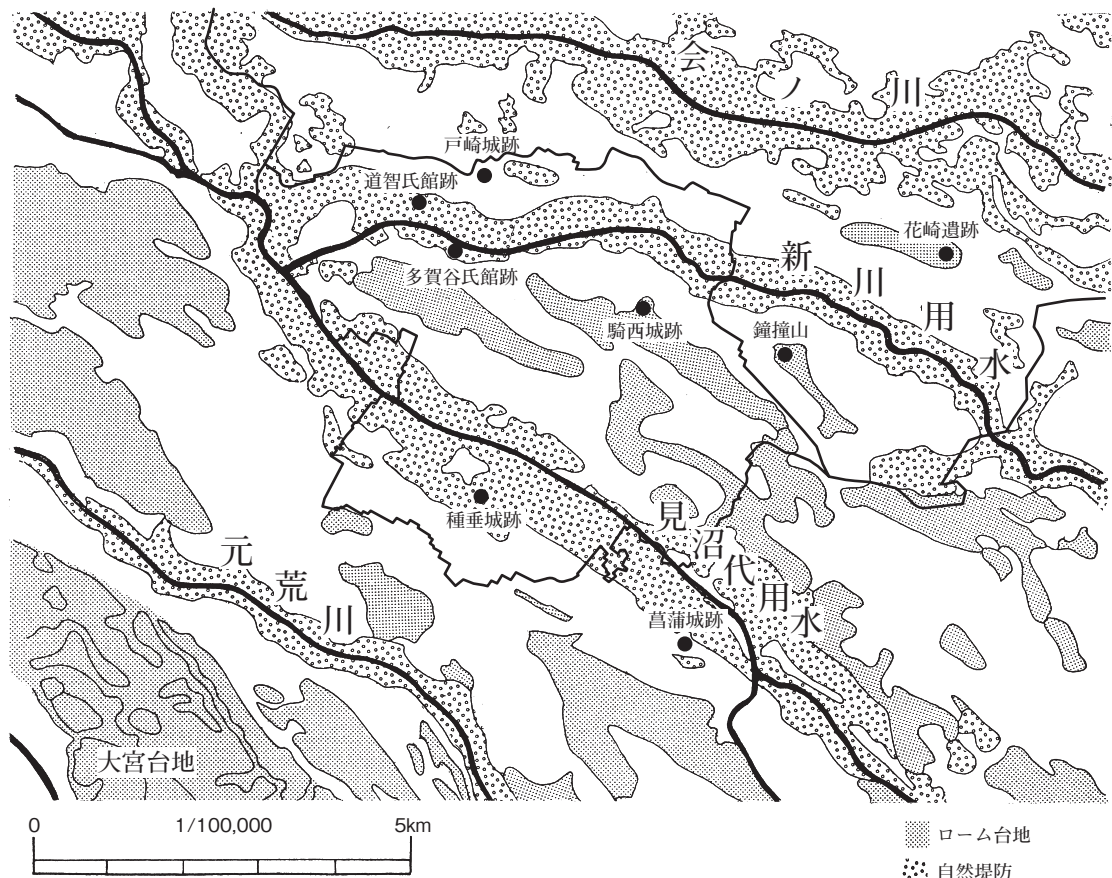
### 6 中近世

騎西地区内には平安末から鎌倉時代にかけて武蔵武士野与党の道智氏・多賀谷氏が館を構えたといわれる。

多賀谷氏の館は大字内田ヶ谷の大福寺を中心にあつたものと思われ、建久元年(1190)多加谷小三郎が源頼朝の上洛の随兵を、建長3年(1251)多賀谷弥五郎重茂が鎌倉由比ヶ浜での御弓始の射手を務めている『吾妻鏡』。永享年間(1429~41)初め頃に



第2図 周辺の微地形分類と縄文・古墳時代遺跡



第3図 周辺の微地形分類と城館跡

結城に移ったといわれる多賀谷光義は敬神の念厚く郭内に稲荷明神を勧請した『多賀谷旧記』。発掘調査では館跡の東端で、溝から12～14世紀の同安龍泉窯系青磁碗・常滑広口壺が出土しており、ほぼ中央大福寺の北で、土壙から12～13世紀の同安龍泉窯系青磁とともに刀身先端や鉄鏃が出土している。

道智氏館は、大字道地の成就院周辺で建久元年（1190）道智次郎が源頼朝の上洛の随兵を、承久3年（1221）の宇治橋の合戦では道智三郎太郎が討ち死にしている『吾妻鏡』。発掘調査では館跡のほぼ中央で13～14世紀の龍泉窯系青磁が、西端で12～13世紀の龍泉窯系青磁などが出土している

**種垂城跡**は、上種足種垂城址公園から東へ広がり百石・シロンチ（城の内？）等の地名が残る。雲祥寺縁起には騎西城主小田顕家が養子の助三郎（忍城主成田親泰の子）に家督を譲り種垂村に隠居したという。発掘調査では、溝・井戸・土壙・火葬跡を検出し、漆碗・小柄や13～17世紀の陶磁器類が出土している。

隣接する**上種足三番遺跡**（現小沼耕地遺跡）では、溝・土壙・井戸・集石墓が検出されており、12世紀の白磁水注・13世紀の龍泉窯系青磁・常滑甕・在地の蔵骨器・箆状木製品が出土している。

**小沼耕地遺跡**では県埋蔵文化財調査事業団の調査で、掘立柱建物跡・基壇状遺構・溝・井戸などが検出され、12～13世紀を主体とする陶磁器類が出土している。種足は、中世前半の弘安10年頃（1287）伊賀光清が所領としており、また応永24年（1417）に日英上人が種垂の講演御堂（布教道場）等の講演職を弟子に任せている。三番・小沼耕地遺跡の成果はそれらに関わるものとも思われる。

やや南よりの**中種足五番遺跡**では12～13世紀の龍泉窯系の青磁や15～16世紀の染付、13～17世紀の古瀬戸・常滑・在地の陶磁器類が出土している。

**戸崎城跡**は『新編武蔵風土記稿』に戸崎右馬允の居跡なりとの記載がある。また『吾妻鏡』には戸崎右馬允国延が寿永3年（1184）源頼朝の御前の射手となるとある。発掘調査では土塁跡や13世紀の鉢や17・18世紀の陶磁器類が出土している。

**騎西城**（年表参照）は文献や江戸初期の『武州騎

西之絵図』など城の絵図が遺る。遺構は現在土塁跡が僅かに残るだけであるが、昭和55年から80次を超えて発掘調査されており、主に土地区画整理に伴い城郭部や武家屋敷跡西部の成果が顕著である。これまでに溝400条・土壙1600基・井戸状遺構200基・障子堀4ヶ所・橋跡2ヶ所が確認されている。遺物は戦場及び生活の場として武器武具・生活・生業・信仰・流通に関する多様なものが出土している。特に水位が高いことから木製品の遺存がよい。武器武具では、兜・前立・刀装品・鉄鏃・火縄挟み・弾丸・馬甲・轡・四方手・野杓・腰刀・薙鎌など、生活品では、下駄・鏡・竪杵・鉄鍋・桶・漆碗杓子・折敷・火打金・天目茶碗・湯釜・将棋の駒など、生業では、砥石・紡錘車・鋏・溶解炉・鋳型・埴塙・金粒付着土器など、信仰では護符・呪符・舟形・位牌・銅碗・数珠など、流通では金・袋入り銭貨・荷札などがある。年代を計れる陶磁器は12世紀から19世紀にかけてのもので、主体は16～17世紀前半である。瀬戸美濃をはじめ中国染付・唐津・志戸呂・初山・在地産かわらけ・ほうろく・播鉢などがある。

このほかに、日出安の保寧寺中世墓址では、大量の川原石や板碑、12～14世紀の常滑の甕・壺、13世紀の布目瓦が出土している。墓域の成立は中世前半に遡るものか。また、下崎の道南遺跡で工事の際1978枚の北宋銭が出土している。



## 騎西城周辺年表

- 康正元年（1455） 足利成氏、崎西郡（騎西城）に集結する上杉勢（上杉・疋鼻和など）を攻略する。
- 文正元年（1466） 足利成氏、南多賀谷（田ヶ谷）と北根原（鴻巣市）で上杉勢と合戦に及ぶ
- 応仁元年（1467） ★応仁の乱
- 文明3年（1471） 上杉方に対峙する足利成氏の戦略配置に私市（騎西）の佐々木氏あり
- 文亀2年（1502） 騎西城主小田顕家、上会下（鴻巣市）・雲祥寺を復興。忍城（行田市）主成田親泰の子助三郎家時を娘婿とし騎西城を譲り、自らは種足村に隠居する
- 天文8年（1539） 騎西城主小田顕家没、雲祥寺に葬られる。
- 天文12年（1543） ★鉄砲伝来
- 永禄3年（1560） 長尾景虎（上杉謙信）関東の北条方諸城を攻略。騎西城主小田助三郎、兄の忍城主成田長泰と共に景虎の小田原攻めに参加する。
- 永禄4年（1561） 長泰、鶴岡八幡宮で上杉政虎（謙信）に辱めを受け、北条方となる。助三郎も同様
- 永禄6年（1563） 北条氏康・武田信玄連合軍が松山城（吉見町）を攻略。報復に上杉輝虎（謙信）、騎西城を攻略
- 永禄12年（1569） 上杉と北条の講和成立（越相同盟）。上杉方は武蔵北部を支配
- 天正2年（1574） 上杉謙信、羽生・関宿城を救援。騎西・古河・栗橋・館林・菖蒲・岩槻城を焼き払う
- 天正3年（1575） 小田大炊頭、古河公方への年頭の挨拶を行う
- 天正4年（1576） 騎西城主成田泰喬、家臣に知行を行う
- 天正6年（1578） 小田大炊頭、足利義氏に年頭の挨拶。謙信没
- 天正18年（1590） ★徳川家康、関東へ入国。松平康重に騎西城2万石を与える
- 天正19年（1591） 松平康重大英寺を開基、日出安・保寧寺に田畑1町歩を寄進する
- 慶長元年（1596） 康重、朝鮮出兵のため騎西領民を召し連れる。根古屋・金剛院、日出安から移転する
- 慶長4年（1599） 松平康重の奥方、城内にて死去、大英寺に葬る
- 慶長5年（1600） ★関ヶ原の戦い
- 慶長7年（1602） 大久保忠常、騎西城2万石を拝領する
- 慶長8年（1603） ★徳川家康、江戸に幕府を開く
- 慶長11年（1606） 騎西藩の家臣、領内（正能村）を検地する
- 慶長16年（1611） 忠常病死。子の忠職、父の遺領騎西城2万石を拝領する
- 慶長19年（1614） 大久保忠隣改易となり小田原・羽生城を没収、騎西城主忠職は閉門に処せられる
- 寛永4年（1627） 大久保忠職、久伊豆大明神に社領を寄進する
- 寛永9年（1632） 騎西城廃され、代官所置かれる



## 第Ⅱ章 調査に至る経過

旧騎西町は首都圏50km圏内に位置し、急激な人口の増加に伴う開発が見込まれていた。それに対し計画的な都市整備の一環として大字根古屋及び外川において土地区画整理事業が計画されていた。

町教育委員会では昭和56年度に実施した町内遺跡群分布調査によって町内に15ヶ所の遺跡が所在することを確認しており、とくに区画整理対象区域に所在する騎西城については小田原市に所蔵されていた『武州騎西之絵図』と対照すると南側に江戸初期に武家屋敷が広がっていたことが明らかとなっている。さらに昭和54年に実施した騎西城跡の城郭部の発掘調査では、和鏡や武具など城の存在を実証しその内容を具体的に明らかにしたものであった。僅かに残る土塁や水田と畑地に見られる郭の形など遺存状態は良く、地下に埋蔵される遺構は特に期待された。

しかしながら、長年の懸案であった根古屋・外川

地区土地区画整理事業は町の重要施策で計画の中止及び変更は困難な状況であった。

そこで町教育委員会では町開発部局と協議を重ねた結果、区画整理施工に先立ち破壊される道路分について順次発掘調査を実施することとした。また、区画整理により発生する保留地についても町が原因者として発掘調査をすることとした。

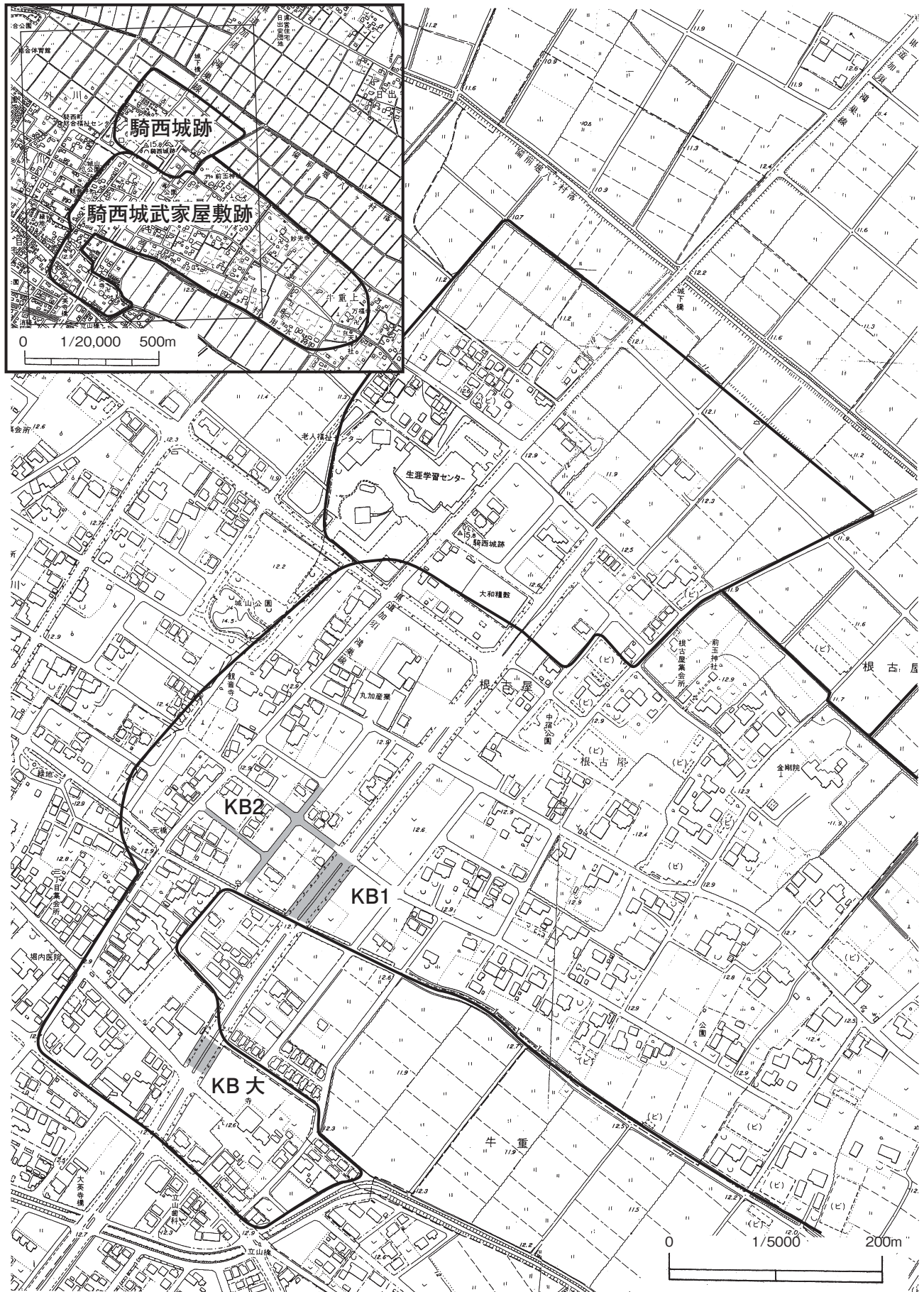
文化財保護法に基づき騎西町から埋蔵文化財発掘調査通知、騎西町教育委員会から埋蔵文化財発掘調査通知が文化庁長官に提出した。(下記)

調査は昭和58年2月9日(私2次)から開始し、平成7年(私武48次)までの13年に亘るものであった。今回報告するものは、調査実施区域の南側を主とするもので調査名ではKB大英寺・1・2区である。

調査名	所在地	文化庁通知番号
KB大英寺区	大字騎西字町並1078.1079他	S58.11.1 58委保記第2-2688号
KB1区	大字根古屋字前72.77.76.他	S58.12.15 58委保記第2-3710号
KB2区	大字根古屋字前67-4.68-1他	S60.5.24 60委保記第2-761号



KB1 調査風景



第4図 各調査区的位置

## 第三章 調査概要と遺構

### 第1節 KB 大英寺区

#### (1) 調査概要

調査担当 指導課主事 島村範久  
調査期間 昭和58年7月25日～10月15日  
調査面積 1,108m<sup>2</sup>

#### (調査の経過)

調査区は遺跡の南西部で、17世紀初頭の騎西城の絵図に同位置で所在する大英寺の西側である。40m×12mの範囲を人力により表土を掘り下げ後、遺物の出土傾向把握のため調査区の北をA区・南をB区、西を1区・東を2区と仮に4分割しA-1～B-2区を設定した。その後測量杭を方眼に打ち北から1から8まで、西からAからDまで振り土層観察のため中央南北方向に1本、東西方向グリットごとにベルトを残し掘り下げた。確認面までの掘り下げ途中で遺物の出土があり分布図を作成した。掘り下げの際湧水が顕著なため東側・西側に側溝を設けポンプにより排水した。途中遺構の広がりを確認するため南端を、遺物集中確認のため東側を拡張した。遺構確認のため精査を行い、ローム面を確認面とし溝・土壙・井戸などの調査を行った。1号溝より陶磁器・かわらけが出土した。また加曾利E期の伏甕が出土している。遺構の図化は全体は平板測量により、各遺構は任意に設定した水糸を基準としてメジャーにより実測した。最後に多数のピットを確認し図化した。

#### (周辺の調査)

隣接地の調査は実施されておらず、谷を挟んだ北側にKB1区がある。ローム面は南側に傾斜しており黒色土が厚く堆積していた。南北に走る大規模な溝や井戸・土壙が確認されている。

#### (2) 遺構

遺構は溝・土壙・井戸が南側に分布する。中央北寄りにはピットが確認されるのみである。

【溝】 南側に1号溝が東西方向に走る。

1号溝 幅250cm 深さ112cm で、断面箱葉研形であるが底面に段を有し2条の溝が重複している。

東側拡張部確認面で、遺物が集中して出土した。(第7図)。レベル差はほとんど無く一括して廃棄されたものと思われる。かわらけは、図化したものが19点(土-7～25)西側にまとまり、他に肥前唐津の三島手大鉢(土-3)や肥前磁器の網目文碗(土-5)・徳利(土-53)・志戸呂の灯明皿(土-49)等の陶磁器の他、銭貨-寛永通宝(金-65)が出土している。鑄造時期は1636年以降とされる。

かわらけは17世紀後半のものと思われるが最終埋没段階であり、1号溝は城存続期(17世紀初め)は機能していた可能性を有する。

【井戸状遺構】 1基が中央東端で確認された。

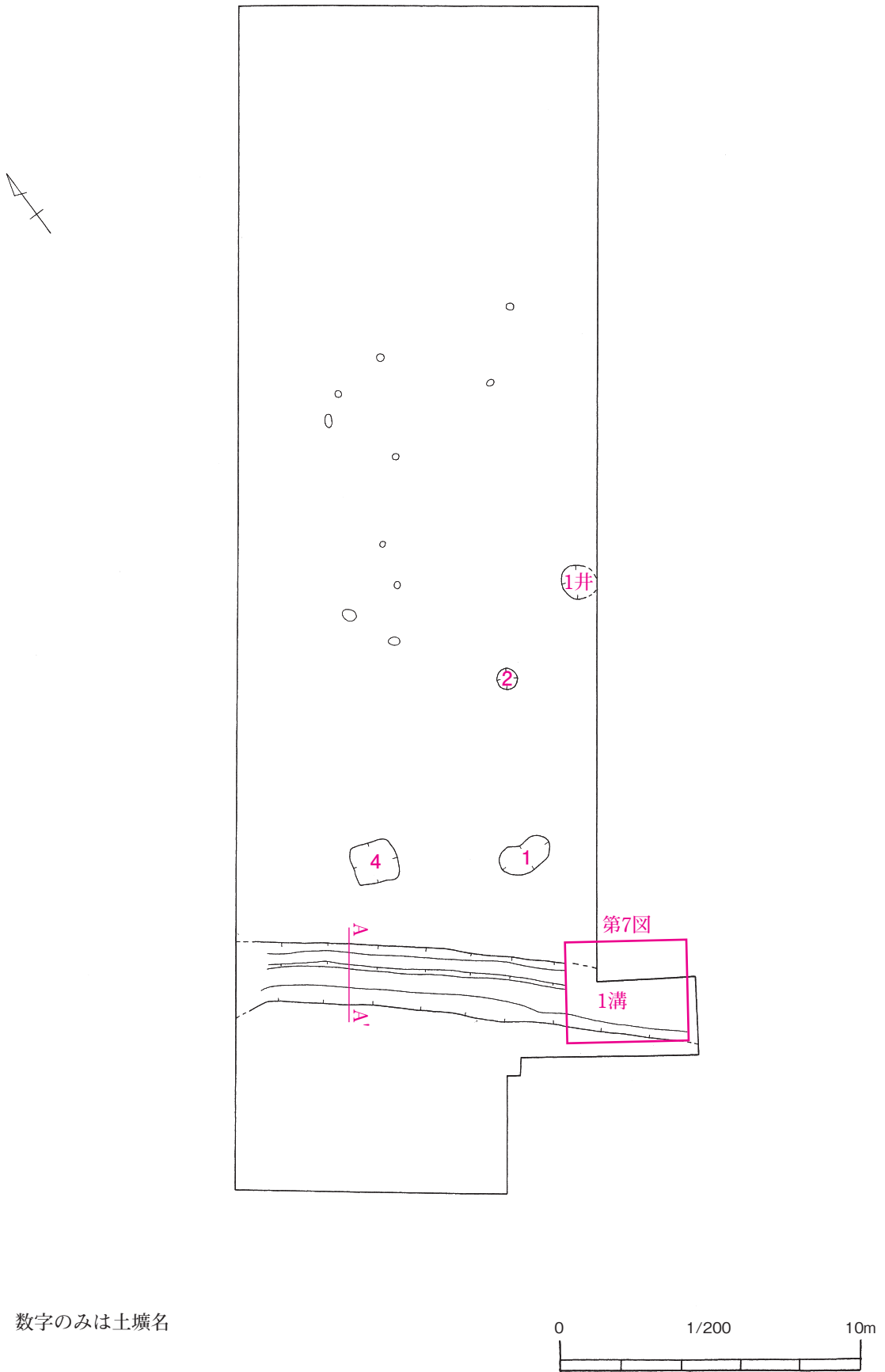
1号井戸 半分は調査区外である。

【土壙】 3基検出した。

1号土壙 壙底面は凸凹で覆土も柔らかく新しいか。

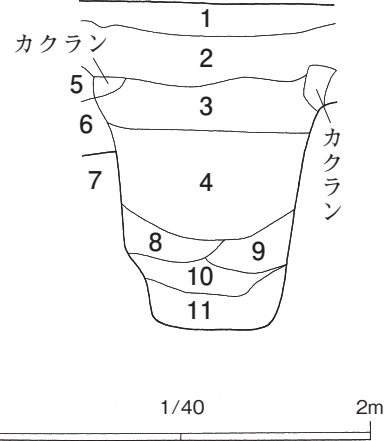
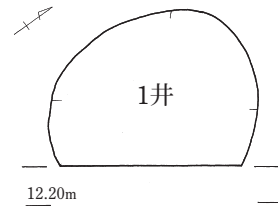
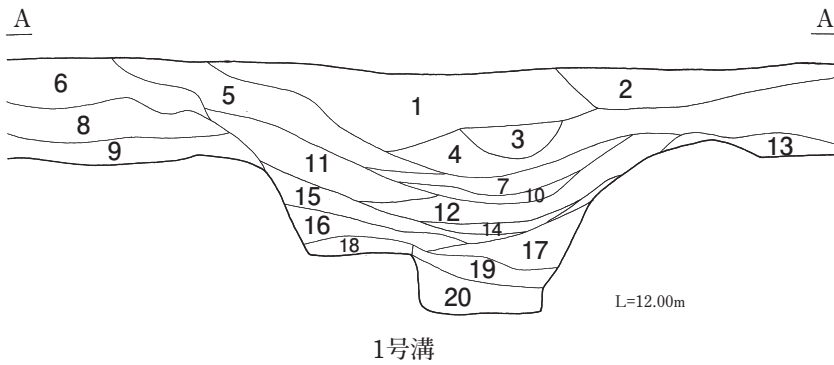
2号土壙 覆土上半は黒色土と暗灰褐色がブロック状に堆積しており埋め戻しなど短期間の埋没が考えられる。

遺構外では、鉄製品で法量等により銭貨と思われるもの(金-30)や銅碗の底部(金-37)・分銅(金-48)等が出土している。



数字のみは土壌名

第5図 KB大 遺構位置図



- 1 溝 (南北) セクション
- 1 灰褐色土
  - 2 灰褐色土/BB△
  - 3 灰褐色粘質土/赤褐色 R 縮良
  - 4 暗灰褐色土/記載なし
  - 5 褐色土/BB△、赤褐色 R△
  - 6 黒褐色土/LR△ 縮良
  - 7 暗灰褐色土/BB△、LB△
  - 8 褐色土/BB△
  - 9 黄褐色土/軟質
  - 10 灰色粘質土/赤褐色 R、LR きめが細かい 軟質
  - 11 灰褐色粘質土/赤褐色 R◎
  - 12 暗灰褐色土/BB、LB、赤褐色 R きめがあら
  - 13 黄褐色土/記載なし
  - 14 灰褐色粘質土/LR△ きめが細かい
  - 15 暗灰褐色土/LR◎、赤褐色 R◎
  - 16 ロームブロック/LB (ハード)、灰褐色 B、FER◎ 縮悪
  - 17 暗灰褐色土 (16層よりやや明) /LR◎
  - 18 ロームブロック/LB (ハード)、FER◎ 縮良
  - 19 暗灰褐色土 (ところどころで黄褐色) /FER◎ 軟質
  - 20 暗灰褐色土/FER△ 軟度高 縮悪

- 1 井セクション
- 1 耕作土
  - 2 暗灰褐色土 (やや暗) /C△、LB、BB 3層より堅緻
  - 3 暗灰褐色土 (やや暗) /C△、LB、BB 粘強 2層より縮悪
  - 4 黒色土 (5層より明) /LB◎、BB△、C 縮悪
  - 5 黒色土 (暗) /暗褐色 B、L△ 4層の次に縮悪
  - 6 灰褐色土 (2層より明) /L、BB△、C 3層よりやや縮悪
  - 7 ローム
  - 8 黒色土 /4層より LB◎、BB△、C
  - 9 赤褐色土/FEを含んだ LB◎ 4層より堅緻
  - 10 黒色土 /8層より LB△
  - 11 黒色土 /かわら◎、木の葉、LB 軟質

KB 大土層説明凡例

- 土層名/含有物
- テフラ=T 多量=◎  
 ローム=L 少量=△  
 炭化物=C 万遍なく=アンダーライン  
 焼土=S 明るい=明  
 酸化鉄=FE 暗い=暗  
 黒褐色=BB やや暗い=やや暗  
 黒色=B 非常にやわらかい=軟度高  
 褐色=Br やわらかい=軟質  
 粒子=R かたい=堅緻  
 ブロック=B 縮まり良し=縮良  
 縮まり悪し=縮悪  
 粘性強し=粘強

第6図 KB 大遺構 1

( ) は残存値、☆はセクション図計測値 ○は当該機構 覆土 (T=テフラ、L=ローム、S=焼土、C=炭化物、Fe=酸化鉄/B=ブロック、R=粒子)

遺構名	重複	平面形	断面形	規模 (cm)	深さ	覆土	出土遺物	年代	備考
1号溝	なし	直線	箱葉研	☆ (250)	☆112	暗灰褐色	唐津(大鉢=17c 後)/志戸呂(灯明皿)/肥前磁器(鉢=17c 後)/かわらけ	~17c 後半	
1号井戸	なし	円形	ほぼ直上	☆120 ?	☆122	暗灰褐色			
1号土壇	なし	不整形	ゆるやか	185×95	☆18	暗灰褐色			
2号土壇	なし	円形	ほぼ直上	68	☆26	黒色 暗灰褐色			
3号土壇	欠番								
4号土壇	なし	方形	ほぼ直上	155×155	☆35	灰褐色 黄褐色 暗灰褐色			

第1表 KB 大 遺構一覽表





## 第2節 KB1区

### (1) 調査概要

調査担当 指導課主事島村範久 主事嶋村英之  
調査期間 昭和58年11月15日～  
昭和59年6月12日  
調査面積 1,440m<sup>2</sup>

### (調査の経過)

道路建設予定地に68m×16mの調査区を設定し、重機により表土を掘り下げた。その後方眼に測量杭を打設しグリットごとに掘り下げた。ローム台地が南に傾斜しているため黒色土の堆積が厚く、人力によりローム面まで掘り下げる。ローム面を確認面として遺構の調査を行った。中央を走る溝を大溝と称して調査したが最終的に12号溝と振り替える。12号溝は当調査区の規模・出土量随一の遺構で、木製品・陶磁器類が多数出土した。A-18Gでは覆土黒色土の13号溝が検出され古墳～古代の遺構を想定し確認のため拡張した。また12号溝が絵図に描かれる屈折した堀に比定される可能性があるため北端を拡張したが調査区の限界以上北へ延びず東へ屈曲することを確認した。

その後、排土置き場であった北側調査区を25m拡張し、結果として93m×16mの範囲の調査となった。

遺構の図化は全体は平板測量により、各遺構は任意に設定した水系を基準としてメジャーにより実測した。最後にピット・縄文時代遺構の検出のため精査を行った。

基準杭の標高はグリット設定時に委託したものである。

### (周辺の調査)

KB2・3・5区、私武11・29・44次調査区に隣接する。この中ではKB3区で9a・10a・11号溝の延長が、KB5区で10b溝の延長が確認される。他はKB2区1号溝＝私武11次1溝＝私武44次6溝が1・12号溝に並行するが私武29次・44次の東西方向の溝などはKB1区に届かない。

やや離れているが9・10溝は西方の調査区の私武

12・7・21次・KB2区・35次に延長している。

KB1区中程に井戸が分布するが44次に3基所在するものと対応する。

### (2) 遺構

遺構は調査区全面にほぼ分布するが、南側は疎らである。それは確認面としたローム台地が傾斜しているため、掘り下げ除去した黒色土中に存在した遺構が消失した可能性がある。

幅220cmを超える12号溝は中央を南北に、北側で東西に走る。井戸は散漫であるが中央に分布する。

土壌は円形・長方形の土壌が中央付近に分布する。大規模な6・17壙は南に、長方形の深い土壌38・89壙及び37壙と振った竪穴状遺構は北に分布する。

【溝】14条命名したがab分割し総数16条である。2～8・14溝は幅30～60cmの小規模なもので弧を描くものもある。出土遺物等から廃城後ものものか。  
**1号溝** 調査区北半に南北に走る幅90cm 深さ64cmの大規模なものである。断面形箱葉研である。北端は9b溝半ばで止まる。南は12溝と重複して走行していたものか。

出土遺物は確認面レベルで元享年間(1321～1324年)の板碑(石-146)が水平に出土した。他に瀬戸美濃卸皿(土-55)・在地片口鉢(土-56)等13～14世紀のものが出土している。14井や38壙より新しく9b・12溝より古い。これらのことから年代は、17世紀以前と思われる。

**9号溝** 1・12溝に直行し東西に走る。調査区中央を境に幅が変わり、東側は186cm(=9a溝)、西側が270cm(=9b溝)である。9b溝は西へ走り12次3溝・7次1溝・KB2 18溝と続く。9a溝は東方のKB3区1溝につながる。9a溝は12溝より古く、9b溝は1溝より新しい。

出土遺物は少なく12溝合流のものは12溝のもの。  
**10号溝** 12号溝及びKB3区の2号溝につながる。幅は200cm(残存)深さ121cmを計り、12溝に分断されるため東西でabとした。東へ延びる10a溝は11溝と重複し、断面形態は不明で出土遺物は混在すると思われる。出土遺物は瀬戸美濃徳利(土-74)

・肥前磁器・肥前京焼風陶器などである。

**12号溝** 南北方向に走るもので調査区中央に位置する。幅227cm 深さ122cm を計り断面形は箱葉研である。南側は図上で幅狭であるのはローム台地が傾斜して確認面が低くなっているためである。調査区中央で僅かに屈曲し、北端で東方向へ直角に曲がる。覆土上層に天明期と思われるテフラが含まれ最終埋没時期は18世紀後半であろう。

出土遺物は豊富で陶磁器類志戸呂碗・志野碗・天目・播鉢・初山徳利・肥前磁器碗（土-75~203）、  
・かわらけ・櫛（木-1）・漆碗（木-5）・茶器（木-7）・田下駄（木-8）などがある。

2~8・14号溝は同規模で廃城後か。

主な溝の新旧関係。

旧：1→9b 1→12 9a→12 11→10a：新

【井戸状遺構】 総数14基を数え、調査区中央付近に多く分布する。底面の標高は10.50m 付近が多く、1・8・13・14号井戸は10m 前後と深い。

**1号井戸** 直径155cm を計り、最大である。壁面に凹みがあり出入りのための足掛けであろうか。

**9号井戸** 底面は高く小規模だが、瀬美播鉢・かわらけ・板碑（石-155・156）・石が出土している。

**14号井戸** 唯一重複し1号溝より古い。

【土壇】 総数47基を数える。円形土壇が多数分布し当調査区の特徴となっている。径120~150cm で断

面直上及び袋状を呈する。4・5・8・11~13・27・43・44・46・47壇があり、覆土にほぼロームブロックを多量に含む。

**6号土壇** 調査区中程に位置し、29・30壇と重複する。一辺200cm 前後の平面方形で底面断面形はボウル状である。

**17号土壇** 調査区南側に位置し、12号溝に接する。平面隅丸長方形で、底面に段を有する。出土遺物は漆碗（木-4）や陶磁器類・瀬美鉄絵皿（土-219）・志戸呂大皿（土-222）があり、17世紀前半以降のものである。骨片様のものあり。

**37号土壇** 調査区北側にありいずれの遺構とも主軸を共にしない。平面方形で285×190cm の小竪穴で床に貼床（16cm 前後）を施している。また、短辺壁際に深い柱穴を設けている。出土遺物は志野丸皿（土-225）・肥前碗（土-229）がある。博多遺跡では同様の遺構が作業場として認定されている。

**38号土壇** 調査区北側で1・12溝に直交しいずれの溝より古い。平面長方形で、東壁は緩やかに立ち上がる。覆土には多量のロームブロックや黒色土層が含まれる。出土遺物はない。

**39号土壇** 調査区北側にあり14溝と重複する。平面長方形で、東壁は緩やかに立ち上がる。土層堆積を含め38壇をやや小規模にした様に見える。東壁には中程に馬の背があり、南壁西寄りに凹みがある。

スラグは12溝に多いが北側37壇付近で、碗形滓が490g 出土している。

当遺跡で希少な土器類として遺構外であるが風炉（土-476）が出土している。



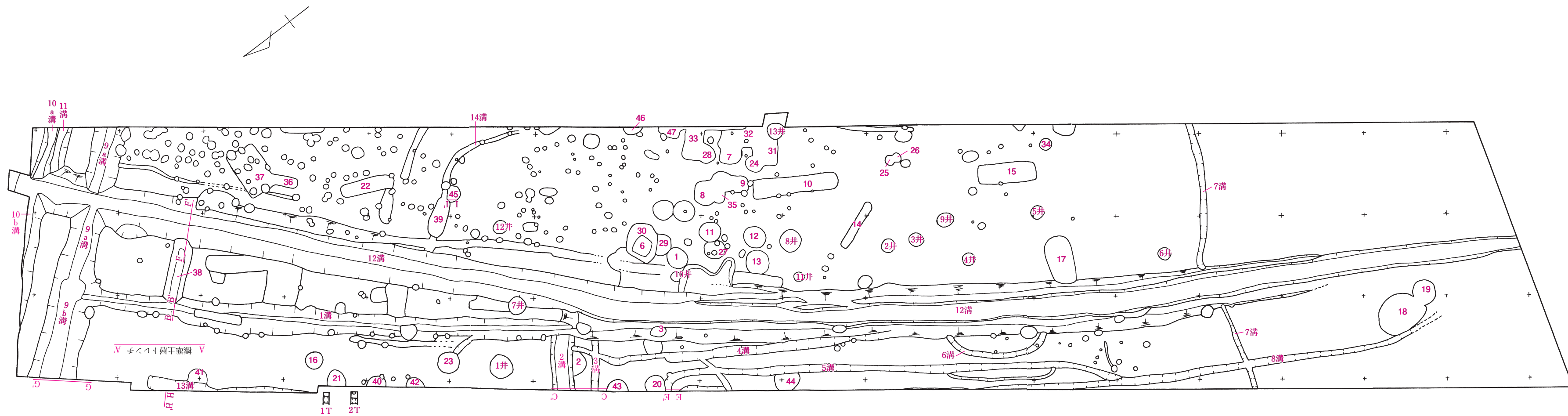
KB1 調査前風景



( )は残存値、☆はセクション図計測値 ○は当該機構 覆土 (T=テフラ、L=ローム、S=焼土、C=炭化物、Fe=酸化物/B=ブロック、R=粒子)

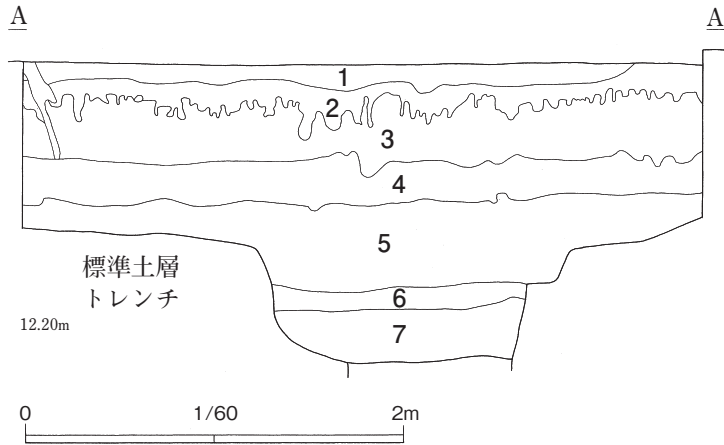
遺構名	位置	重複	平面形	断面形	規模(cm)	深さ(cm)	覆土	出土遺物	年代	備考
1号溝	北	14井、38塙→○→9b・12溝/2・3・4溝	直線	箱葉研	☆90	☆64	暗褐色	瀬美(緑釉小皿・卸皿=13c)/常滑(片口鉢)/在地(片口鉢=14c前・播鉢)/土鍋/かわらけ/板碑(元享年間)/磨石	14c前～	
2号溝	北	1・4溝、2塙	直線	箱葉研	☆(54)	☆50	灰褐色	瀬美(せんじ・播鉢=18c)/肥前磁器(碗=17c末)/瓦	18c～	
3号溝	北	1・4溝	直線	箱堀	☆56	☆42	灰褐色	肥前磁器(碗=17c中～後)/瀬美(碗)	17c中～	
4号溝	中	1・2・3・12溝	直線?		56			常滑(片口鉢)/焙烙	16c～	
5号溝	中	8溝、20・44塙	端部屈曲	箱葉研	☆62	☆60	暗灰褐色	瀬美(播鉢=16c末～17c初)/焙烙/かわらけ=17c/煙管(火皿)	17c～	
6号溝	中		弧状	不明	40	10	不明			
7号溝	南	12溝	蛇行	不明	32	40	不明	かわらけ		
8号溝	南	5・7溝	直線	不明	36	48	不明	瀬美(丸皿銅緑釉・尾呂茶碗=18c前)/唐津(大皿=17c後)/肥前磁器(碗・皿=17c中)/火鉢/焙烙=17c前/板碑/スラグ(140g)	18c前～	
9a号溝	北	○→12溝	直線	不明	186	81	不明	瀬美(天目・碗)/常滑(片口鉢)	～17c	
9b号溝	北	1溝→○	直線	ゆるやか	270	☆94	不明	9a参照		
10号溝	北	11溝→○/12溝と同時期	直線	不明	(200)	121	不明	瀬美(双耳壺・播鉢)/肥前(京焼風碗)/肥前磁器(碗)/土鍋/かわらけ/焙烙/瓦	～18c	
11号溝	北	○→10溝	直線	不明	(150)	78	不明			
12号溝	南 中 北	1・9a溝→○	中央屈曲	箱葉研	☆(227)	☆122	暗灰褐色/含C(上部集中)・T(多)	瀬美(山茶碗=13c前)/尾張(山茶碗=13c前)/常滑(片口鉢=14c後)/瀬美(播鉢=16c中～18c中・黄瀬戸鉢=17c中・鉢・德利=17c前・天目=16c後～17c前・尾呂茶碗=18c前・鉄絵碗=17c初～前・せんじ=18c後・香炉=17c前～中・皿=17c末～18c・緑釉小皿・大皿・丸皿=16c前～後・ヒタ皿=16c末～17c初・灯明皿=18c・小壺=17c後)/肥前磁器(碗=17c中～18c前・小杯=17c後～18c・白磁皿)/肥前唐津(大皿=17c後・鉄絵皿=16c末～17c前)/肥前陶器(呉器手碗=17c)/志戸呂(筒形碗=16c末～17c初・德利・灯明皿=18c・皿・大皿=16c末～17c初)/初山(德利=16c後)/在地(片口鉢=14c前・甕=14c)/かわらけ=15c中～18c/焙烙=16c/煙管/櫛/田下駄/茶器/加工材/板材/桶(側板)/五輪塔/粉挽き臼/砥石/石製円盤/磨石/火打石/板碑/クワイの実カ/梅の種55ヶ/スラグ(180g)	17～18c	
13号溝	北	○→41塙	直線	ゆるやか	70	22	黒褐色	瀬美(灯明皿・磁器・碗)/肥前磁器(色絵碗=18c前)	18c前～	
14号溝	北	39・45塙	弧状	ゆるやか	(44)	14	不明			
1号井戸	北	なし	凹形	ロート形	155×144	180	不明	常滑(甕)		
2号井戸	中	なし	凹形	ロート形	122×110	120	暗灰褐色	かわらけ/板碑		
3号井戸	中	なし	凹形	ロート形	100×94	132	暗灰褐色	かわらけ=17c前	17c前～	
4号井戸	中	なし	凹形	ロート形	85	117	灰褐色(含LB層(上層))	磨石		
5号井戸	中	なし	凹形	直上	90×86	140	不明	焙烙/かわらけ/磨石		
6号井戸	南	なし	凹形	直上 底面広がる	93×80	104	不明			
7号井戸	北	12溝	凹形	ほぼ直上	105×100	134	不明			
8号井戸	中	なし	凹形	ほぼ直上	132×130	191	灰黒色(上層) 暗灰褐色	砥石/磨石		
9号井戸	中	なし	凹形	ほぼ直上	84	☆(90)	暗灰色	瀬美(水注・播鉢=16c)/かわらけ=15c後～17c前?/焙烙/在地(播鉢)/板碑	16c～	
10号井戸	中	なし	凹形	ロート状	106×96	104	不明	古瀬戸(卸皿)/種子		
11号井戸	中	なし	凹形	上部で広がる	77×74	118	暗灰色	在地(播鉢)/かわらけ=16c後	16c後～	
12号井戸	北	なし	凹形	直上	82×80	148	暗褐色			
13号井戸	中	32塙→○、31塙	凹形	ほぼ直上	108×106	252	暗灰褐色	在地(片口鉢=13c後)/漆碗片	13c後～	
14号井戸	北	○→1溝	凹形	ロート状	106×90	190	不明			
1号土塙	北	10井	凹形	ゆるやか	125	14	不明			
2号土塙	中	2溝	凹形	ゆるやか	144	33	不明			
3号土塙	中	4溝、他	凹形?	ゆるやか	134×(112)	16	不明	瀬美(志野碗=17c初～前)	17c初～	
4号土塙	中	なし	凹形	直上	124	☆26	暗黄褐色/含LB(多)			
5号土塙	中	なし	凹形	直上	133	☆20	暗黄褐色/含LB			
6号土塙	中	29・30塙	不整形	上半直上 下手ボール状	218×(162)	112	不明			
7号土塙	中	32塙	長方形	ゆるやか	(200)×114	☆18	暗灰褐色/含LB	焙烙		

第2表 KB1遺構一覧表1

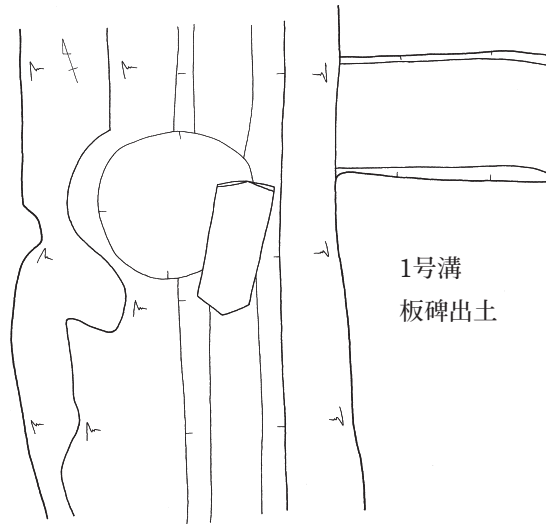


数字のみは土坑名

第8図 KB1遺構位置図



- トレンチセクション
- 1 ローム (ソフト) (2層よりやや暗)
  - 2 ローム (ソフト)
  - 3 ブラックバンド
  - 4 ブラックバンド
  - 5 黄褐色土/L
  - 6 黄褐色土/L、細砂
  - 7 暗灰色土/砂△

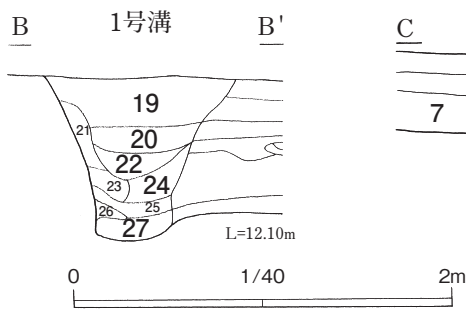


KB1 土層説明凡例

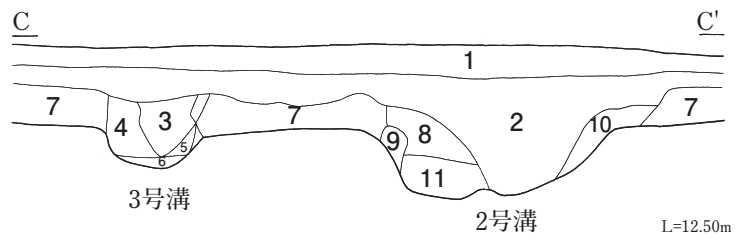
土層名/含有物

- テフラ=T
- ローム=L
- 炭化物=C
- 焼土=S
- 酸化鉄=FE
- 黒褐色=BB
- 黒色=B
- 褐色=Br
- 粒子=R
- ブロック=B

- 非常に多い=☆
- 多量=◎
- 少量=△
- 微量=▲
- 万遍なく=アンダーライン
- 明るい=明
- 暗い=暗
- やや暗い=やや暗
- やわらかい=軟質
- かたい=堅緻
- 縮まり良し=縮良
- 縮まり悪し=縮悪
- 縮まり強し=縮強
- 縮まり弱し=縮弱
- 縮まり有り=縮有
- 縮まり無し=縮無
- 粘性強し=粘強
- 粘性弱し=粘弱
- 粘性有り=粘有
- 粘性無し=粘無



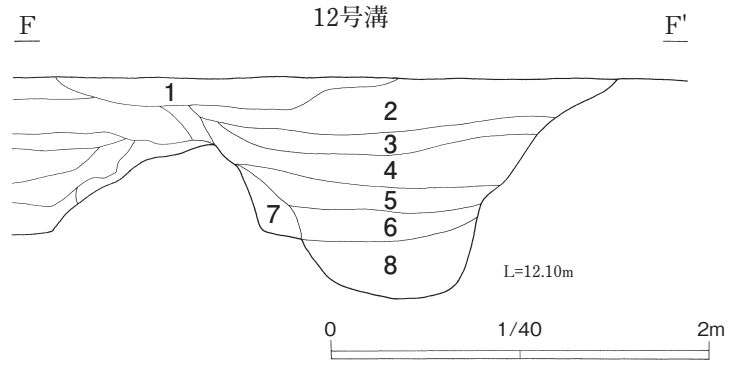
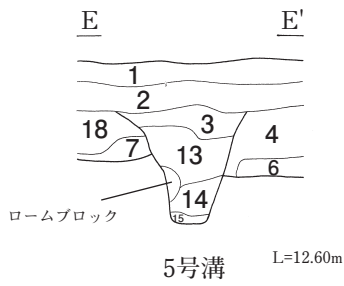
- 1 溝セクション
- 19 暗褐色土/LB△ 粘有 縮有
  - 20 暗褐色土 (19層より暗) /LB▲ 19層より粘強・縮弱
  - 21 暗褐色土/LB◎ 20層より縮弱
  - 22 暗褐色土/LB▲、C 20層より粘強・縮弱
  - 23 暗褐色土/L☆ 21層より縮弱
  - 24 暗褐色土/LB△ 22層より粘強・縮弱
  - 25 暗褐色土/LB△ 24層より粘強・縮弱
  - 26 暗褐色土/L◎ 粘有 縮有
  - 27 暗褐色土/LB◎ 堅緻



3 溝2 溝セクション

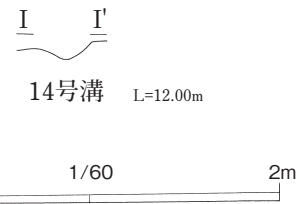
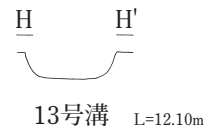
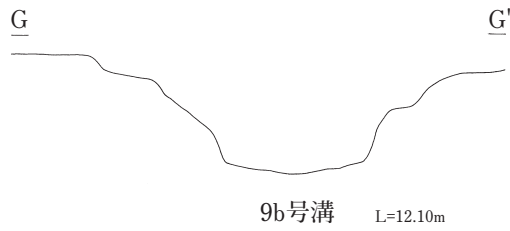
- 1 耕作土/T◎
- 2 灰褐色土/T、C、LR、SR△ 縮良
- 3 灰褐色土/LR、SR 縮悪
- 4 褐色土/LR 縮やや良
- 5 暗褐色土/BR△ 縮やや良
- 6 黄褐色土 (明) /下層のL (ハード) と4層が混じる層 縮良
- 7 黄褐色土/L (ソフト)
- 8 灰褐色土/LR 縮良
- 9 黄褐色土/LR 縮良
- 10 灰褐色土/LB 縮良
- 11 灰褐色土/LR△ 縮良

第9図 KB1 遺構 1



- 5溝セクション
- 1 耕作土/T◎
  - 2 灰褐色土/T、C△ 締良
  - 3 暗灰褐色土/LR、T、C△ 締良
  - 4 暗灰褐色土/LB、LR△、BBB△
  - 6 暗灰褐色土/LB◎、LR◎、BBB◎ 軟質
  - 7 黄褐色土/L (ソフト)
  - 13 暗灰褐色土/LR△ 締良
  - 14 暗灰褐色土 (13層より暗) /LR△
  - 15 暗灰褐色土/LR 締悪
  - 18 暗灰褐色土/LR、LB△ 軟質

- 12溝セクション
- 1 暗褐色土/T◎、LB、C△ 粘弱 締強
  - 2 暗褐色土/T▲、LB◎、C△ 粘弱 締強
  - 3 暗褐色土/LB (2層より△)、C△ 粘やや強 2層より締弱
  - 4 暗褐色土/LB、FE、暗灰褐色B、C△ 粘強 3層より締弱
  - 5 暗灰色土/FE (4層より◎)、LB (4層より△) 4層より粘強 締弱
  - 6 暗灰色土/FE◎、LB、C、食物繊維 5層より粘強 締弱
  - 7 暗灰色土/LB 非常に堅緻
  - 8 暗灰色土/C、LB、小石、食物繊維 粘強 締悪

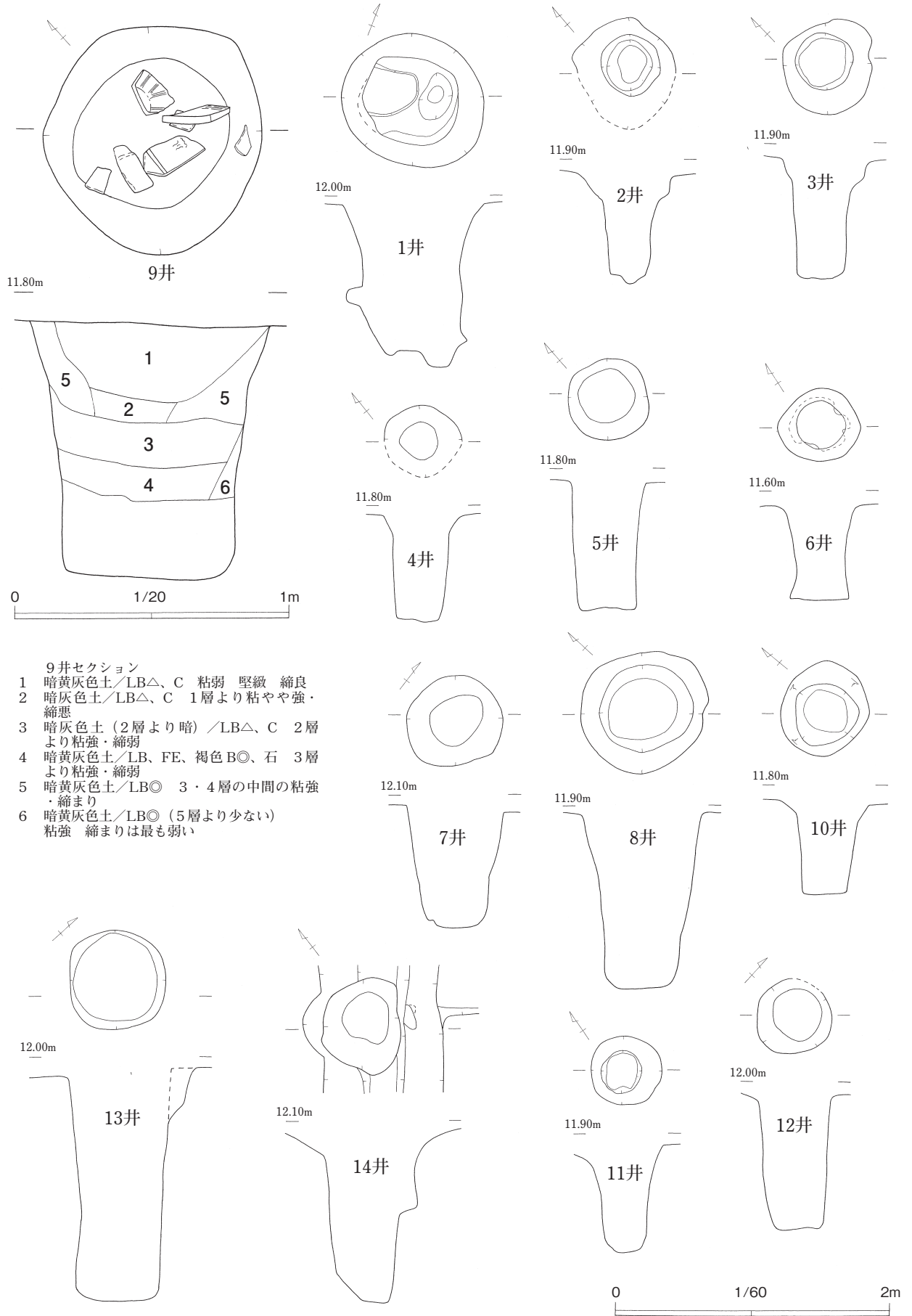


第10図 KB1 遺構 2

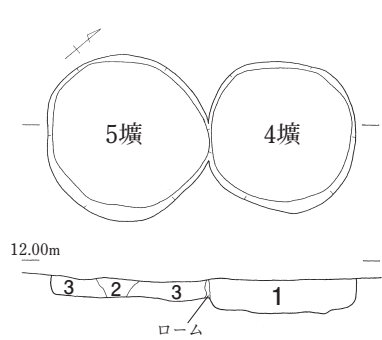


KB1 調査風景

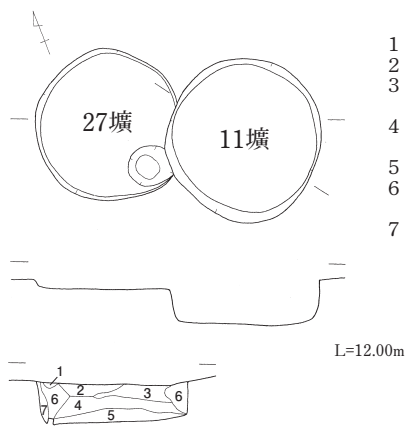
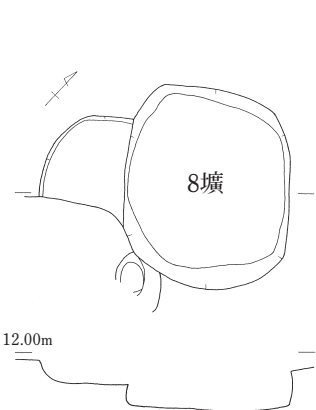
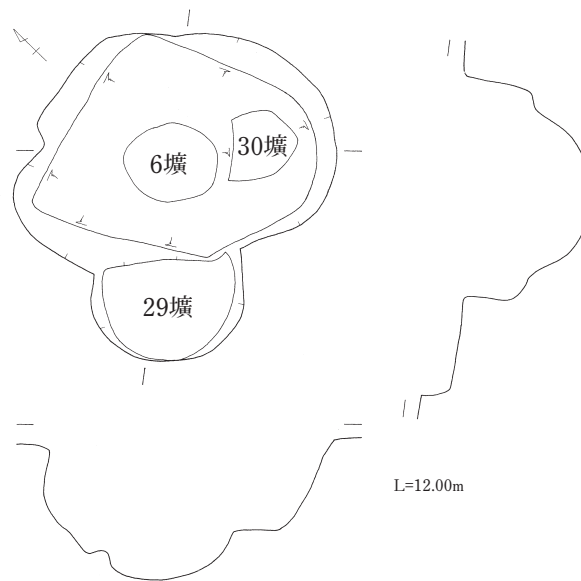




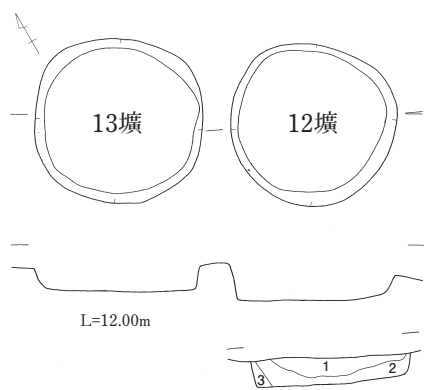
第11図 KB1遺構3



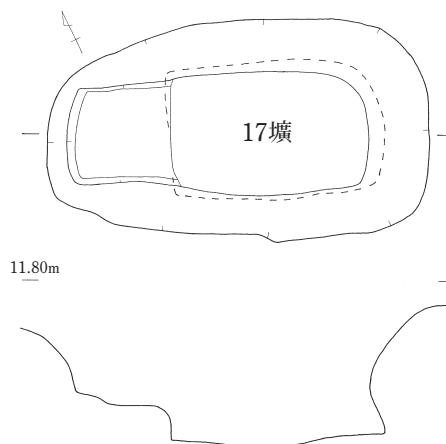
- 4坑5坑セクション  
 1 暗黄褐色土/LB☆ 粘弱 締悪  
 2 暗褐色土/LB 粘弱 締良  
 3 暗黄褐色土/LB☆ 2層より粘強・締弱



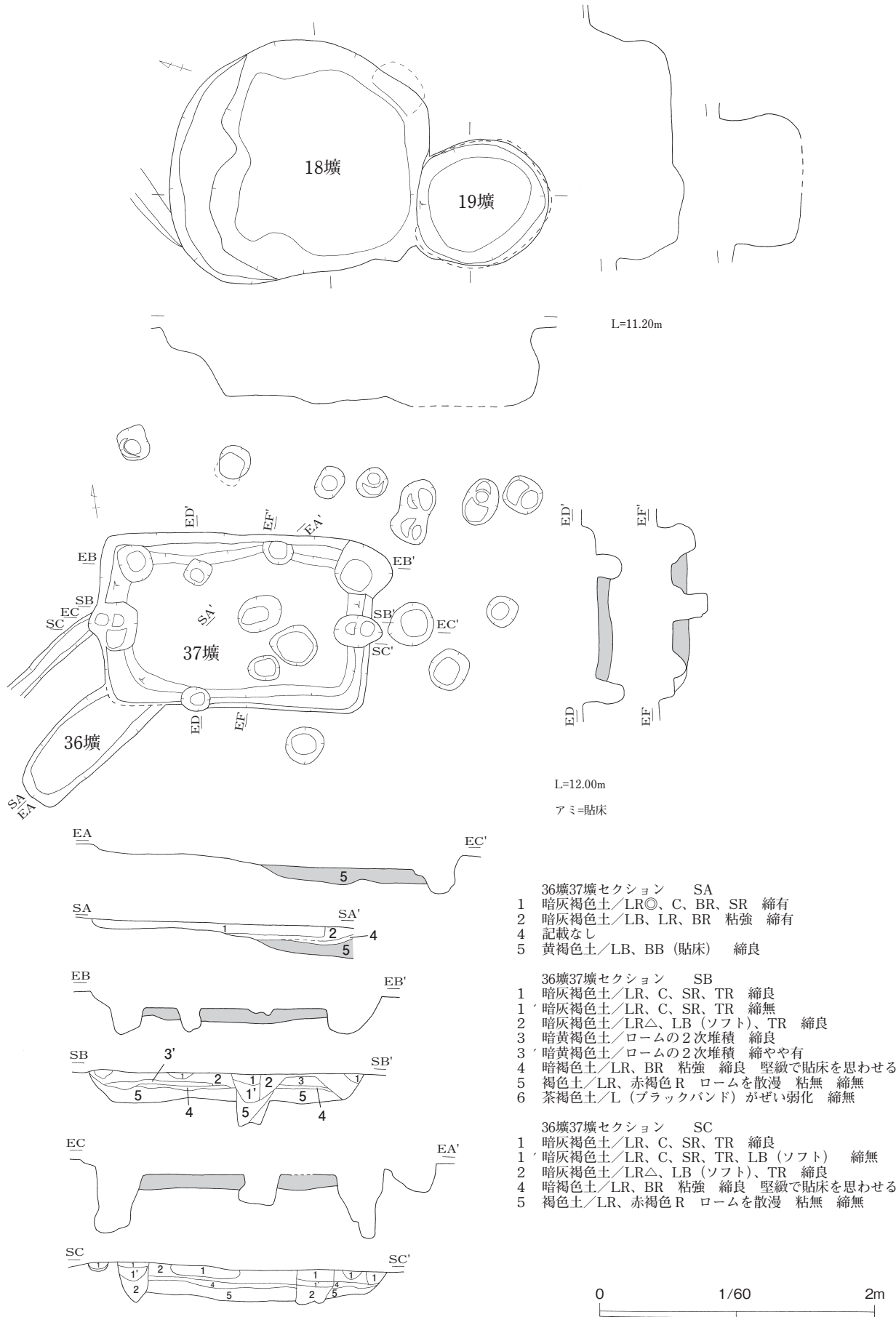
- 11坑セクション  
 1 黒褐色土/LB△ 粘弱 締良  
 2 暗褐色土/LB 1層より粘強・締良  
 3 暗褐色土/LR△、C 粘有 1層と2層の間の締まり  
 4 暗黄褐色土/LR、LB 5層より粘強・やや締強  
 5 暗褐色土(暗)/LR△、LB 粘強 締弱  
 6 暗褐色土/LB☆ 粘有 2層と3層の間の締まり  
 7 暗褐色土/L 粘有 締弱



- 12坑セクション  
 1 暗褐色土/LB◎、BB・C・T△ 粘有 締良  
 2 暗褐色土/LB△ 粘有 1層より締弱  
 3 黄褐色土/L☆ 1層より締強

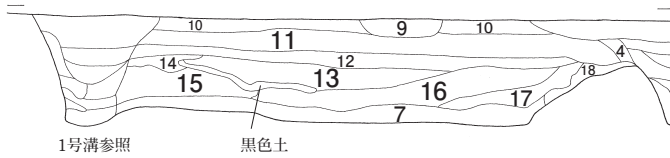
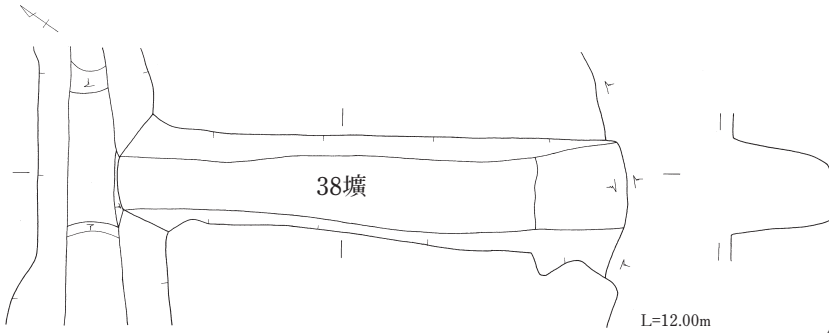


第12図 KB1遺構4

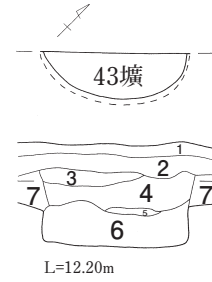


第13図 KB1遺構5



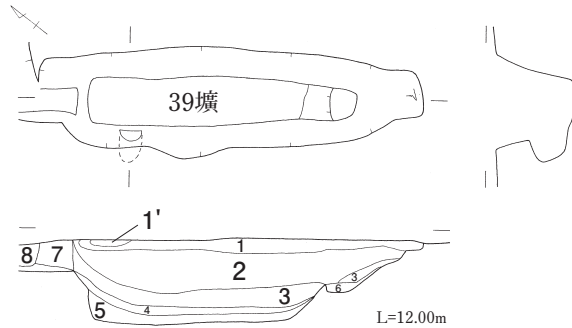


1号溝参照 黒色土

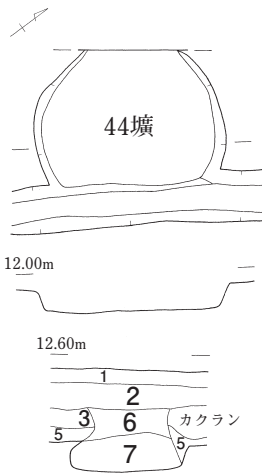


- 43壙セクション
- 1 耕作土/T◎
  - 2 灰褐色土/T、C△ 縮良
  - 3 暗灰褐色土/LR、T、C△ 縮良
  - 4 暗灰褐色土/LB、LR△、BBB△
  - 5 灰褐色土(2層より明) 縮良
  - 6 暗灰褐色土/LB◎、LR◎、BBB◎ 軟質
  - 7 黄褐色土/L(ソフト)

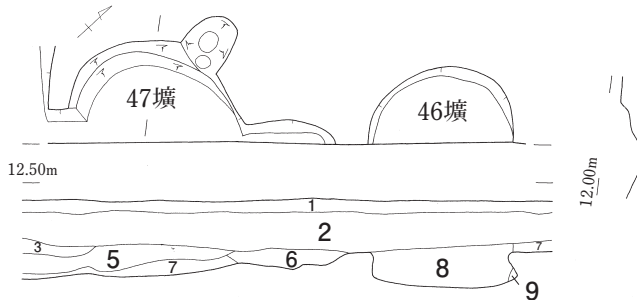
- 38壙セクション
- 4 暗褐色土/LB、FE、暗灰褐色B、C△ 粘強 3層より縮弱
  - 7 暗灰色土/LB 非常に堅緻
  - 9 暗褐色土(暗) 灰色B、LB△
  - 10 暗褐色土/LB△
  - 11 暗褐色土(赤色) /LB△ 縮弱
  - 12 暗褐色土/LB
  - 13 暗黄褐色土/LB☆ 粘強 縮強
  - 14 暗黄褐色土/LB△ 縮弱
  - 15 暗黄褐色土/LB☆、LR 14層より縮強
  - 16 暗褐色土/LB 15層より縮弱
  - 17 暗褐色土(暗) /LB△ 16層より粘弱・縮弱
  - 18 暗黄褐色土/L☆ 粘強 縮強



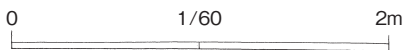
- 39壙セクション
- 1 暗灰褐色土/LR◎、赤褐色(スコリア)、TR 縮有
  - 1' 暗灰褐色土(黒色) /LR◎、赤褐色(スコリア)、TR 縮有
  - 2 暗灰褐色土/LR◎、赤褐色(スコリア)、LB△、FE 縮無
  - 3 暗褐色土/LR、LB(ソフト)、赤褐色(スコリア) 粘強 縮無
  - 4 暗黄褐色土/L(ソフト)の2次堆積
  - 5 暗褐色土(3層より黒色) /LR 粘強
  - 6 黄褐色土/L(ハード)が脆弱化したもの
  - 7 記載なし
  - 8 記載なし
  - 9 記載なし



- 44壙セクション
- 1 耕作土
  - 2 灰褐色土/T◎、LR 縮良
  - 3 暗灰褐色土/LR、T、C△ 縮良
  - 5 ソフト
  - 6 灰黄褐色土/LR◎、T、BBR 縮良
  - 7 褐色土/LR◎、LB やや縮悪



- 46壙47壙セクション
- 1 耕作土
  - 2 暗褐色土/T◎、LR、C△ 粘弱 縮強
  - 3 暗褐色土(1層より明) /L◎、T△、C 1層より縮弱
  - 5 暗褐色土(1層より明) /L△、C△ 粘強 1層より縮弱
  - 6 暗褐色土/LB、LR 粘強 縮強
  - 7 黄褐色土/L☆、C△ 粘強
  - 8 暗褐色土/43壙の最下層と同一と考えられる(46壙の覆土)
  - 9 暗褐色土/L☆(46壙の覆土)



第14図 KB1遺構6

( )は残存値、☆はセクション図計測値 ○は当該機構 覆土 (T=テフラ、L=ローム、S=焼土、C=炭化物、Fe=酸化物/B=ブロック、R=粒子)

遺構名	位置	重複	平面形	断面形	規模(cm)	深さ(cm)	覆土	出土遺物	年代	備考
8号土壇	中	35壇	隅丸長方形	直上	160×130	☆(32)	暗灰褐色/含LB(多)			
9号土壇	中	35壇	長方形	ゆるやか	208×96	20	不明			
10号土壇	中	なし	長方形	ゆるやか	512×120	34	暗褐色 暗褐色(含LB)	焙烙/かわらけ		
11号土壇	中	27壇	円形	直上	130	☆40	暗褐色			
12号土壇	中	なし	円形	直上	138	30	暗褐色/含LB(多)			
13号土壇	中	なし	円形	直上	132	20	暗灰褐色/含LB(多)			
14号土壇	中	なし	隅丸長方形	ゆるやか	304×62	8	不明			
15号土壇	中	なし	長方形	ゆるやか	(280)×120	14	不明			
16号土壇	北	なし	円形	ゆるやか	108	8	不明			
17号土壇	中	12溝	隅丸長方形	オーバーハング	302×168	114	黒色	瀬美(天目=16c後・鉄絵皿=17c前・志野碗・黄瀬戸鉢=17c前・碗・丸皿)/志戸呂(大皿=16c後~17c初)/肥前磁器(碗)/かわらけ=17c前/板材/漆碗/砥石/粉挽き臼/火打石/板碑/骨片?		
18号土壇	南	19壇	不整円形	ゆるやか	308×264	94	黒色とソフトLの互層	下駄		天井崩
19号土壇	南	18壇	円形	オーバーハング	154×138	85	黒色 よく締っている	焙烙		
20号土壇	中	○→5溝	円形	直上	132	☆38	暗灰褐色			
21号土壇	北	なし	円形	ゆるやか	126	☆30	暗灰褐色/LB(多)			
22号土壇	北	なし	長方形	ほぼ直上	320×85	14	不明	肥前磁器(碗)/かわらけ		
23号土壇	北	なし	円形	オーバーハング	137	36	不明	瀬美(天目)/肥前陶器(碗=17c後)	17c後~	
24号土壇	中	31壇	楕円形	直上	123	☆12	暗灰褐色			
25号土壇	中	○→26壇	円形	ほぼ直上	60	☆85	暗灰色			
26号土壇	中	25壇→○	円形	ゆるやか	62	☆29	暗灰色			
27号土壇	中		円形	ほぼ直上	120	8	不明			
28号土壇	中	33壇	円形	ゆるやか	(90)×132	21	不明			
29号土壇	中	6壇	円形	ほぼ直上	122	24	不明			
30号土壇	中	6壇	不整円形	ほぼ直上	178×(134)	73	不明			
31号土壇	中	24・32壇、13井	長方形	ほぼ直上	180×110	15	不明			
32号土壇	中	7・31壇、13井	長方形?	不明	(100)×(88)	20	不明			
33号土壇	中	28壇	長方形	ゆるやか	(200)×114	不明	不明			
34号土壇	中	なし	円形	ほぼ直上	84	56	不明			
35号土壇	中	8・9壇	円形?	ほぼ直上	(74)	18	不明			
36号土壇	北	37壇→○	長方形	ゆるやか	170×65	18	暗灰褐色			
37号土壇	北	○→36壇	長方形	ゆるやか	285×190	16	暗灰褐色	瀬美(志野丸皿=17c前)/肥前陶器(碗=17c後)/常滑(甕)/銭貨	17c後~	貼り床小竪穴
38号土壇	北	○→1・12溝	長方形	直上	(408)×90	83	暗褐色 暗黄褐色			
39号土壇	北	14溝、45壇	不整長方形	直上	304×78	☆66	暗灰褐色/含T(上層)	瀬美(播鉢=16c)/在地(播鉢)/かわらけ	16~18c	
40号土壇	北	なし	円形?	ほぼ直上	110	☆38	暗灰褐色/含LB(多)			
41号土壇	北	13溝	円形	ゆるやか	124	☆30	暗褐色 褐色			
42号土壇	北	なし	円形	直上	108	☆12	暗灰褐色			
43号土壇	中	なし	円形	オーバーハング	120	☆60	暗灰褐色			
44号土壇	中	5溝	円形	オーバーハング	150	☆50	暗黄褐色/含LB(多)			
45号土壇	北	14溝	円形	ゆるやか	104	14	不明			
46号土壇	中	なし	円形	オーバーハング	114	☆32	暗褐色	かわらけ		
47号土壇	中	なし	円形	ゆるやか	(138)	☆22	不明			

第3表 KB1遺構一覧表2

## 第3節 KB2区

### (1) 調査概要

調査担当 指導課主事島村範久 主事嶋村英之

調査期間 昭和59年5月4日～11月29日

調査面積 1,100m<sup>2</sup>

### (調査の経過)

KB1区と西の加須-鴻巣県道との間に位置する調査区をKB2区とした。区画整理道路名の「区6-32・6-31・6-33・4-8号線」を用い細分区名とした。6-〇〇は幅6mの道路を意味する。掘り下げは、確認面まで浅く、遺物が表土直下より出土するため、人力により行った。遺構確認面はローム層とした。確認面上の遺物を平板により実測・取り上げ、写真撮影した。前回の調査で遺構が確認時と完掘時の規模形態が変わるため、検出時の落込を実測し比べることとした。方位北に合わせ10m方眼にグリット設定の杭を打ち測量の基準とした。遺構検出及び掘り下げの際湧水が支障となるため、必要に応じ側溝を掘り下げポンプにより排水した。遺構の図化は全体は平板測量により、各遺構はグリット杭を基準として、あるいは任意に設定した水糸を基準としてメジャーにより実測した。最後に縄文時代遺構検出のため精査を行った。

グリット杭設置及び基準杭の標高は測量業者に委託した。

町実施の発掘調査としては、大規模で成果が上がっているため、調査中に町議会・地元老人会や中学校教師生徒など各方面からの見学者が来跡した。

### (周辺の調査)

東方にKB1・5区、北方にKB8区があり、南東に11・14・29・44次、北東に7・12・21次、南西に15・22・24・27次、北西に23・35・36・41次が区域内に隣接する。連続する遺構は、1・14号溝が南の11・44次及び北東の7・41次に、34号溝が22次に連続する。6-32区交差点の墓壇群は41次の墓壇群に連なるものである。

### (2) 遺構

#### 【溝状遺構】

溝は48条まで命名したがab分割や連続するものを1条とすると、実総数は47条を数え、調査区のほぼ全域に分布する。走行方向は調査区に対し直行あるいは並行し、南北方向の6-33号線区で様子のはっきりしたもの(6・25・28・31号溝)や隣接地との成果により広がりを確認できたもの(東部の1・14号溝、4-8号線区の34号溝)が所在する。1・2号溝・25・28号溝は同一でL字形を呈する。溝は幅200cm前後・100cm・50cmの大・中・小規模なものに大別される。大規模な溝の断面形は底面幅広の箱葉研が多数を占める。遺物の出土は25・28号溝が多い。

**1号溝** 6-32号線区東端に位置し、2号溝はその延長でL字形となり南北・東西方向に走行する。11次1号溝とつながる。幅185cm(残存)深さ80cmを計る。

出土遺物は瀬戸美濃の平碗・梅瓶片(土-478・479)がある。

**6号溝** 6-31号線区南端より始まり6-33号線南区南端で調査区域外にそれ南北に走行する。多数の遺構と重複する。幅は100cm深さ70cmで、覆土は黒褐色土である。14・18・25・26溝より古い

出土遺物は肥前陶器・かわらけの細片である。

**8号溝** 6-33号線北区南端に位置し調査区に直行する。幅172cm(残存)深さ80cmと大規模である。東側に方形の掘り込みがある。出土遺物は覆土上層に多い。瀬戸美濃香炉・片口、肥前磁器碗、かわらけ、ほうろく(土-489~496)で17世紀後半である。

**9号溝** 6-32号線西区に位置し南北に走行する。41次1号溝の延長の位置にあり14・1・2溝とつながり方形を呈する可能性がある。幅190cm(残存)深さ96cmである。

出土遺物は瀬戸美濃稜皿で16世紀半ばである。

**14号溝** 6-32号線交差点区南端に位置し、東西に走行する。当調査区1・9号溝、7次2号溝・41次1号溝は延長である。幅140cm(一部調査区外)深さ80cmである。延長の1号溝と主に18世紀の陶磁



器が出土するが、既報告7・41次の溝年代を15～16世紀と想定しており年代が整合しない。

出土遺物は肥前陶器・京都信楽の碗がある。(未図化)

**16号溝** 6-31号線区北端に位置し、東西に走行する。

36次1号溝は延長である。幅190cm(残存)深さ90cmである。覆土上位でロームブロック・粒子を多量に含む。隣接してあった盛土等が埋め戻されたものか。

出土遺物は少量でスラグが出土している。

**18号溝** 6-31号線区南よりに位置し、東西に走行する。7次1号溝・35次1・5号溝は延長である。

ab2条の溝が重複している。6号溝より新しい。

18a号溝は幅340cm深さ105cm、18b号溝は幅156cm(残存)深さ104cmである。

出土遺物は覆土上層に多く、遺存の良いかわらけ(土-511・512)がある。16世紀代と思われる。

**19号溝** 6-31号線区南端から6-32号線交差点南端で調査区域外へ。6号溝に並行して南北に走行する。幅80cm深さ40cm。6号溝と対で道路の側溝とも思われたが、規模が異なり並行箇所が短い。

**21号溝** 6-32号線東区東端に位置し南北に走行する。11次2号溝の延長。幅110cm(残存)深さ63cm。

**22号溝** 6-31号線区に位置し東西に走行する。7次3号溝・12次2号溝・21次2号溝・KB1区10b号溝は延長で、幅220cm深さ94cmである。覆土は無記入のため不明。

**24号溝** 6-33号線北区と南区に跨る。L字形に屈曲し、25溝北端で止まる。幅150cm深さ40cm。

**25号溝** 6-33号線南区北端より始まり南北に走行する。東側で東西に走行する28号溝は延長でL字形に屈曲し、4-8号線東端で止まる。幅192cm深さ96cmである。

出土遺物は瀬戸美濃総織部皿、志戸呂播鉢、かわらけ、在地の甕(土-514～531)がある。15～16世紀の遺物が多く、板碑(石-181～189)など墓域に伴う遺物が覆土中位にある。

**28号溝** 25号溝と同一。幅150cm深さ100cm。

出土遺物はかわらけや瀬戸美濃茶入(土-533～

538)・板碑(石-191)がある。

**31号溝** 6-33号線南区中央に位置し、25溝屈曲部より南北に走行し南端で止まる。幅116cm深さ70cm。五輪塔地輪(石-205)が出土している。

**34号溝** 4-8号線区東側に位置し南北に走行する。22次2号溝は延長である。ab2条の溝が重複している。34a号溝は幅180cm(残存)深さ100cm、34b号溝は幅146cm深さ90cmである。

出土遺物は覆土上～中層に多く、瀬戸美濃反皿・播鉢、丹波播鉢、肥前磁器染付皿・碗、かわらけ(土-549～560)がある。17世紀後半以降のものを主とする。

**42号溝** 4-8号線区西側に位置し、東西に走行する。東端が確認できる。幅90cm深さ76cmである。覆土にロームブロックを多量に含む。

出土遺物は軟質施釉陶器碗、丹波信楽播鉢、肥前磁器碗がある(17世紀代まで)。

**46号溝** 4-8号線区東側に位置し、南北に走行する。幅310cm深さ115cmで28号溝や98号土墳(墓墳)より古い。

#### 【井戸状遺構】

井戸状遺構は総数13基で、全て素堀である。分布は偏在し、6-32号線東区東端・6-33号線南区南側・6-33用水際区南側・4-8号線区に複数検出された。検出されていない調査区の隣接調査区で確認されており、トレンチ状のKB2区の偏在のとらわれず総体的に見る必要がある。断面形態はロート状・直上等様々である。完掘図を掲載していないものは、1/20の実測図面が存在しないものである。出土遺物の年代は17世紀以降のものが多い。

**4号井戸** 6-32号線東区東寄りに位置し、直径92cm深さ158cmを計る。壁面中位に2カ所窪みを有し、井戸替えなどの際の足掛けと思われる。

出土遺物は在地産かわらけ・火鉢である。

**6号井戸** 6-33号線南区南側に位置し、直径150cm深さ170cmを計る。断面直上し当調査区の中で比較的形が整い規模の大きなものである。

出土遺物は瀬戸美濃鉄絵皿(土-595)である。

**13号井戸** 6-33号線用水際区に位置し、直径104cm 深さ200cm を計り、細くて深いものである。

#### 【土壙】

土壙は163まで命名したが実総数は152 基で調査区ほぼ全域に分布する。概略、掘り込みが浅く短軸：長軸が1：3を越える長方形の土壙は北東部（6-32東・6-31）・南西部（4-8）・南端（6-33用）に、人骨等を伴う墓壙は北寄り（6-32交）付近・南（6-33南区・4-8区東）に集中する。また大規模で深い81・82号土壙は特異である。階段を有する（166号）土壙は6-32西区に1基検出された。

**35号土壙** 6-32号線交差点区に位置し、106×58cmの平面長方形である。骨が出土しており墓壙の可能性あり。

**42号土壙** 漆碗・骨が出土している。重複する5号井戸に属する可能性もある。

出土遺物はかわらけ（土-610）がある。

**43号土壙** 6-31号線交差点区に位置し、96×42cmの平面やや不正形な隅丸長方形である。掘り込みはしっかりしている。かわらけ（土-611~613）出土。墓壙か。

**45b号土壙** 6-32号線交差点区に位置し、45壙は2基の土壙が重複しておりa-bで弁別した。112×70cmの平面やや不正形な隅丸長方形である。

出土遺物は銭貨6枚（金-123~128）・鍔着6枚？（未図化）があり、2体が埋葬されている。

**48号土壙** 6-32号線交差点区に位置し、130×84cmの平面楕円形である。頭骨・脚部骨などの人骨が出土している。頭部は北東・顔は東を向く。体部付近で銭貨出土（金-129~132）。墓壙。

**75号土壙** 6-33号線南区に位置し、94×55cmの平面長方形である。歯・脚部骨？などの人骨が出土している。歯が南と北で出土しており頭部方向は決めがたい。墓壙。

**77号土壙** 6-33号線南区に位置し、94×54cmの平面楕円形である。背骨をのぞくほぼ全身の人骨が出土している。頭部は北東で顔は東向きか。墓壙。

出土遺物はかわらけ（土-614・615）がある。

**79号土壙** 6-33号線南区に位置し、125×60cm（推定）の規模を有す。掘り込み不明。頭骨・脚部骨などの人骨が出土している。頭部は北東・顔は西を向く。体部付近で銭貨（金-134~136）・足下付近でかわらけ（土-616）出土。墓壙。

**81号土壙** 6-33号線南区に位置し254×106cm 深さ28cmの平面長方形で大規模な土壙である。

**82号土壙** 6-33南区に位置し81壙と並ぶ。336×112cmの平面長方形で深さ46cmのさらに大規模なものである。覆土にはロームブロック・ローム粒子を大量に含み特徴的である。長さ14cmの骨が出土している。

**86号土壙** 6-33号線南区に位置する。315×130cmの平面長方形で深さ9cmである。81・82壙に類する。

**90号土壙** 6-31号線交差点区に位置する。残存92×64cmで深さ10cmの平面長方形である。出土遺物はないが分布・形態・規模44・45壙と同様に墓壙の可能性はある。87~89壙も同様である。

**96号土壙** 4-8号線区東に位置し、88×82cmの平面不正形である。歯・脚部骨などの人骨が出土している。頭部は北東を向く。かわらけ出土。墓壙。

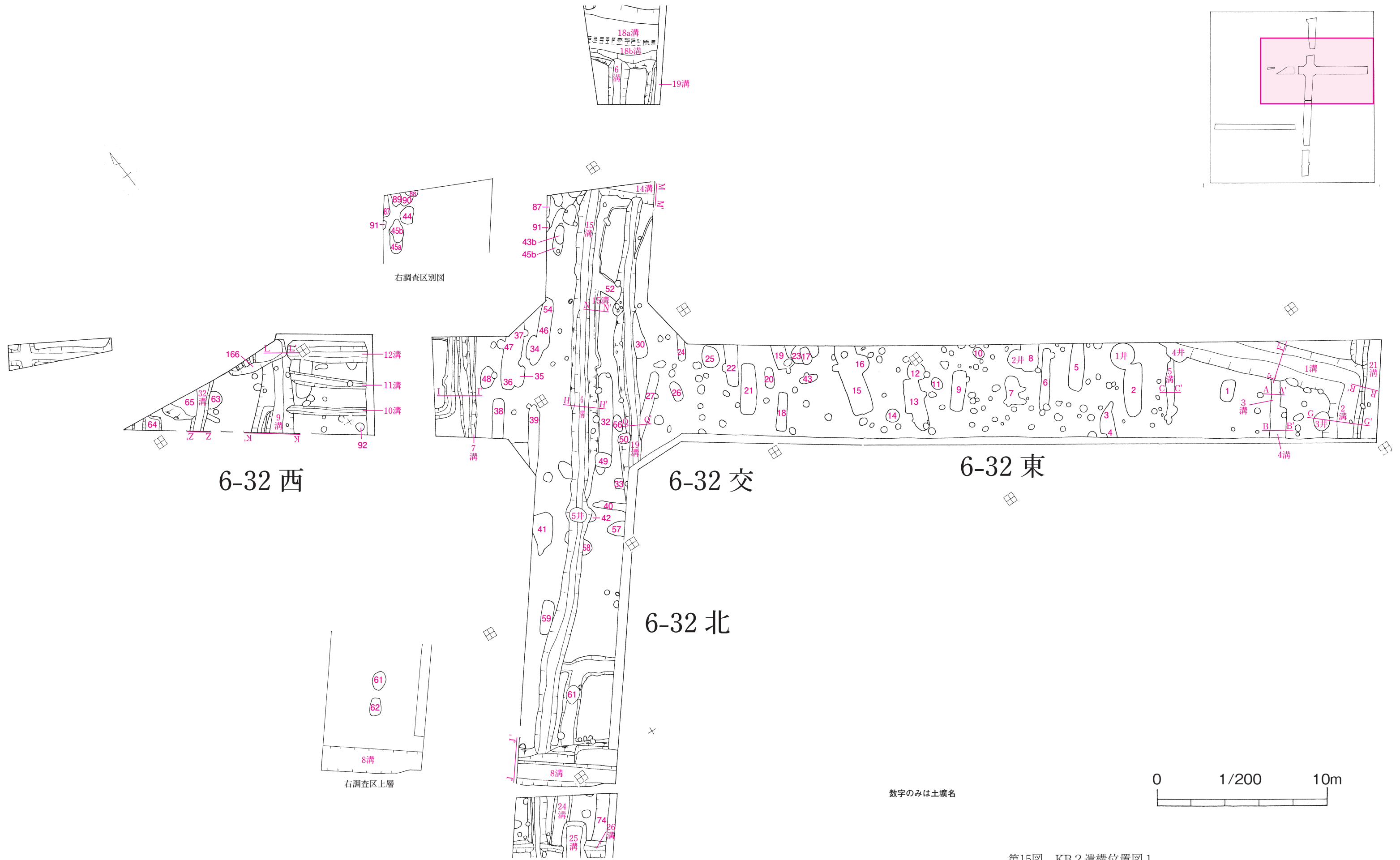
**98号土壙** 4-8号線区東に位置し、103×87cmの平面不整形である。頭骨・脚部骨などの人骨が出土している。頭部は2箇所確認され墓壙2基の重複等が考えられる。頭部は北東を向く。胸部付近で銭貨（金-143~146）出土。墓壙。

**99号土壙** 4-8号線区東に位置し、95×62cmの平面楕円形である。頭骨・腕脚部骨などの人骨が出土している。頭部は北西・顔は北東を向く。墓壙。

**101号土壙** 4-8号線区東に位置し、147×79cmの平面楕円形である。腕・脚部骨などの人骨が出土している。足下付近？で銭貨（金-153~164）・かわらけ（土-617）出土。墓壙。

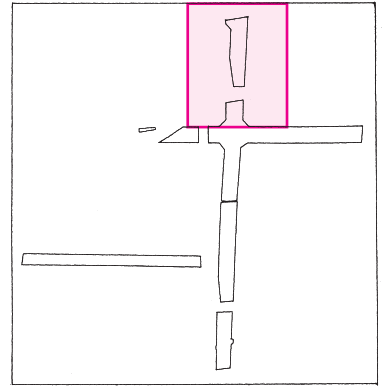
**155号土壙** 6-33号線南区南端に位置し、101×72cmの平面楕円形である。頭骨・腕・脚部骨などの人骨が出土している。頭部は北東・顔は東を向く。胸部に板碑片（石-193）が、脚部付近で銭貨（金-196~202）が出土。墓壙。

**157b号土壙** 6-33号線用水際区南に位置し、118

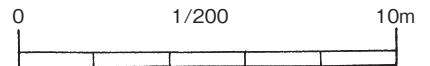
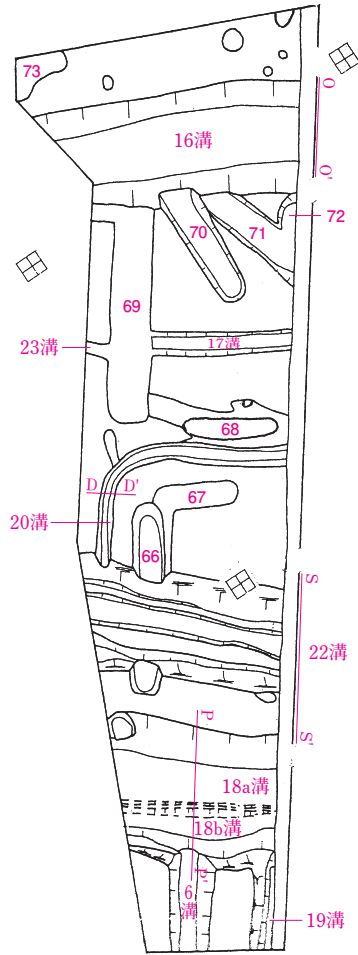


第15図 KB2 遺構位置図1

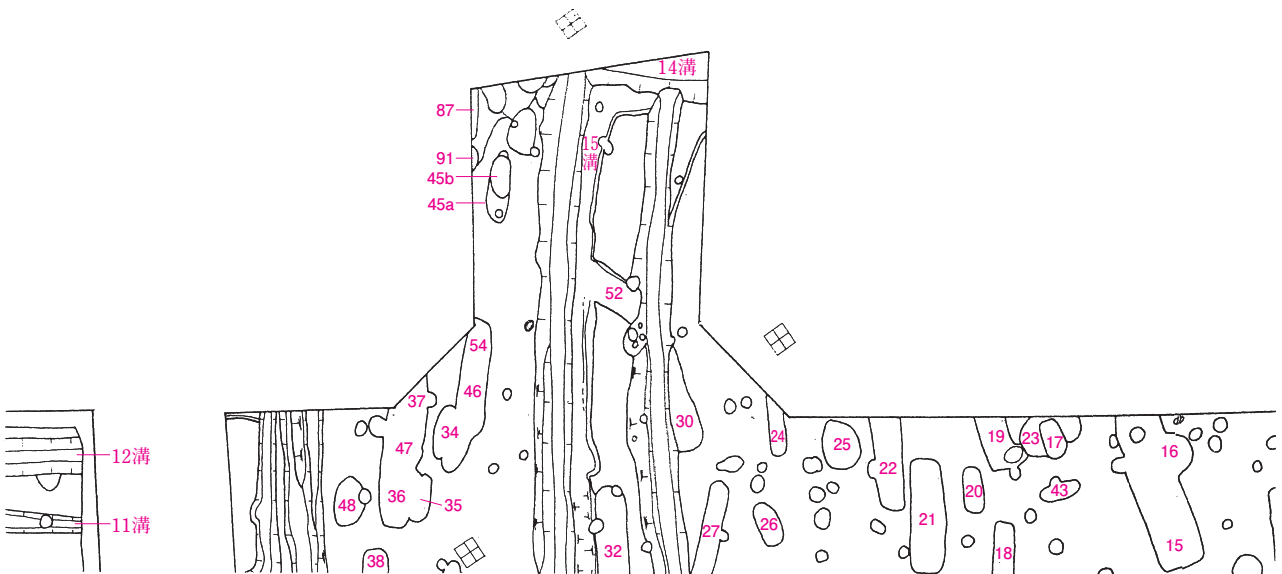




6-31

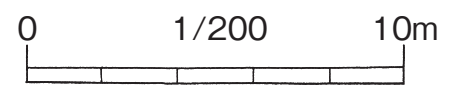
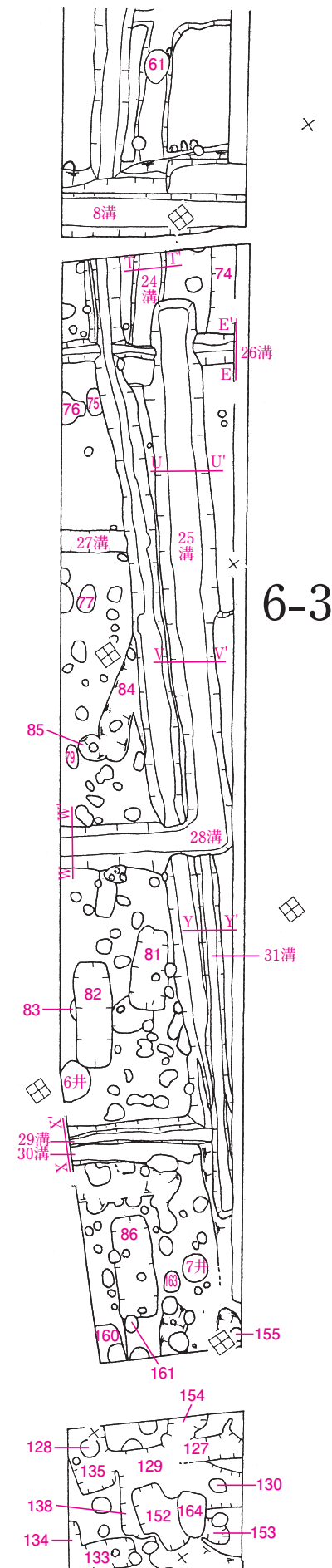
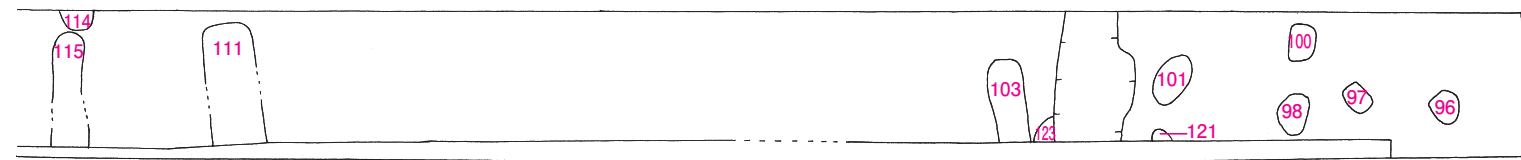
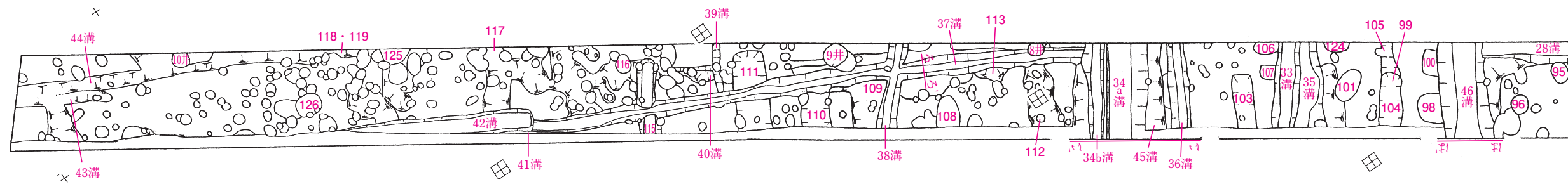
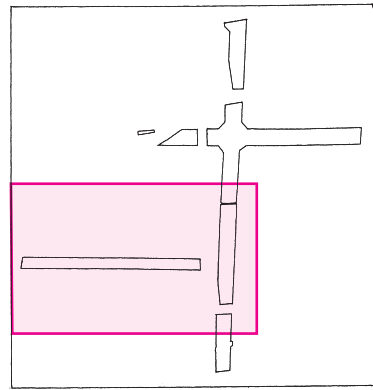


数字のみは土壌名



第16図 KB 2 遺構位置図 2

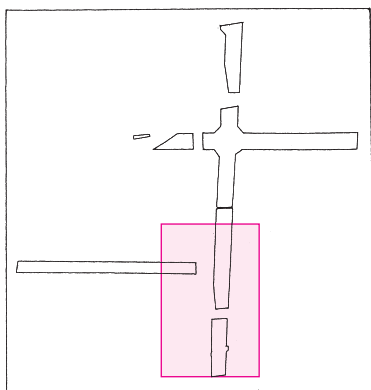
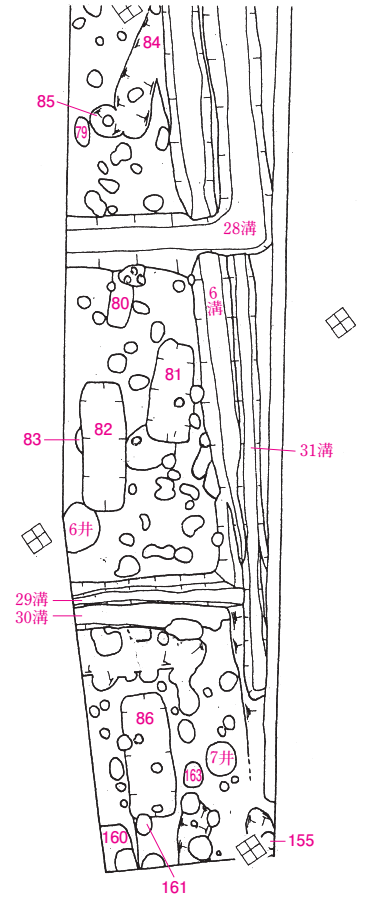
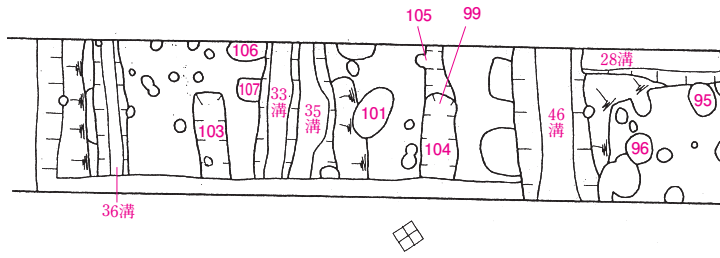




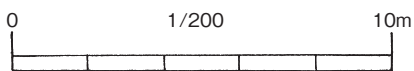
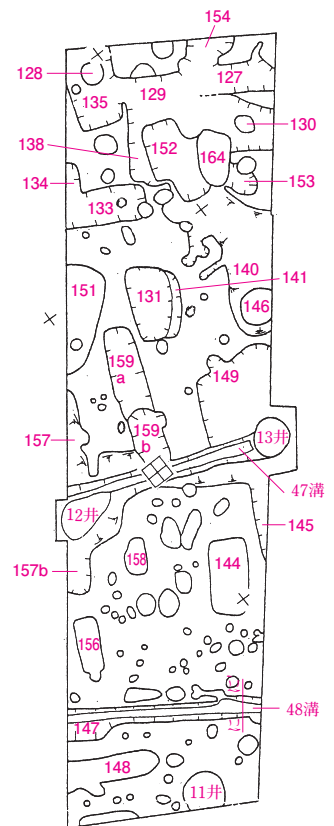
数字のみは土壌名

第17図 KB2遺構位置図3



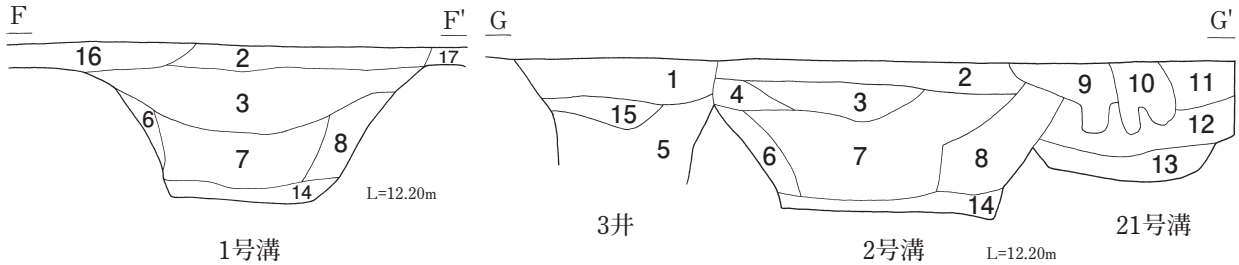
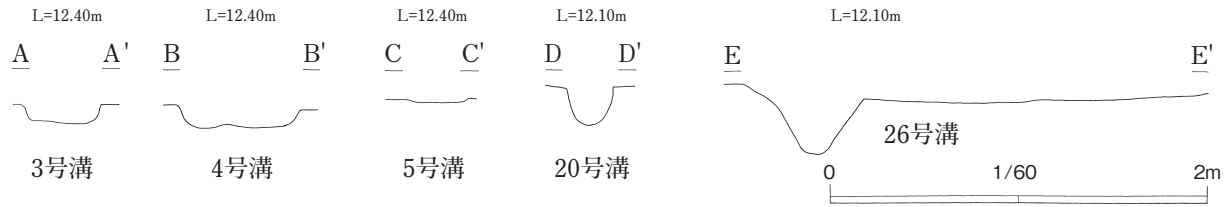


# 6-33用



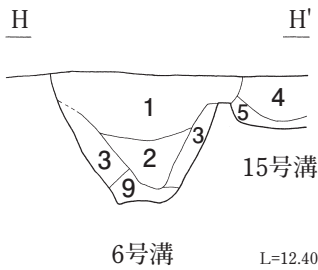
数字のみは土壇名

第18図 KB 2 遺構位置図 4

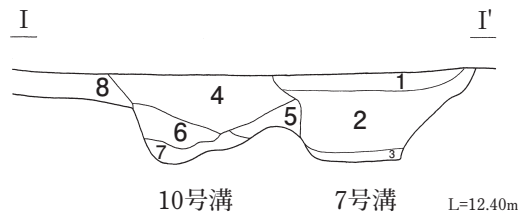


- 1 溝セクション
- 2 暗灰色土/LR、C、灰褐色 R△ 締良
  - 3 暗灰色土 (2層より暗) /LR、C▲
  - 6 暗灰褐色土/LR○、灰褐色 R△ 軟質
  - 7 暗灰褐色土/LR、褐色 R○、灰褐色○ 粘やや有
  - 8 暗灰褐色土 (7層より明) /LR、LB、BrR○ 締良
  - 14 ロームブロック/LB (ハード)、灰褐色 B やや締悪
  - 16 暗灰褐色土/3溝覆土
  - 17 褐色土/地山
- 1 溝  
→ 3 溝

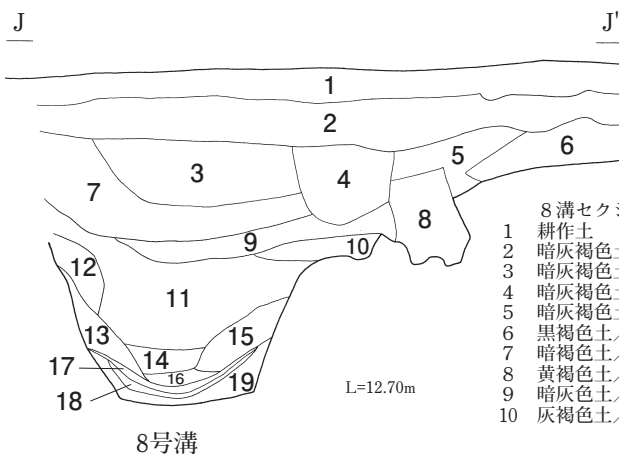
- 2 溝 3井 21溝セクション
- 1 暗灰色土/LR△、BBR△ 締良
  - 2 暗灰色土/LR、C、灰褐色 R△ 締良
  - 3 暗灰色土 (2層より暗) /LR、C▲
  - 4 暗灰色土/LR○
  - 5 暗灰褐色土/LB、BBB○ 軟質
  - 6 暗灰褐色土/LR○、灰褐色 R△ 軟質
  - 7 暗灰褐色土/LR、BrR○、灰褐色○ 粘やや有
  - 8 暗灰褐色土 (1層7層より明) /LR、LB、BrR○ 締良
  - 9 暗灰褐色土/SR、CR、LR○ 締良
  - 10 暗灰褐色土/BBB、LB、LR○ 締悪
  - 11 黒褐色土/LR、C 締良
  - 12 黒褐色土/LR、LB、灰褐色 R○ 軟質
  - 13 ロームブロック/LB (ハード) 締悪
  - 14 ロームブロック/LB (ハード)、灰褐色 B 締まりにややかける
  - 15 黒褐色土/LR、暗灰褐色 B△ 軟質
- 3 井  
→ 2 溝  
→ 3 井  
→ 2 溝  
→ 21 溝  
→ 2 溝  
→ 3 井



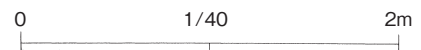
- 6 溝セクション
- 1 黒褐色土/LB
  - 2 黒褐色土/LB△
  - 3 黒褐色土/LB○、LR○
  - 4 暗褐色土/LB、LR
  - 5 黄褐色土
  - 9 黄褐色土 (赤色) /L 堅緻だがボロボロくずれる
- 6 溝  
→ 15 溝  
→ 6 溝



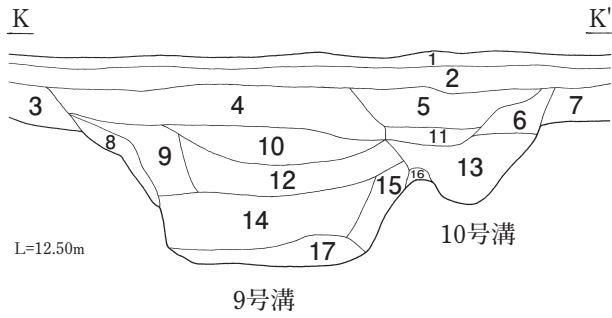
- 7 溝 10溝セクション
- 1 暗灰褐色土 (暗) /T△、LR△
  - 2 記載なし/LR△ 堅緻 締良
  - 3 暗黄褐色土/LR○ 堅緻 締良
  - 4 暗灰褐色土/LR 締弱
  - 5 暗黄褐色土/LR○ 締弱
  - 6 暗褐色土 (5層よりやや明) /LR△
  - 7 暗褐色土 (6層よりやや明) /LR○
  - 8 暗黄褐色土/LR○ 締悪



- 8 溝セクション
- 1 耕作土
  - 2 暗灰褐色土/T○、C▲、LR▲ 締悪
  - 3 暗灰褐色土/2層に似るが含有物が少ない
  - 4 暗灰褐色土/T○、C▲、LR▲ 締良
  - 5 暗灰褐色土/BBB、LB 締悪
  - 6 黒褐色土/暗灰褐色 B、LB (ソフト) 軟質
  - 7 暗褐色土/LR△
  - 8 黄褐色土/LB○、暗灰褐色 B○ 締悪
  - 9 暗灰色土/LR▲、赤褐色 R▲ 締良
  - 10 灰褐色土/LR○、赤褐色 R△ 締良
  - 11 灰褐色土/赤褐色 R☆ 粘有 軟質
  - 12 灰褐色土/LR○、赤褐色 R○ 軟質
  - 13 黄褐色土/LR☆ ザラっぽく軟質
  - 14 灰黒褐色粘質土/LB△ 粘有 軟質
  - 15 黄褐色土/LR☆ ザラっぽく軟質
  - 16 灰黒褐色粘質土/LB▲
  - 17 青灰色粘質土/粘強 軟質
  - 18 灰黒色土/LR△ 粘有 軟質
  - 19 黄褐色土/LR ザラつき砂っぽく軟質

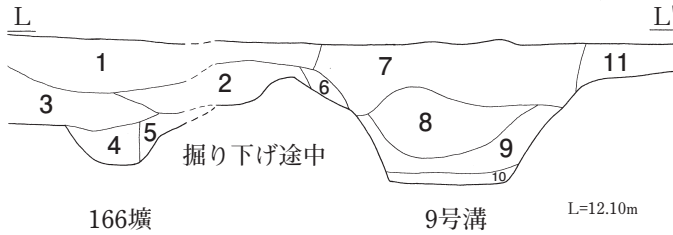


第19図 KB2 遺構 1



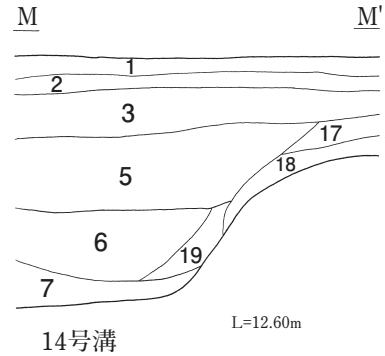
9・10溝セクション

- 1 耕作土
- 2 暗灰褐色土/T◎、C、LR△ 堅緻
- 3 暗灰褐色土/LB◎ 軟質
- 4 暗灰褐色土/LR◎、C△、T▲ 締良
- 5 暗灰褐色土(4層より明)/LR☆、C▲ 軟質
- 6 暗灰褐色土/LR▲ 軟質
- 7 暗灰褐色土/LB◎ 軟質
- 8 黄褐色土/LB、暗灰褐色B 軟質
- 9 灰黒色土/LR△、赤褐色R 締良
- 10 暗灰褐色土(5層より暗)/LR☆、C▲ 締良
- 11 暗灰褐色土/LR-SR▲ 軟質
- 12 灰黒色土/LR△、C▲、赤褐色R(FER)◎ 締良
- 13 暗灰褐色土/LR△、C▲ 締良
- 14 灰黒色土/LR-SR▲、赤褐色R☆ 粘有 軟質
- 15 暗灰褐色土/LR◎ 粘有 締良
- 16 黄褐色土/暗灰褐色B 締良
- 17 灰黒色土/LB(ハード)◎ ポロポロ 締悪



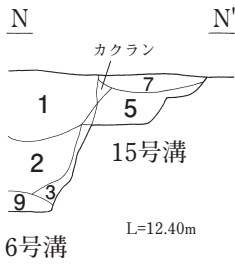
9溝・166坑セクション

- 1 暗灰褐色土/LR、T、C△ 締良
- 2 暗灰褐色土(1層より暗)/LR、C 軟質
- 3 暗灰褐色土/LB☆、LR 軟質
- 4 灰黒色土/LB、LR△ 締良
- 5 灰黒色土/LB、LR△ 締良
- 6 灰褐色土/LB△ 締良
- 7 暗灰褐色土/LR、赤褐色R◎、C▲ 堅緻  
鉄さび色の根のあとが走りまわる
- 8 灰黒色土/LR△、C▲ 軟質
- 9 灰黒色土/LR◎、C▲、白色粘土△ 軟質
- 10 灰黒色土/LB△ 粘無
- 11 記載なし



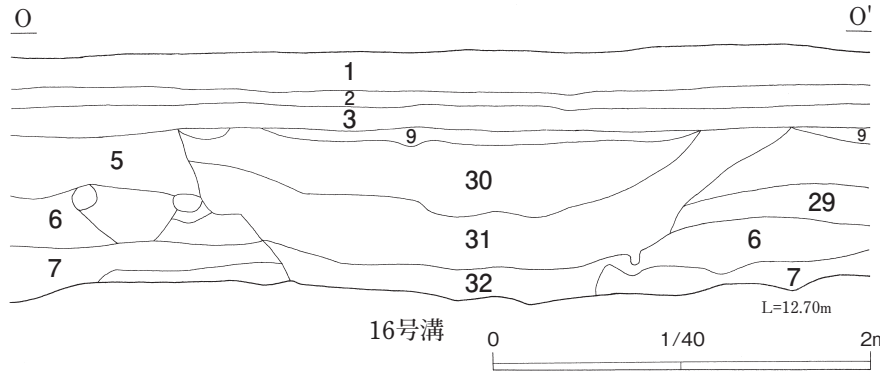
14溝セクション

- 1 耕作土/T◎、C△、SR▲ 堅緻
- 2 暗灰褐色土/T◎、C△、SR▲ 堅緻
- 3 暗灰褐色土/LR△、C△、SR▲ 堅緻 締良
- 5 暗灰褐色土(3層より暗)/LR△、C△
- 6 灰褐色土/赤褐色R◎ 粘有
- 7 ロームブロック/LB(ハード、ブラックバンド) ポロポロ
- 17 暗灰褐色土/BBB、LB△ ポロポロ 軟質
- 18 黄褐色土/LB、暗灰褐色B△ 軟質
- 19 灰褐色土/LR、SR 軟質



15溝セクション

- 1 黒褐色土/LB
- 2 黒褐色土/LB△
- 3 黒褐色土/LB◎、LR◎
- 5 黄褐色土
- 7 暗灰褐色土/LB△、LR、C
- 9 黄褐色土/L ポロポロ 堅緻

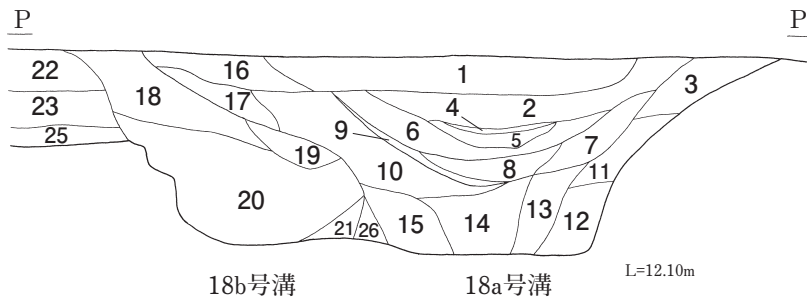


16溝セクション

- 1 盛土
- 2 耕作土
- 3 灰褐色土/T
- 5 黒褐色土/19溝覆土
- 6 ローム(ソフト)
- 7 ローム(ハード)
- 9 暗褐色土/LR、C、SR▲ 締良
- 29 茶褐色土/LR 締良 縄文期の包含層か?
- 30 茶褐色土(29層より暗)/LR、LB(ハード・ソフト)◎、C、SR▲ やや締悪
- 31 暗灰色土/赤褐色R◎、CR▲ 粘有 締良 下層に白色粘土が堆積
- 32 暗灰褐色土/LB(ソフト・ハード)、LR◎ 粘無 締良

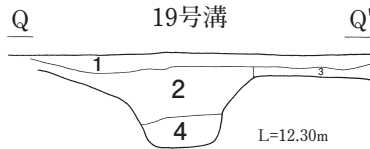
第20図 KB2遺構2





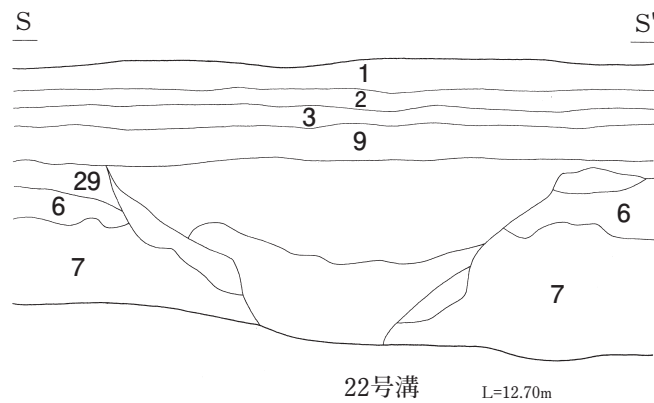
18a-b 溝セクション

- |   |  |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>1 暗灰褐色土/T、LR△、SR▲ 締悪</li> <li>2 暗灰褐色土/赤褐色R◎、C▲ 締良</li> <li>3 暗灰褐色土/LB(ソフト)、赤褐色R△ 締良</li> <li>4 黄褐色土/灰褐色B△ 軟質</li> <li>5 茶褐色土/赤褐色R△ 粘やや有 軟質</li> <li>6 暗灰褐色土(1層2層より暗)/赤褐色R◎、LR△ 締良</li> <li>7 暗灰褐色土(6層より暗)/赤褐色R◎、LR△ 締良</li> <li>8 暗灰褐色粘質土/赤褐色R 粘強</li> <li>9 灰褐色粘質土/赤褐色R 粘強</li> <li>10 暗灰褐色土/LR、赤褐色R◎ 締良</li> <li>11 暗灰褐色土(黄色)/LR△、LB(ハード)△、赤褐色R◎ 締良</li> <li>12 灰褐色土/LB(ソフト・ハード)◎、赤褐色R◎ 粘弱 締良</li> <li>13 灰褐色土/LR、赤褐色R◎ 粘無 軟質</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>14 灰褐色粘質土/LR、赤褐色R◎ 粘強</li> <li>15 灰褐色土/LR、赤褐色R◎ 粘無 軟質</li> <li>16 暗灰褐色土(1層より暗)/LR、赤褐色R△ 締良</li> <li>17 暗灰褐色土/BB、LB(ハード)△、赤褐色R△ 締良</li> <li>18 暗灰褐色土/LR△、LB(ハード)、赤褐色R◎ 締良</li> <li>19 暗灰褐色土(18層より暗)/LR△、赤褐色R◎ 堅緻</li> <li>20 灰黒色土/LR、赤褐色R、LB(ハード)、灰色粘土B△ 軟質 締良</li> <li>21 灰黒色土/LB(ハード)◎ 堅緻</li> <li>22 黒褐色土/LR▲ 締良</li> <li>23 黒褐色土/LR、LB、赤褐色R△ 締良</li> <li>25 ロームブロック/LB(ソフト・ハード) 締良</li> <li>26 掘りすぎ</li> </ul> |
|---|--|



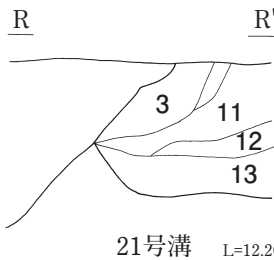
19号溝セクション

- 1 暗灰褐色土(灰色強)/LR、C、白色粘土R◎ 締良
- 2 黒褐色土/LR、LB△、CR▲ 締良
- 3 掘りすぎ
- 4 黄褐色土/L(ソフト)の2次堆積 締良



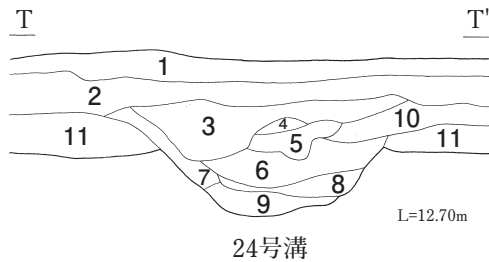
22号溝セクション

- 1 盛土
- 2 耕作土
- 3 灰褐色土/T
- 6 ローム(ソフト)
- 7 ローム(ハード)
- 9 暗褐色土/LR、C、SR▲ 締良
- 29 灰色粘質土/LB(ソフト)◎ 締良



21号溝セクション

- 3 暗灰色土(2層より暗)/LR、C▲
- 11 黒褐色土/LR、C 締良
- 12 黒褐色土/LR、LB、灰褐色R◎ 軟質
- 13 ロームブロック/LB(ハード) 締悪

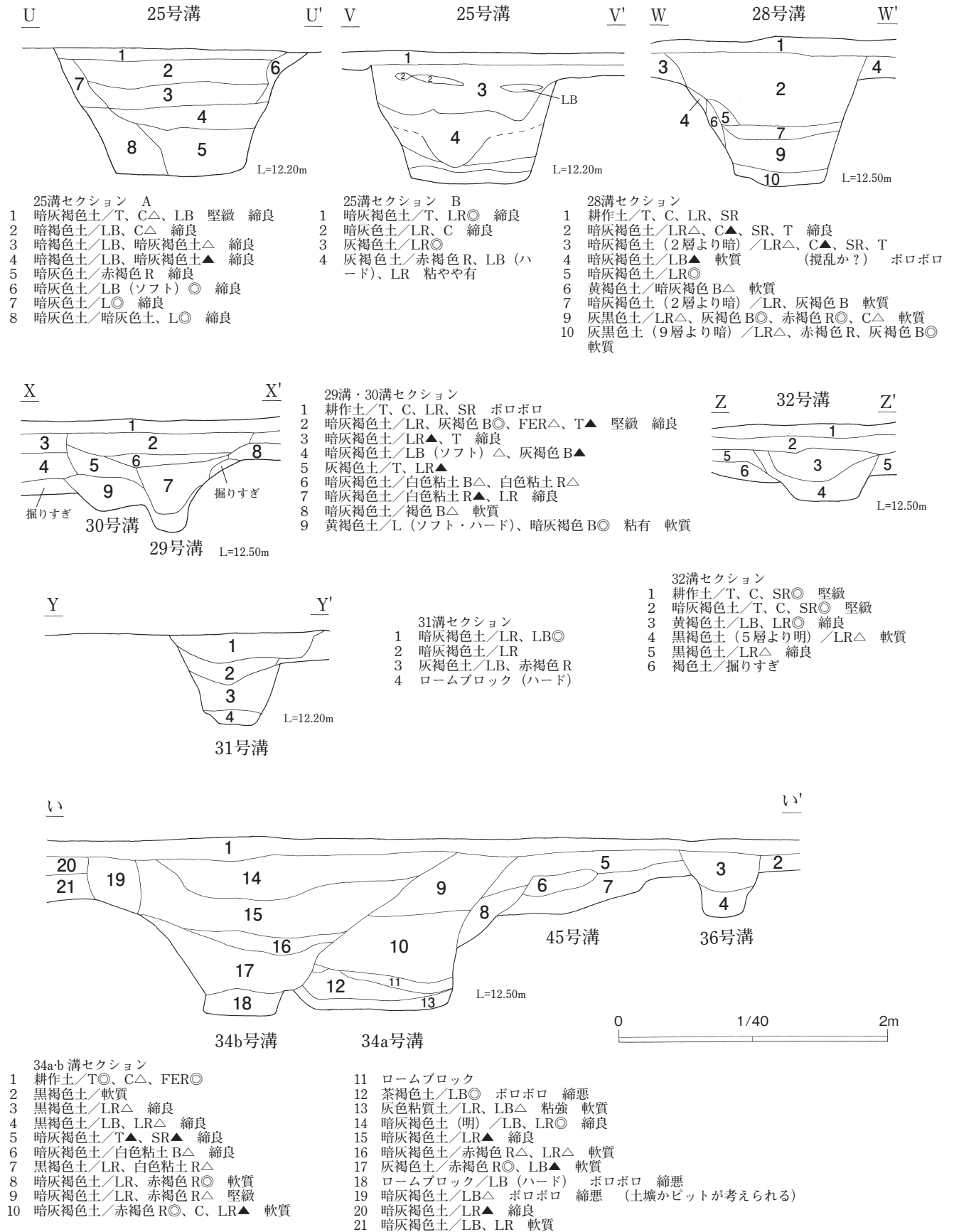


24号溝セクション

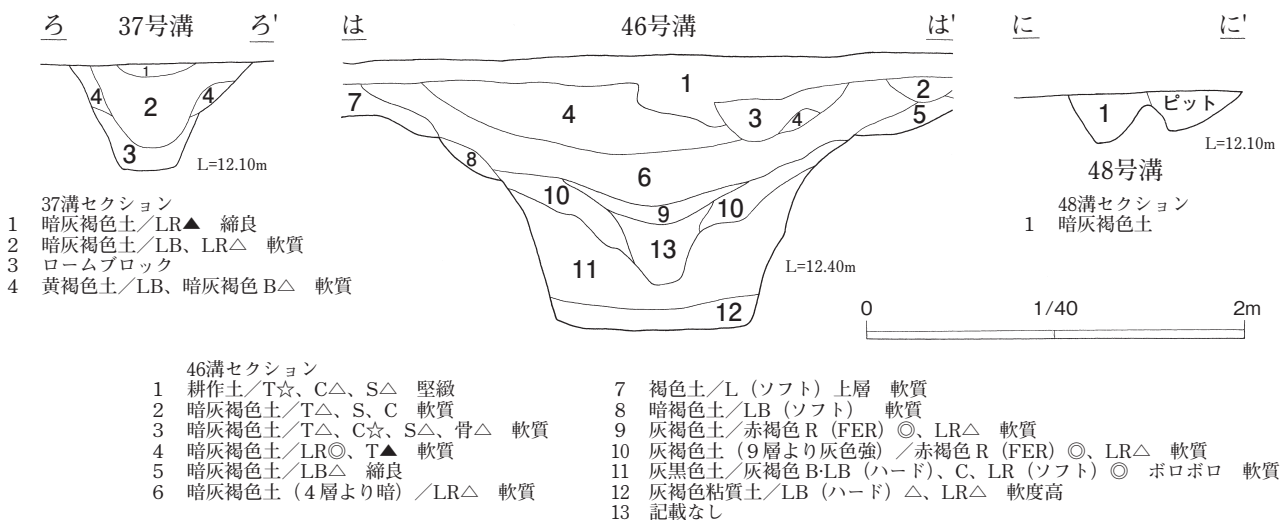
- 1 耕作土
- 2 暗灰褐色土/T◎、SR△、C△、FER◎ 締良
- 3 暗灰褐色土/LR、C、SR△ 軟質
- 4 暗灰褐色土/LR◎ 軟質
- 5 黄褐色土/LB(ソフト)、暗灰褐色、暗灰褐色B
- 6 黒褐色土/LR△ 締良
- 7 黒褐色土/LR◎ 軟質
- 8 黒褐色土/LR△、LB△
- 9 ロームブロック/LB(ソフト)、BBB
- 10 褐色土/BBB△、LR△ 軟質
- 11 記載なし



第21図 KB2遺構3



第22図 KB2 遺構 4



第23図 KB2 遺構5

×66cm(残存)の平面長方形である。菌などの人骨が出土している。頭部は北東を向くか。胸部よりややずれて銭貨(金-203~208)出土。墓壇。

**158号土壇** 6-33号線用水際区南に位置し、105×65cmの平面楕円形である。頭・腕・脚部骨などの人骨が出土している。頭部は北東・顔は東を向く。出土遺物は板碑片・陶器片、胸部付近より銭貨(金-223~228)が出土。墓壇。

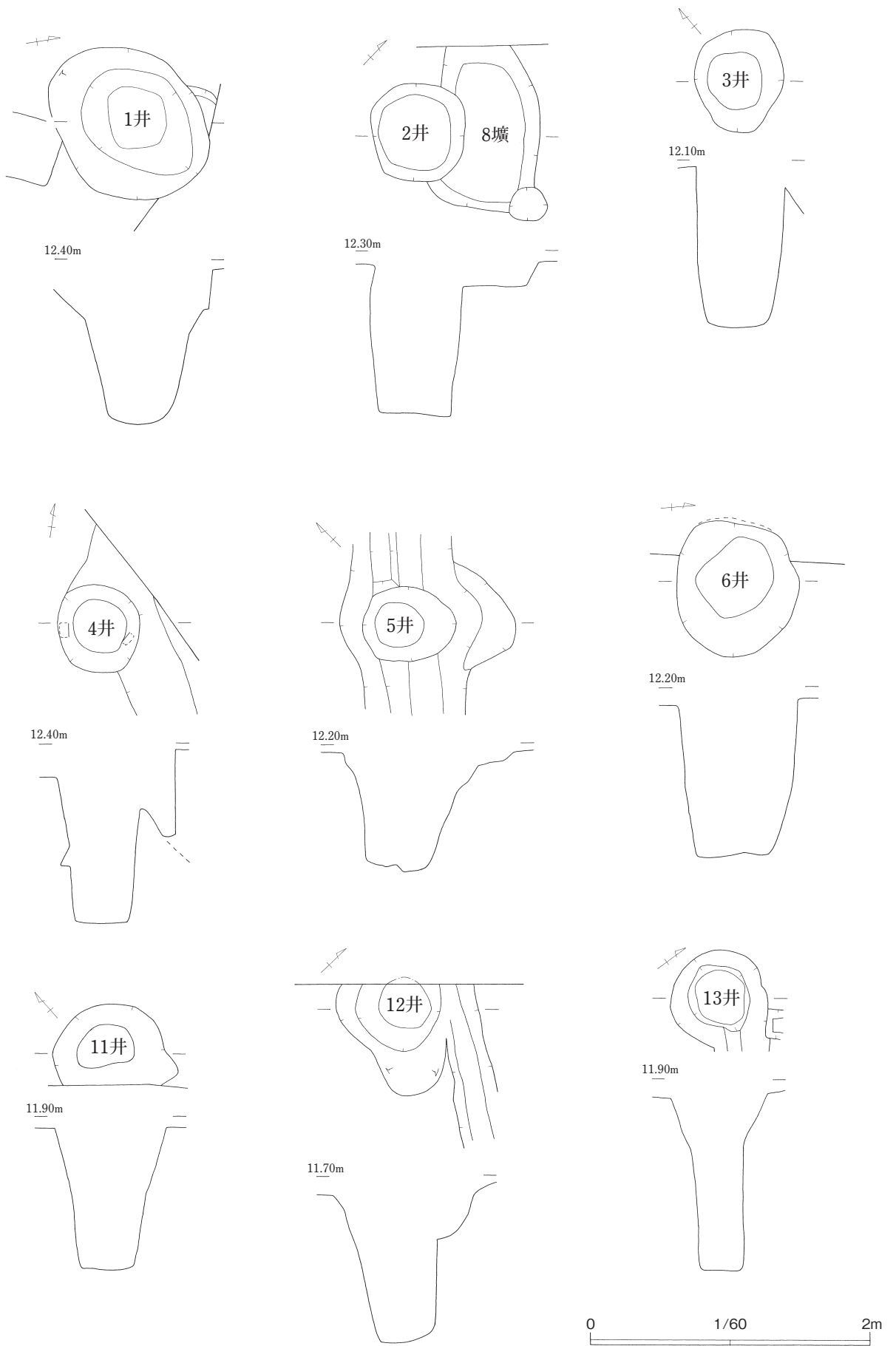
**164号土壇** 6-33号線用水際区北に位置し、122×98cmの平面長方形である。掘り込みは深く120cmを計る。覆土はソフトローム層の2次堆積である。

**166号土壇** 6-32号線西区西端に位置し、370×100cmの平面長方形と思われる。掘り込みは深く143cmを計る。西半分は階段状を呈する。高さ11~34cm踏み込み20cmである。地下式壇か(地下室)。第20図セクションは掘り下げ途中。

**炭化物分布範囲** 6-33号線用水際区南に位置し、105×65cmで長方形に炭化物が広がる。陶磁器類の破片に加え、かわらけ(土-811)・小札(金-11・15)・縁金具(金-51)・鞋(金-49・50)が出土している。戦後処理に伴う廃棄のあとか。

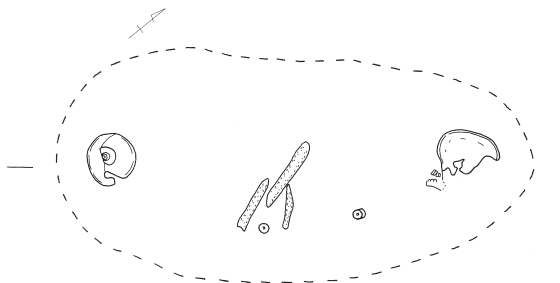
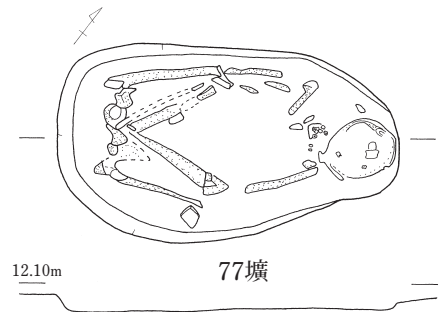
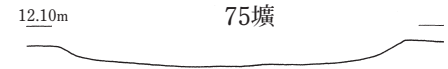
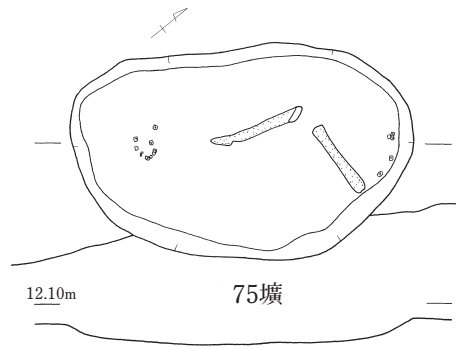
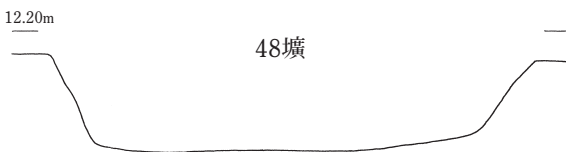
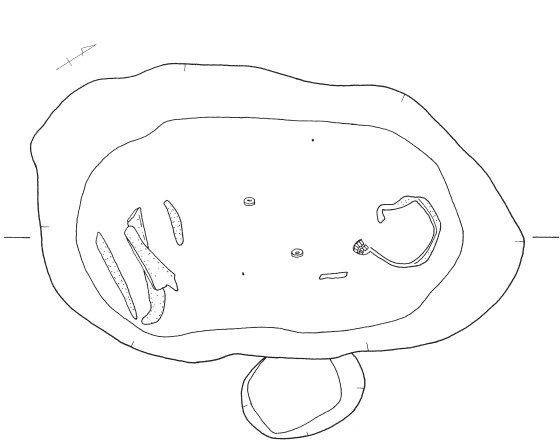
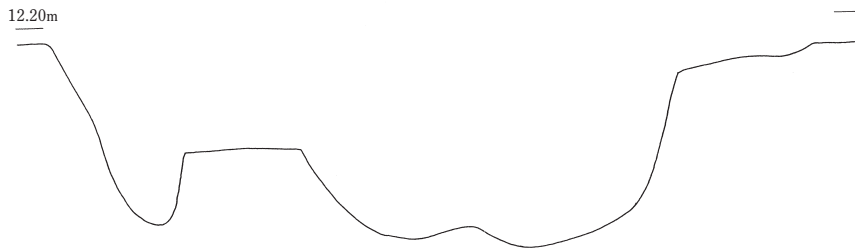
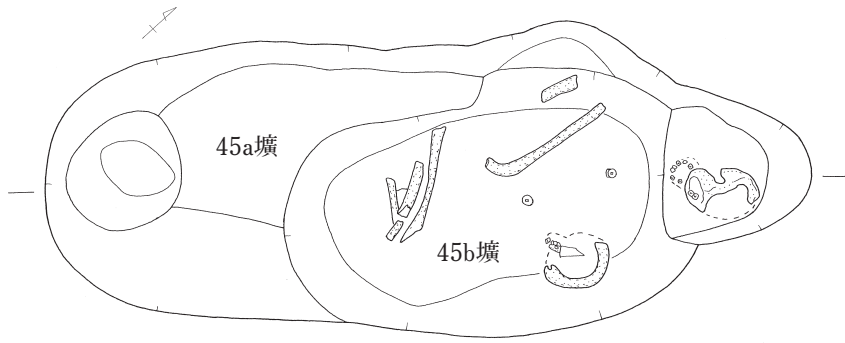


KB2 調査風景

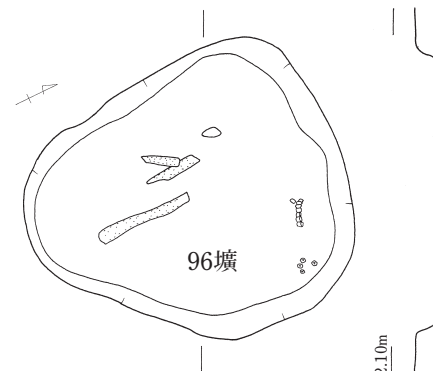


第24図 KB2遺構6



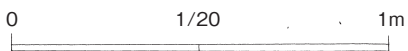


79壙

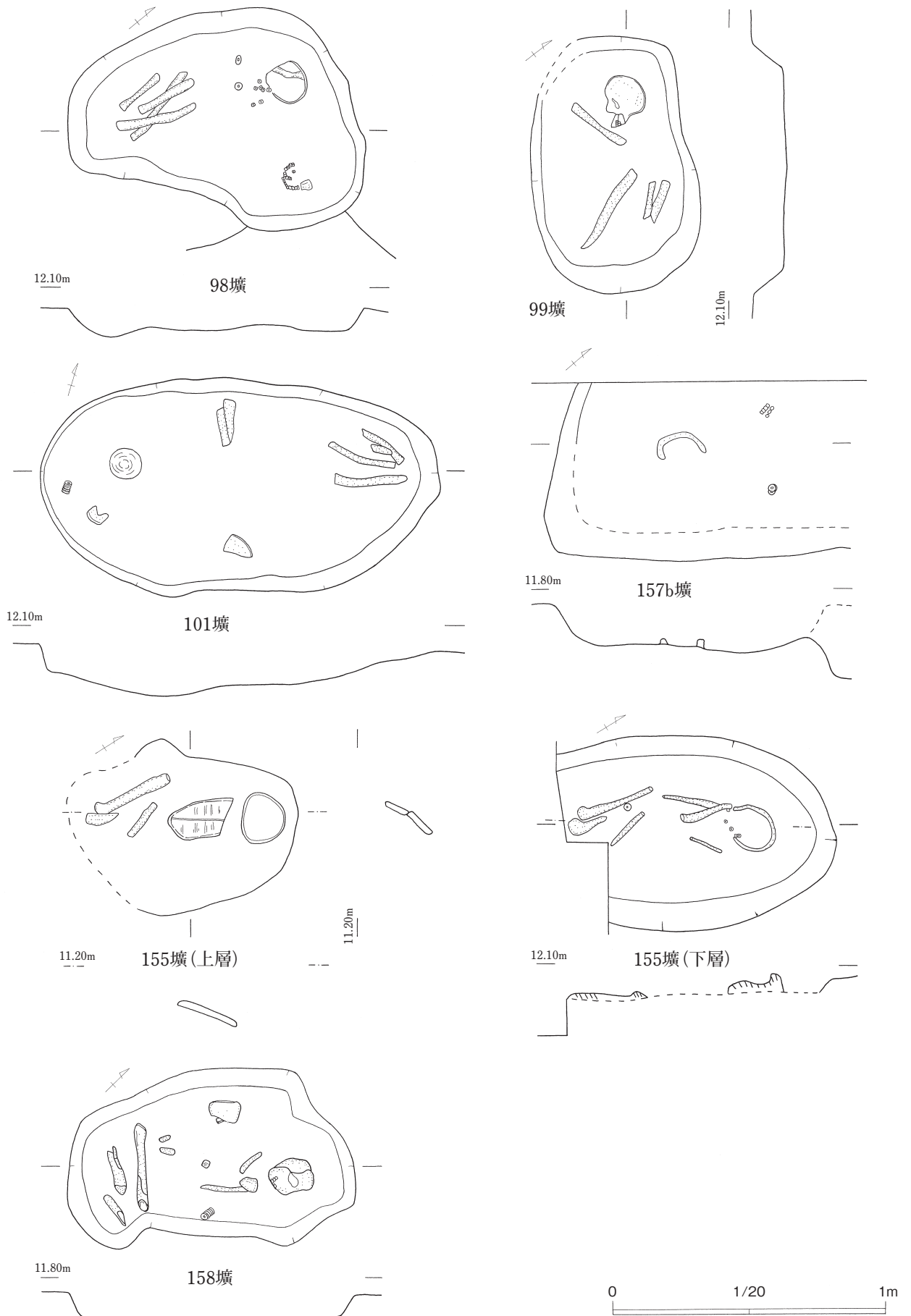


96壙

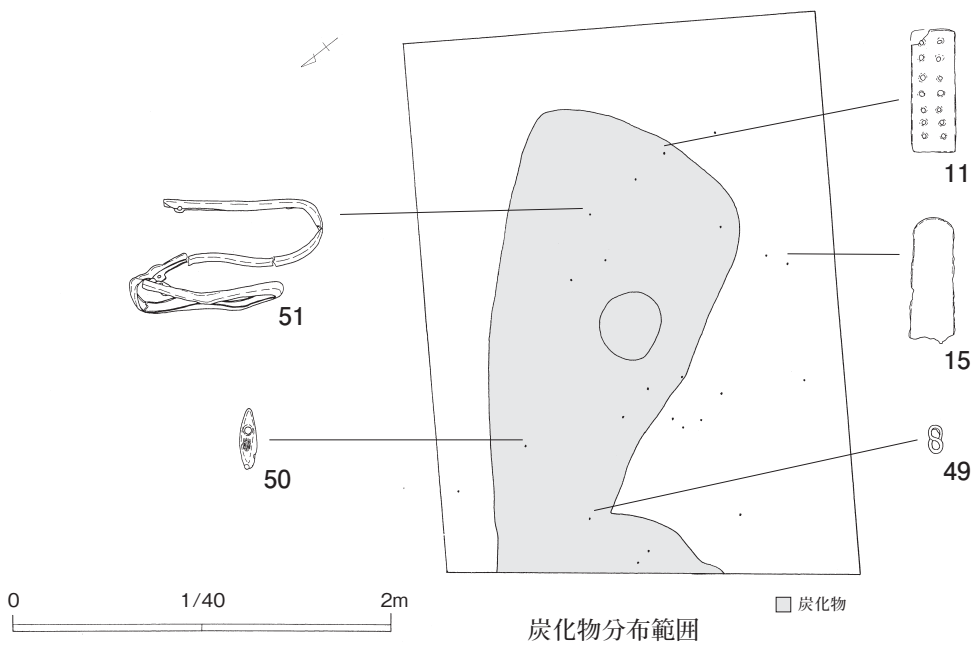
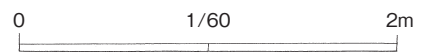
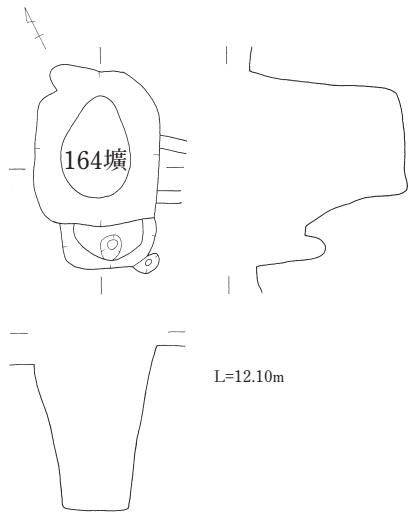
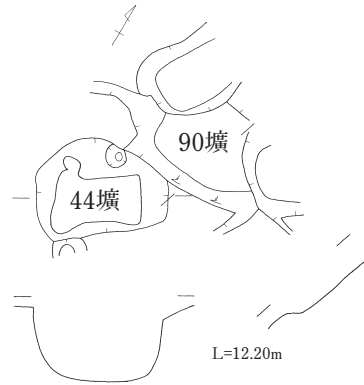
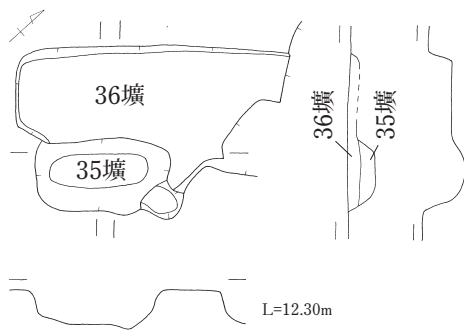
12.10m



第25図 KB 2 遺構 7



第26図 KB2 遺構 8



第27図 KB2遺構9

( )は残存値、☆はセクション図計測値 ○は当該遺構 覆土 (T=テフラ、L=ローム、S=焼土、C=炭化物、Fe=酸化物/B=ブロック、R=粒子)

遺構名	位置	重複	平面形	断面形	規模 (cm)	深さ (cm)	覆土	出土遺物	年代	備考
1号溝 (2号溝)	6-32東	21溝→○ →3溝	屈曲	箱葉研	☆(185)	☆80	灰褐色(茶味)	瀬美(灯明皿・平碗=15c前・梅瓶=14c)/片口鉢/土鉢/かわらけ/鏡(縁)/銭貨	15c前~	
2号溝 (1号溝)	6-32東	3井	屈曲	箱葉研	☆(184)	☆94	暗灰褐色	かわらけ=16c後~末/スラグ(120g)	16c後~	
3号溝	6-32東	1溝→○	直線	ほぼ直上	64	14	灰褐色(茶味)			
4号溝	6-32東		直線	ゆるやか	(44)	16	不明			
5号溝	6-32東		直線	ゆるやか	42	3	灰褐色(茶味)	粉挽き白		
6号溝	6-33交・北 6-31南	15・27溝 →○→14 ・18ab・ 26・31溝、 10・53・ 60・75・ 84壙、97P	直線	箱葉研	☆100	☆70	黒褐色	肥前(陶器・徳利)/かわらけ	16c~	
7号溝	6-32交	○→10溝	直線	箱葉研	☆110	☆50	暗灰褐色	瀬美(碗=19c前・香炉=18c中・皿・黄瀬戸鉢・半銅・徳利・小坏)/志戸呂(稜皿=16c後)/丹波(搦鉢=17c中~末)/肥前磁器(碗・刷毛目碗・青磁碗)/常滑(片口鉢)/焙烙/かわらけ/砥石/スラグ(40g)	19c前~	
8号溝	6-33北		直線	箱葉研	☆(172)	☆80	灰褐色他	瀬美(香炉=17c後・梅瓶・搦鉢・碗・皿・片口=17c後)/肥前磁器(染付碗=17c後・刷毛目)/転用陶器片(在地片口鉢=13c後~14c)/かわらけ=17c後/茶臼/砥石/板碑/粉挽き白/目貫	17c後~	
9号溝	6-32西	○→10溝/12溝	直線	箱葉研	☆(190)	☆96	暗灰褐色他	瀬美(稜皿)		
10号溝	6-32西・交	9溝→○ →7溝	クランク状	ゆるやか	☆110	☆60	暗灰褐色他	瀬美(小瓶=17c後~18c前・天目茶碗・皿)/かわらけ	17c後~	
11号溝	6-32西		直線	不明	63	7	不明	瀬美(搦鉢)		
12号溝	6-32西	9溝	直線	箱葉研	100	☆15	不明	瀬美(志野・丸皿)/肥前磁器(碗)/かわらけ/スラグ(5g)	18c~	
13号溝	166壙									166壙に振り替え
14号溝	6-32交	6溝→○	直線	ゆるやか	(140)	☆80	暗灰褐色他	肥前陶器(碗)/京都信楽		流れ込みか
15号溝	6-32交	○→6溝、 53壙/32壙	直線	毛抜き	☆(45)	☆24	暗褐色他	かわらけ		
16号溝	6-31		直線	箱葉研	☆(190)	☆90	茶褐色他	スラグ(40g)		
17号溝	6-31	69・70・71壙	直線		63	15	不明			
18a号溝	6-31	6・9溝→ 18b溝→○	直線	箱葉研	☆340	☆105	暗灰褐色他/含S	瀬美(丸碗=)/常滑(片口鉢)(18溝)/かわらけ=16c中~17c前	16c中~	
18b号溝	6-31	6・9溝→ ○→18a溝	直線	箱葉研	☆(156)	☆104	暗灰褐色他			
19号溝	6-31、6-32	○→18溝、27壙	直線	ゆるやか	☆80	☆40	黒褐色他	龍泉(青磁)/かわらけ		28、29、51壙を含む
20号溝	6-31	○→68壙	屈曲	ほぼ直上	38	30	暗灰褐色	瀬美(天目)	17c~	
21号溝	6-32東	○→1溝	直線	箱葉研	(110)	☆40	暗灰褐色他			
22号溝	6-31	20溝、○→66壙	直線	ゆるやか	☆240	☆94	不明	かわらけ/磨石		
23号溝	6-31		直線		25	6	不明			
24号溝	6-33南・北		直線	箱葉研	☆150	☆50	暗灰褐色他			
25号溝 (28溝)	6-33南	26・46溝 →○(→ 80壙)	屈曲	箱葉研	☆192	☆96	暗灰褐色他	瀬美(卸皿=13c・折縁深皿・織部皿・総織部皿17c初~前・縁釉小皿=15c末~16c初・灰釉皿・天目総織部/志戸呂(搦鉢=16c後・大皿)/備前(平鉢)/かわらけ=16c中~17c前/在地(甕)=13c~14c/板碑/加工石/簪状製品/銭貨	16後~ 17cか	
26号溝	6-33南	6溝→○ →25溝	直線	ゆるやか	98	55	暗灰褐色/含赤褐色粒子・LB(少)	常滑(甕)/粉挽き白		
27号溝	6-33南	○→6溝	直線		70	☆18	黒褐色	磨石/板碑		

第4表 KB2遺構一覧表1



( ) は残存値、☆はセクション図計測値 ○は当該遺構 覆土 (T=テフラ、L=ローム、S=焼土、C=炭化物、Fe=酸化物/B=ブロック、R=粒子)

遺構名	位置	重複	平面形	断面形	規模(cm)	高さ(cm)	覆土	出土遺物	年代	備考
28号溝 (25溝)	6-33南	46溝→○→80墳	屈曲	箱葉研	☆150	☆100	暗灰褐色他	龍泉(青磁)/瀬美(茶入)/土鍋/かわらけ=15c中~16c前/板碑/粉挽き臼/釘	15c中~	
29号溝	6-33南	30溝→○→31溝	直線	ほぼ直上	☆(67)	☆54	暗灰褐色他	かわらけ		
30号溝	6-33南	○→29溝→31溝	直線	ゆるやか	☆(60)	☆24	黄褐色	常滑(片口鉢)/かわらけ	12c~	
31号溝	6-33南	6・29・30溝→○	直線	ほぼ直上	☆116	☆70	暗灰褐色他			
32号溝	6-32西		直線	箱葉研	☆90	☆36	黄褐色他			
33号溝	4-8東	35溝、107墳→○	直線		103	37	暗灰褐色/含LB(多)	肥前(陶器)/肥前磁器(碗=17c後~18c・染付皿=1630~50・染付鉢=17c~・色絵碗)/皿/かわらけ=17c前/スラグ(150g)	18c~	
34a号溝	4-8東	○→34b溝	直線	箱葉研	☆(180)	☆100	暗灰褐色他	瀬美(反り皿=17c後)/丹波(播鉢=17c中)/丹波信楽(播鉢=17c~18c?)/肥前磁器(染付皿=1640~50・碗=1630~50)/かわらけ=16c中~17c前/在地(土鍋=15c後)/粉挽き臼/砥石(34溝)/磨石/スラグ(120g)	17c後~	
34b号溝	4-8東	34a溝→○	直線	不明	146	90	暗灰褐色他	瀬美(片口=17c末~18c)/丹波(播鉢=17c後)	17c末~	
35号溝	4-8東	○→33溝	直線	不明	(60)	17	不明	銭貨		
36号溝	4-8東	45溝→○	直線	ほぼ直上	☆60	☆46	黒褐色			
37号溝	4-8東	109・110・111・115墳→○→39・42溝、9井	直線	箱葉研	☆96	☆60	暗灰褐色/含LB(多)	瀬美(丸皿・片口=17c末~18c・反り皿完形=17c中~後)/肥前唐津(鉢=17c末~18c)/肥前磁器(染付碗=1650~60・蓋・鉢・碗)/備前(小壺)/丹波(播鉢=17c中~後)/波佐見(青磁大皿=1630~80・青磁碗1650~80)/かわらけ=17c前~18c?/焙烙/砥石/弾丸	17c末~	
38号溝	4-8東	○→109墳	直線	不明	65	45	黒褐色/含SLB	かわらけ		
39号溝	4-8西	37・40溝→○	直線	不明	30	10	不明	肥前(陶器)/かわらけ	16c~	
40号溝	4-8西	○→39溝	直線	不明	20	4	不明			
41号溝	4-8西	42溝→○	直線	不明	不明	不明	不明	肥前(陶器)/かわらけ	17c~	
42号溝	4-8西	37溝→○→117墳、41溝	直線	不明	90	76	暗灰褐色/含LB(多)	同安(青磁皿=12c中~13c)/龍泉(青磁碗=15c~)/瀬美(志野丸皿)/肥前磁器(白磁碗=17c~)/信楽(碗)/丹波(播鉢=17c後)/軟質施釉陶器=16c末~17c/砥石	18c~	
43号溝	4-8西	44溝→○	直線	不明	50	2.5	暗灰褐色	かわらけ		
44号溝	4-8西	10井→○→43溝	直線	不明	50	16	暗灰褐色	肥前磁器/かわらけ/釘	17c~	
45号溝	4-8東	○→34a・36溝	直線	ゆるやか	☆(160)	☆42	暗灰褐色他	/かわらけ=16c中?/銭貨	16c~	
46号溝	4-8東	○→28・25溝、98墳	直線	箱葉研	☆310	☆115	暗灰褐色他			
47号溝	6-33用	12・13井	直線	不明	45	60	暗灰褐色			
48号溝	6-33用	147墳	直線	ほぼ直上	☆42	☆26	暗灰褐色			
1号井戸	6-32東		円形	ロート状	180×160	165	灰褐色	常滑(甕)/火鉢/かわらけ=17c前?/粉挽き臼	17c~	
2号井戸	6-32東	8墳→○	円形	直上	104×98	☆162	灰褐色/含T 暗灰褐色	砥石/板碑	~18c	
3号井戸	6-32東	2溝→○	円形	直上	110×94	174	暗灰褐色			
4号井戸	6-32東		円形	ほぼ直上	92×88	158	灰褐色			
5号井戸	6-33北		円形	ロート状	100×80	126	不明	茶臼/粉挽き臼		
6号井戸	6-33南		円形	直上	150×134	170	不明	瀬美(鉄絵皿=16c末~17c初)/かわらけ=17c前~後?/磨石/桶(側板)/漆椀	17c前~	
7号井戸	6-33南	なし	円形	不明	80	66	不明			
8号井戸	4-8東	37溝	円形	不明	68×60	136	不明	瀬美(丸皿=17c末~18c前)	17c末~	

第5表 KB2遺構一覧表2

( )は残存値、☆はセクション図計測値 ○は当該遺構 覆土 (T=テフラ、L=ローム、S=焼土、C=炭化物、Fe=酸化鉄/B=ブロック、R=粒子)

遺構名	位置	重複	平面形	断面形	規模 (cm)	深さ (cm)	覆土	出土遺物	年代	備考
9号井戸	4-8東	37溝→○	円形	不明	104×82	170	暗灰褐色/含T・LB・S	瀬美(志野・播鉢・小碗)/京信楽(碗)/肥前磁器(染付碗=1640~50)/かわらけ=17c/スラグ(320g)	18c	
10号井戸	4-8西	○→44溝	円形	不明	70×80	140	暗灰褐色	瀬美(志野・播鉢・縁釉小皿)/肥前磁器(碗)/板碑	18c~	
11号井戸	6-33用	なし	円形	ほぼ直上	120×(86)	150	暗灰褐色	瀬美(小瓶)/かわらけ		
12号井戸	6-33用		円形?	ほぼ直上	(120)	158	暗灰褐色	龍泉(青磁)/銭貨		
13号井戸	6-33用		円形	ロート状	104×103	200	L層2次堆積			
1号土壌	6-32東	なし	長方形	ゆるやか	130×80	8	黒褐色			
2号土壌	6-32東	なし	隅丸長方形	ほぼ直上	324×104	16	灰褐色(茶味) 暗灰褐色			
3号土壌	6-32東		隅丸長方形	ほぼ直上	148×74	10	灰褐色(茶味)	かわらけ		
4号土壌	6-32東		楕円形?	ゆるやか	58×(56)	8	暗灰褐色			
5号土壌	6-32東	なし	長方形	ほぼ直上	(278)×88	30	灰褐色(茶味) 暗灰褐色	かわらけ		
6号土壌	6-32東	なし	長方形	ゆるやか	364×54	20	灰褐色(茶味) 暗灰褐色			
7号土壌	6-32東	なし	隅丸長方形	ゆるやか	(130)×78	16	灰褐色(茶味) 暗灰褐色			
8号土壌	6-32東	○→2井	長方形	ほぼ直上	(174)×98	26	灰褐色(茶味)	かわらけ		
9号土壌	6-32東	なし	長方形	ほぼ直上	246×78	12	灰褐色(茶味) 暗灰褐色			
10号土壌	6-32東	なし	円形	直上	72×66	16	灰褐色	瀬美(皿)		
11号土壌	6-32東	なし	楕円形	ほぼ直上	86×64	55	暗灰褐色			
12号土壌	6-32東	13墳	円形	ゆるやか	116×112	7	黒色? 黒褐色			
13号土壌	6-32東	12墳	長方形	ほぼ直上	320×95	18	灰褐色(茶味) 暗灰褐色			
14号土壌	6-32東	なし	円形	ほぼ直上	86×82	8	暗灰褐色 黒褐色			
15号土壌	6-32東	16墳→○	長方形	ほぼ直上	(430)×132	20	灰褐色(茶味) 暗灰褐色	銭貨		
16号土壌	6-32東	○→15墳	長方形	直上	120×(60)	☆11	黒褐色 暗褐色	かわらけ		
17号土壌	6-32東	23墳→○	隅丸長方形	ほぼ直上	100×59	20	暗灰褐色	瀬美(天目)/かわらけ		
18号土壌	6-32東	なし	長方形	ほぼ直上	234×60	20	灰褐色(茶味) 暗灰褐色	かわらけ		
19号土壌	6-32東	なし	長方形	ほぼ直上	(156)×90	10	暗灰褐色			
20号土壌	6-32東	なし	楕円形	ゆるやか	124×60	8	不明	かわらけ		
21号土壌	6-32東	なし	長方形	ほぼ直上	(264)×94	14	暗灰褐色?			
22号土壌	6-32東	なし	長方形	ほぼ直上	(260)×72	20	暗灰褐色			
23号土壌	6-32東	○→17墳	不整形	ほぼ直上	162×(118)	20	暗灰褐色 黒褐色 暗褐色	かわらけ		
24号土壌	6-32交	なし	長方形	ほぼ直上	(150)×50	24	暗灰色	瀬美(碗)・肥前磁器(碗)	18c~	
25号土壌	6-32東	なし	楕円形	ほぼ直上	135×104	60	暗灰褐色/含LR(多)			
26号土壌	6-32交	なし	隅丸長方形	ほぼ直上	122×50	18	暗褐色/含LR・CRしまり良し			
27号土壌	6-32交	19溝	長方形	ほぼ直上	410×58	20	暗灰褐色/含C・LR・S	肥前磁器(鉢)	19c~	
28号土壌	欠番									19溝に変更
29号土壌	欠番									19溝に変更
30号土壌	6-32交	19溝	長方形	ゆるやか	(270)×(80)	☆18	暗灰褐色			
31号土壌	欠番									
32号土壌	6-32交	○→15溝	長方形	ほぼ直上	(473)×80	28	暗褐色			
33号土壌	6-33北	なし	方形	ほぼ直上	56×56	22	暗灰色		現代	カクラン
34号土壌	6-32交	46墳→○						肥前磁器(碗)/かわらけ	18c~	
35号土壌	6-32交	○→36墳	長方形	ほぼ直上	106×58	30	暗灰褐色/T?	骨		
36号土壌	6-32交	35墳→○	長方形	直上	(216)×95	20	暗灰褐色/T	瀬美(徳利)	19c~	

第6表 KB2遺構一覧表3

( ) は残存値、☆はセクション図計測値 ○は当該遺構 覆土 (T=テフラ、L=ローム、S=焼土、C=炭化物、Fe=酸化物/B=ブロック、R=粒子)

遺構名	位置	重複	平面形	断面形	規模(cm)	高さ(cm)	覆土	出土遺物	年代	備考
37号土壇	6-32交	47壇	長方形	ゆるやか	175×(58)		暗灰褐色	銭貨		
38号土壇	6-32交	なし	長方形	ゆるやか	(230)×60	☆20	灰褐色	かわらけ		
39号土壇	6-32交	なし	長方形	ほぼ直上	(356)×56	14	不明	かわらけ		
40号土壇	6-33北	なし	長方形	不明	(180)×32	6	不明			
41号土壇	6-33北	なし	長方形	ほぼ直上	(210)×100	16	不明			
42号土壇	6-33北	5井	不明(楕円形)	ゆるやか	☆156×?	☆12	暗灰褐色/含T	瀬美/初山(天目)/かわらけ=16c中~17c前	16中~18c	
43号土壇	6-32東	なし	隅丸長方形	ほぼ直上	96×42	16	不明	かわらけ=15c中~16c前	15c中~	
44号土壇	6-32交	90壇	長方形	ほぼ直上	106×76	60	不明	京焼風肥前(碗)/釘	18c~	
45a号土壇	6-32交	45b	隅丸長方形	ほぼ直上	(116)×76	30	不明	人骨/銭貨		墓壇
45b号土壇	6-32交	45a	隅丸長方形	ほぼ直上	112×70	52	不明			墓壇
46号土壇	6-32交	54壇→○	長方形	ほぼ直上	206×75	☆24	暗灰褐色/含T		~18c	
47a号土壇	6-32交	36・37壇	長方形	ほぼ直上	98×58	26	暗灰褐色/含T		~18c	
47b号土壇	6-32交	36・37壇	長方形	ほぼ直上	(96)×80	14	暗灰褐色/含T		~18c	
48号土壇	6-32交		楕円形	ほぼ直上	130×84	25	不明	銭貨2枚(未図化)/人骨		墓壇
49号土壇	6-32交	32壇	方形	ほぼ直上	(84)×84	34	暗灰色	かわらけ	現代	
50号土壇	6-32交		不明		不明		暗灰色	志野皿	現代	
51号土壇	欠番									19溝に振り替えて
52号土壇	6-32交	○→19溝 / 6・19溝→○	長方形	ほぼ直上	390×94	20	暗灰褐色/含TLR(多)・SR-CR(微)			
53号土壇	6-32交?	6・15溝→○	不明	ゆるやか	不明	☆10	暗灰褐色			位置不明 完圖なし
54号土壇	6-32交	○→46壇	長方形	直上	116×72	☆46	暗灰褐色			
55号土壇	欠番									
56号土壇	6-32交		楕円形	ゆるやか	106×54	20	不明			
57号土壇	6-33北	なし	隅丸長方形	ゆるやか	(118)×86	16	不明			
58号土壇	6-33北	6溝→○	隅丸長方形	ゆるやか	172×84	8	不明			
59号土壇	6-33北	○→6溝	長方形	ほぼ直上	202×72	16	不明	かわらけ		
60号土壇	6-33北	溝・6溝→○	長方形	ほぼ直上	(434)×56	14	灰褐色			
61号土壇	6-33北	24溝→○	楕円形	ほぼ直上	110×76	☆38	暗灰褐色			
62号土壇	6-33北	24溝→○	長方形	直上	104×64	19	黒褐色/含LB(多)			
63号土壇	6-32西	32溝	円形	ゆるやか	108×92	10	不明			
64号土壇	6-32西	なし	長方形	ほぼ直上	108×(84)	☆36	暗褐色			
65号土壇	6-32西	32溝	不整形	ゆるやか	(174)×(140)	☆50	黒褐色			
66号土壇	6-31	67壇 22溝→○	長方形	ほぼ直上	505×80	35	不明	瀬美(内禿皿・稜皿)/かわらけ	16c~	
67号土壇	6-31	66壇	隅丸長方形	ゆるやか	222×64	16	不明			
68号土壇	6-31	○→20溝	隅丸長方形	ほぼ直上	250×46	14	暗灰褐色			
69号土壇	6-31	16溝	長方形	ほぼ直上	(550)×105	20	暗灰褐色	かわらけ		
70号土壇	6-31	16溝	長方形	ほぼ直上	(304)×92	30	暗灰褐色			
71号土壇	6-31	○→72壇/16溝	長方形	ほぼ直上	(294)×90	10	暗灰褐色	スラグ(30g)		
72号土壇	6-31	71壇→○	長方形?	ほぼ直上	(70)×(20)	16	暗灰褐色			
73号土壇	6-31	なし	不整形	ゆるやか?	(160)×(114)	20	不明	瀬美		
74号土壇	6-33南	26溝	長方形	ゆるやか?	(270)×(76)	16	不明			
75号土壇	6-33南	6溝→○	楕円形	ゆるやか	94×55	6	不明	人骨		墓壇
76号土壇	6-33南	なし/ピット	円形	ゆるやか	114×(50)	8	不明			
77号土壇	6-33南	なし	楕円形	ゆるやか	94×54	5	不明	甕/かわらけ=16c後~末/銭貨/人骨		墓壇
78号土壇	6-33南	なし	楕円形	ほぼ直上	74×54	26	不明			
79号土壇	6-33南	なし	楕円形?	不明	範囲125×60	不明	不明	かわらけ=~16c前/銭貨/人骨		遺物のみ 墓壇
80号土壇	6-33南	28溝→○	長方形	直上	192×62	☆12	暗灰褐色/含T	かわらけ		
81号土壇	6-33南	?壇	長方形	ほぼ直上	254×106	28	不明	かわらけ		
82号土壇	6-33南	○→83壇、ピット/6井	長方形	ほぼ直上	336×112	46	暗灰褐色/含LB(多) 黄褐色	かわらけ/骨		
83号土壇	6-33南	82壇→○	円形	ほぼ直上	80×70	24	不明	菌		
84号土壇	6-33南	6溝→○/85壇	隅丸長方形	ほぼ直上	518×94	☆15	暗灰褐色	かわらけ		
85号土壇	6-33南	84壇	円形	ゆるやか	100×80	6	不明			

第7表 KB2遺構一覧表4

( )は残存値、☆はセクション図計測値 ○は当該遺構 覆土 (T=テフラ、L=ローム、S=焼土、C=炭化物、Fe=酸化物/B=ブロック、R=粒子)

遺構名	位置	重複	平面形	断面形	規模 (cm)	高さ (cm)	覆土	出土遺物	年代	備考
86号土壌	6-33南	161壙	長方形	不明	不明	不明	不明			
87号土壌	6-32交	なし	長方形	ほぼ直上	(130)×(36)	☆76	暗灰褐色			
88号土壌	6-32交	90壙	楕円形?	直上	82×(50)	☆70	暗褐色			
89号土壌	6-32交	90壙→○	長方形	直上	(74)×60	☆58	黄褐色	人骨		墓壙/図無/図版参照
90号土壌	6-32交	○→88・89壙	長方形?	ゆるやか	(92)×(64)	10	不明			
91号土壌	6-32交	なし	楕円形?	直上	56×(17)	☆65	暗灰褐色			
92号土壌	6-32西?						不明			
93号土壌	欠番									
94号土壌	欠番									
95号土壌	4-8東	28溝	方形	不明	74×70	36	褐色/含LB(多)	かわらけ/銭貨		
96号土壌	4-8東		不整形	ほぼ直上	88×82	7	不明	かわらけ/人骨		墓壙
97号土壌	4-8東	○→46溝	長方形	不明	55×80	19	褐色/含LB(多)			
98号土壌	4-8東	46溝→○	不整形	ゆるやか	103×87	9	暗褐色/含LB	銭貨/人骨		墓壙
99号土壌	4-8東	104・105壙→○	楕円形	ほぼ直上	95×62	12	暗灰褐色/含LB(少)	人骨		墓壙
100号土壌	4-8東	46溝	長方形	不明	100×70	12	暗褐色	かわらけ/銭貨		
101号土壌	4-8東	123壙→○	楕円形	ゆるやか	147×79	20	暗褐色/含LB(少)	かわらけ=15c 中~16c 前/銭貨/人骨	15c 中~	墓壙
102号土壌	欠番							銭貨		124壙と同一墓壙
103号土壌	4-8東	なし	長方形	不明	80×(225)	16	黒褐色/含LB			
104号土壌	4-8東	○→99壙	長方形	不明	(218)×100	16	暗褐色	かわらけ		
105号土壌	4-8東	○→99壙	長方形	不明	55×(126)	6	暗褐色/含LB			
106号土壌	4-8東	33溝	楕円形	不明	110×(55)	15	暗灰褐色(下層)	かわらけ=15c 中~16c 前/銭貨	15c 中~	
107号土壌	4-8東	○→33溝	長方形	不明	(65)×56	18	暗灰褐色	銭貨		
108号土壌	4-8東	なし	隅丸長方形	不明	98×(130)	40	暗灰褐色/含TLB	瀬美(片口)/肥前磁器/かわらけ	18c	
109号土壌	4-8東	38溝→○ /37溝	長方形?	不明	(190)×(150)	6	暗灰褐色/含TLB 灰褐/含B	かわらけ		
110号土壌	4-8東	○→37溝	長方形	不明	115×(145)	13	暗灰褐色/含LB	肥前磁器(青磁)	17c 後~	
111号土壌	4-8西	○→37溝	不明	不明	140×(330)	13	暗褐色/含LB			
112号土壌	4-8東	37溝	不整形	ゆるやか	105 × (252)	13	暗灰褐色/含LB・T・S(少)		~18c	
113号土壌	4-8東	○→37溝	円形?	ゆるやか	(50)×150	14	暗灰褐色/含T(多)・LB		~18c	
114号土壌	4-8西	なし	円形	不明	(80)×(65)	? 1	暗灰褐色/含LR(多)	在地片口鉢		
115号土壌	4-8西	○→37溝	長方形	不明	(292)×54	44	暗灰褐色/含LB(多)・C・S	肥前唐津(瓶=16c 末~17c 前)	16c 末~	
116号土壌	4-8西	なし	楕円形	不明	55×75	73	暗灰褐色/含LR			
117号土壌	4-8西	42溝→○	長方形	不明	(260)×100	14	暗褐色	かわらけ		
118号土壌	4-8西		長方形	不明	80×(250)	7	暗灰褐色	かわらけ		
119号土壌	4-8西		不明	不明			暗灰褐色			
120号土壌	4-8西	なし	楕円形	不明	120×(55)	20	暗褐色/含LB	かわらけ		
121号土壌	欠番									
122号土壌	欠番							銭貨		124壙と同一
123号土壌	4-8東	33溝	円形?	不明	(50)×(80)		暗灰褐色/含LB(少)	かわらけ		墓壙
124号土壌	4-8東		楕円形	不明	104×(36)		T		~18c	102、122壙と同一
125号土壌	4-8西	なし								
126号土壌	4-8西	なし								
127号土壌	6-33用	129壙→○	長方形	ほぼ直上	490×60	6	暗灰褐色 やや堅い	かわらけ		
128号土壌	6-33用	135壙	円形	ほぼ直上	56×50	17	暗灰褐色/含LR・S・C			
129号土壌	6-33用	○→127壙/130・139・152壙	長方形?	不明	112×(170)	7	暗灰褐色			

第8表 KB2遺構一覧表5



( ) は残存値、☆はセクション図計測値 ○は当該遺構 覆土 (T=テフラ、L=ローム、S=焼土、C=炭化物、Fe=酸化物/B=ブロック、R=粒子)

遺構名	位置	重複	平面形	断面形	規模(cm)	高さ(cm)	覆土	出土遺物	年代	備考
130号土壙	6-33用		楕円形	不明	44×66	27	暗灰褐色			
131号土壙	6-33用	141壙→○	長方形	ゆるやか	200×100	12	暗灰褐色			
132号土壙	欠番									159壙とダブリ
133号土壙	6-33用	134壙	長方形	ほぼ直上	(162)×104	10	暗灰褐色			
134号土壙	6-33用	133壙	長方形?	ゆるやか	176×(52)	6	暗灰褐色			
135号土壙	6-33用	128壙	長方形	ゆるやか	(212)×130	10	暗灰褐色			
136号土壙	欠番									157壙と命名重複?
137号土壙	欠番									149壙と命名重複
138号土壙	6-33用	129・152壙	長方形	不明	(200)×(40)		暗灰褐色			
139号土壙	欠番									152と命名重複 消滅
140号土壙	6-33用	146壙	隅丸長方形	不明	(280)×(120)	27	暗灰褐色			
141号土壙	6-33用	○→131壙	長方形	ゆるやか	170×(46)	16	暗灰褐色(やや暗い)			
142号土壙	欠番									151壙とダブリ
143号土壙	欠番									151壙とダブリ
144号土壙	6-33用	なし	長方形	ほぼ直上	212×104	12	暗灰褐色			
145号土壙	6-33用		長方形?	ほぼ直上	(248)×46	27	暗灰褐色			
146号土壙	6-33用	140壙	楕円形	不明	(74)×100	32	暗灰褐色			
147号土壙	6-33用	48溝	楕円形?	ゆるやか	(130)×(54)	28	暗灰褐色	備前(鉢)/かわらけ	16c~	
148号土壙	6-33用	なし	隅丸長方形	ゆるやか	(248)×86	24	暗灰褐色	かわらけ/スラグ(15g)		
149号土壙	6-33用	47溝、13井	長方形	不明	(220)×(200)	10	暗灰褐色/含SC	かわらけ/磨石		136壙と命名重複
150号土壙	6-33用	なし	楕円形	不明	90×48	不明	不明	銭貨		
151号土壙	6-33用	なし	長方形	ほぼ直上	290×(115)	9	暗灰褐色			142・143壙とダブリ
152号土壙	6-33用	139壙	長方形	不明	150×100	14	暗灰褐色			139壙とダブリ
153号土壙	6-33用	164壙	楕円形	不明	62×(100)	3	暗灰褐色/含C(多)			
154号土壙	6-33用	127壙	長方形?	不明	(50)×125	10	暗灰褐色			
155号土壙	6-33南		楕円形	ゆるやか	101×72	7	不明	銭貨/板碑/人骨		墓壙
156号土壙	6-33用	○→炭化物範囲?ピット	長方形	ゆるやか	150×60	8	暗灰褐色			
157号土壙	6-33用	12井・炭化物範囲	不明	ゆるやか	不明	不明	暗灰褐色	銭貨		136壙とダブリ
157b号土壙	6-33用	158→炭化物範囲	長方形	ゆるやか	(118)×(66)	18	暗灰褐色	銭貨/人骨		137壙とダブリ 墓壙
158号土壙	6-33用		不整楕円形	ほぼ直上	105×65	10	暗灰褐色	銭貨/人骨		墓壙
159a号土壙	6-33用	159b壙	長方形	ほぼ直上	(200)×92	8	暗灰褐色	かわらけ		132壙とダブリ
159b号土壙	6-33用	159a壙・47溝	隅丸長方形	ゆるやか	160×68	40	暗灰褐色	159a参照		133壙とダブリ
160号土壙	6-33南	なし	長方形	不明	(120)×80	14	不明	かわらけ		
161号土壙	6-33南	86壙	楕円形	不明	58×40	40	不明			
162号土壙	欠番									
163号土壙	6-33南	なし	楕円形	不明	63×50	34	不明	かわらけ		
164号土壙	6-33用	130・152壙	長方形	ほぼ直上	122×98	120	暗灰褐色/LR			
165号土壙	欠番									
166号土壙	6-32西	9溝	長方形	ゆるやか	(370)×(110)	☆143	暗灰褐色		18c~	旧 13溝

第9表 KB2遺構一覧表6



整理風景

## 第IV章 出土した遺物

### 第1節 土器類

今回のKB大英寺・KB1・2調査区から出土した陶磁器類には、国産陶磁器と輸入陶磁器がある。国産の陶磁器類には瀬戸美濃、肥前、常滑、渥美、志戸呂、初山、丹波、堺・備前、京都・信楽、在地などがあり、また、輸入陶磁器には同安窯系・龍泉窯系青磁、白磁、染付、褐釉などがある。

#### KB大英寺区出土陶磁器（第28～30図）

1～25はKB大英寺の1溝から出土したもので、1・2-1・2-2は常滑甕である。2-1・2-2は同一個体。3は肥前系陶器（唐津）の三島手鉢である。体部内面及び口縁部に印花文・圏線などを白土で象眼し、腰部から高台外面に鉄釉が刷毛塗りしたあと内面及び体部外面中央まで灰釉を施す。なお、見込みには8箇所（8箇所）の砂目積痕が残る。4・5は体部外面に網目文を染付けする肥前系磁器碗・鉢である。4は高台が比較的高く体部外面に網目文、見込みには二重の圏線の中に銘を描く。5の体部外面には間隔が広い網目文が描かれ、見込みには二重の圏線の中に菊花文を描く。4・5の高台端部には砂が溶着している。6は在地産の片口鉢で、体部は下方から直線的に開き口縁部で若干外反する。口縁部断面は半月状で口縁部内側がくぼむ。口縁部内面が粗れ体部内面下方は使用のため磨れている。52は肥前系磁器の小型徳利で、体部外面に草文を描き透明釉を外側から口縁部内面に施す。

7～25はロクロ整形のかわらけで、口径9cm前後、底径5.5cm前後、器高2.0cm前後の小型のものである。ロクロ左回転のもの（7～9、12～14、16・17・19・20・23・25）と右回転のもの（18・21・22・24）がある。残存部の観察では7・11・23の口唇部には油煙の痕が残り、11・23は内面全体が黒色を呈し墨が塗られている。また、17・22の底部中央には焼成後に孔が開けられている。

以下は遺構外出土遺物である。26～38は26～38は輸入陶磁器で、26～33は龍泉窯系青磁碗、34～38は白磁碗である。26・29・31・32・33は蓮弁文碗、28

は体部内面に飛雲文を施す碗である。34は口禿碗と思われ、36・37は口禿皿である。39は渥美甕の口縁部、40は常滑甕の胴部破片である。41～47は瀬戸美濃。41は白天目で高台周辺を除き長石釉を施す。42は磁器の染付端反碗である。43は鉄釉丸碗、44は志野丸皿、45は鉄釉折縁皿、46は古瀬戸の花瓶で外面に鉄釉を施す。47は播鉢、48は肥前の京焼風陶器。49は志戸呂の灯明皿（受皿）で底部を除きサビ釉を施す。50・51は肥前系磁器染付碗で50は口縁部内面に雷文を、51の箱形湯飲は体部外面に菊花文を描く。

#### KB1区出土陶磁器（第31～53図）

55・56は1溝出土。55は古瀬戸卸皿。56は在地産片口鉢で、体部は下方から直線的に開き、口縁部外面にくぼみが廻り口縁内面もくぼむ。口縁部には注ぎ口が付けられ、また、体部内面下方は使用のため磨れて器肉が薄くなる。57～59は2溝出土。57は瀬戸美濃播鉢。58は肥前系磁器の染付碗で、高台内に大明年製の銘がある。59は平瓦である。60は瀬戸美濃の碗と思われる。61は肥前系磁器の染付碗で体部に飛雲文を描く。62・63は5溝出土。62は瀬戸美濃播鉢、63はかわらけでロクロは左回転、KB大英寺区1溝出土のかわらけに類似する。64は7溝出土のほうろくで幅広の内耳は口唇部から底部内面に付く。65～70は8溝出土。65は尾呂茶碗でうのふ釉を施す。66は肥前系陶器（唐津）鉢で内面に白土による文様を描き、見込みには現存5箇所（5箇所）の砂目積み痕が残る。67は肥前系磁器の染付皿で内面に昆虫と草文を描く。68はかわらけでロクロは左回転、底部中央には貫通はしていないが焼成後に穴があけられている。69・70はほうろくで幅広の内耳が口縁部から底部内面に付けて付く。体部内面の稜は70の下方に見られる。なお、66は12溝出土のもの（12溝）と接合した。71～73は9・12溝の合流地点出土。71は志戸呂の灯明皿（油皿）で内面から口縁部外面に鉄釉を施す。72・73は肥前系磁器の染付碗で外面に網目文を描く。74は10溝出土の瀬戸美濃徳利で、内面及び底部外面周辺にサビ釉、体部外面に鉄釉を施す。

75～203は12溝出土。75～81は輸入陶磁器。75・76が龍泉窯系青磁の蓮弁文碗、77・78は鉢。79～81

は白磁で79は端反の小坏、80は口秃皿、81は大皿と思われる。82・83は山茶碗で82は湖西、83は尾張型である。84・85は常滑で84は片口鉢Ⅱ類、85は甕または壺である。

86～127瀬戸美濃。86～94は天目茶碗で94を除き体部内外面に鉄釉を94には灰釉を施す。また、92・94の腰部には薄いサビ釉を施す。95～97は碗で、95は全面に長石釉を施す鉄絵碗、96は総織部碗で腰部を除き銅緑釉を施す。97はせんじである。98～106は皿類で98は鉄釉内壳襷皿、99は灰釉丸皿、100は全面に銅緑釉を施す丸皿、101・103は志野丸皿で長石釉を施す。99・102・104は灰釉丸皿。105は高台が高い長石釉の皿で、106は灯明皿（受皿）で底部周辺を除き鉄釉を施す。107～109は鉢類。107は直縁大皿又は折縁深皿で体部内外面に灰釉を施し、体部内面下方はハケ塗りされている。108は内外面にサビ釉を施す大皿でサビ釉は内面が濃く外面が薄い。109は黄瀬戸鉢で内面に波状及び直線の櫛目を施し銅緑釉を流し掛けする。110～121は内外面にサビ釉を施す挿鉢。122・123は鉄絵徳利で122は外面に鉄釉、内面にサビ釉を施し、123は外面にのみ長石釉を施し、鉄で圏線を描く。124は小壺で水滴の可能性もある。腰部を除き内外面に鉄釉が施される。125は蓋で上面と口縁部外面にサビ釉が施される。126・127は香炉で126は口縁内面から外面に鉄釉、127は底部周辺を除き灰釉をそれぞれ施す。

128・129は肥前系陶器（唐津）で128の見込みには木賊文を鉄で描く。129は胎土が精緻な碗。

130～135は志戸呂。130は筒形碗で底部周辺を除き鉄釉、131は底部周辺を除き灰釉を施す丸皿。132・134は大皿で底部を除き鉄釉を施すが、132の見込みは重ね焼きのためかドーナツ状に釉が拭い取られている。133・135は徳利で133は外面鉄釉、内面にはサビ釉、135は外面にのみ鉄釉を施す。136は初山徳利で底部を除き鉄釉を施す。

137～144は肥前系磁器。137・138の高台端部には砂が溶着する。139はコンニャク判で桐文、他は網目文・山・魚を描き、高台内には大明年製の銘がある。143は白磁、144は草文を描く小坏である。

145～203は在地産のもので、145～164はかわらけ

である。口径が12cm前後で器高が3.5cm前後のもの（107・152）と、口径が11cm前後で器高が2.5cm前後のもの（145・146・148・150・155・156・157・158・159・162）、口径9.0cm前後で器高2.0cm前後のもの（149・151・153・154・160・161・164）がある。ロクロは146・147・149・156・157が右回転、145・148・150～155・158・159・161・162が左回転である。

146・149・151・156・161・162はKB4区1壙出土かわらけに類似し17C前半（騎西城Ⅲ期）と考えられる。148・150はKB19区炭化物層出土かわらけに類似し17C前半（同Ⅲ期）、152はKB10区1・4溝のものに類似し15C中～16C前半（同Ⅰ期）、153・160はKB大英寺区1溝のものに類似し17C後半（同Ⅳ期）である。154は私市（騎西）城武家屋敷跡妙光寺調査区の18Cの肥前系染付碗（くらわんか碗）と共伴するかわらけに類似するため18C代（同Ⅴ期）である（注1）。

165～191はほうろくで、体部内面中央に稜がめぐるもの（165～172・174～176・178～182・185～187・189～191）と稜がはっきりしないもの（170・173・177・183・184・188）がある。内耳は口唇部から体部内面下半に付くものと、底部に付くものがある。体部はほぼ直立するものが多いが、174・175は体部が外反する。192～194は土鍋で194の口縁内面には稜がめぐる。195～199は素焼の挿鉢である。200・201は素焼の甕、203は平瓦である。

204は13溝出土の肥前系磁器の色絵碗で赤絵が施される。205～208は2・3・5井出土のかわらけでロクロ回転方向207が右、208が左回転、205・206は不明である。前述のかわらけの年代から206はⅡ期である。

210～212は9井出土。210は古瀬戸中期の水注で外面に鉄釉を施す。211～213はかわらけで211・213がロクロ右回転でⅡ期。214は13井出土の在地産片口鉢で、体部は底部から直線的に開き口縁部が断面半月状になり、その内側にくぼみがめぐる。215は3壙出土の志野小碗で、高台周辺を除き長石釉を施す。

216～225は17壙出土。216は中国褐釉壺で外面に



褐色の釉を施す。217～221は瀬戸美濃。217は天目茶碗で腰部には薄いサビ釉を施す。なお、この天目茶碗はKB2区出土のものと同接合した。218は内外面に灰釉を施す丸碗、219は鉄絵皿で長石釉、220は灰釉丸皿、221は黄瀬戸鉢で見込みには釉ハギの痕が現存1箇所残る。222は志戸呂大皿で内外面に鉄釉を施す。223・224はⅡ期のかわらけでロクロは右回転。225はほうろくで体部下方は丸みを帯びている。

227は23墳の肥前系磁器で外面に二重の圏線が廻る。228は37墳の長石釉を施す志野丸皿。229は内外面に銅緑釉を施す肥前系陶器。230～232は39墳出土。230・231は在地産の素焼播鉢、232は内外面にサビ釉を施す瀬戸美濃播鉢である。

以下は遺構外出土遺物である。233～253は輸入陶磁器で233は体部外面に縦方向の櫛目を施す同安窯系青磁碗、234～243は龍泉窯系青磁碗で内面に花文や外面に蓮弁を片切彫りする碗などがある。244は口縁部が外折する鉢で外面に蓮弁を施す。245～251は白磁の皿・小坏・壺である。252・253は染付皿で見込みに団龍文を描く。254～266は常滑で257～261は山茶碗系の片口鉢（Ⅰ類）、262～265は甕系の片口鉢（Ⅱ類）である。

267～352は瀬戸美濃で267・268の平碗は底部周辺を除き灰釉を施す。269～279は天目茶碗で270・279以外は内外面に鉄釉を施し269の高台周辺にはサビ釉を施す。270は灰釉、279は長石釉を施す。280は鉄釉小碗。281は瀬戸黒の筒形碗、282～284は鉄釉の端反碗で鉄釉を施したあと灰釉を流し掛けする。285・286には長石釉を施し286は釉層が厚い。287には高台周辺を除き灰釉を施す。288は古瀬戸中期の卸皿。289～316は皿類で289～294・301・306には灰釉、295・307～309には鉄釉、297～300・302～305には長石釉を施す。310は総織部皿で高台周辺を除き銅緑釉をす。311の青織部皿は鉄で絵が描かれ他の部分に銅緑釉を施す。312・313は鉄絵皿、314は鉄絵鉢、315は石皿、316は見込みに摺絵を施す。317～332は鉢類で317の折縁深皿には灰釉が、318～330の播鉢にはサビ釉を施す。331の黄瀬戸鉢の体部内面には波状の櫛目、見込みには円形の櫛目を施し見

込み中央に菊花の印花文が施される。見込みには重ね焼きのための釉ハギが1箇所残り、釉ハギの箇所と高台に団子トチの痕が残る。334は外面に灰釉を施す花瓶、335は播鉢形小鉢で内面が磨れている。336の内面には鉄釉、337には内外面に灰釉が施される。338には内外面に鉄釉、339の内外面には灰釉、340の口縁部内外面に灰釉をそれぞれ施す。341は外面に木賊文を描く織部向付である。342・343は外面に丸ノミによる半菊文を施す香炉で342～344には内外面に鉄釉、345には灰釉を施す。346は四耳壺、347は梅瓶、348・349は徳利、350～352は有耳壺で、346～348には内外面に灰釉、349～352には鉄釉を施す。

353は肥前系陶器（唐津）の天目茶碗で灰釉、354・356・357の碗には透明釉を施す。355は白土をハケ塗りする碗である。358・359・360は見込みに鉄絵を施す肥前系陶器（唐津）の皿。361は見込みを蛇の目釉ハギし内外面に銅緑釉を施す。362～364は白土で文様を描く大皿である。

365は備前徳利の口縁部である。366～371は志戸呂の丸皿・大皿で366・369～371には鉄釉、367・368には灰釉を施す。

372～377は焼締めの播鉢、378～395は肥前系磁器染付碗・皿などで、378・382・391・395の高台端部には砂が溶着する。379・390・391・394には草花文、381には昆虫、383には雨降文、384にはコンニャク判で桐文、385には寿、387には菊文などを描く。

396～430はかわらけで、396・399・402・403～405・409～411・414・416、418～422・427・428がロクロ左回転、397・398・400・401、406～408、415・417が右回転である。なお、残存部ではあるが、403・404の口唇部及び421の内外面、425の内面に油煙の痕が残る。Ⅰ期が417から419、Ⅱ期が397～399・406・407・416・422、Ⅲ期が403・409・411・413・414・427・429、Ⅳ期が400・401である。431～438は土鍋で、いずれも口縁部内面に稜を持ち、口縁部が外反する。439～462はほうろくで、体部内面中央に稜がめぐるものが多い。463～473は在地の片口鉢・播鉢で、469・471・473の口唇部にはくぼみがめぐる。474は円形火鉢で体部外面に菊花文が押印されている。475は香炉と思われる。476は内外面が丁



寧に磨かれている素焼きの風炉で、KB2区25溝・私武14次、私武44次6溝出土のものと接合した。477は丸瓦である。

#### KB2区出土陶磁器（第54～69図）

478～479は1溝出土。478～479は瀬戸美濃で、478の平碗は高台周辺を除き灰釉、479の梅瓶は外面に灰釉を施す。480は2溝出土のかわらけでロクロ左回転で、内面にはススが付着している。

481～488は7溝出土。481～484は瀬戸美濃で481の碗は内外面に灰釉、482の折縁皿には鉄釉、483は口唇部から外面に灰釉、484の播鉢にはサビ釉を施す。485は鉄釉を施す志戸呂の稜皿。486・487は焼締め播鉢、488はロクロ左回転のⅡ期のかわらけである。

489～496は8溝出土。489～493は瀬戸美濃で489の口縁部内面から外面にはアメ釉を施し、490は灰釉をが施す香炉、491は外面に灰釉を施す梅瓶。492は外面に鉄釉を施す片口。493は内外面サビ釉の播鉢。494は外面及び見込みに草花文を描く肥前系磁器碗。495はロクロ左回転のⅣ期かわらけ。

497は9溝出土の内外面に鉄釉を施す稜皿、498は9・12溝合流地点出土かわらけで、回転方向不明。499・500は9・13溝合流地点出土かわらけで、499がⅢ期で左回転。501は10溝出土の小瓶で底部周辺を除き鉄釉を施す。502は11溝の播鉢でサビ釉を施す。

503～505は12溝出土で、503は体部内外面に花文を描く染付皿。504・505は瀬戸美濃で504は削り込み高台の丸皿、506～512は18溝出土のかわらけで、506・507・509・511・512がロクロ左回転、508が右回転である。511がⅠ期、506・510がⅡ期、508・509がⅢ期、512がⅣ期。

513は19溝の蓮弁に沈線を施す龍泉窯系青磁碗。

514～531は25溝出土。514は外面に縦方向の櫛目が施される同安窯系青磁碗。515～520は瀬戸美濃。515は古瀬戸前期の卸皿、517は内面に銅緑釉を施す織部皿、518の口縁部内外面に灰釉を施す縁緑皿、519は内外面に灰釉を施す丸皿。520は内外面サビ釉の播鉢。521は志戸呂の播鉢で内外面にサビ釉を施す。

522～531は在地産で522～526はかわらけで523・524・526がロクロ右回転、525が左回転である。524・526がⅠ期。527のほうろくは体部内面中央に稜がめぐり。528・529は甕で528には肩部に沈線がめぐり。530は瓦質片口鉢。531は瓦質の方形火鉢と思われ、内外面は丁寧に磨かれている。

532は26溝のかわらけ。533～538は28溝出土。533は古瀬戸後期の茶入で外面に鉄釉を施す。534～538はかわらけで、ロクロ回転方向は534から536が右回転、他は不明。535・536の口縁部には油煙の痕が残る。537・538がⅢ期である。

539～560は33溝出土。539～544は肥前系磁器の染付である。539の体部外面には草花文、540の色絵碗は葉を黒で縁取りをしたあとコバルトで絵付けを行っている。541には草花文と鳥、542の内面には蝶と草花文、543の内面には草花文を描く。なお、540・542の高台端部には砂が溶着する。544の壺は口唇部から口縁部内面上方を除き透明釉を施し、外面に菊花文を描く。545～548はかわらけでロクロは全て左回転である。

549～560は34溝出土。549・550は瀬戸美濃で549は反り皿で内面から口縁外面まで灰釉を施す。550は内外面にサビ釉を施す播鉢で、底部から体部外面にかけてヘラ削りが行われている。551・552は丹波の焼締め播鉢である。553・554見込みや体部外面に草文を描く肥前系磁器の染付皿・碗で、高台端部には砂が溶着する。555から560は在地産で555～558はかわらけ。ロクロは左回転で558は不明。558がⅡ期のもの。559の土鍋の口縁部内面には稜がめぐり。560は胎土に金雲母を含むほうろくである。561・562は34b溝出土。561の片口は高台周辺を除き鉄釉を施す。562は丹波の焼締め播鉢である。

563～579は37溝出土。563～565が瀬戸美濃で563の反り皿は内外面に灰釉を施し、564の播鉢内外面にはサビ釉、565の徳利は外面鉄釉、内面にはサビ釉を施す。566は肥前系陶器（唐津）の鉢で内外面にサビ釉を施したあと、口唇部から口縁部外面に白土で刷毛目で波状文を施しこの部分に銅緑釉を施す。567は丹波の焼締め播鉢。568・567は波佐見の青磁大皿・碗で、568の内面に菊花文が施され内外面に

青磁釉、569は高台周辺を除き青磁釉を施す。571～579は在地産で571～577はかわらけである。571～573・577のロクロは左回転で他は不明。571・572・577がⅣ期。なお、576は香炉の可能性ある。578・579はほうろくで578の内耳は口唇部から内面底部にかけて付く。

580～585は42溝出土。580は同安窯系青磁皿で内面に櫛状の工具でジグザグ文を施す。581は内外面にヘラ先による線描蓮弁を施す碗。582・583は軟質陶器碗で瀬戸美濃と比較すると重量が軽く、胎土は乳白色でやわらかい。内外面には薄い灰釉(?)を施す。584は焼締め丹波播鉢。585は肥前系磁器の白磁碗である。586は44溝出土の古瀬戸後期の袴腰形香炉で口縁部内面から外面に灰釉を施す。

587～589は45溝出土。587は常滑甕の口縁部。588～589は在地産で、588・589のかわらけは588がロクロ右回転、589が左回転である。590は34溝の瓦質の片口鉢で口唇部内側が突出する。591～593は1井出土で591のかわらけはロクロ左回転。592・593は円形火鉢で体部外面には突帯が二条めぐり、その中に印花文を押印する。474に類似。

594は8井の瀬戸美濃反り皿で高台周辺を除き灰釉を施す。595は6井の見込みに鉄絵を描く皿。596・597は6井・9井のかわらけでロクロは左回転、597がⅢ期。598は8井のかわらけでロクロは左回転。599～603は9井出土。600は瀬戸美濃で内外面に長石釉を施す碗。602は肥前系磁器の染付碗。603は9井のⅣ期かわらけでロクロ左回転。604～607は10井で全て瀬戸美濃。604の口縁部内外面には灰釉、605は内外面に長石釉を施す。606は高台周辺を除き鉄釉を施し、高台周辺のサビ釉は無い。610は42壙のかわらけでロクロ左回転、611～613は43壙のかわらけで611がロクロ右回転、他は左回転、いずれもⅢ期である。614・615は77壙のⅢ期かわらけでロクロ左回転。616は79壙の口径が大きいかわらけである。617は101壙のかわらけでⅠ期、618は106壙のかわらけでⅠ期のもの。619は115壙の肥前系陶器(唐津)の瓶で、体部外面に片切彫りを縦方向に施し外面に灰釉を施す。620の瀬戸美濃端反皿は内外面に灰釉を施す。621・662のかわらけはロクロ左回転、621

がⅢ期である。

以下は遺構外出土遺物である。623～644は輸入陶磁器。623～628は青磁で623・625～628が龍泉窯系青磁で623の内面には櫛状工具で花を施し、高台内の釉を掻き取っている。624は同安窯系青磁碗で外面に縦方向の櫛目、内面には花文を施す。626・627は外面に蓮弁を施す碗である。629～644は染付碗・皿で629の見込みに瑞花、630・633の口縁部内面には四方禪文、632の見込みに蓮花文を描く。634の見込みに花文、635～638には団龍文、639には八弁蓮弁形の枠の部分、640には玉取獅子をそれぞれ描き、641～644には草花文を描く。

645・646は常滑で645は山茶碗系の片口鉢(Ⅰ類)で、646の三筋壺は体部外面に沈線がめぐり、外面に自然釉がかかる。

647から735は瀬戸美濃で647～664は碗類である。

647～656の天目茶碗は高台周辺を除き鉄釉を施し、652にはさらに灰釉が流し掛けする。647のみ高台周辺に濃いサビ釉を施す。656の白天目は高台周辺を除き長石釉を施す。657・658の丸碗は内外面に鉄釉、658はさらに灰釉を流し掛けする。659・662・664の碗には高台周辺を除き灰釉、660・661・663の名画面には鉄釉を施す。665～706は皿類で、665の卸皿の口縁部内外面には灰釉、666・667の縁釉小皿の666のには鉄釉、667には灰釉を施す。668～683の端反皿・丸皿は678・682・683の内外面に鉄釉、それ以外には灰釉を施す。なお、671・672の見込みに印花文が押印され、683は口縁部が襷状になっている。684～688の折縁皿は687・688の内外面に鉄釉を、それ以外には灰釉を施す。なお、686の体部内面には丸ノミによる菊花文が彫られる。689～696の志野丸皿には長石釉を施すが689～693の釉層は厚い。697～699は鉄絵皿で見込みや内面に花文や圏線を描く。700は高台周辺を除き灰釉を施す高台が高い皿である。701～705は灯明皿の油皿と受皿でいずれも底部周辺を除き鉄釉を施す。706は木瓜形の型打皿で底部には三足が付き、内外面には御深釉を施す。707の卸目付大皿は内外面に灰釉を施し片口の一部が残る。708～721の播鉢は内外面にサビ釉、722には鉄釉を施す。723の黄瀬戸鉢は黄瀬戸釉を施したあと

銅緑釉が流し掛けする。内面には櫛状工具で波文を施す。725～727の香炉は外面に灰釉、728にはアメ釉を施す。729・730の梅瓶には外面に灰釉、731小壺には鉄釉を施し733の志野向付には長石釉を厚く施すため、鉄絵がはっきりしない。734の蓋には鉄釉、735の合子には内外面に灰釉を施す。

736～740は肥前系陶器（唐津）で736は内外面に灰釉、737は胎土が精緻で、見込み蛇の目釉ハギの皿である。高台内を除き銅緑釉を施す。738・739は鉄で絵が描かれる皿で、740は白土を用いて文様を施す大皿で見込みには砂目積みの痕が2箇所残る。

741～743は志戸呂。741の丸皿には灰釉、742・743の播鉢にはサビ釉、744・745の初山の折縁皿・水注には鉄釉を施す。

746～748の京都・信楽の碗は高台周辺を除き透明釉を施し、746の高台内には墨書（文字不明）がある。751～774は肥前系磁器である。751～756は白磁の碗・小坏で内外面に透明釉を施す。757～772は染付碗で体部外面には蝶・瓢箪・紅葉・桐・樹木・竹籠草花・菊・岩などを描く。なお、756・758・767・770の高台端部には砂が溶着している。773は型抜きされた色絵婦人像の袖の部分と思われ、赤・黒・淡青色で上絵付けする。774は型抜きされた色絵の鶏で上絵付けは773と同様の色を使用している。

775～847は在地産で775～836はかわらけである。このうちロクロ右回転が775・787・797・799・801・807・810・811・815・819・832、不明が806・818・829で他は左回転である。810～812・814・824・832がⅠ期、777・778・780・782・788・789・791・792・795・796・798・801・804・805・807・813・817・823・829がⅡ期、781・786・805・816がⅢ期、779・783・785・787・815・825がⅣ期、831がⅤ期である。837・838はほうろくで体部内面の稜は中央にめぐる。839～842は片口鉢で口縁部断面が半月状のものと同様に近いものがある。843・844は素焼きの香炉、845は円形火鉢で外面に菊花文の押印がある。846は甕で口縁部が磨れている。847はかまどの焚口と思われる。

第68図に各調査区の土製円盤・転用陶器・ふいごの羽口を一括した。848～859は土製円盤で瀬戸美濃

等の陶器を円形に近く打ち欠く、つぶて石である。860・861は甕などの破片の断面や表面を磨っているものである。862～864はふいごの羽口で862の口には鉋物が溶けて溶着している。

（注1）詳細は後日の報告となるが、現在までの調査で騎西城跡で最も古い遺構は騎西城武家屋敷跡第10区1・4溝である。この溝からは瀬戸美濃大窯1の播鉢が1個体確認されているが、大窯1の特徴的な皿である端反皿は1点も確認されていない。こうした問題点もあるが、この遺構から出土したかわらけ（『騎西町史』考古資料編1 p430の騎西城武家屋敷跡第10区1・4溝No40～71）をとりあえずは、騎西城Ⅰ期のかかわらけとする。年代的には15C中～16C前半としておく。

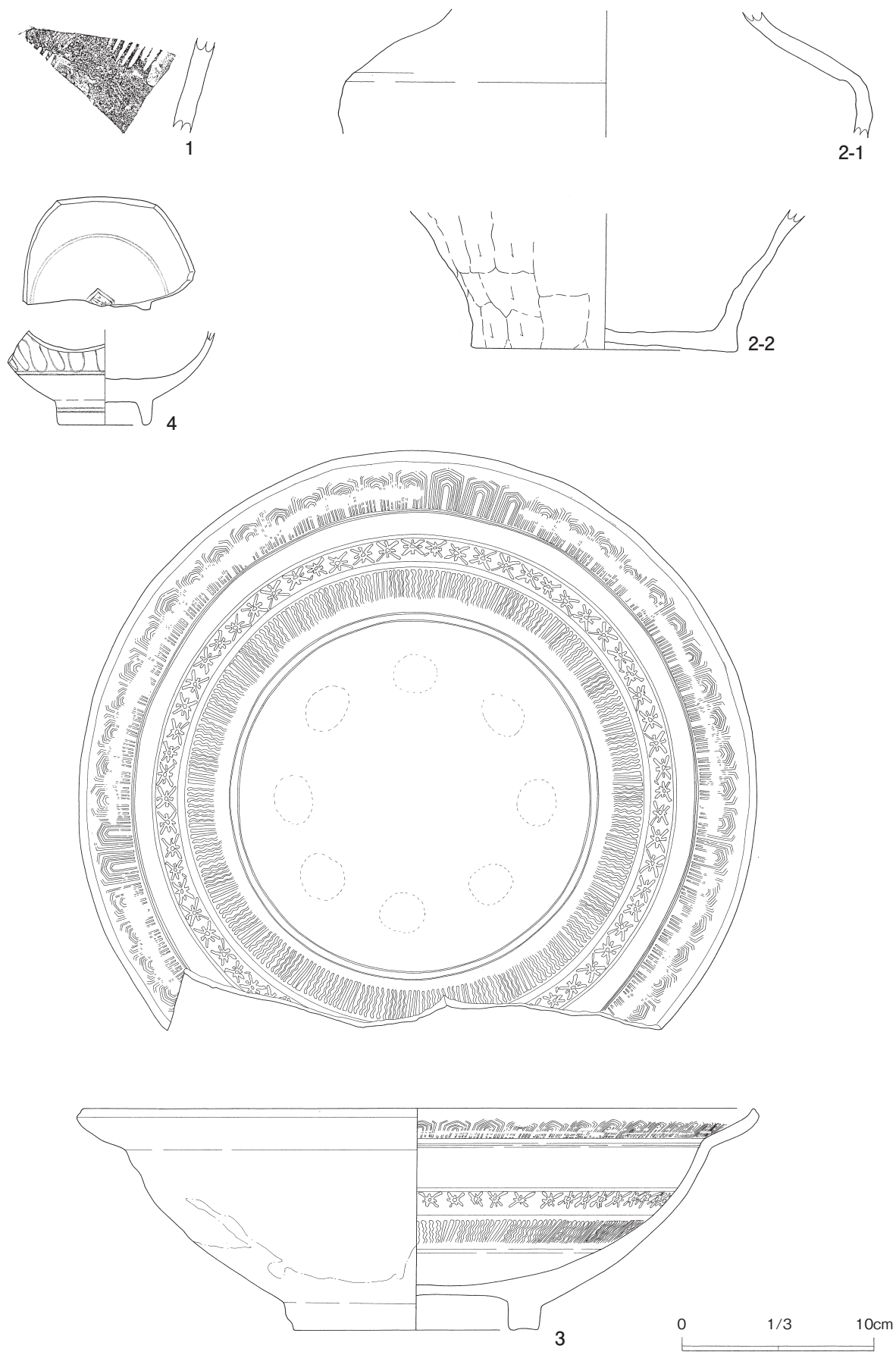
次に、同資料編1 p457の騎西城跡第15区の10堀・25堀下層出土かわらけNo64・65・67・70、72～77、79・81～84がある。このうち64・72・82はⅠ期のかかわらけである。この10堀・25堀の上層では志野や唐津などの陶器が出土しているが、下層からは出土せず瀬戸美濃大窯3の削りこみ高台の鉄釉皿（同資料編1 p452No29・30）と共伴している。また、騎西城跡第19区7堀の中位層から約20個体のかかわらけがまとまった形で出土しており（同資料編1 p474・475No29～47、写真222）、共伴遺物は口縁部を欠く大窯期の播鉢のみであるが、中位層以下からは志野や唐津は確認されていない。そのため、このかわらけ群をⅡ期とし年代は16C中～末とする。

Ⅲ期は騎西城第19区の炭化物層出土かわらけ（同資料編1 p490No47～66）がある。この炭化物層は前述の第19区7堀の上層に厚さ約1mで確認され、ここからは瀬戸美濃の連房1や2の志野丸皿、連房1の総織部皿、肥前系陶器の唐津鉄絵皿などが共伴している。また、騎西城武家屋敷跡4区の1堀出土かわらけ（同資料編 p556No28～30、33～36、38～42）がある。この土堀からは瀬戸美濃連房2の志野丸皿・鉄絵皿、17C前半の志戸呂香炉が共伴している。そのため年代は17世紀前半とする。

なお、Ⅳ・Ⅴ期は騎西城廃城後であるが、今回報告のKB大英寺区1溝出土かわらけ（第29図7～

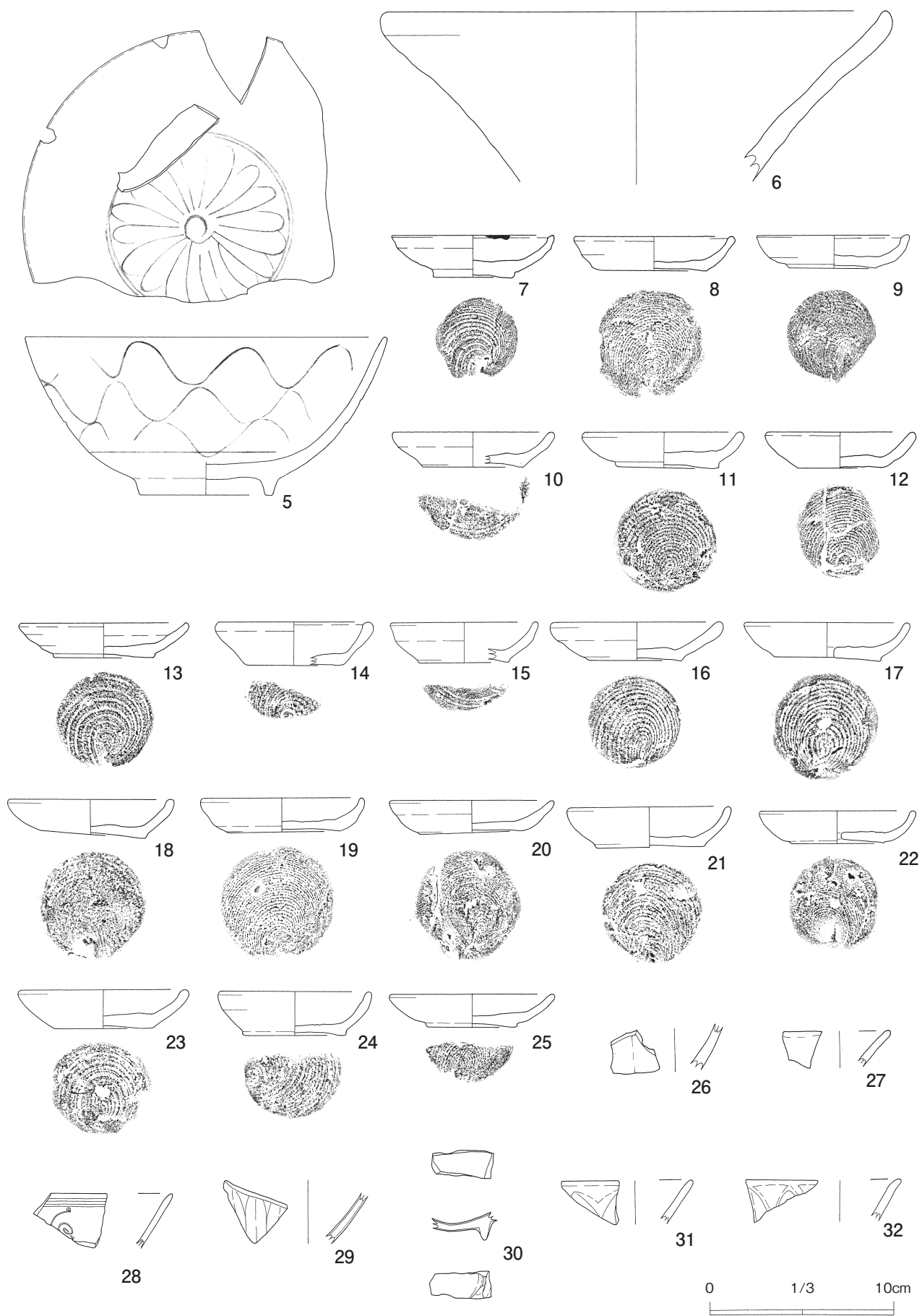
→94ページへ続く



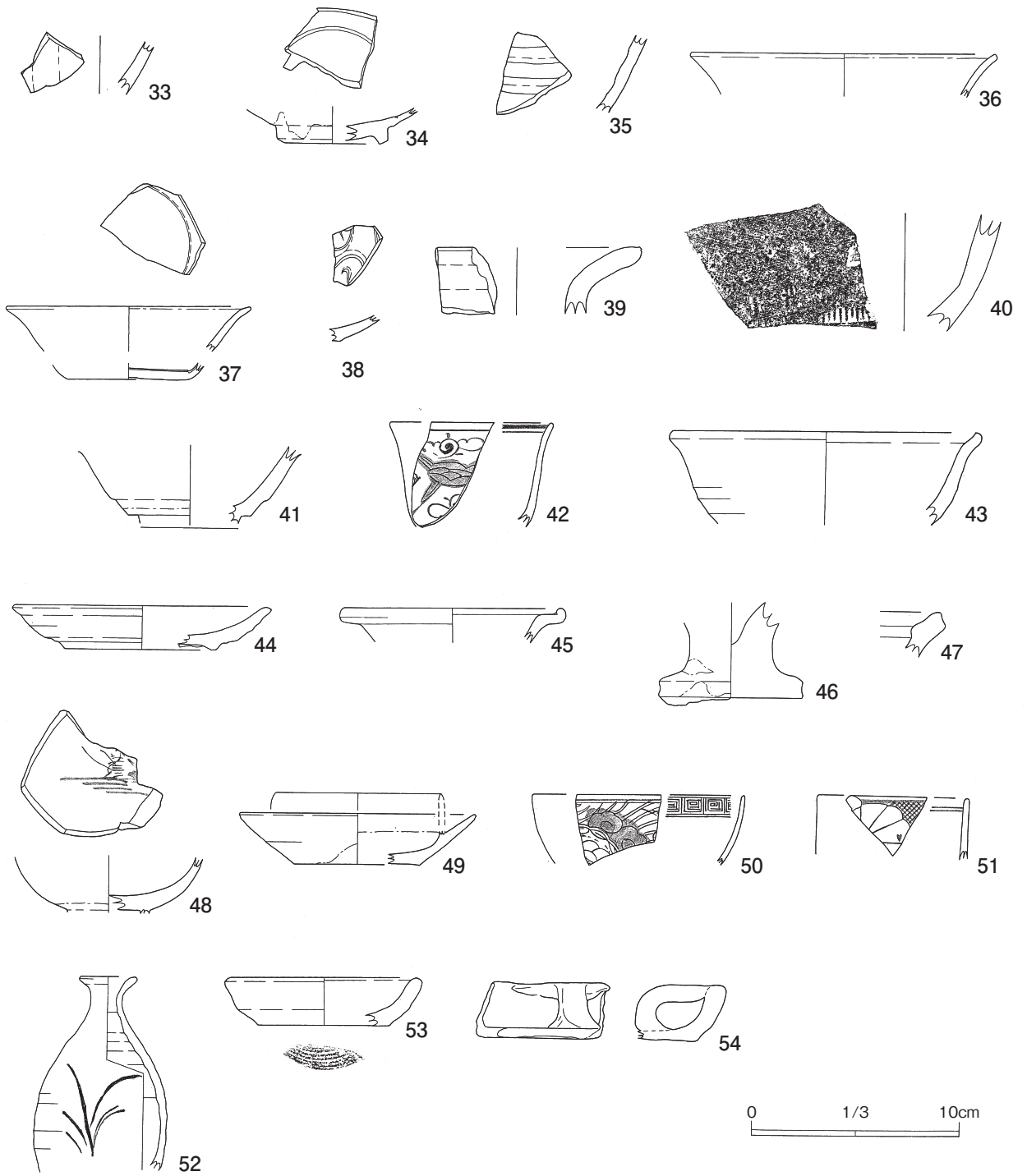


第28図 土器類 1

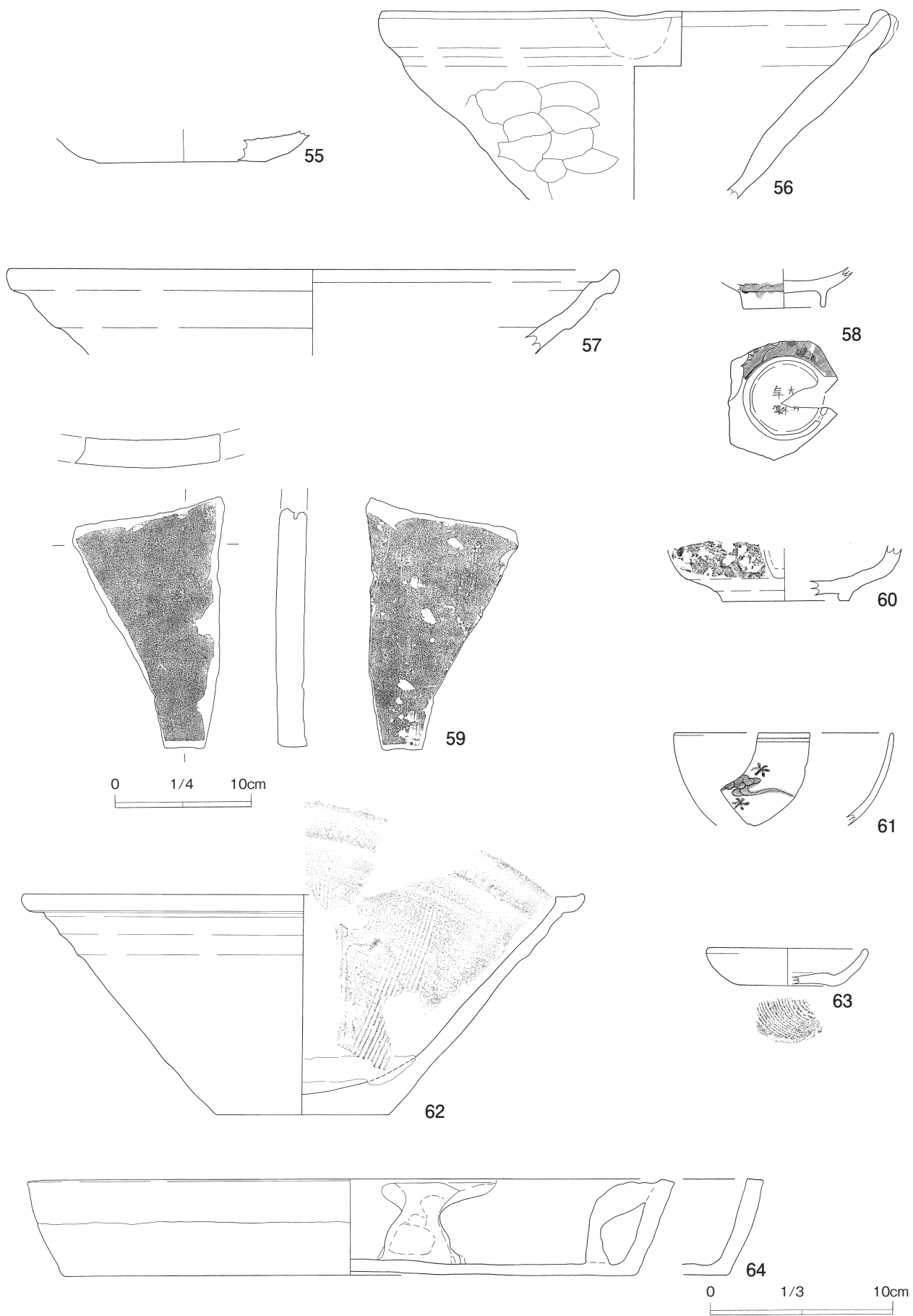




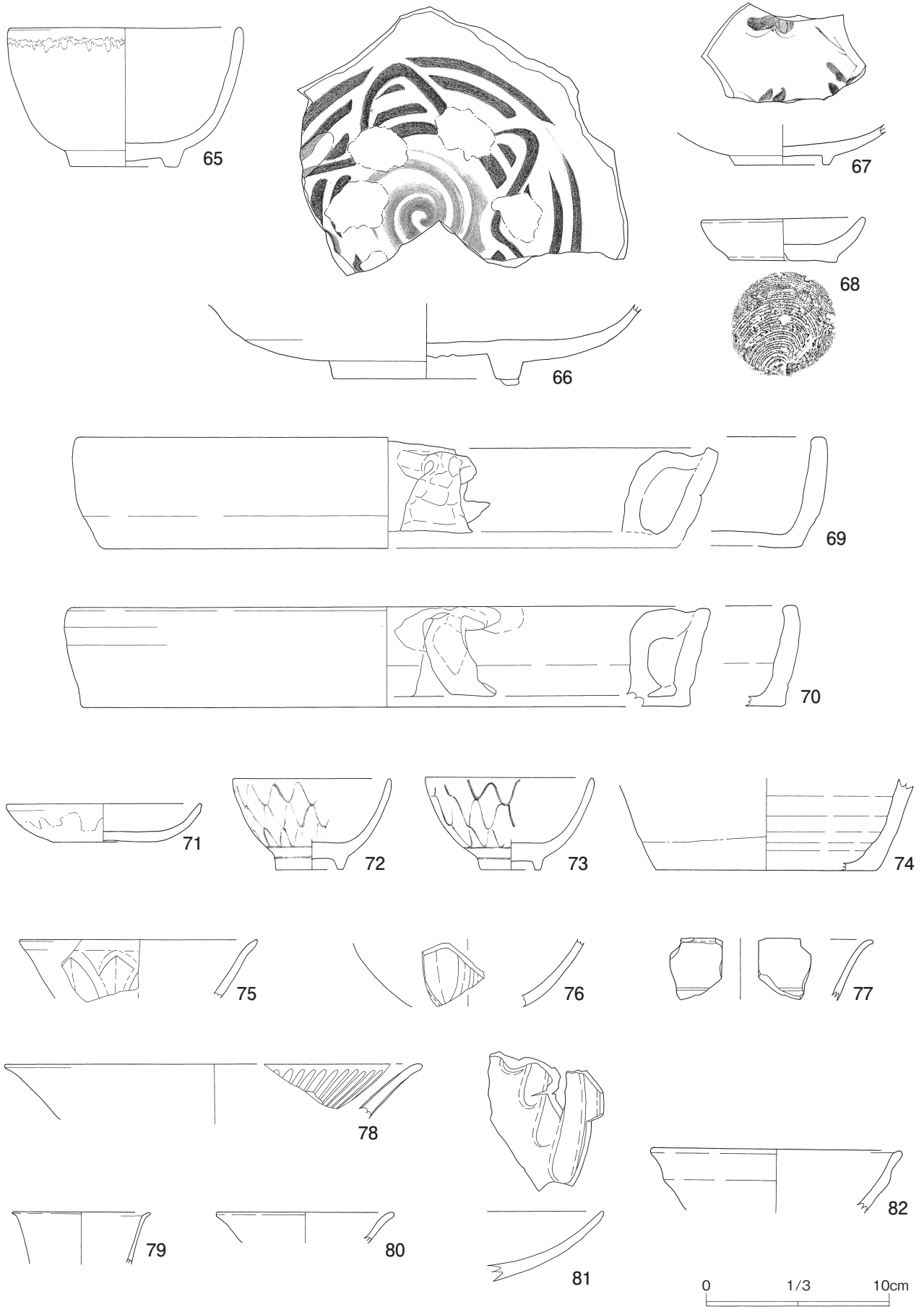
第29図 土器類 2



第30図 土器類3

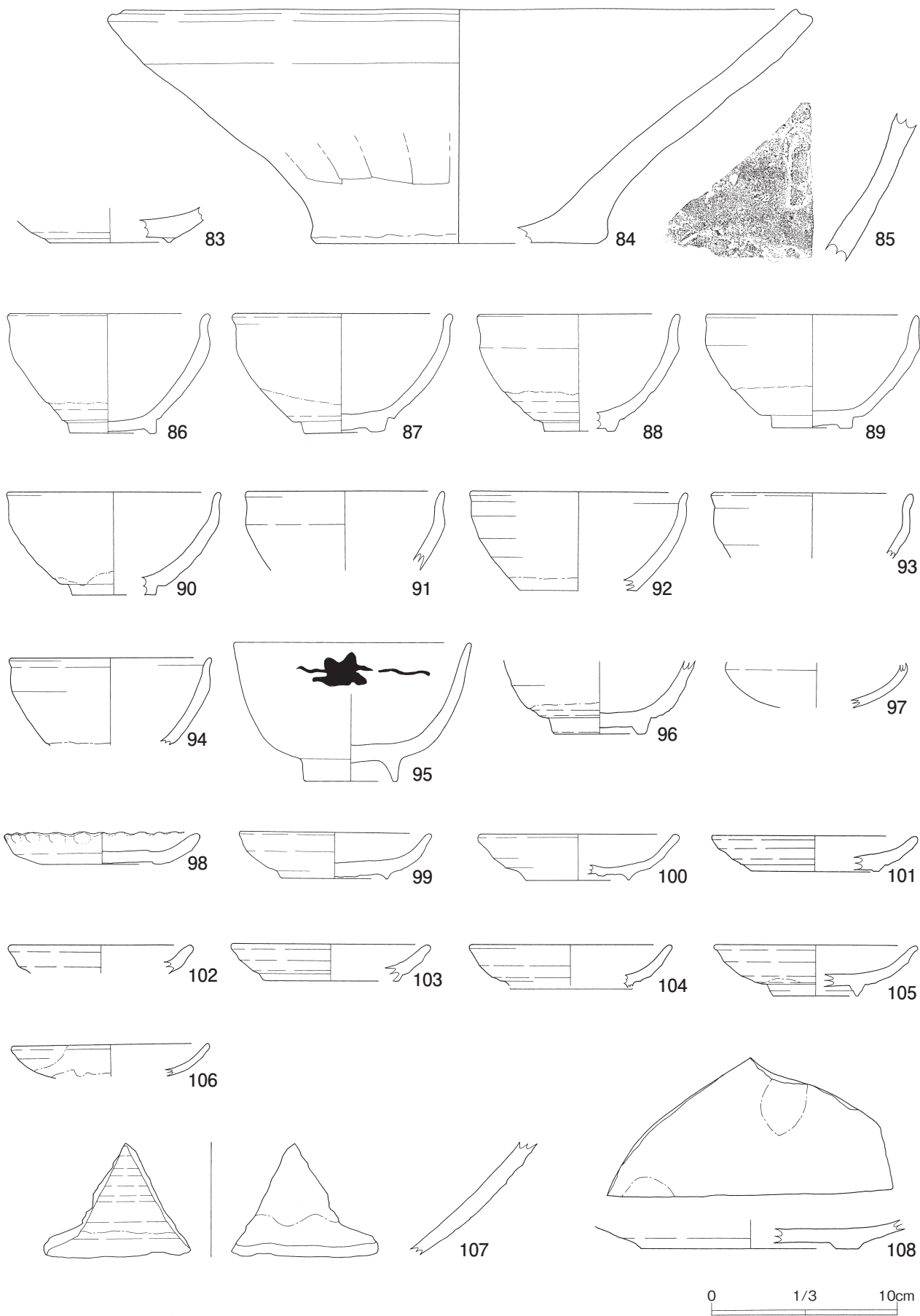


第31図 土器類4

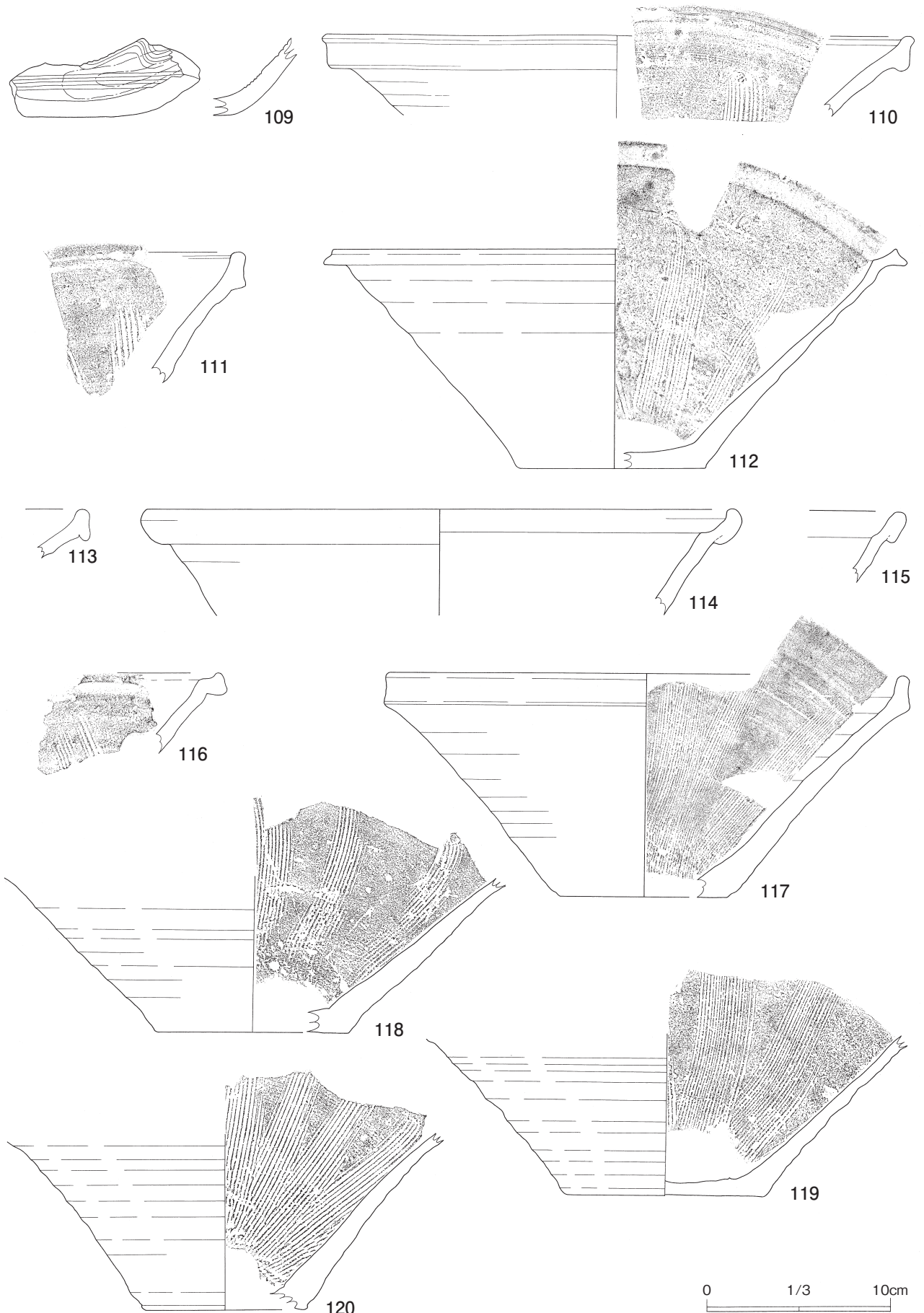


第32図 土器類5

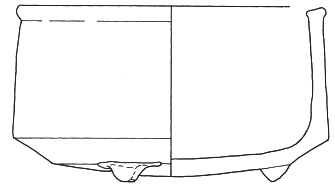
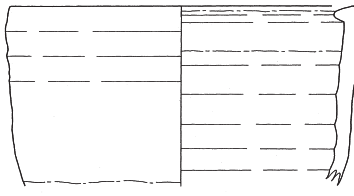
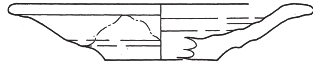
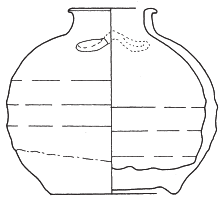
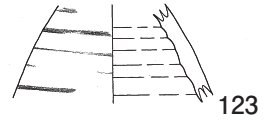
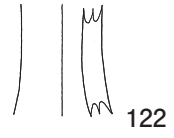
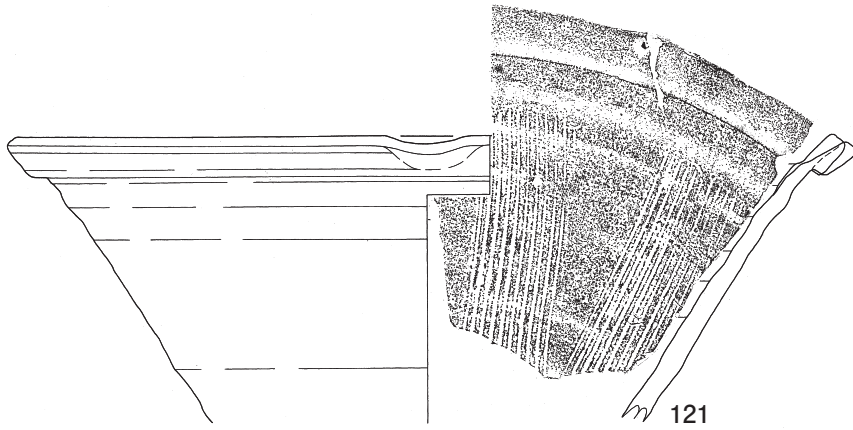




第33図 土器類6



第34図 土器類7

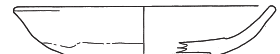
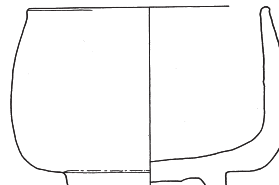
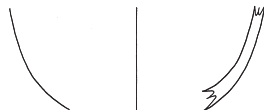
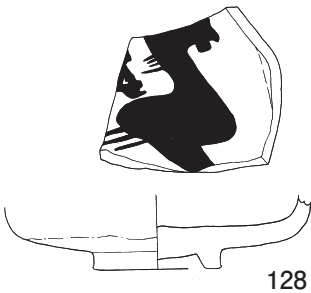


124

125

126

127

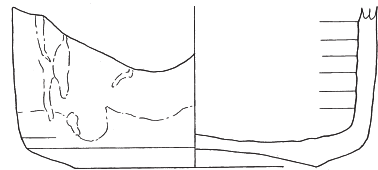
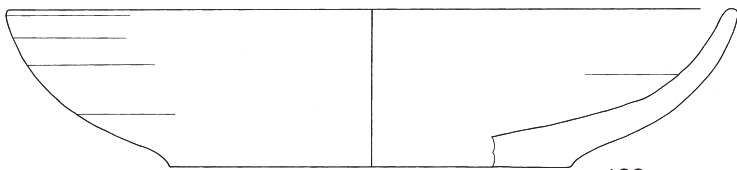


128

129

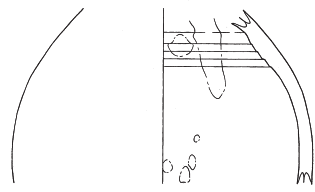
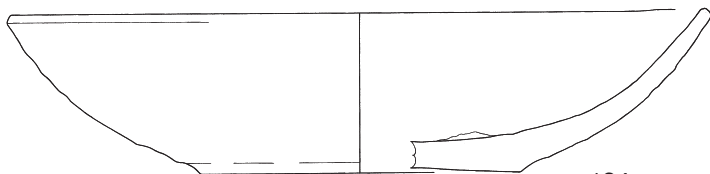
130

131



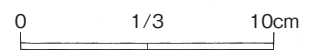
132

133

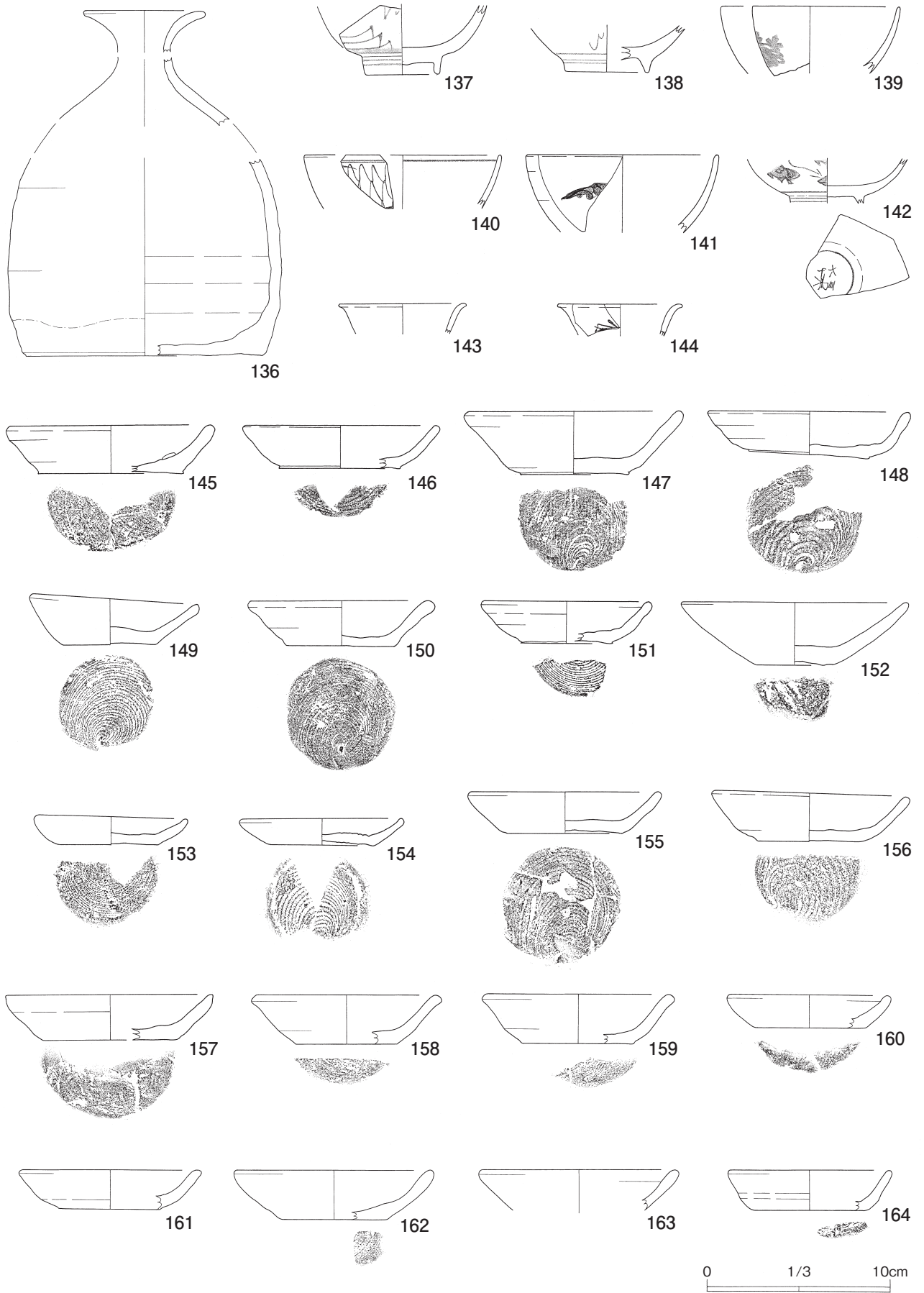


134

135

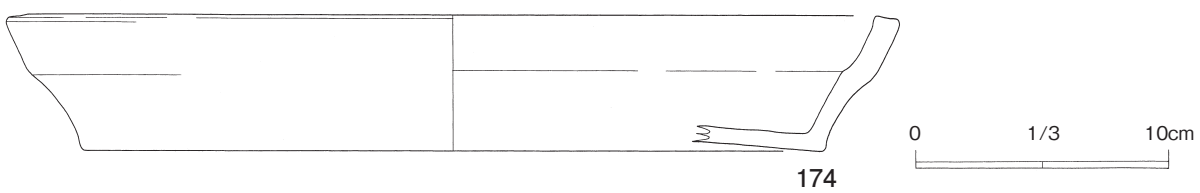
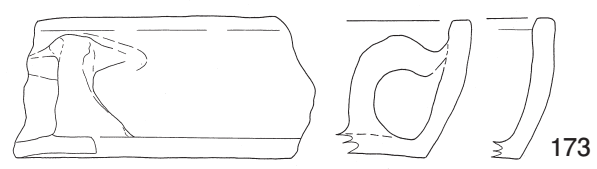
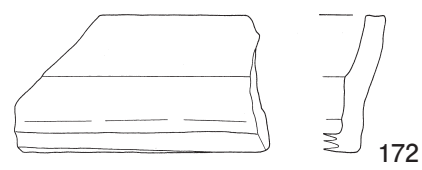
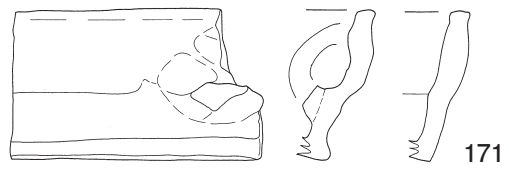
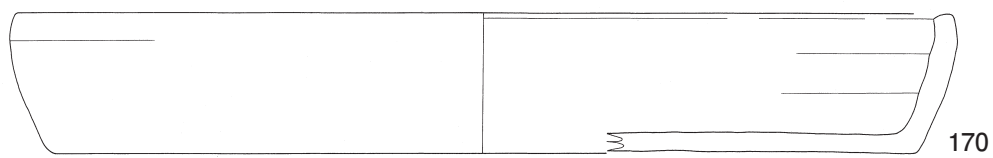
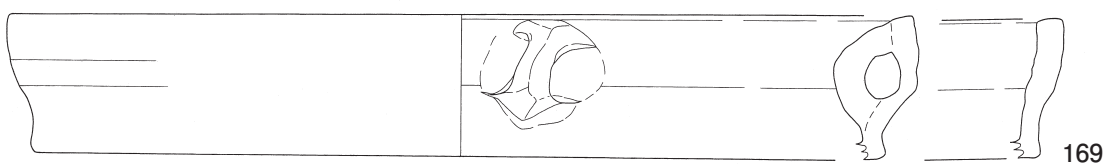
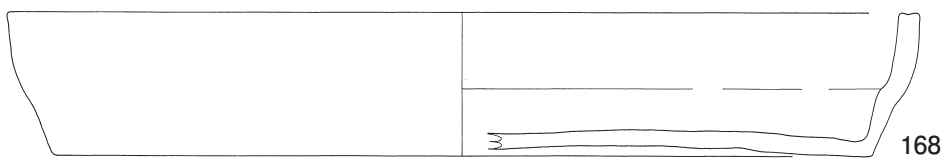
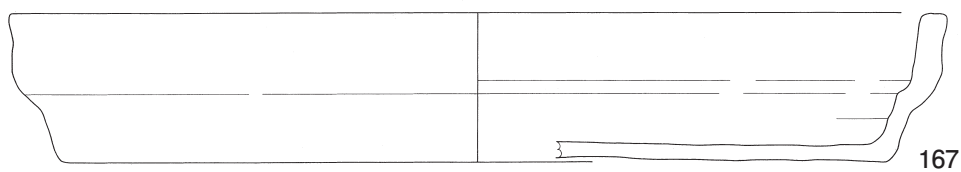
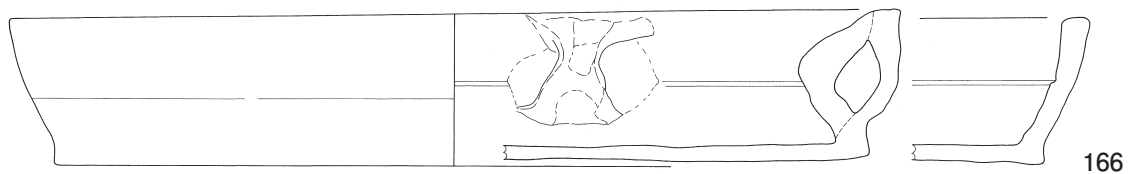
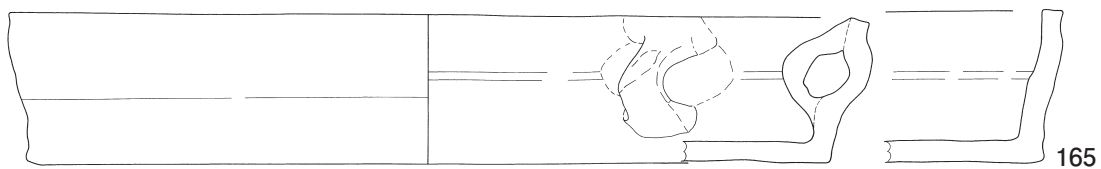


第35図 土器類 8

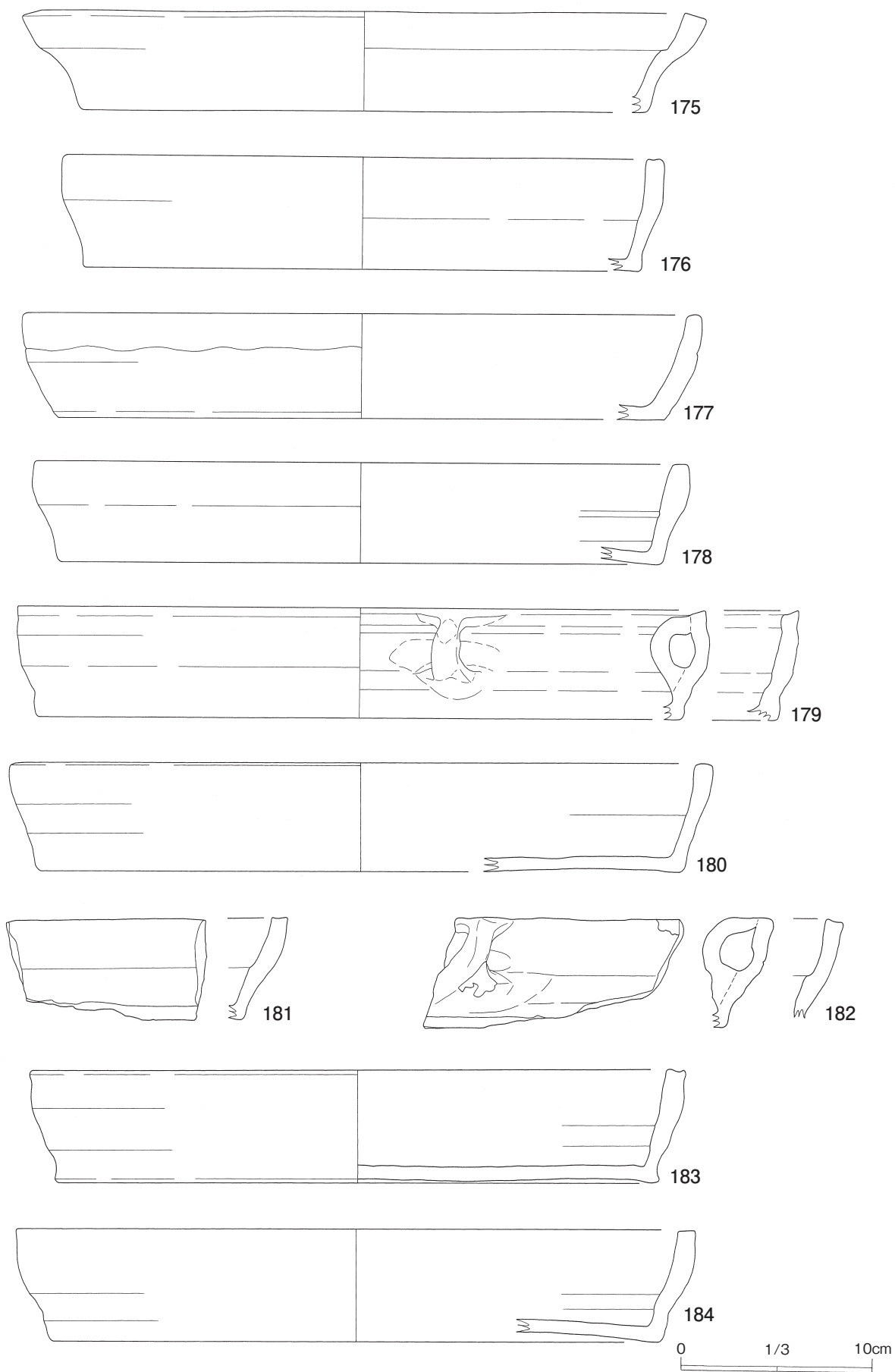


第36図 土器類9

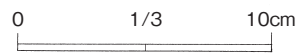
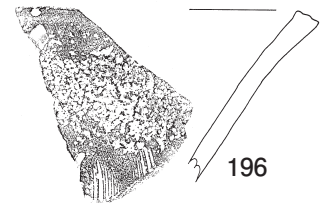
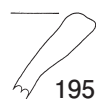
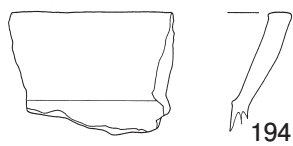
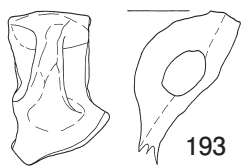
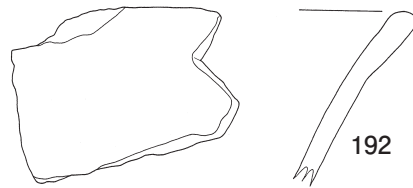
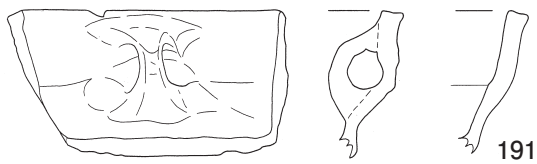
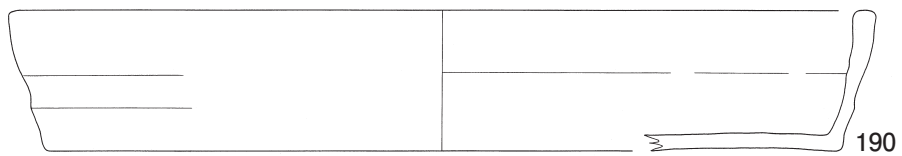
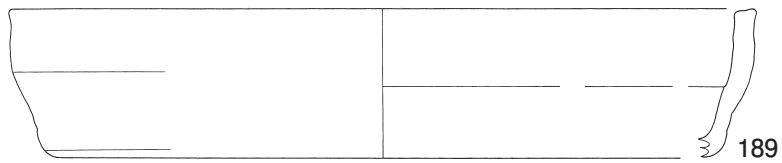
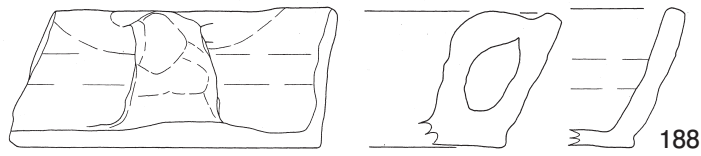
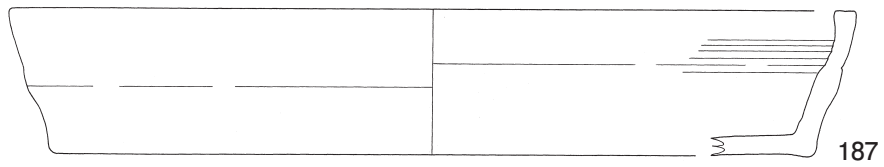
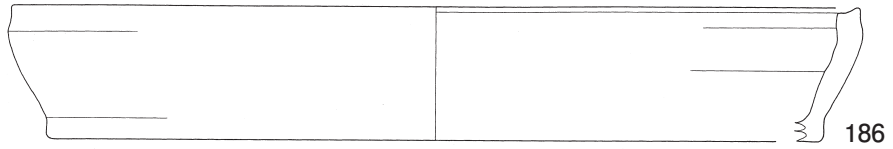
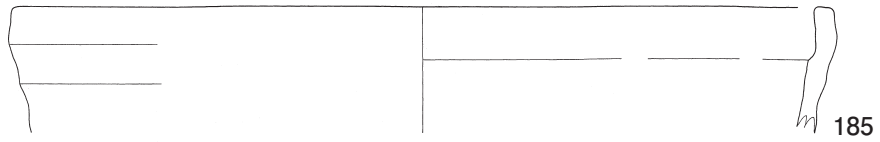




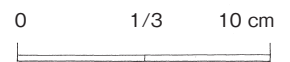
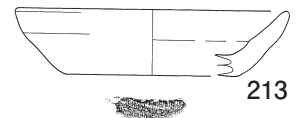
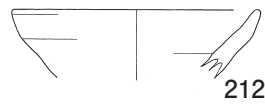
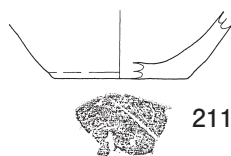
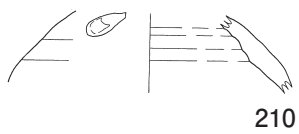
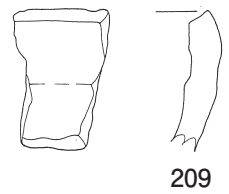
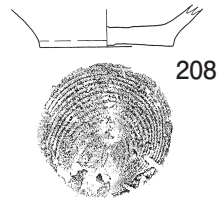
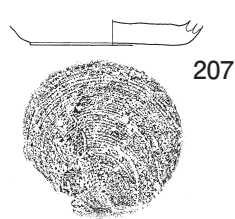
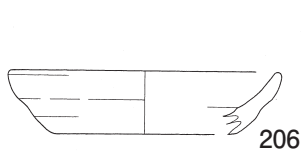
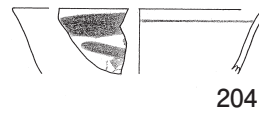
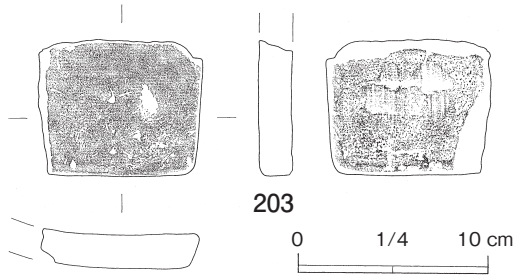
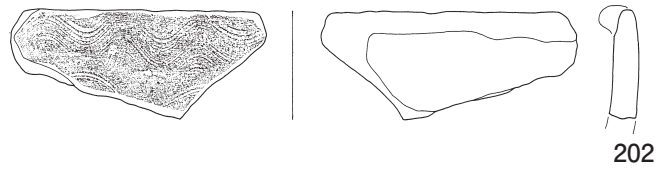
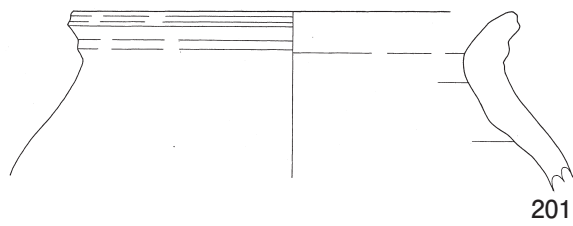
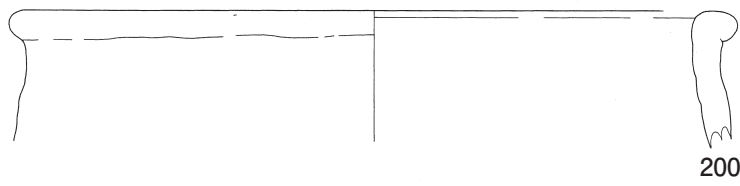
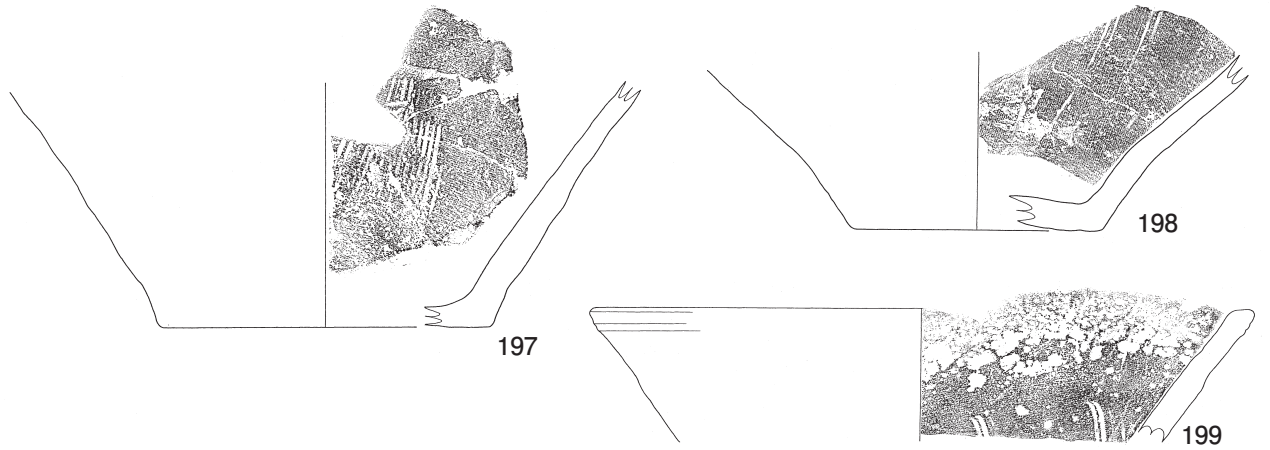
第37図 土器類10



第38図 土器類11

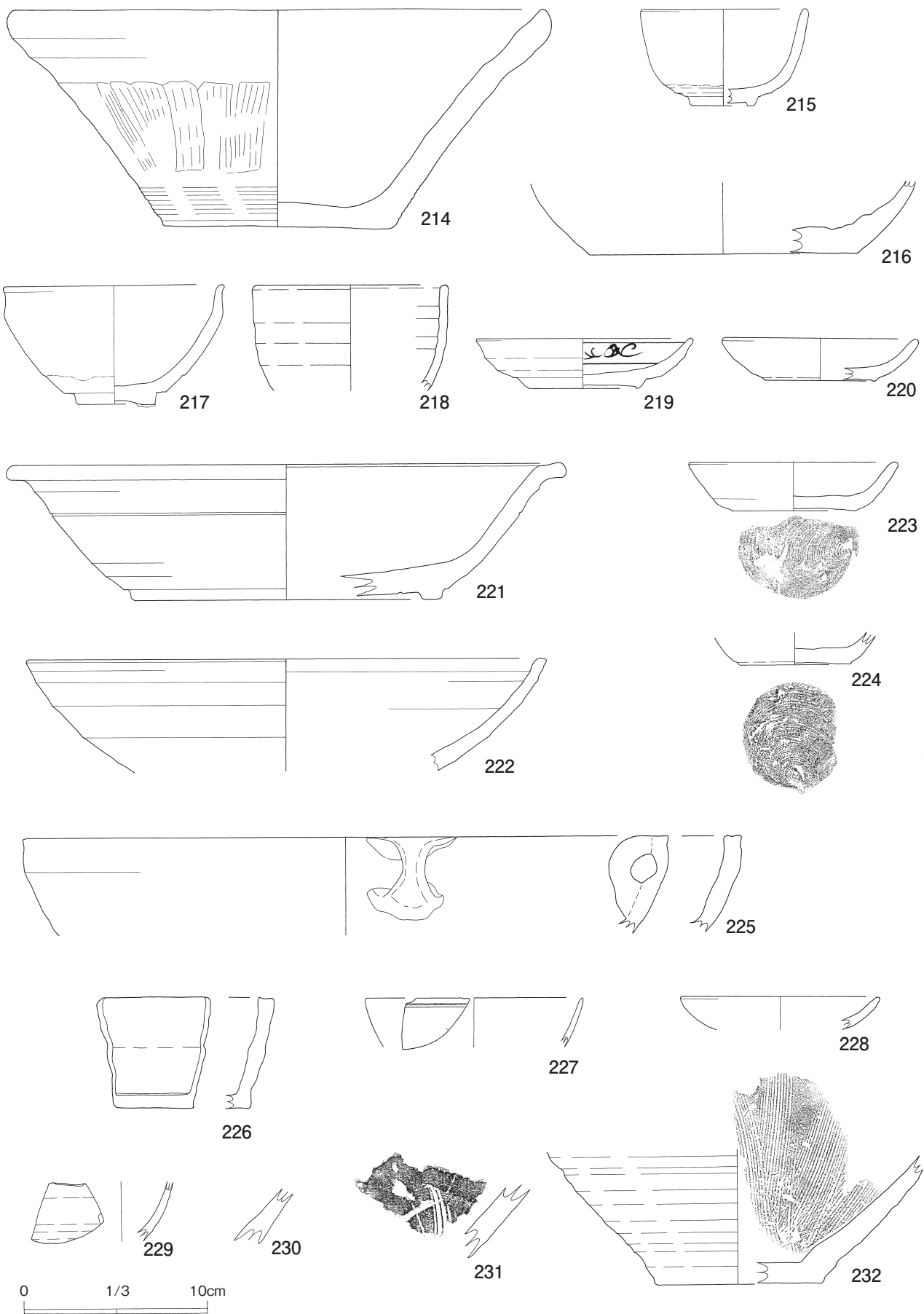


第39図 土器類12

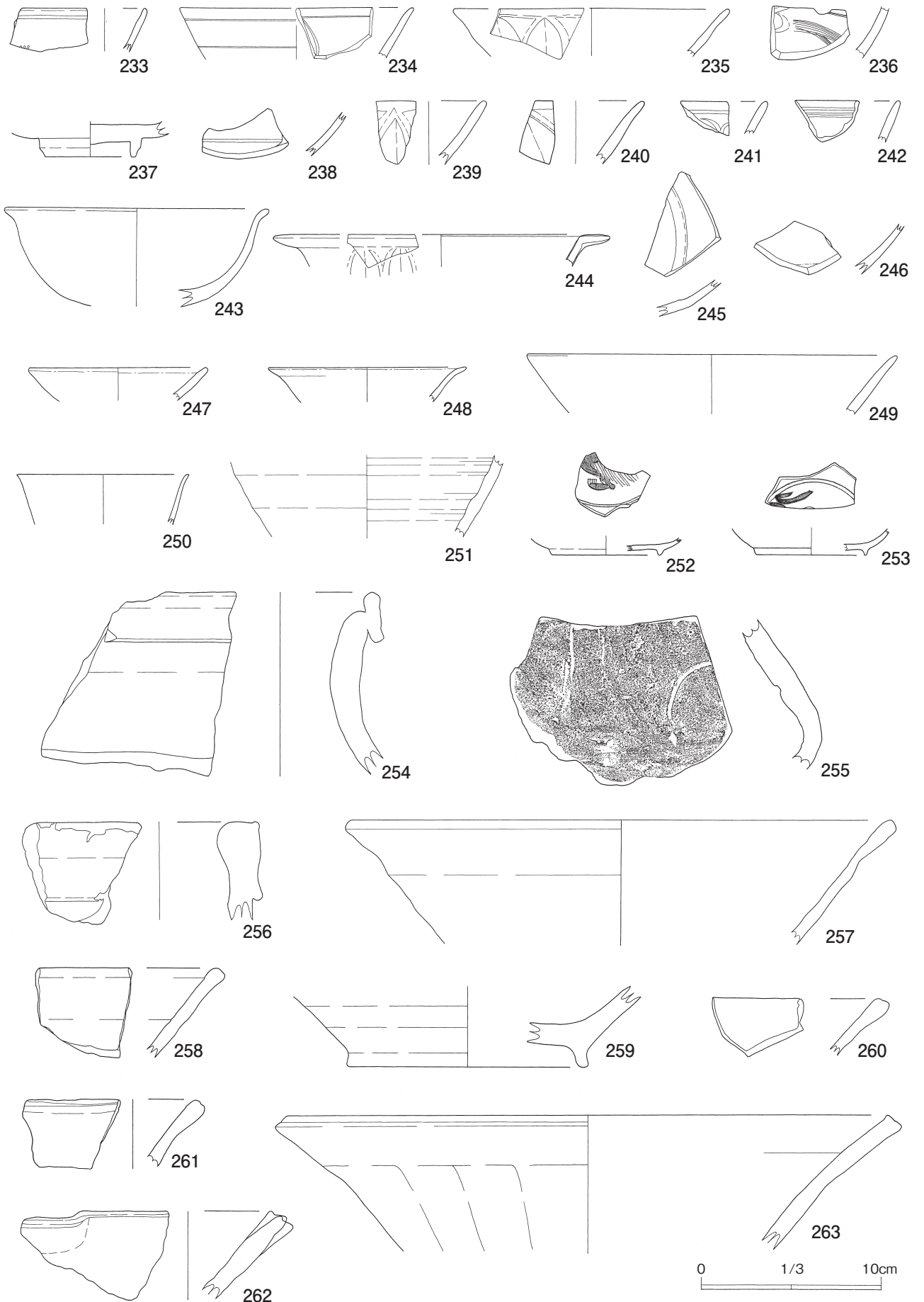


第40図 土器類13

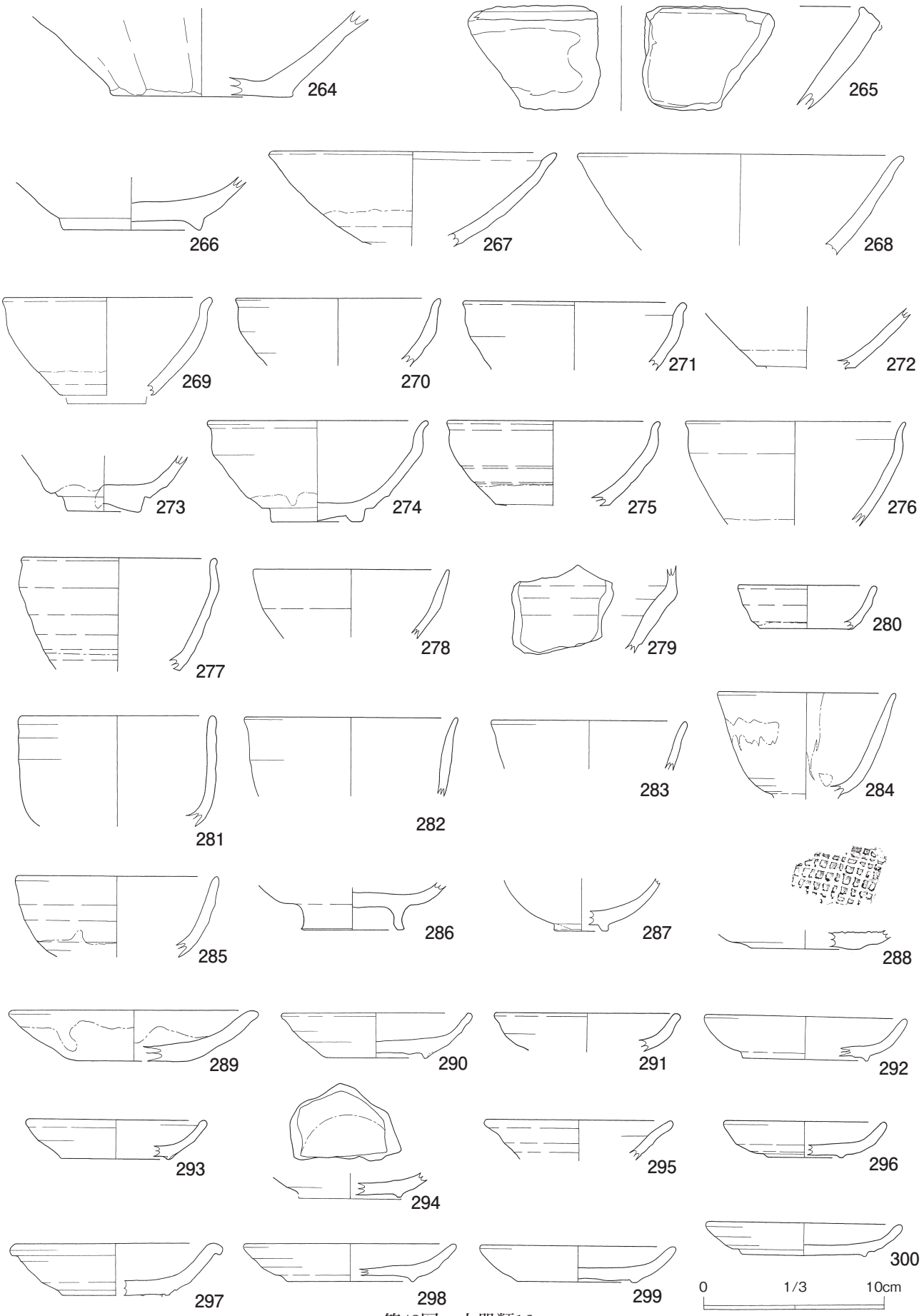




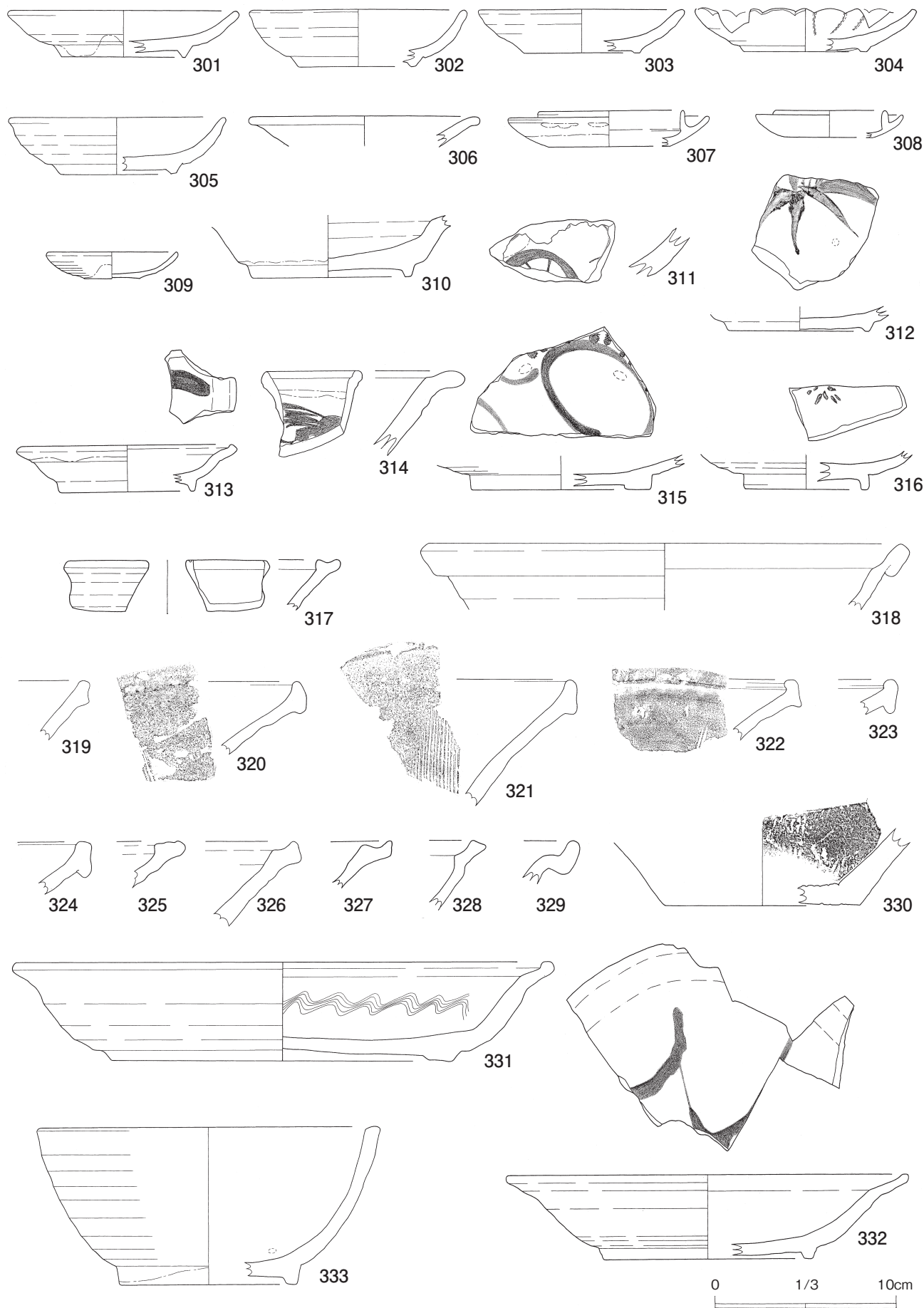
第41図 土器類14



第42図 土器類15

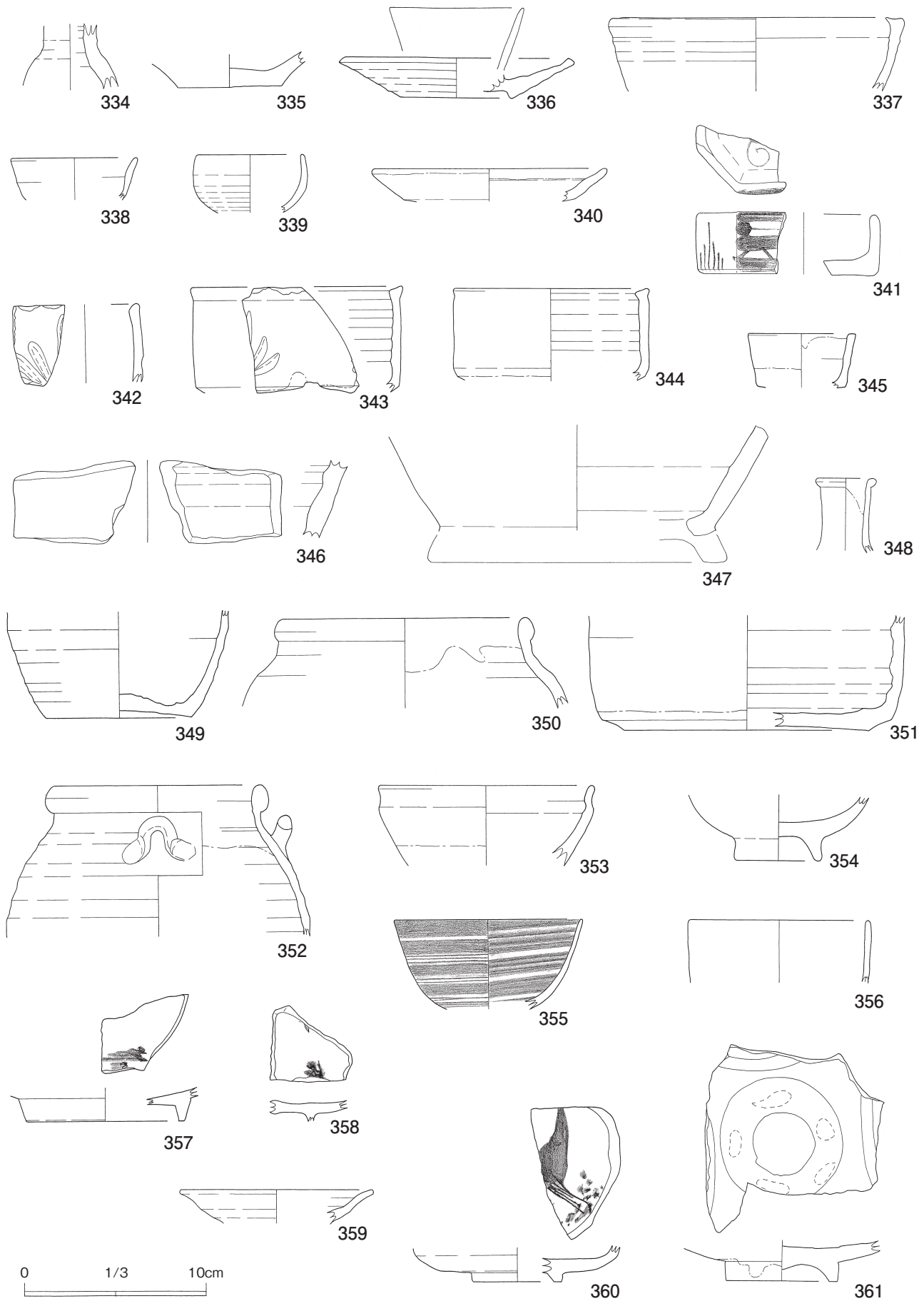


第43図 土器類16

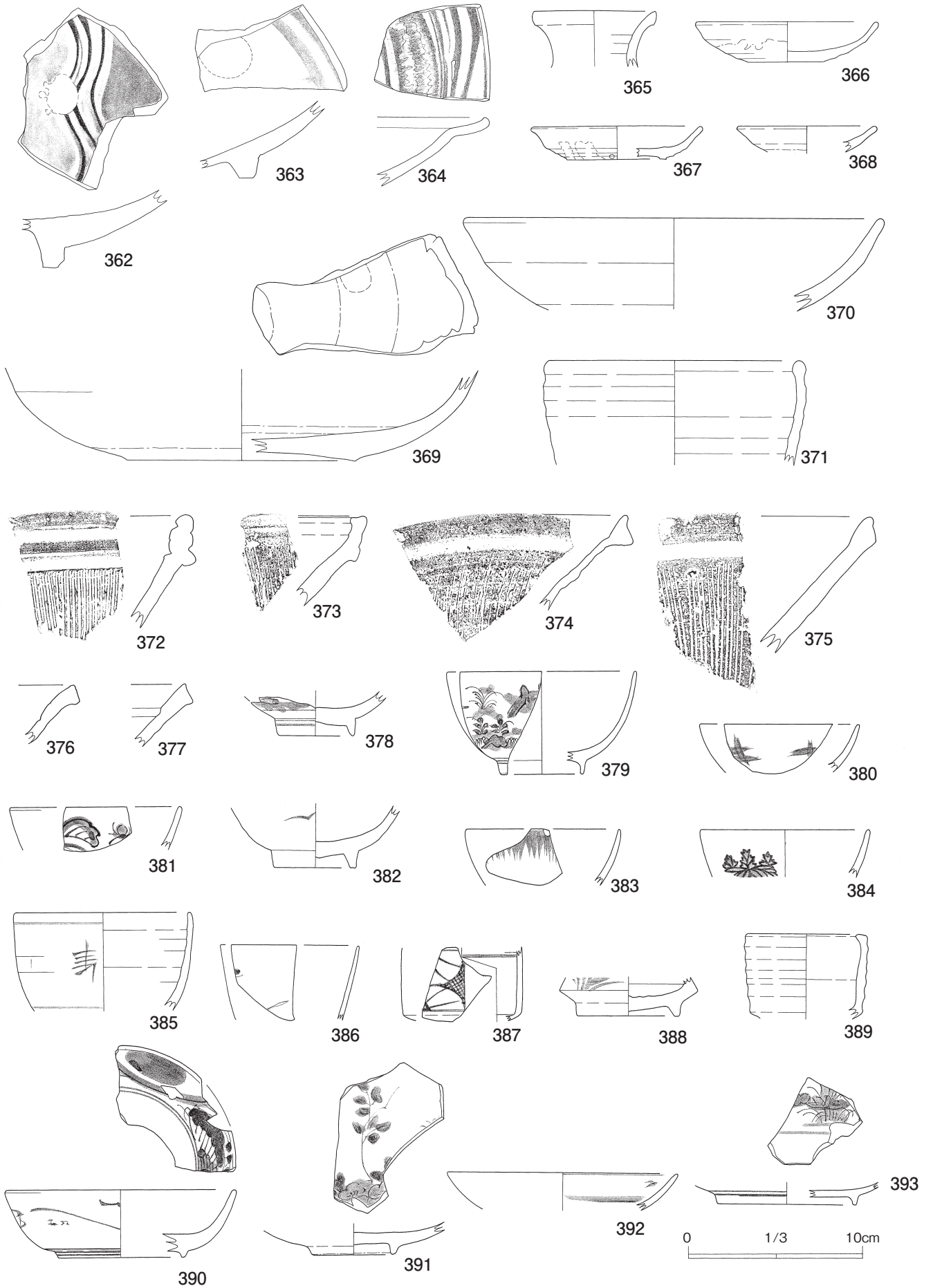


第44図 土器類17

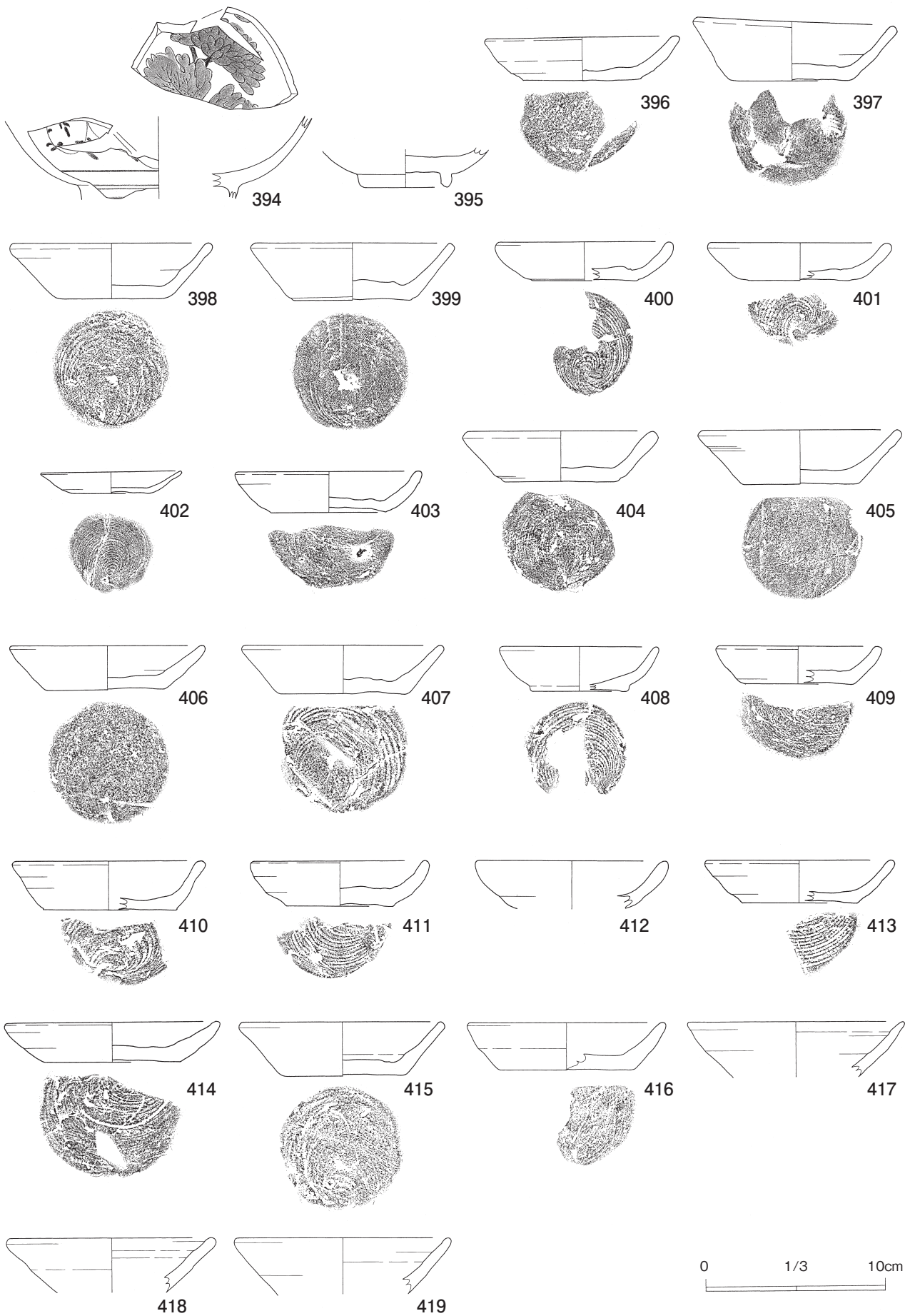




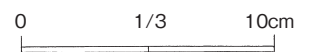
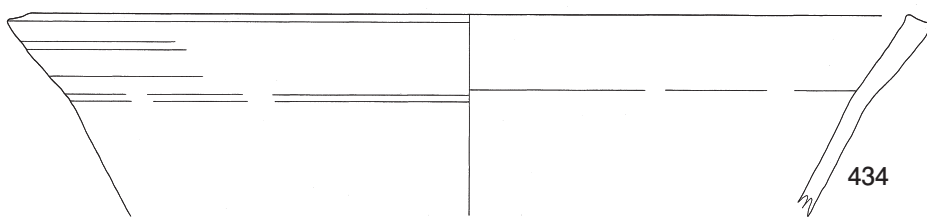
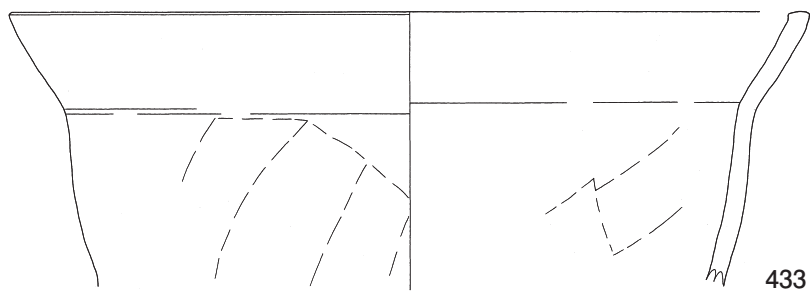
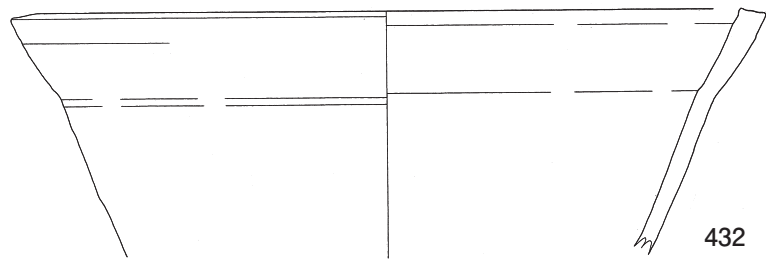
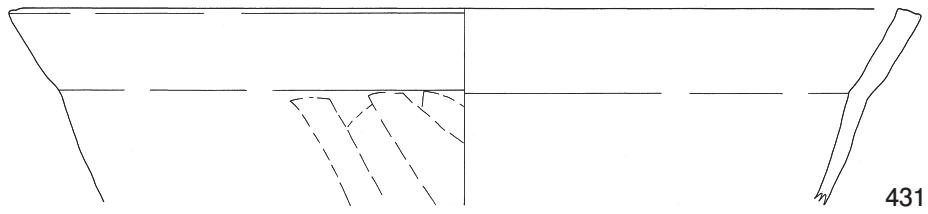
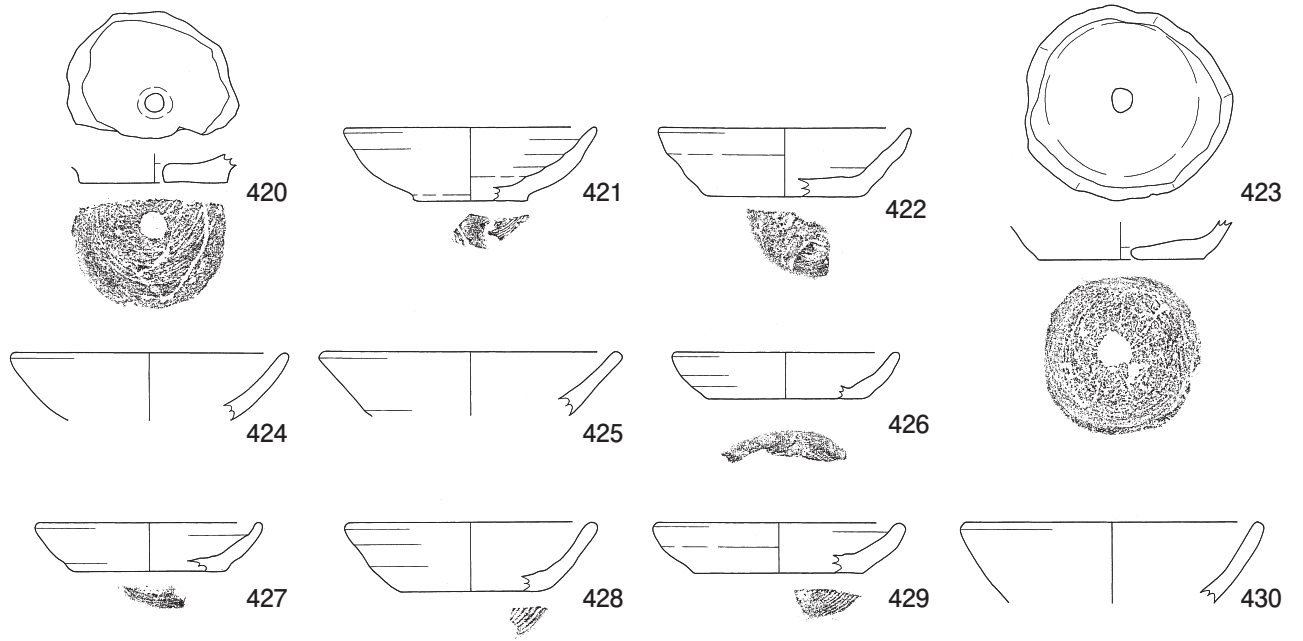
第45図 土器類18



第46図 土器類19

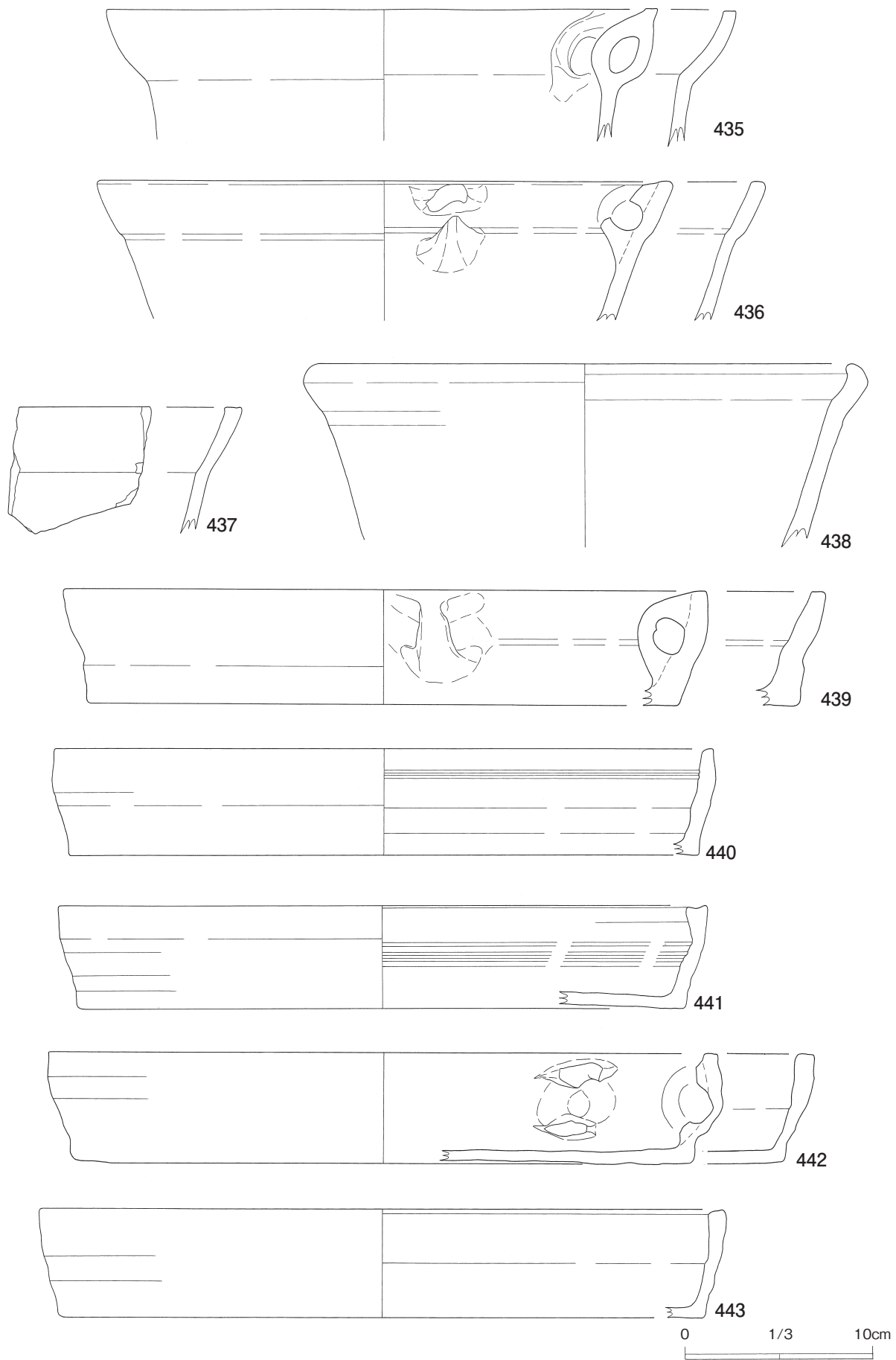


第47図 土器類20

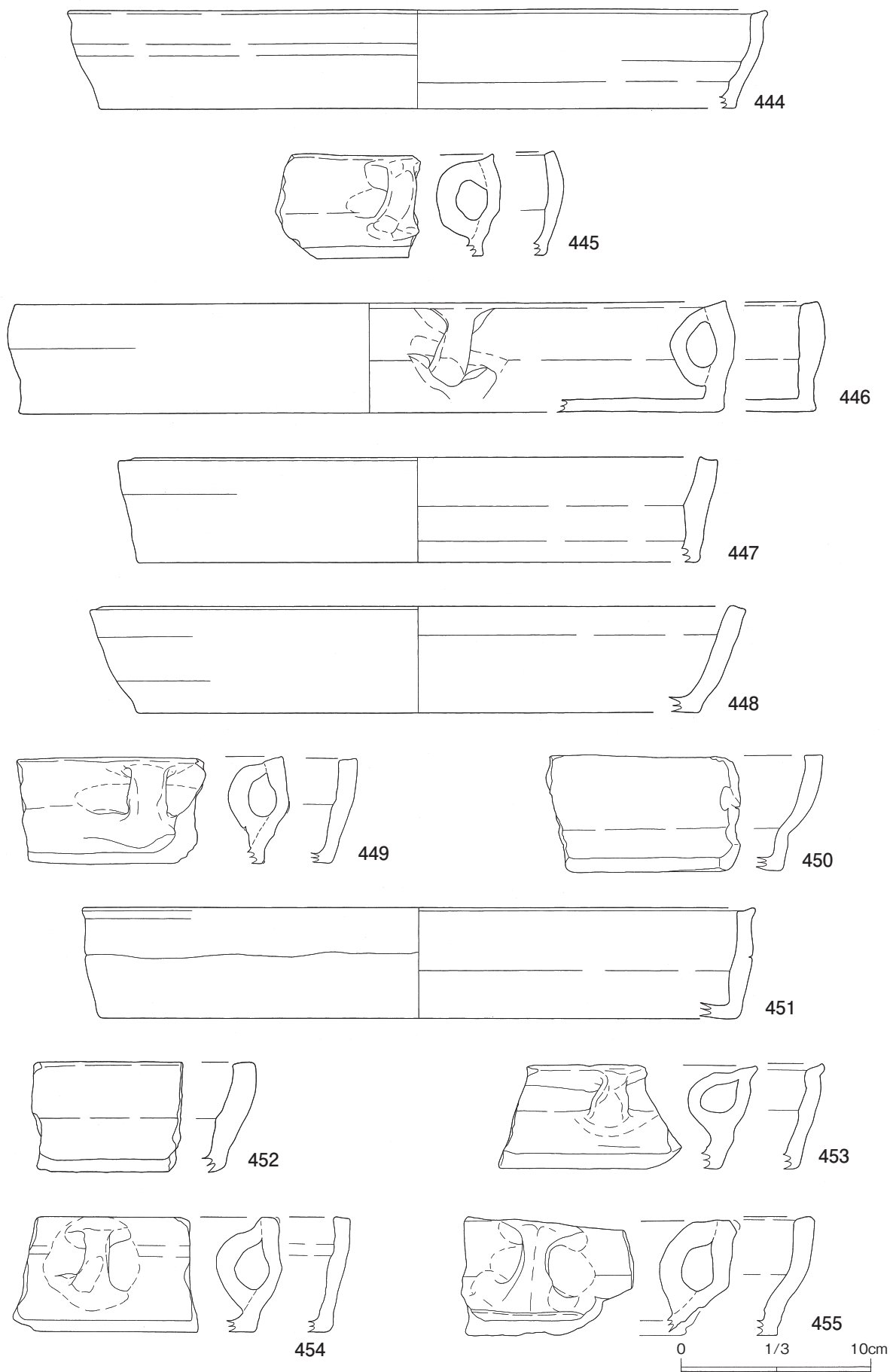


第48図 土器類21

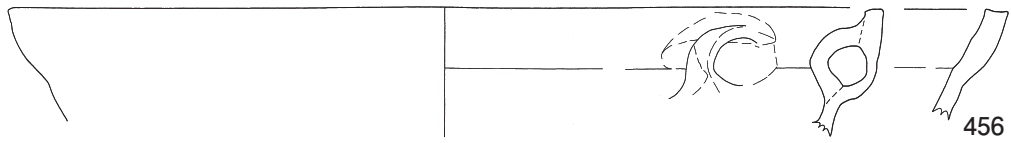




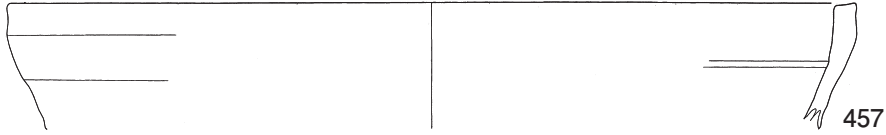
第49図 土器類22



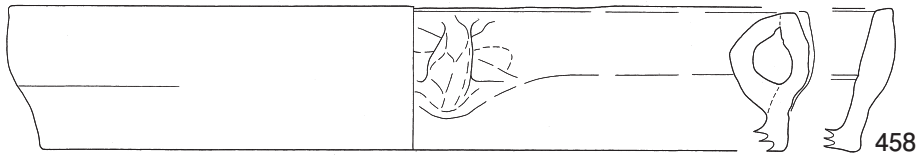
第50図 土器類23



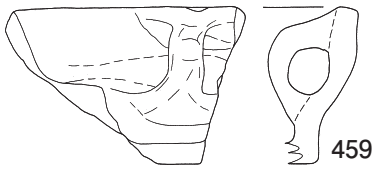
456



457



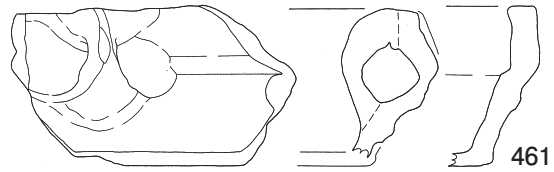
458



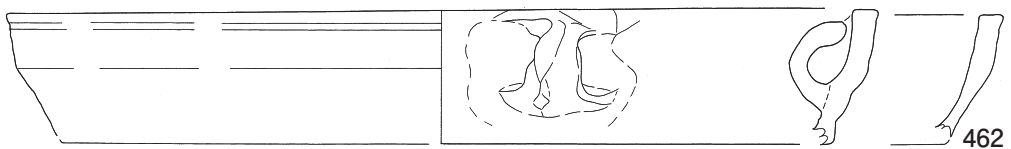
459



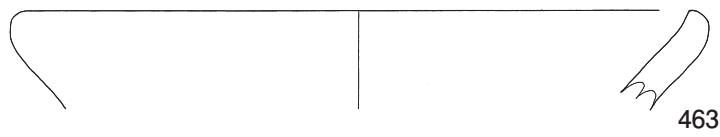
460



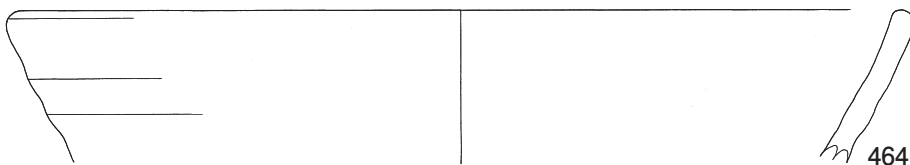
461



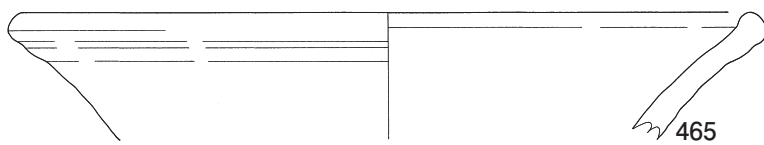
462



463



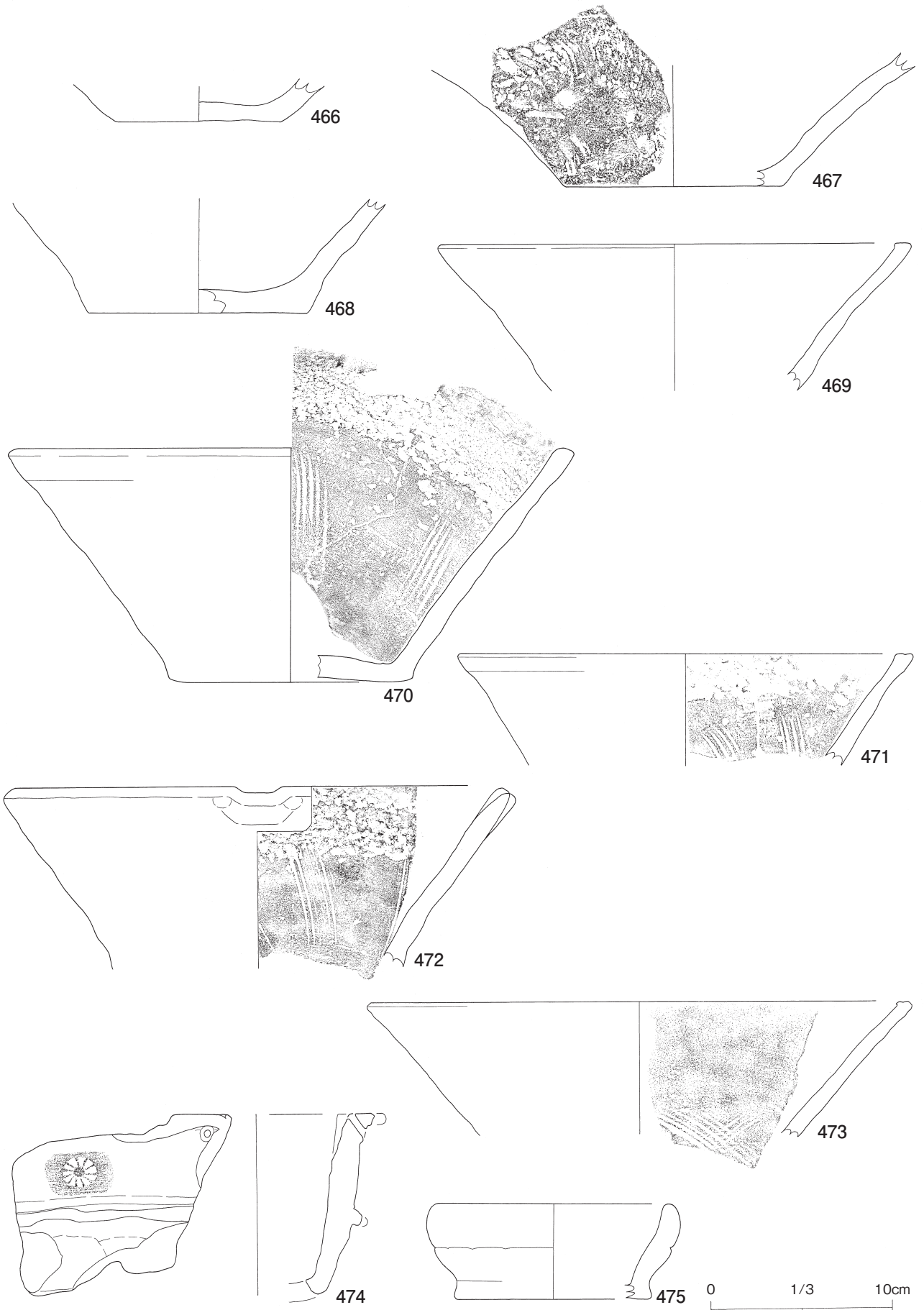
464



465

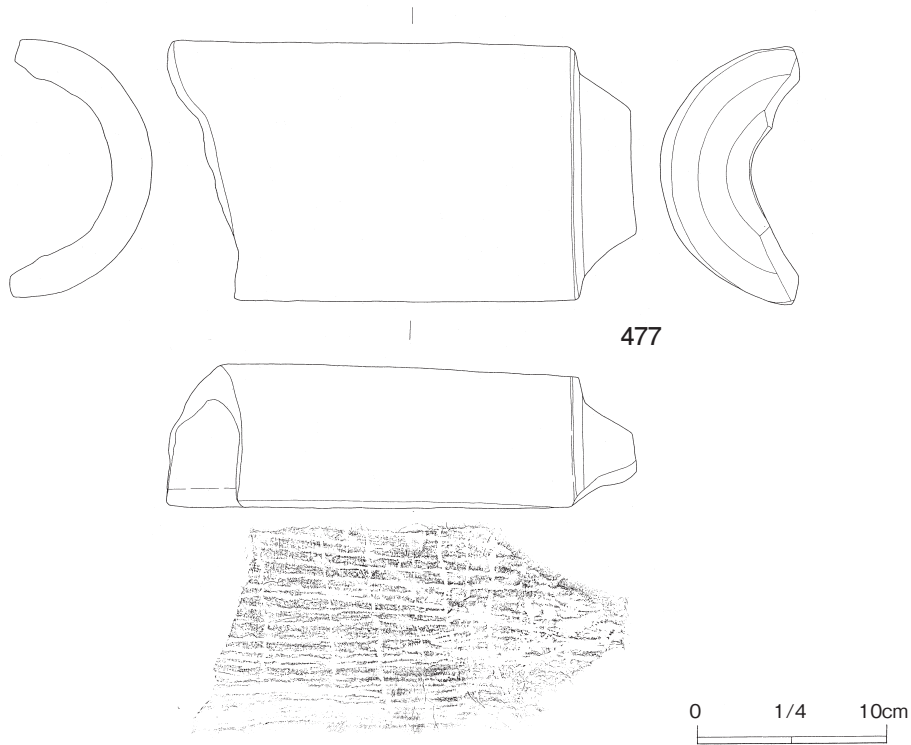
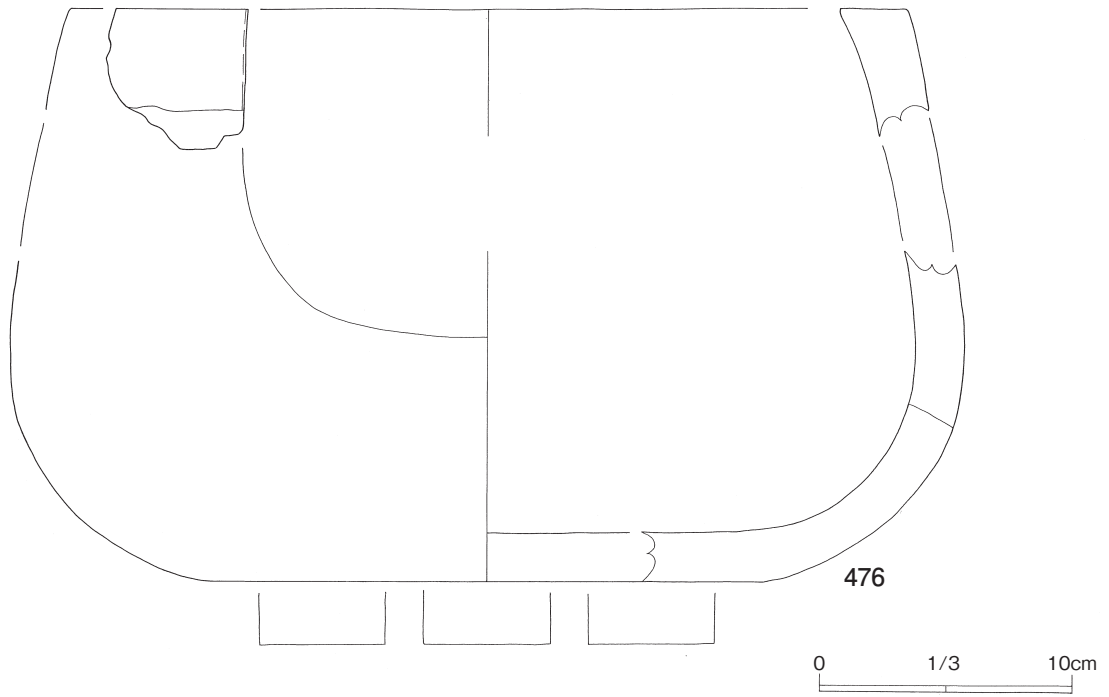
0 1/3 10cm

第51図 土器類24

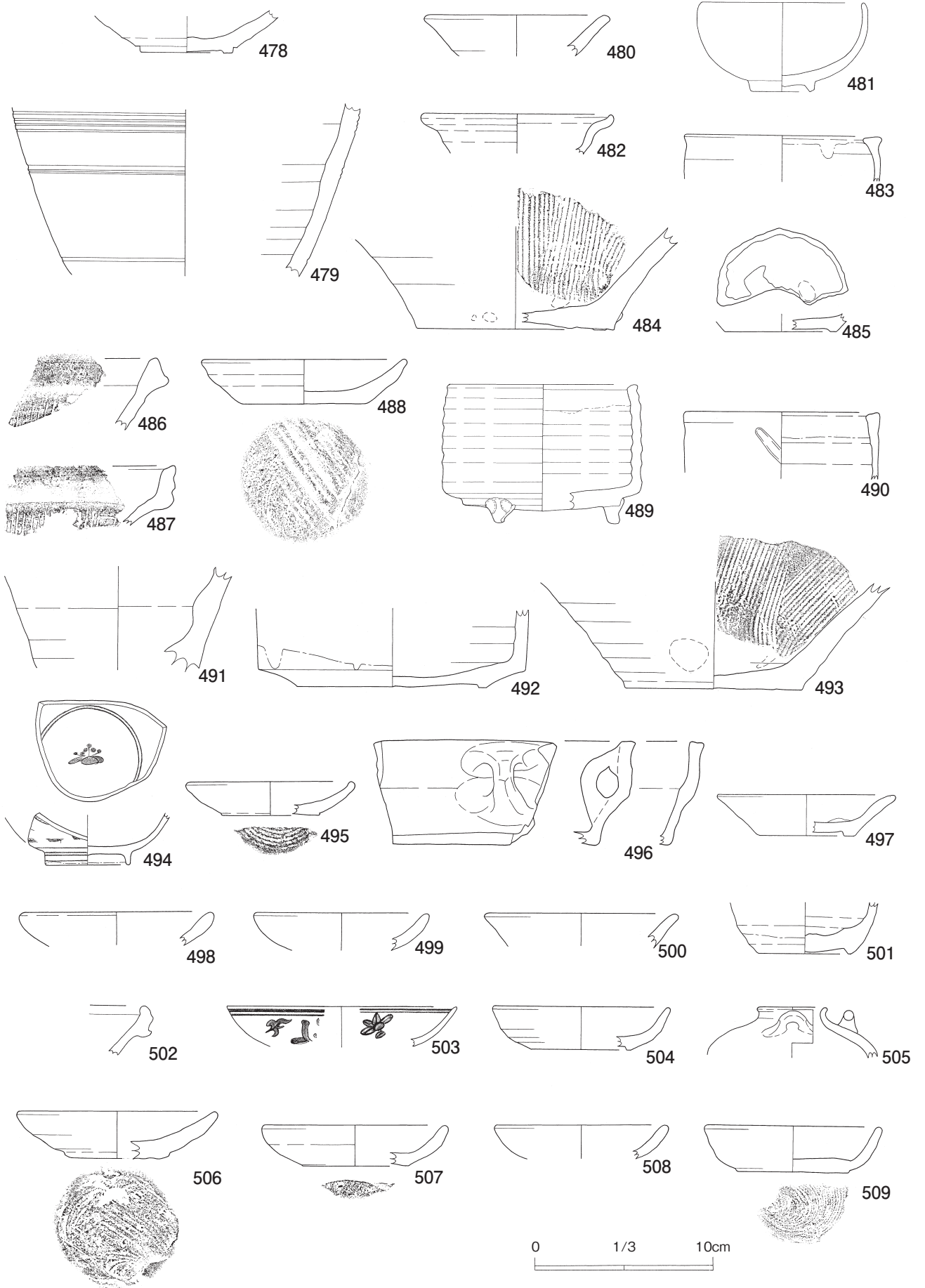


第52図 土器類25

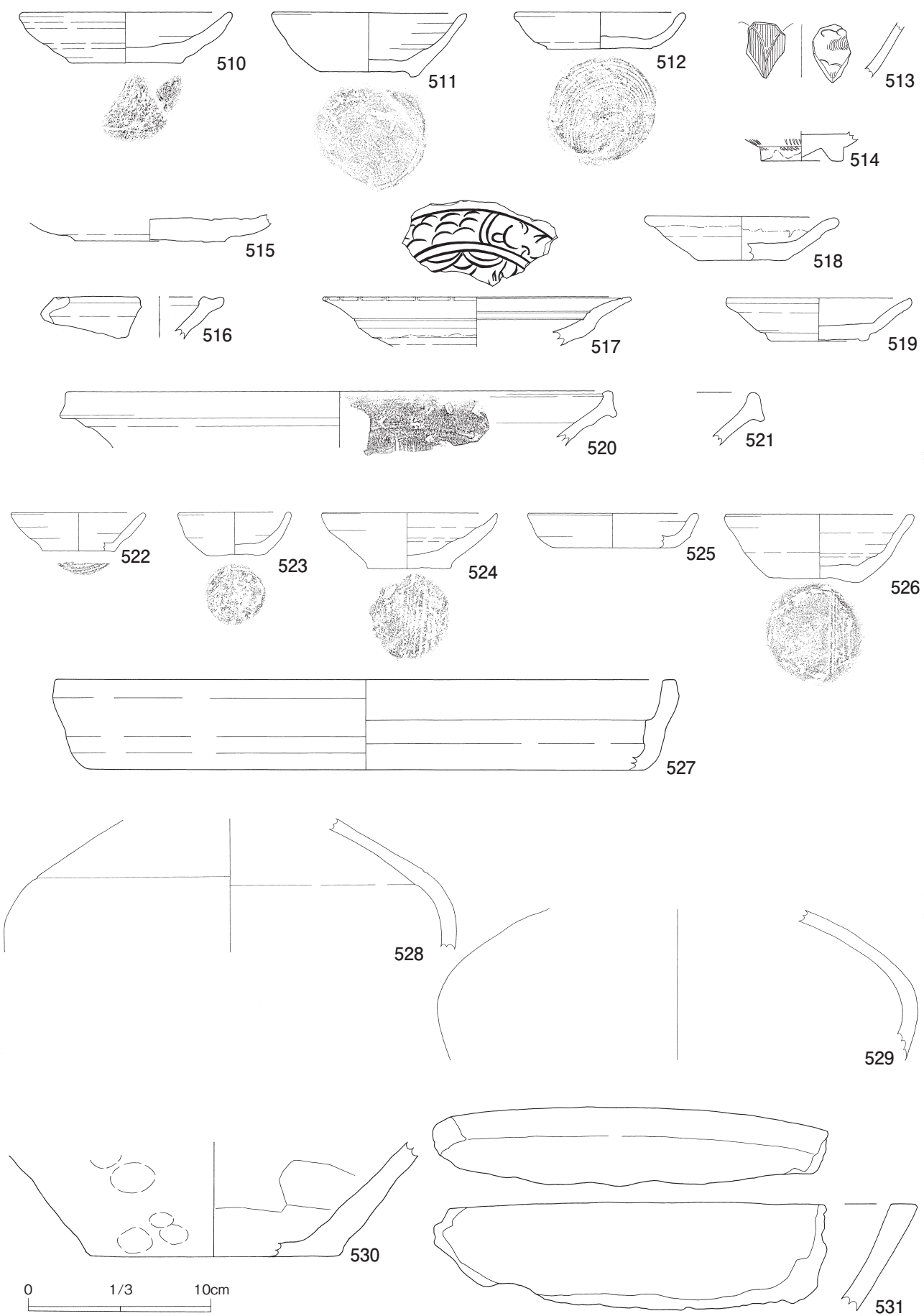




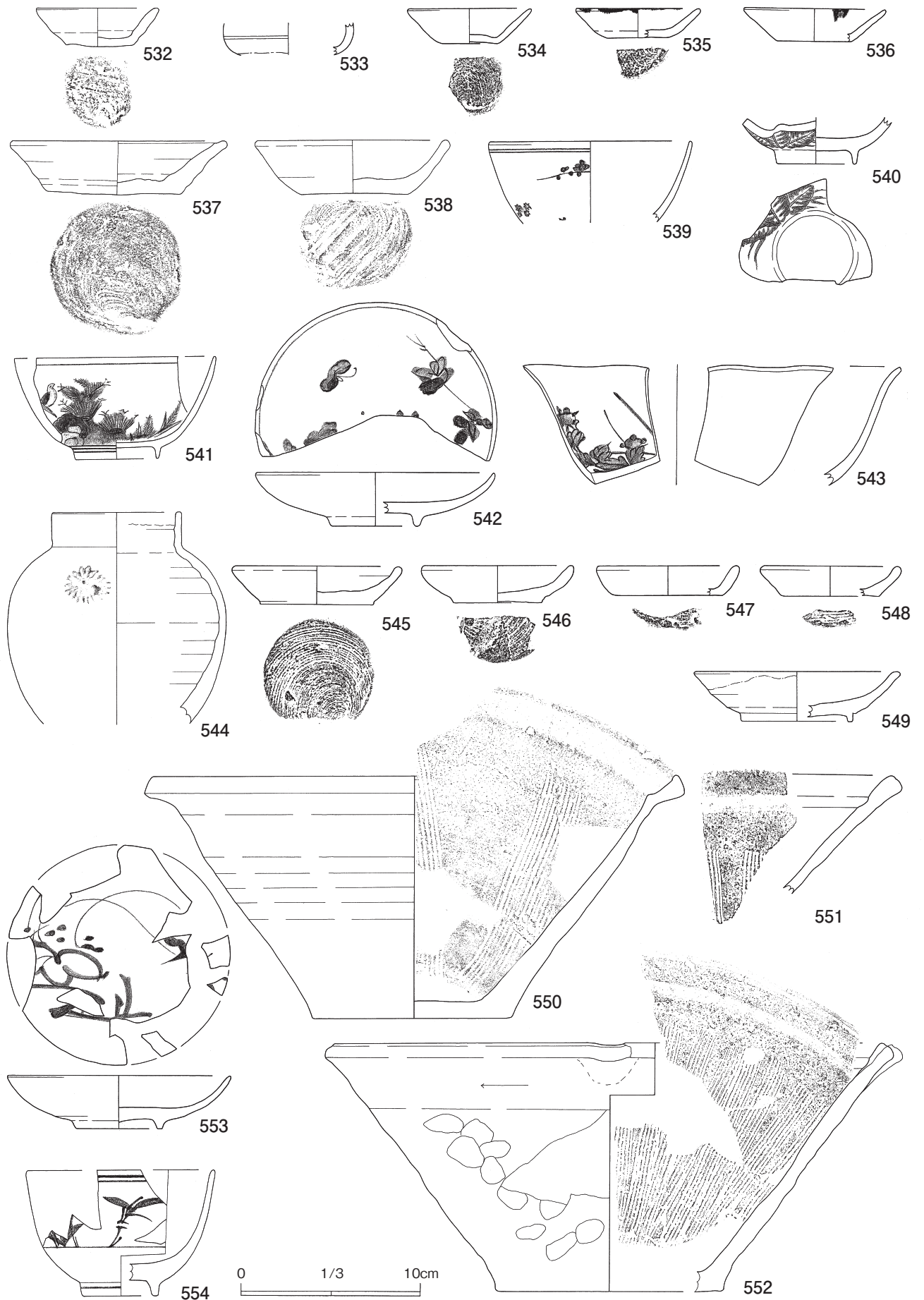
第53図 土器類26



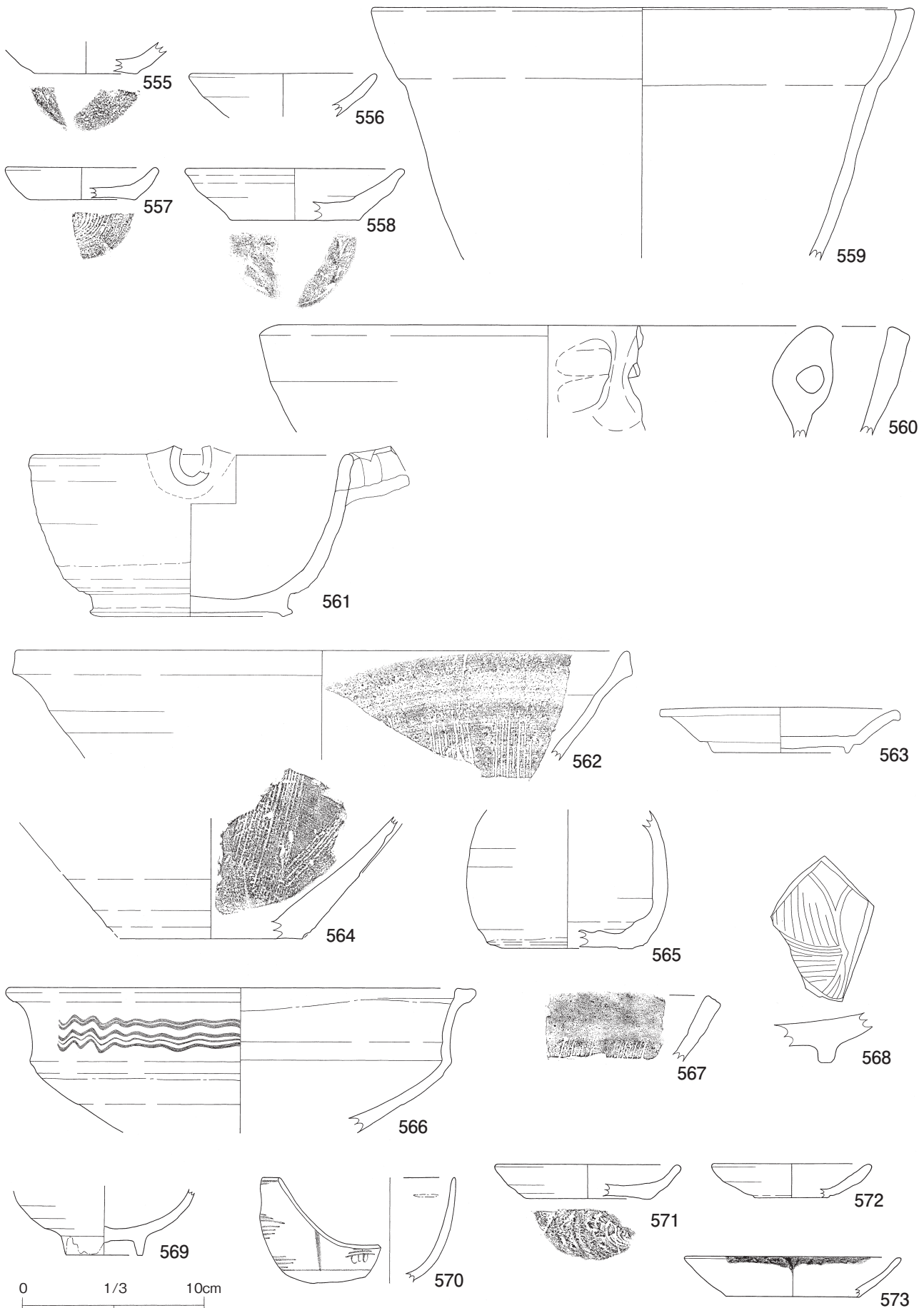
第54図 土器類27



第55図 土器類28

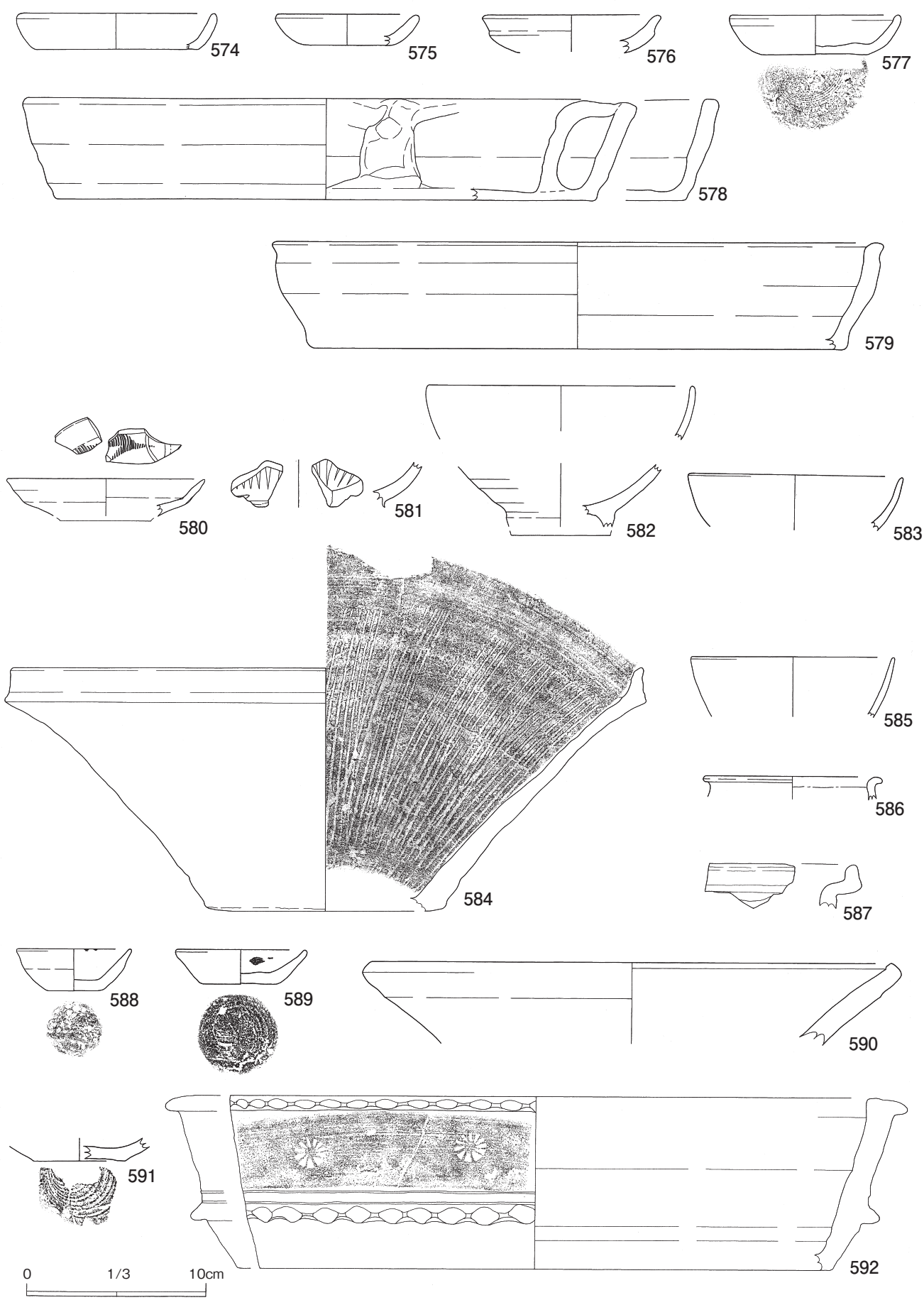


第56図 土器類29

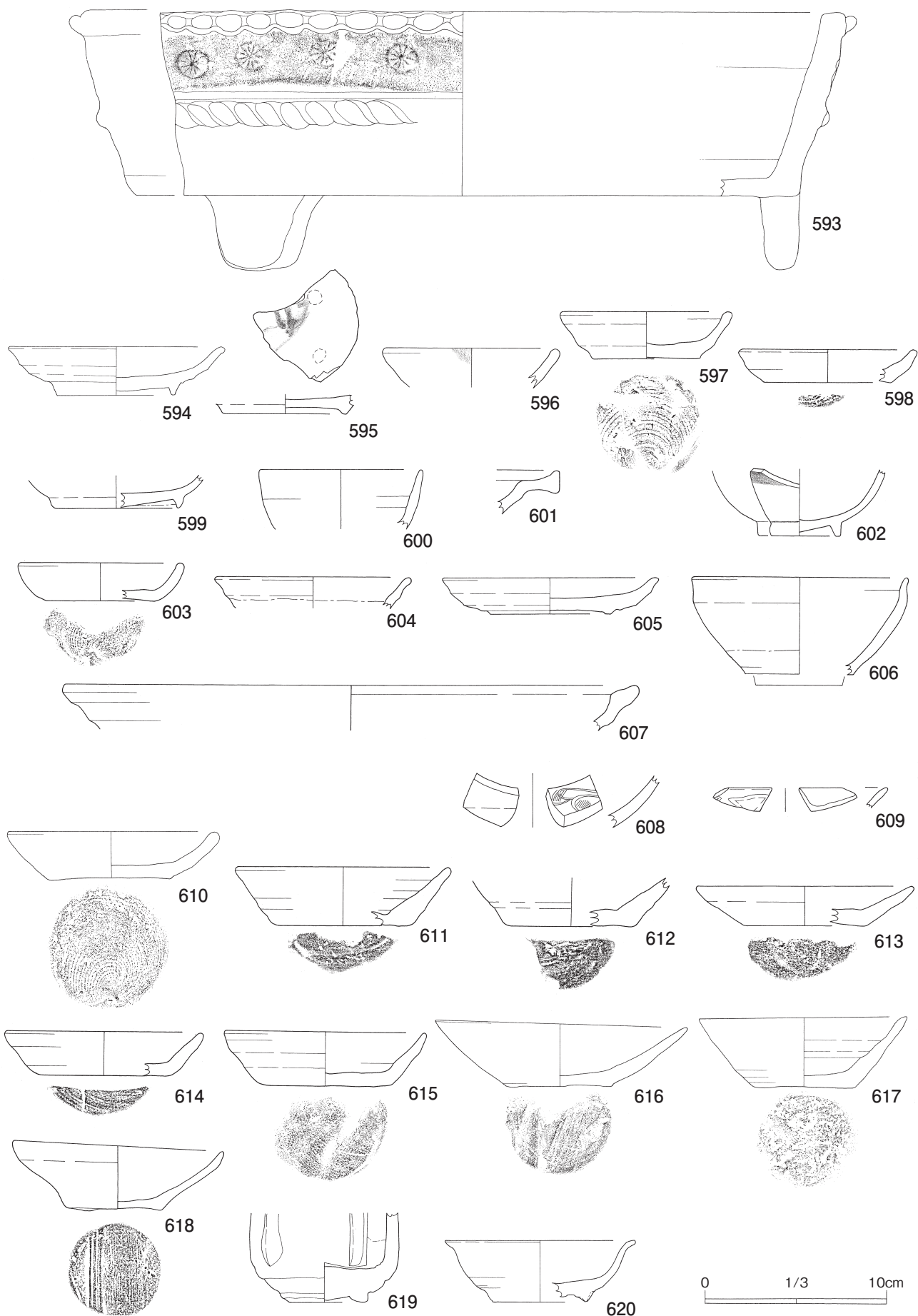


第57図 土器類30

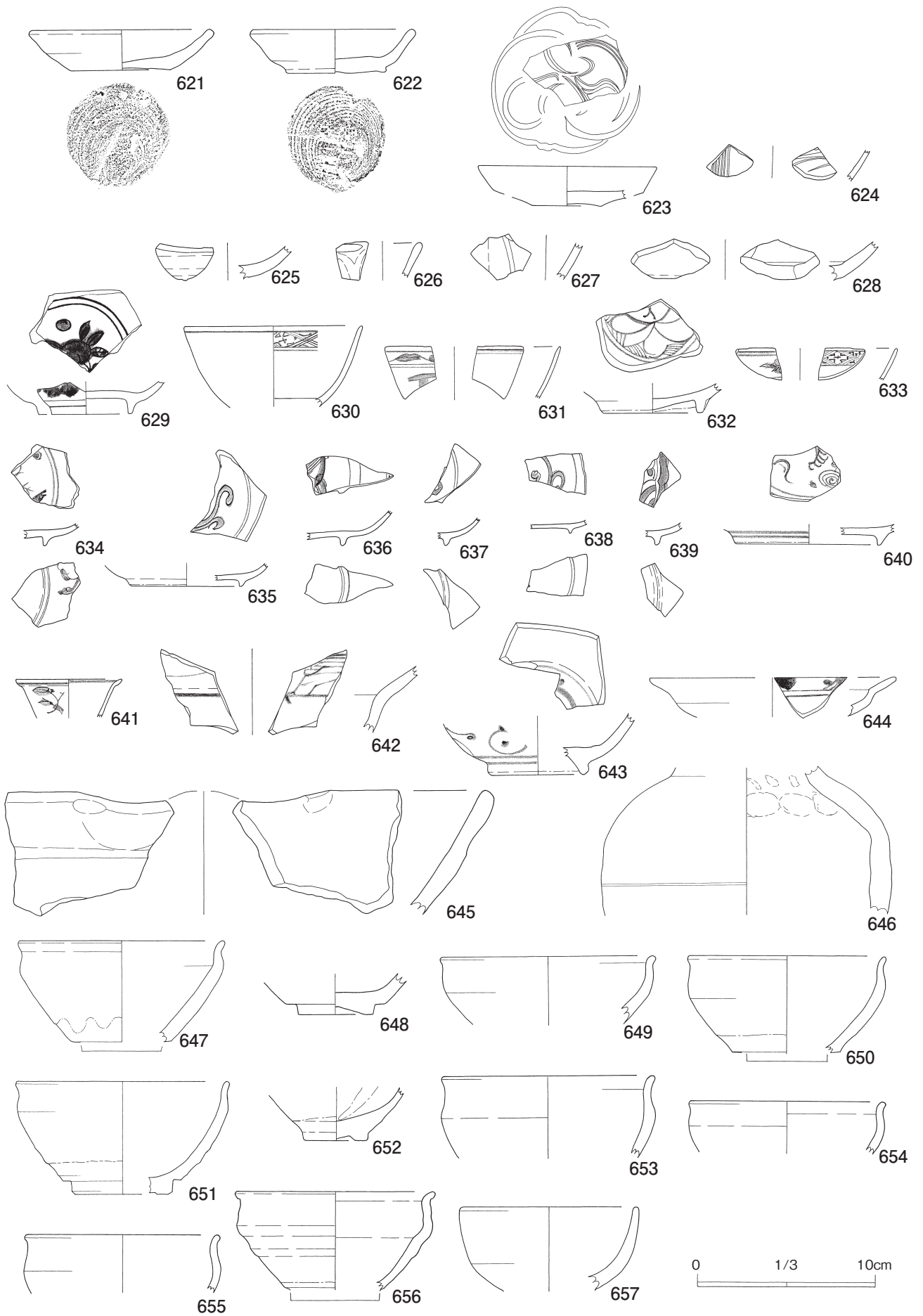




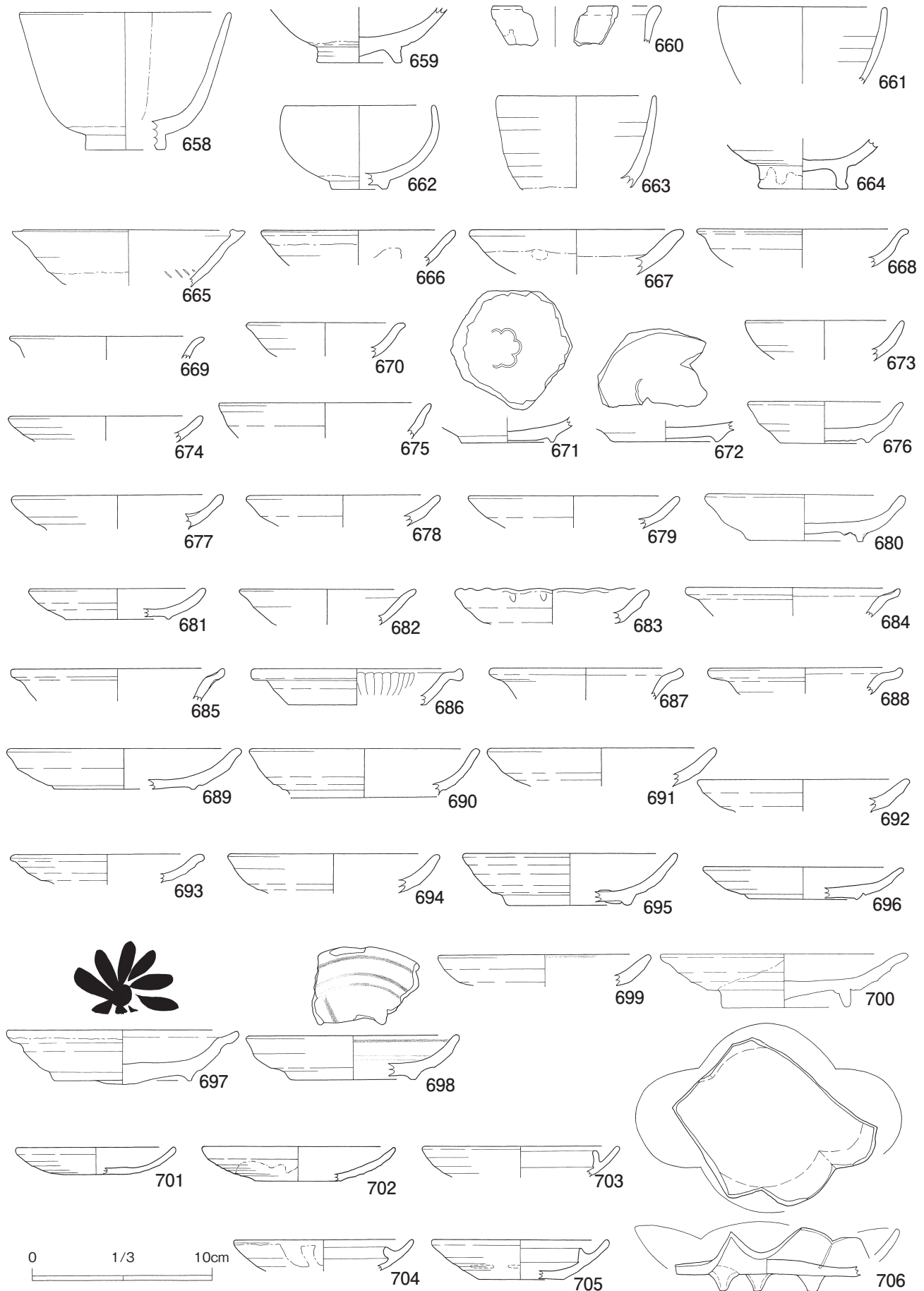
第58図 土器類31



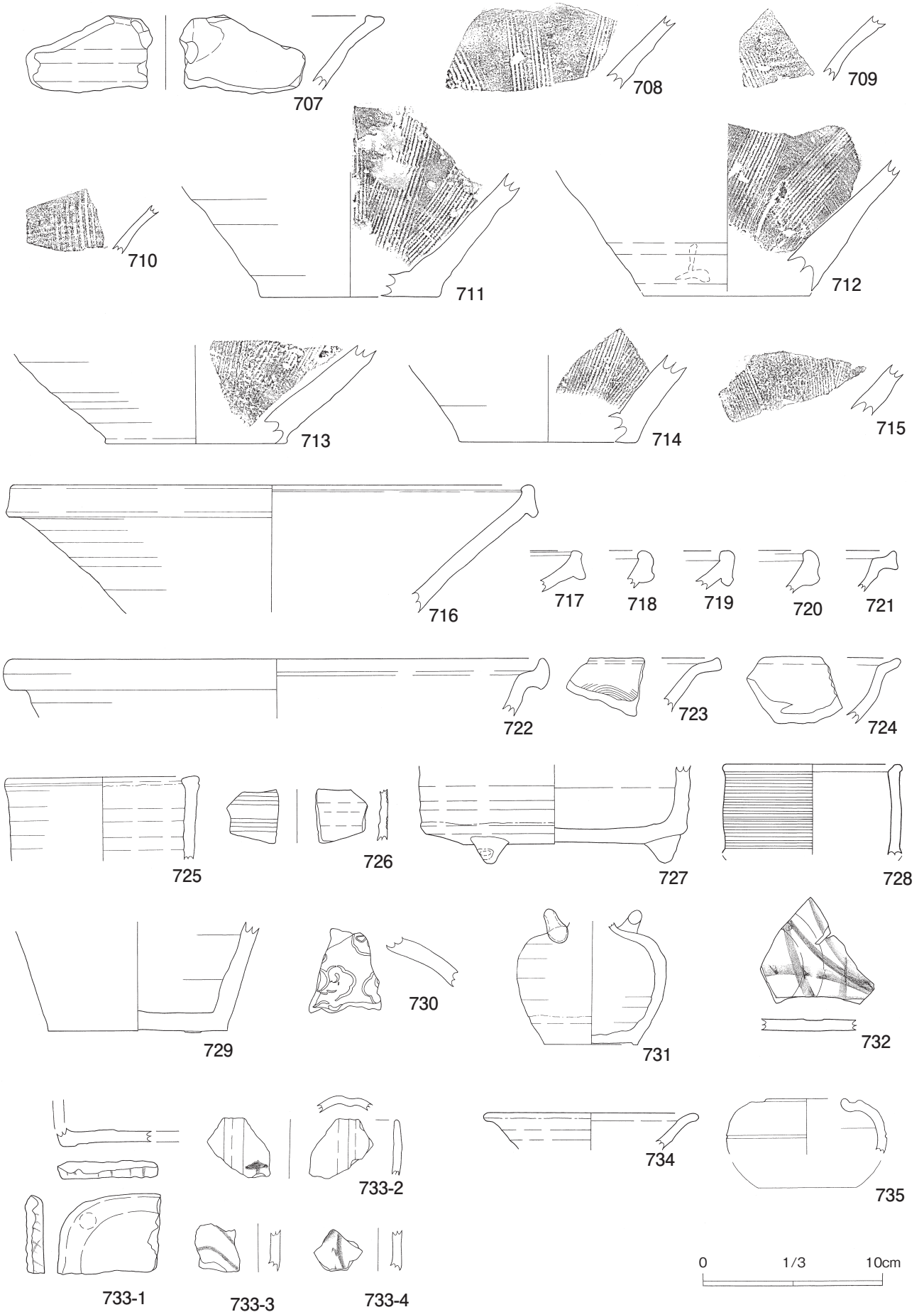
第59図 土器類32



第60図 土器類33

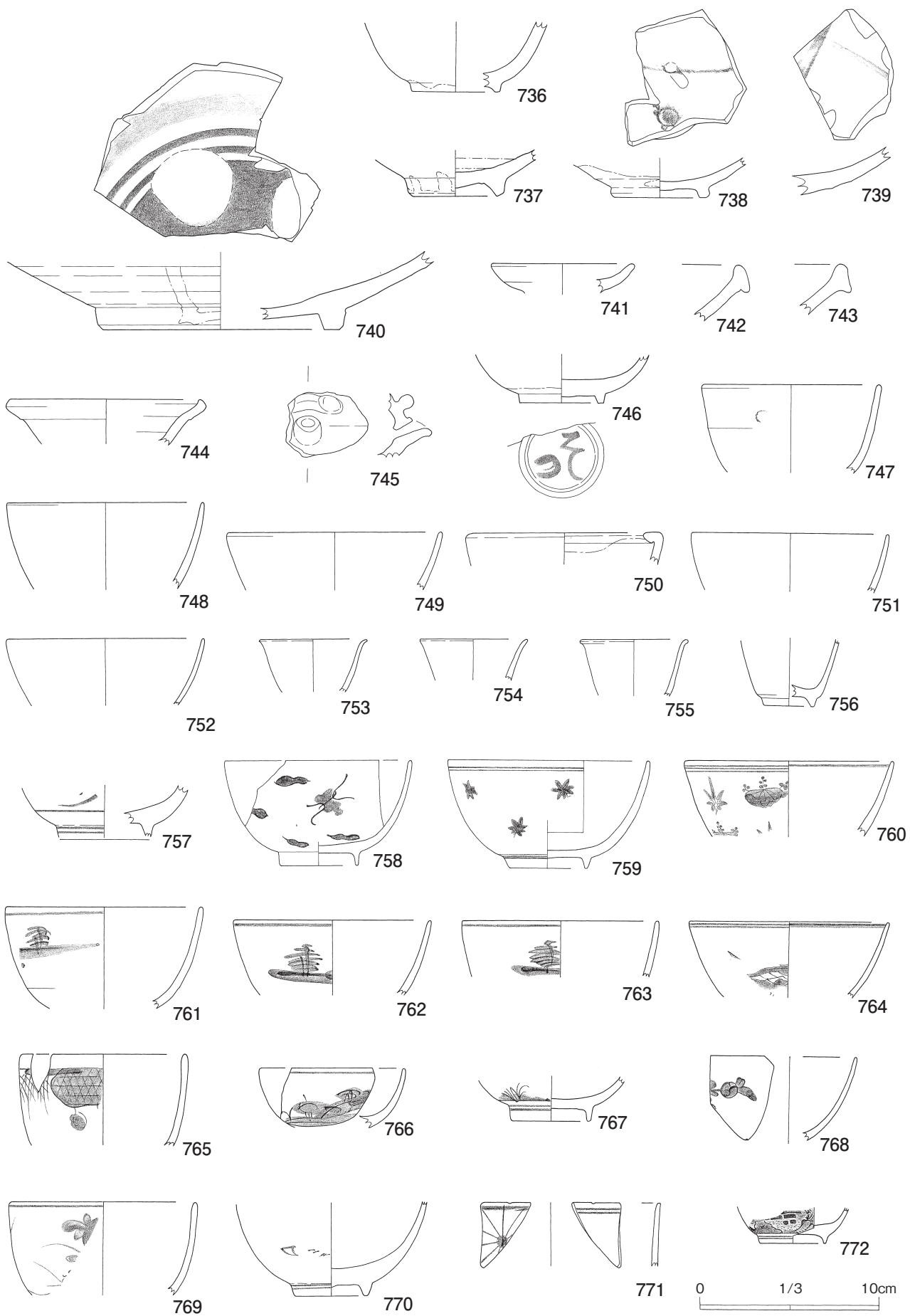


第61図 土器類34

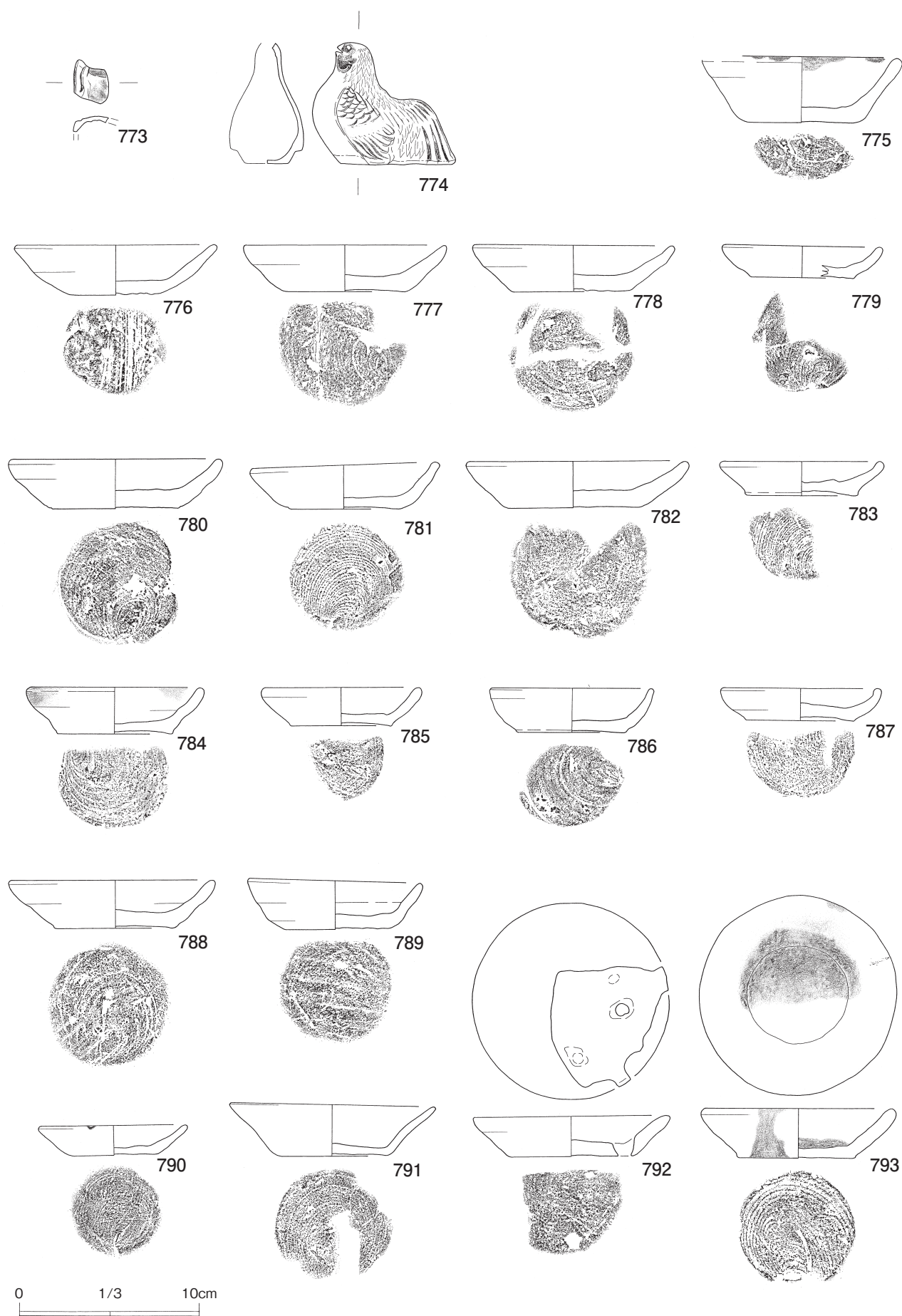


第62図 土器類35

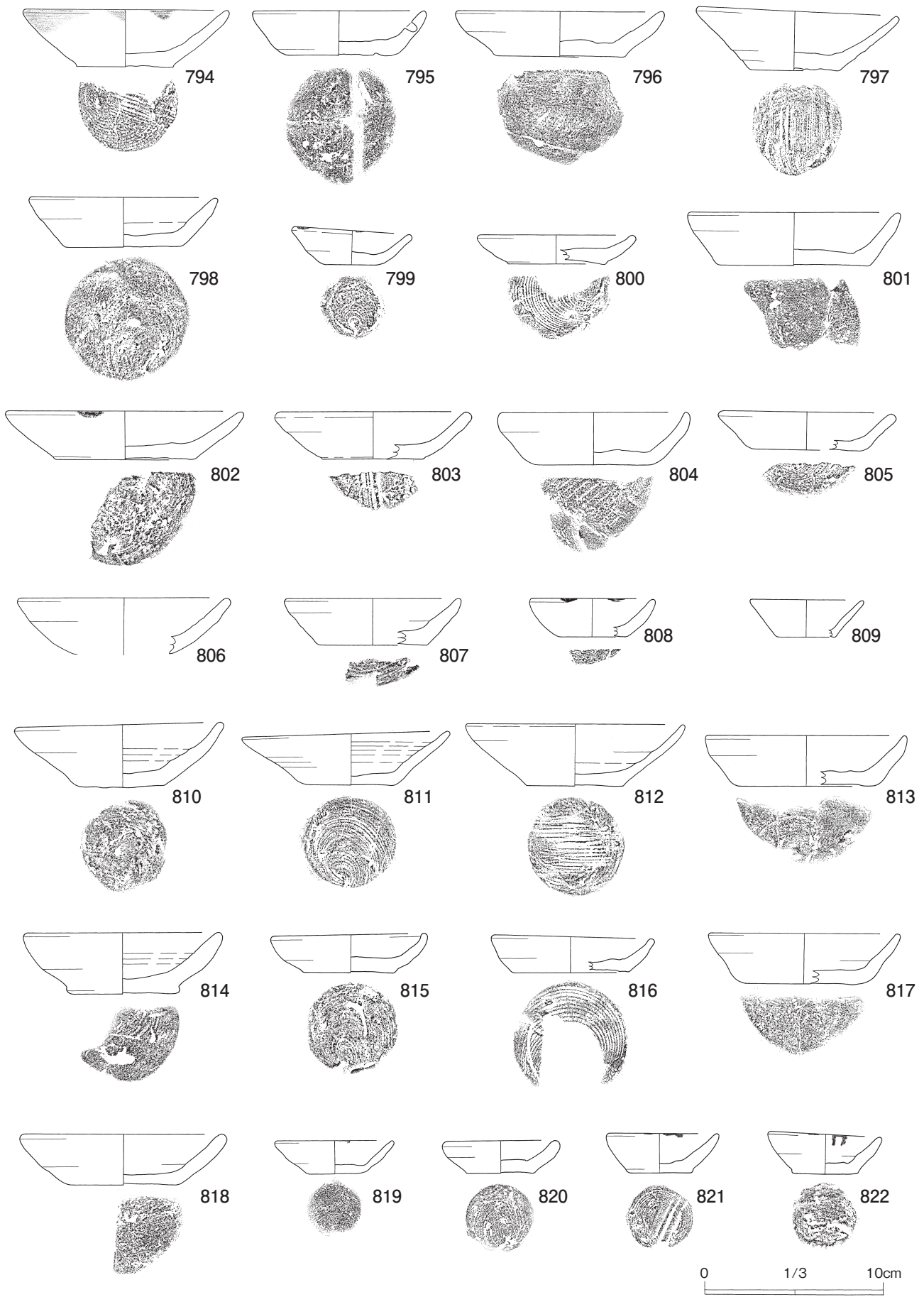




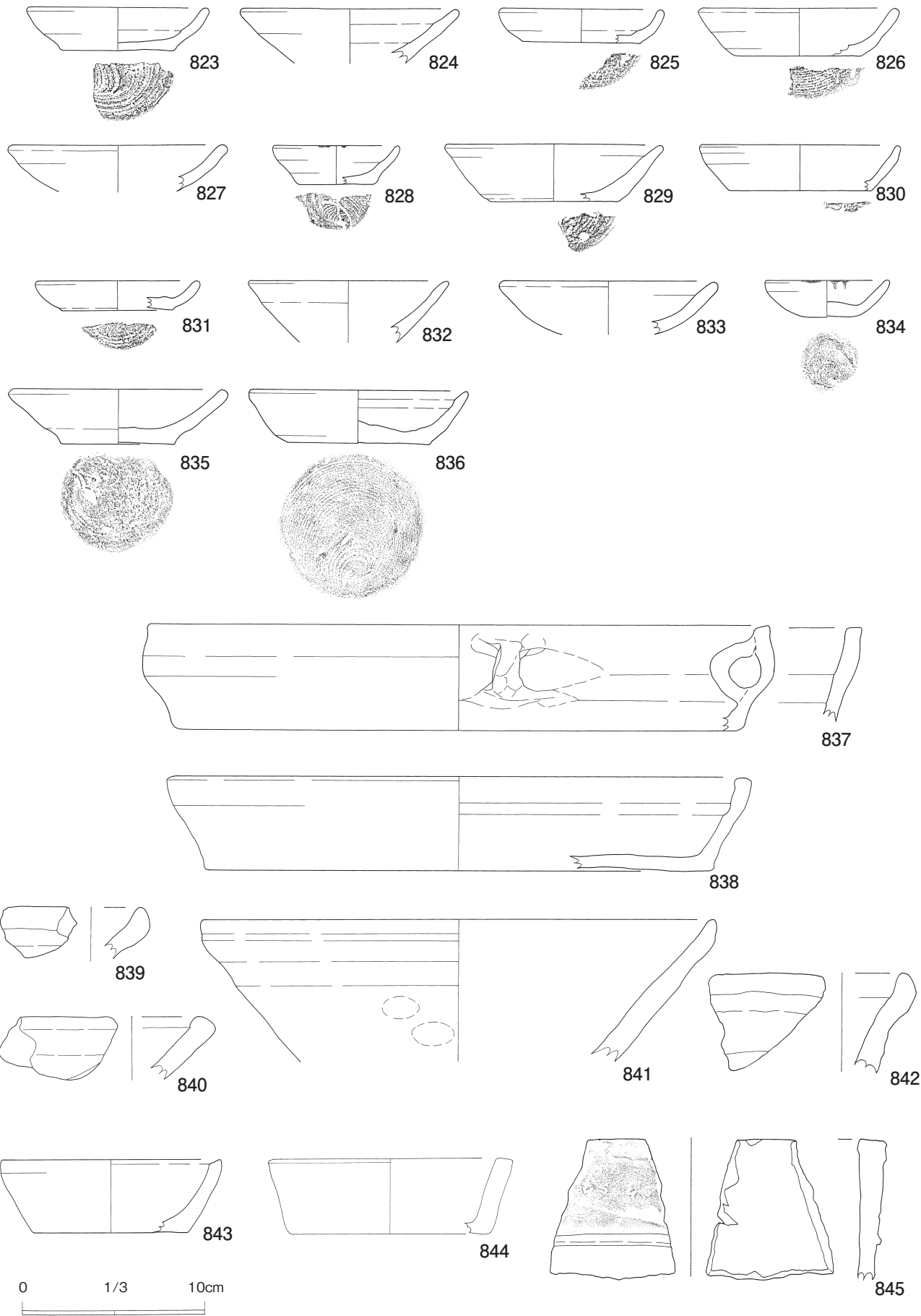
第63図 土器類36



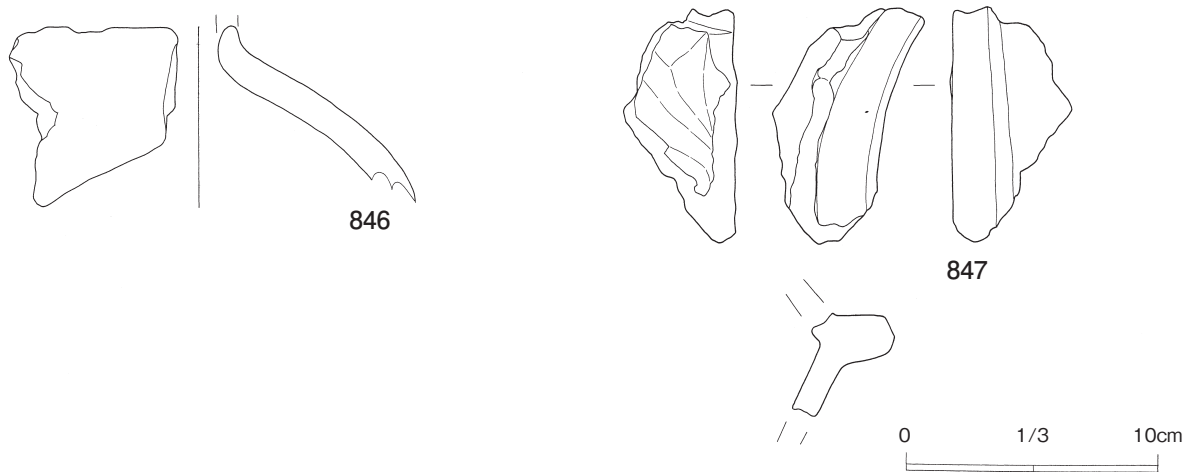
第64図 土器類37



第65図 土器類38



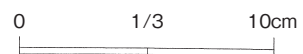
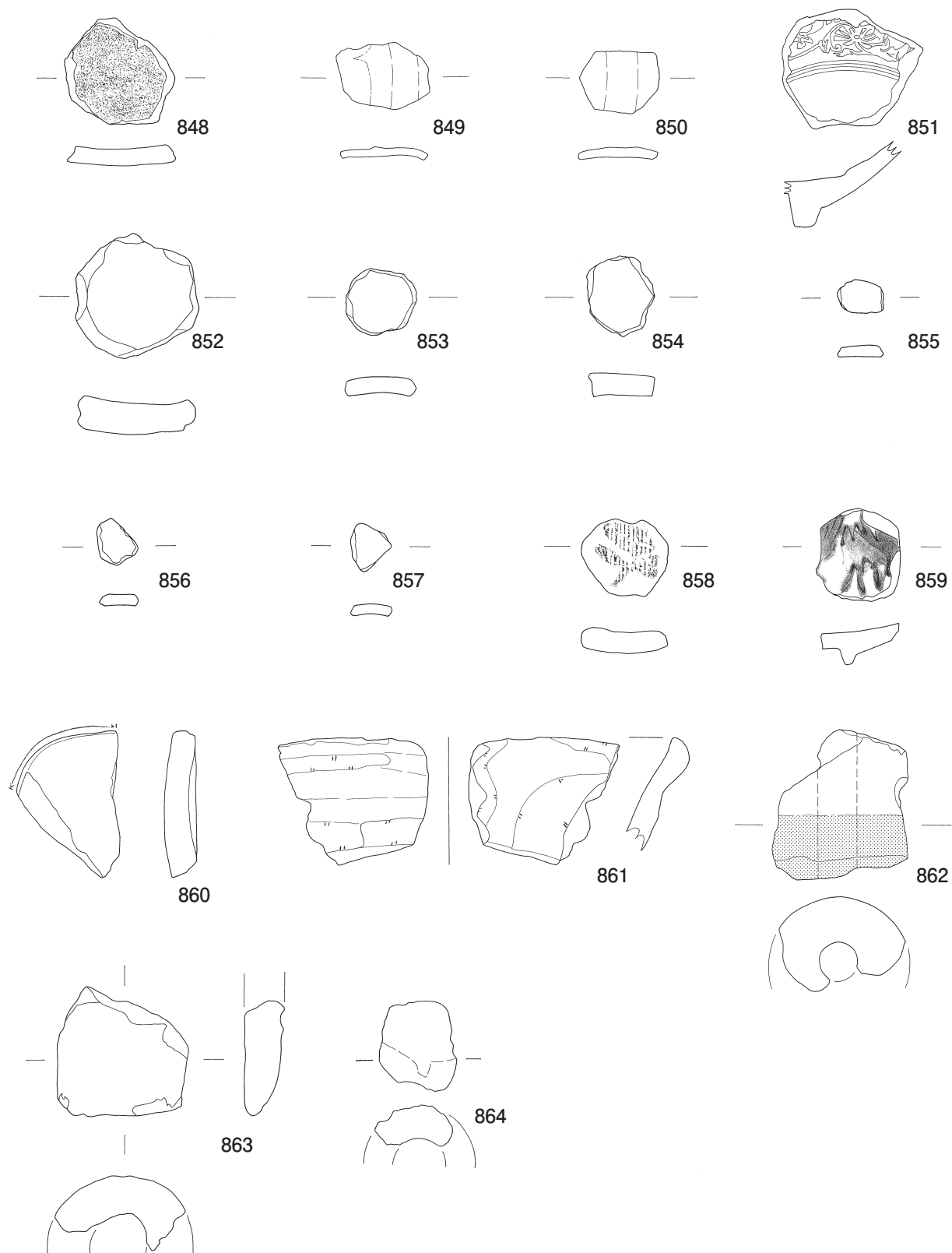
第66図 土器類39



第67図 土器類40

25) がIV期で17C 後半、V期は騎西城武家屋敷跡妙光寺1・2調査で肥前磁器の染付碗（くらわんか碗）と共伴する18C代のかわらけである。





第68図 土器類41 (土製品)

( ) は残存値、\* は不確定な推定復元値

法量の単位は cm

図版 No.	器種	産地	地区	出土地点	口径	底径	器高	形式	年代	器種 No.	備考
1	甕(胴部)	常滑	KB 大	1溝(C-8GNo. 48)	—	—	—			袋004	
2	甕	常滑	KB 大	1溝(C-8GNo. 34・35)、C-8GNo. 28、B-5GNo. 2、B-2GNo. 2、B-3GNo. 1	—	*14.0	—			袋005	
3	大鉢	肥前(唐津)	KB 大	1溝(D-8GNo. 57)	35.6	12.8	11.5		17c 後	町鉢025	三島
4	碗	肥前(磁器)	KB 大	1溝(D-8GNo. 56)	—	5.4	—		17c 中~後	町伊7・伊1	
5	鉢	肥前(磁器)	KB 大	1溝(D-8GNo. 11・30・34、D-8G)	19.7	7.2	8.6		17c 中~後	町伊5・6	網目文
6	片口鉢	在地	KB 大	1溝(C-8GNo. 33・37)、C-8GNo. 40	*28.5	—	—			鉢001	
7	かわらけ	在地	KB 大	1溝(D-8GNo. 22)	9.0	4.5	2.3		17c 後	K001	油煙
8	かわらけ	在地	KB 大	1溝(D-8GNo. 32)	8.9	6.0	1.9		17c 後	K002	
9	かわらけ	在地	KB 大	1溝(D-8GNo. 54)	8.5	4.9	1.8		17c 後	K003	
10	かわらけ	在地	KB 大	1溝(D-8GNo. 59、D-8G)、一括	*9.0	*5.6	1.9		17c 後	K004	
11	かわらけ	在地	KB 大	1溝(D-8GNo. 40)	8.9	5.7	2.0		17c 後	K005	油煙 内面黒色
12	かわらけ	在地	KB 大	1溝(D-8GNo. 24・26・36、D-8G)	8.3	4.8	2.0		17c 後	K006	
13	かわらけ	在地	KB 大	1溝(D-8GNo. 21)	*9.1	*5.4	1.9		17c 後	K007	
14	かわらけ	在地	KB 大	1溝(D-8GNo. 43・44)	*8.5	*5.4	2.4		17c 後	K009	
15	かわらけ	在地	KB 大	1溝(D-8GNo. 23)	*8.2	*5.0	2.2		17c 後	K010	
16	かわらけ	在地	KB 大	1溝(D-8GNo. 7)	9.5	5.0	2.1		17c 後	K011	
17	かわらけ	在地	KB 大	1溝(D-8GNo. 29)	9.0	5.8	1.9~2.1		17c 後	K012	底面穿孔
18	かわらけ	在地	KB 大	1溝(D-8GNo. 19)	9.0	5.8	1.7~2.1		17c 後	K013	
19	かわらけ	在地	KB 大	1溝(D-8GNo. 38)	9.0	6.2	1.9		17c 後	K014	
20	かわらけ	在地	KB 大	1溝(D-8GNo. 33)	9.0	5.8	1.8		17c 後	K015	
21	かわらけ	在地	KB 大	1溝(D-8GNo. 65)	9.0	5.8	2.2		17c 後	K016	
22	かわらけ	在地	KB 大	1溝(D-8GNo. 49)	8.6	5.0	1.8		17c 後	K017	穿孔
23	かわらけ	在地	KB 大	1溝(D-8GNo. 46)	9.4	5.5	2.1		17c 後	K018	油煙 内面黒色
24	かわらけ	在地	KB 大	1溝(D-8GNo. 47)	*8.5	5.6	2.4		17c 後	K019	
25	かわらけ	在地	KB 大	1溝(D-8GNo. 27・41)	*9.0	*5.0	1.8		17c 後	K020	
26	青磁碗	龍泉窯系中国	KB 大	C-4G	—	—	—	B1(I-5)		青001	
27	青磁碗	中国	KB 大	C-4GNo. 1	—	—	—			青002	
28	青磁碗	龍泉窯系中国	KB 大	(西)	—	—	—	A4(I-4)		青003	
29	青磁連弁文碗	龍泉窯系中国	KB 大	一括	—	—	—	B0(III)		青004	
30	青磁碗	龍泉窯系中国	KB 大	C-6G	—	*4.0	—	B0(III)		青005	
31	青磁碗	龍泉窯系中国	KB 大	C-6G	—	—	—	B1(I-5)		青006	
32	青磁碗	龍泉窯系中国	KB 大	B-5GNo. 1、B-4G	—	—	—	B1(I-5)		青007	
33	青磁碗	龍泉窯系中国	KB 大	一括	—	—	—	B1(I-5)		青008	
34	白磁碗	中国	KB 大	B-5GNo. 7	—	*5.4	—	IX		白001	
35	白磁碗	中国	KB 大	B-2GNo. 4	—	—	—			白002	
36	白磁口禿皿	中国	KB 大	C-4GNo. 9	*15.0	—	—	IX		白003	
37	白磁口禿皿	中国	KB 大	(西)	*12.0	*6.0	—	IX		白004	
38	白磁碗	中国	KB 大	C-4GNo. 5	—	—	—			白005	
39	甕	瀬美	KB 大	B-8GNo. 23	—	—	—			袋001	
40	甕	常滑	KB 大	D-8GNo. 63	—	—	—			袋002	
41	天目(白天目)	瀬戸美濃	KB 大	C-7GNo. 4	—	—	—	登2・3		天001	
42	端反碗	瀬戸美濃	KB 大	一括	*8.0	—	—		18c 後~19c 中	碗001	
43	丸碗	瀬戸美濃	KB 大	一括	*15.2	—	—		18c	碗003	
44	志野皿	瀬戸美濃	KB 大	B-6G、一括	*12.6	*7.4	2.1	大4		皿001	
45	折縁皿	瀬戸美濃	KB 大	A-2G	*11.0	—	—	大3		皿003	
46	花瓶	瀬戸美濃	KB 大	D-8GNo. 71	—	7.0	—	古中		袋003	
47	搦鉢	瀬戸美濃	KB 大	(西)	—	—	—	大4		鉢002	
48	京焼風陶器碗	肥前(陶器)	KB 大	一括	—	—	—		17c 後~18c 前	碗002	
49	灯明皿	志戸呂	KB 大	D-8GNo. 42	*11.6	*6.0	—		17c 後	皿002	
50	丸碗	肥前(磁器)	KB 大	一括	*10.4	—	—		19c 前	伊004	
51	筒形碗	肥前(磁器)	KB 大	B-1GNo. 1	*7.2	—	—		18c 後	伊002	
52	德利	肥前(磁器)	KB 大	D-8GNo. 12・15、一括	2.7	—	—		17c 後	伊003	
53	かわらけ	在地	KB 大	B-6GNo. 5、C-8G	*9.2	*6.4	2.3			K008	
54	ほうろく	在地	KB 大	一括	—	—	2.7			H001	
55	卸皿	瀬戸美濃	KB1	1溝(A-16G)、10井(B-12G)	—	*9.0	—	古前	13c	町皿175	
56	片口鉢	在地	KB1	1溝(A-15GNo. 2・3、A-16GNo. 1)、12溝(A-12G、B-16GNo. 18、B-18G)、C-15GNo. 6、? GNo. 2、	28.0	—	—		14c 前	町鉢065	瓦質
57	搦鉢	瀬戸美濃	KB1	2溝(A-13GNo. 81)	*34.0	—	—		18c	鉢001	
58	碗	肥前(磁器)	KB1	2溝(A-13G)、12溝(A-11G)	—	4.5	—		17c 末	伊018	
59	瓦	在地	KB1	2溝(A-13GNo. 83)	—	—	—			瓦002	
60	碗	瀬美	KB1	3溝(A-13G)	—	*7.0	—			碗012	
61	碗	肥前(磁器)	KB1	3溝(A-13G)	*12.0	—	—		17c 中~後	伊012	
62	搦鉢	瀬戸美濃	KB1	5溝(A-10G)、12溝、A-12GNo. 90・99、B-7GNo. 68、B-9GNo. 57、A-?G	*30.8	9.4	12.0	大4、II	16c 末~ 17c 初	町鉢016	
63	かわらけ	在地	KB1	5溝(A-6G)	*9.0	*5.2	2.0		17c	K017	
64	ほうろく	在地	KB1	7溝(A-7G)、12溝(A-7G)、A-6G、A-6GNo. 115、(C-6GNo. 74)?	*35.8	*31.8	5.3			H022	
65	尾呂茶碗	瀬戸美濃	KB1	8溝(A-8GNo. 106)、12溝(B-6G)	*12.6	5.8	7.6		18c 前	町碗005	

第10表 土器類一覽表 1

( ) は残存値、\* は不確定な推定復元値

法量の単位は cm

図版 No.	器種	産地	地区	出土地点	口径	底径	器高	形式	年代	器種 No.	備考
66	大皿	肥前(唐津)	KB1	12溝(B-6G)、8溝(A-6GNo.113)	—	10.0	—	—	17c 後	皿015	
67	皿	肥前(磁器)	KB1	8溝(A-7G)	—	*5.2	—	—	17c 中	伊028	
68	かわらけ	在地	KB1	8溝(A-5G)	9.2	6.0	2.3~2.5	—	—	K025	
69	ぼうろく	在地	KB1	8溝(A-6GNo.106・9?)、A-6G	*35.0	*31.0	5.5~6.1	—	17c 前	H052	
70	ぼうろく	在地	KB1	8溝(A-6GNo.104・6?)、A-6GNo.37	*35.6	*34.0	5.5	—	—	H054	
71	灯明皿	志戸呂	KB1	9・12溝合流、B-19G	10.6	5.7	2.0	—	18c	町皿004	
72	碗	肥前(磁器)	KB1	9・12溝合流、B-17G、B-18G、B-19GNo.20・23・27	*8.6	3.7	5.0	—	17c 中~後	町伊002	網目文
73	碗	肥前(磁器)	KB1	9・12溝合流、B-19G、B-19GNo.18、一括	*9.2	3.3	5.0	—	17c 中~後	町伊003	網目文
74	徳利	瀬戸美濃	KB1	10溝(C-19G)、C-19GNo.12、B-19G	—	*12.0	—	大3	—	袋018	
75	青磁蓮弁文碗	龍泉窯系中国	KB1	12溝	*13.0	—	—	B1(I-5)	—	町青018	
76	青磁蓮弁文碗	龍泉窯系中国	KB1	12溝(B-5G)	—	—	—	B1(I-5)	—	町青019	
77	青磁鉢	龍泉窯系中国	KB1	12溝(A-?G)	—	—	—	—	—	青004	
78	青磁鉢	龍泉窯系中国	KB1	12溝(A-4G)	*22.8	—	—	—	—	町青072	
79	白磁小坏	中国	KB1	12溝(A-8G)	*7.6	—	—	—	—	白001	
80	白磁皿	中国	KB1	12溝(A-9G)	*9.8	—	—	C1	—	白003	
81	白磁大皿	中国	KB1	12溝(A-6G)、A-7GNo.7	—	—	—	—	—	白006	
82	山茶碗	渥美	KB1	12溝(A-4G)、A-11GNo.37	*14.0	—	—	湖西5	13c 前	碗005	
83	山茶碗	尾張	KB1	12溝(B-7G)	—	—	*6.5	—	13c 前	碗020	
84	片口鉢	常滑	KB1	12溝(A-12G)、A-9GNo.87、A-10GNo.124、A-11G、A-11GNo.62・88・92、A-15G、B-12GNo.16	*38.0	*15.2	12.7	8、II	14c 後	町鉢062	
85	甕	常滑	KB1	12溝(A-6GNo.108)	—	—	—	—	—	袋017	
86	天目	瀬戸美濃	KB1	12溝(C-20GNo.24、B-18GNo.14)、KB3 2溝 No.293	11.0	4.7	6.5	登1	17c 初~前	町天008	
87	天目	瀬戸美濃	KB1	12溝(A-9G、B-7G)、A-9GNo.96、一括	11.9	4.3	6.5	登1	17c 初~前	町天017	
88	天目	瀬戸美濃	KB1	12溝、17壙(B-7G)、B-7GNo.69、B-7G	11.0	*4.9	6.4	大3後	16c 後	町天018	
89	天目	瀬戸美濃	KB1	12溝(A-10G、A-13G)、A-8GNo.54、A-12GNo.94、A-13GNo.57	*11.2	4.3	6.2	大4前	16c 末	町天031	
90	天目	瀬戸美濃	KB1	12溝(B-9G)	*11.6	*4.6	5.6	大4後	16c 末~17c 初	町天037	
91	天目	瀬戸美濃	KB1	12溝(A-9G)	*11.0	—	—	大4	—	天001	
92	天目	瀬戸美濃	KB1	12溝(B-5G)	*12.0	—	—	大3	—	天002	
93	天目	瀬戸美濃	KB1	12溝(B-6G)	*11.0	—	—	登2	—	天003	
94	天目	瀬戸美濃	KB1	12溝(A-9G)、B-8GNo.28	*11.0	—	—	大3	—	天014	
95	鉄絵碗	瀬戸美濃	KB1	12溝(B-17GNo.6)	*12.8	*5.0	7.5	登1	17c 初~前	町碗004	
96	総織部丸碗	瀬戸美濃	KB1	12溝(B-12G、A-13G)、A-13GNo.61	—	*5.0	—	登1	—	碗015	
97	せんじ	瀬戸美濃	KB1	12溝(A-6G)	—	—	—	—	18c 後	碗006	
98	ヒダ皿	瀬戸美濃	KB1	12溝(B-12GNo.44)	10.6	6.2	1.7	大4後	16c 末~17c 初	町皿022	碁盤 内ハゲ
99	丸皿	瀬戸美濃	KB1	12溝(A-9G)、A-5GNo.9、A-10GNo.32	*10.4	5.7	2.5	大3	16c 後	町皿044	
100	丸皿	瀬戸美濃	KB1	12溝(A-12G)、A-12GNo.55	*11.0	5.6	2.5	大2	16c 前~中	町皿045	銅縁釉
101	志野丸皿	瀬戸美濃	KB1	12溝(A-8G)、C-7G、A-7G	*11.2	*7.0	2.0	登2	—	皿001	
102	皿	瀬戸美濃	KB1	12溝(A-12G)	*10.2	—	—	大3	—	皿008	
103	志野丸皿	瀬戸美濃	KB1	12溝(A-9G)	*11.0	*7.3	2.0	登1	—	皿042	
104	丸皿	瀬戸美濃	KB1	12溝(A-4G)、B-2GNo.21	*11.0	—	—	大3	—	皿048	
105	皿	瀬戸美濃	KB1	12溝(B-18GNo.9)	*11.2	*4.8	2.8	—	17c 末~18c	皿004	
106	灯明皿	瀬戸美濃	KB1	12溝(A-9G)	*11.0	—	—	—	18C	皿005	
107	蘇皿 又は 楯淵	瀬戸美濃	KB1	12溝	—	—	—	古後IV	—	皿050	
108	大皿	瀬戸美濃	KB1	12溝	—	12.0	—	大3後~4前	—	皿002	
109	黄瀬戸鉢	瀬戸美濃	KB1	12溝(A-9G)	—	—	—	登1・2	17c 中	鉢009	
110	搦鉢	瀬戸美濃	KB1	12溝(A-13G)	*32.2	—	—	大3、I	16c 中~末	町鉢204	
111	搦鉢	瀬戸美濃	KB1	12溝(A-11G)	—	—	—	大3後	16c 後	町鉢224	
112	搦鉢	瀬戸美濃	KB1	12溝(No.111、一括)、A-9GNo.97	*32.0	10.2	12.0	登1ヲ	17c 初~前	町鉢017	
113	搦鉢	瀬戸美濃	KB1	12溝(A-13G)	—	—	—	大3、I	16c 後	町鉢235	
114	搦鉢	瀬戸美濃	KB1	12溝(B-15GNo.13)	*32.8	—	—	—	18c 初~中	町鉢114	
115	搦鉢	瀬戸美濃	KB1	12溝(B-15GNo.26)	—	—	—	—	18c 初~中	町鉢158	
116	搦鉢	瀬戸美濃	KB1	12溝(B-15GNo.10)	—	—	—	登1、II	17c 初~前	町鉢156	
117	搦鉢	瀬戸美濃	KB1	12溝(A-13G、B-15GNo.29)、B-15GNo.1、A-11GNo.117、A-12G、A-15G、C-12G	*28.8	*9.2	12.2	大3前、I	16c 中	町鉢124	
118	搦鉢	瀬戸美濃	KB1	12溝(B-5GNo.50)、B-3G、B-5GNo.13	—	*10.6	—	大2~4	16c	鉢020	
119	搦鉢	瀬戸美濃	KB1	12溝(A-7G)、9井、A-8GNo.69	—	10.8	—	大1	16c	鉢029	
120	搦鉢	瀬戸美濃	KB1	12溝(B-18GNo.11)	—	*9.0	—	大4	—	鉢019	
121	搦鉢	瀬戸美濃	KB1	12溝(B-18GNo.4)、23P(C-17)	*33.6	—	—	—	18c 前	鉢017	
122	徳利	瀬戸美濃	KB1	12溝(A-9G)	—	—	—	登1・2	—	袋002	
123	徳利	瀬戸美濃	KB1	12溝(A-10G)	—	—	—	登1	17c 前	袋005	
124	小壺	瀬戸美濃	KB1	12溝(B-15GNo.15、B-15G表 土)、A-14GNo.15、B-13GNo.8、B-15G、C-15G	3.4	4.9	7.4	登3	17c 後	町袋006	
125	蓋	瀬戸美濃	KB1	12溝(A-9G)、A-9GNo.100、A-8GNo.20、A-7G、A-9G	*12.2	*4.5	2.3	大~登	—	他001	
126	筒形香炉	瀬戸美濃	KB1	12溝(B-9G)	*13.8	—	—	大	—	香001	
127	香炉	瀬戸美濃	KB1	12溝(B-16G)、A-12G 2?、B-16G、B-16GNo.19、B-20G、	*12.2	—	6.9	登2	17c 前~中	町香004	
128	鉄絵皿	肥前(唐津)	KB1	12溝(A-9G)	—	*5.0	—	—	16c 末~17c 前	町皿009	
129	呉器手碗	肥前(陶器)	KB1	12溝(A-9G)	—	—	—	—	17c	碗007	

第11表 土器類一覧表 2

( ) は残存値、\* は不確定な推定復元値

質量の単位は cm

図版 No.	器種	産地	地区	出土地点	口径	底径	器高	形式	年代	器種 No.	備考
130	筒形碗	志戸呂	KB1	12溝(B-5GNo. 42)、A-5G、B-5G、表採	9.6	6.2	7.7		16c末~17c初	町碗001	
131	皿	志戸呂	KB1	12溝(B-9G)	*10.4	*6.0	2.0			皿025	
132	大皿	志戸呂	KB1	12溝(A-6GNo. 112)、17壙(B-7G)	*28.8	*15.8	6.2		16c末~17c初	町皿203	輪禿
133	德利	志戸呂	KB1	12溝(A-6G)	—	9.5	—			袋001	
134	大皿	志戸呂	KB1	12溝(B-6GNo. 68)、A-6GNo. 80、A-5GNo. 19、A-5G、B-2G、B-4G、B-7G、一括	*27.8	*12.6	6.3		16c末~17c初	町鉢050	
135	德利	志戸呂	KB1	12溝(A-12G)、一括	—	—	—			袋003	
136	德利	初山	KB1	12溝(A-5G、A-9G、A-10G、B-6G、一括)、表採、一括、KB5	*6.7	*13.0	—		16c後	町袋032	
137	碗	肥前(磁器)	KB1	12溝(A-13G)、A-13GNo. 89、一括	—	*4.0	—		18c前	伊004	
138	碗	肥前(磁器)	KB1	12溝(B-12G)	—	*4.5	—		17c中~後	伊015	
139	碗	肥前(磁器)	KB1	12溝(A-10G)	*10.0	—	—		18c前	伊023	
140	碗	肥前(磁器)	KB1	12溝(A-10G)	*11.0	—	—		17c中~後	伊024	
141	碗	肥前(磁器)	KB1	12溝(A-13G)	*10.8	—	—		17c中	伊025	
142	碗	肥前(磁器)	KB1	12溝(A-12G)	—	—	—		17c中	伊029	
143	小坏	肥前(磁器)	KB1	12溝(A-10G)	*7.0	—	—		17c後~18c	伊026	
144	小坏	肥前(磁器)	KB1	12溝(B-6G)	*7.0	—	—		17c後~18c	伊027	
145	かわらけ	在地	KB1	12溝(A-6G)	*11.6	8.0	2.7			K003	
146	かわらけ	在地	KB1	12溝(A-12G、A-11G)	*11.0	*6.7	2.4		16c後~末	K004	
147	かわらけ	在地	KB1	12溝(A-12G)、B-12GNo. 45	*12.2	*6.0	3.5		17c前	K005	
148	かわらけ	在地	KB1	12溝(A-6G)	*11.1	6.6	2.4		16c後~末	K006	
149	かわらけ	在地	KB1	12溝(A-6G、B-6G、B-7G)、B-7GNo. 57	9.5	5.2	2.2~2.8		17c	K009	
150	かわらけ	在地	KB1	12溝(A-6GNo. 116、B-6G)	10.4	6.1	2.5		17c前	K014	
151	かわらけ	在地	KB1	12溝(B-7G)	*9.5	*5.0	2.3		17c前	K022	
152	かわらけ	在地	KB1	12溝(B-8G)	*12.6	*4.5	3.4		15c中~16c前	K029	見込ナデ痕
153	かわらけ	在地	KB1	12溝(B-20G)、C-19GNo. 58	8.6	5.5	1.4~1.6		17c後~18c	K038	
154	かわらけ	在地	KB1	12溝(B-15G)、B-16G	9.2	5.8	1.4~1.5		17c後~18c	K039	
155	かわらけ	在地	KB1	12溝(A-9G)	*10.8	6.4	2.3		17c前	K040	
156	かわらけ	在地	KB1	12溝(B-6G)	*11.0	*5.8	2.5~2.8		17c前	K041	
157	かわらけ	在地	KB1	12溝(A-12G)、B-12GNo. 33	*11.5	7.4	2.5		17c前	K042	
158	かわらけ	在地	KB1	12溝(A-8?GNo. 104)	*10.4	*5.5	2.7		17c前	K048	
159	かわらけ	在地	KB1	12溝(A-8G)	*10.5	*6.0	2.7		17c前	K049	
160	かわらけ	在地	KB1	12溝(B-16G)	*9.0	*6.0	1.6~1.9		17c	K054	
161	かわらけ	在地	KB1	12溝(B-6G)	*10.0	*5.6	2.1		17c	K055	
162	かわらけ	在地	KB1	12溝(A-4G)、B-?G	*11.0	*5.8	2.7		17c	K056	
163	かわらけ	在地	KB1	12溝(A-9G)	*11.0	—	—		17c	K061	
164	かわらけ	在地	KB1	12溝(A-4G)	*9.0	*6.0	2.2		17c	K065	
165	ほうろく	在地	KB1	12溝(A-9GNo. 110、A-9G)、A-10GNo. 90・108	34.0	31.7	6.0		16c	町 H042	
166	ほうろく	在地	KB1	12溝(A-10G、A-11G)、A-11GNo. 68・79・80、B-11GNo. 2・3	*35.1	*32.0	6.2		16c	町 H043	
167	ほうろく	在地	KB1	12溝(A-10G)、A-10GNo. 67・68・81・92、A-10G、B-10GNo. 9・10・36・38・40、B-10G	*37.0	*32.8	5.9		16c	町 H045	
168	ほうろく	在地	KB1	12溝(A-10G、B-10G)、A-10G	*36.6	*33.0	5.7			H007	
169	ほうろく	在地	KB1	12溝(A-7G)	*36.4	*34.0	5.2~5.7			H011	
170	ほうろく	在地	KB1	12溝(B-6G)、A-5GNo. 28、(A-16GNo. 114)?	*37.6	*35.0	5.6			H012	
171	ほうろく	在地	KB1	12溝(A-7G)	—	—	6.0			H013	
172	ほうろく	在地	KB1	12溝(A-8GNo. 103)	—	—	5.4			H014	
173	ほうろく	在地	KB1	12溝(B-18GNo. 7)、B-19GNo. 8?	—	—	5.5			H015	
174	ほうろく	在地	KB1	12溝(C-18GNo. 1)	*35.8	*30.0	5.4~6.5			H016	
175	ほうろく	在地	KB1	12溝(B-18GNo. 15)	*36.2	*30.0	5.2			H017	
176	ほうろく	在地	KB1	12溝(B-18GNo. 12・16)	*31.8	*29.4	5.9			H018	
177	ほうろく	在地	KB1	12溝(B-17GNo. 2)	*36.0	*32.0	5.5			H019	
178	ほうろく	在地	KB1	12溝(A-9G)	*34.8	*32.0	5.3			H025	
179	ほうろく	在地	KB1	12溝(A-13G)、A-13GNo. 60、B-13GNo. 38、B-13G	*36.2	*34.0	5.8			H029	
180	ほうろく	在地	KB1	12溝(A-7GNo. 74)	*37.2	*34.0	5.7			H031	
181	ほうろく	在地	KB1	12溝(A-10G、A-11G)	—	—	5.3			H032	
182	ほうろく	在地	KB1	12溝(A-9G)	—	—	5.7			H042	
183	ほうろく	在地	KB1	12溝(A-9G、A-10G、B-8GNo. 42)、A-9G?	*34.6	*32.0	5.9			H043	
184	ほうろく	在地	KB1	12溝(A-9GNo. 112、A-10G)、B-9G	*36.0	*32.0	5.9			H045	
185	ほうろく	在地	KB1	12溝(A-9G、A-10G)	*33.0	—	—			H046	
186	ほうろく	在地	KB1	12溝(A-13G)、A-12GNo. 28	*34.0	*31.2	5.3			H047	
187	ほうろく	在地	KB1	12溝(B-7G)、17壙(B-7G)	*34.0	*30.8	5.8			H048	
188	ほうろく	在地	KB1	12溝(A-10G)、A-10GNo. 86	—	—	5.5			H049	
189	ほうろく	在地	KB1	12溝(A-8GNo. 105、A-7G、一括)	*30.0	*27.0	5.9			H050	
190	ほうろく	在地	KB1	12溝(A-7GNo. 74、A-7G、一括)	*34.8	*32.0	5.6			H051	
191	ほうろく	在地	KB1	12溝(A-7G)、B-8GNo. 1	—	—	5.8			H053	
192	土鍋	在地	KB1	12溝(A-12G)、A-12GNo. 57	—	—	—			D001	
193	土鍋	在地	KB1	12溝(A-7G)	—	—	—			D009	
194	土鍋	在地	KB1	12溝(A-8G)	—	—	—			D010	
195	搦鉢	在地	KB1	12溝(A-12G)	—	—	—			鉢033	
196	搦鉢	在地	KB1	12溝(B-6G)	—	—	—			鉢034	
197	搦鉢	在地	KB1	12溝(B-15GNo. 20、B-16G)、B-12G、B-15G	—	*13.0	—			鉢035	

第12表 土器類一覽表 3

( ) は残存値、\* は不確定な推定復元値

量の単位は cm

図版 No.	器種	産地	地区	出土地点	口径	底径	器高	形式	年代	器種 No.	備考
198	播鉢	在地	KB1	12溝(A-7G)、C-20GNo. 9	—	*10.0	—			鉢036	
199	播鉢	在地	KB1	12溝(A-10G)、A-10GNo. 100	*26.0	—	—			鉢037	
200	甕	在地	KB1	12溝(B-6G)	*29.0	—	—		14c	袋006	
201	甕	在地	KB1	12溝(B-10G)、A-8GNo. 63	*18.0	—	—		14c	袋007	
202	火鉢	在地	KB1	12溝(B-15GNo. 25)	—	—	—			火鉢001	
203	瓦	在地	KB1	12溝(A-6G)	—	—	—			瓦001	
204	色絵碗	肥前(磁器)	KB1	13溝(A-18G)	*10.0	—	—		18C 前	伊014	
205	かわらけ	在地	KB1	2井(B-9G)、B-9G	—	*6.6	—		不明	K032	
206	かわらけ	在地	KB1	3井(B-9G)、B-9G	*11.0	*7.0	2.5		17e 前	K036	
207	かわらけ	在地	KB1	5井	—	*6.4	—		不明	K033	
208	かわらけ	在地	KB1	5井	—	5.4	—		不明	K034	
209	ぼうろく	在地	KB1	5井	—	—	—			H003	
210	水注	瀬戸美濃	KB1	9井(B-7G)、B-4GNo. 29	—	—	—	古中I~III		他011	
211	かわらけ	在地	KB1	9井	—	*5.2	—		17e 前?	K031	
212	かわらけ	在地	KB1	9井	*10.0	—	—		15c後~16c前	K037	
213	かわらけ	在地	KB1	11井	*11.0	*7.0	2.6		16c 後	K035	
214	片口鉢	在地	KB1	13井(C-11GNo. 1・2・5、C-11G、C-14G)	29.5	12.4	11.9		13c 後	町鉢066	
215	志野碗	瀬戸美濃	KB1	3壙(B-7GNo. 17?)	9.0	3.5	5.2	登1	17c 初~前	町碗007	
216	褐釉壺	中国	KB1	17壙(B-7G)、B-6GNo. 40	—	*14.6	—			袋004	
217	天目	瀬戸美濃	KB1	17壙、KB2J-7GNo. 17・25、KB2 6-33区、KB2	12.0	4.2	6.4	大3後	16c 後	町天016	
218	碗	瀬戸美濃	KB1	17壙(B-7G)	*10.8	—	—	大3		碗008	
219	鉄絵皿	瀬戸美濃	KB1	17壙(B-7G)	11.7	6.0	2.7	登1	17e 前	町皿013	
220	丸皿	瀬戸美濃	KB1	17壙(B-7G)、A-3G 表土	*10.8	*6.0	2.3	大3		皿019	
221	黄瀬戸鉢	瀬戸美濃	KB1	17壙(B-7G)、B-5G	*30.8	*17.0	7.4	登1・2	17e 前	鉢002	
222	大皿	志戸呂	KB1	17壙(B-7G)、B-9GNo. 53、A-8GNo. 37	*28.2	—	—		16c 後	町皿204	
223	かわらけ	在地	KB1	17壙 B-7G	*11.4	*6.6	2.6		17e 前?	町 K264	
224	かわらけ	在地	KB1	17壙(B-7G)	—	*6.0	—		17e 前	K030	
225	ぼうろく	在地	KB1	17壙(B-7G)、A-7GNo. 70	*35.4	—	—			H001	
226	ぼうろく	在地	KB1	19壙(B-7G)、B-8G 溝	—	—	6.0			H002	
227	碗	肥前(陶器)	KB1	23壙(C-17G)	*12.0	—	—		17c 後	伊030	
228	志野丸皿	瀬戸美濃	KB1	37壙	*11.0	—	—		17c 前	皿018	
229	碗	肥前(陶器)	KB1	37壙(C-17G)	—	—	—		17c 後	碗009	
230	播鉢	在地	KB1	39壙(C-15G)	—	—	—			鉢003	
231	播鉢	在地	KB1	39壙(No. 4)	—	—	—			鉢004	
232	播鉢	瀬戸美濃	KB1	39壙(No. 3)、12溝(B-15GNo. 16、B-17GNo. 23)、B-16GNo. 22	—	*9.1	—	大	16c	鉢028	
233	青磁碗	同安窯系中国	KB1	A-19G	—	—	—			青003	
234	青磁碗	龍泉窯系中国	KB1	C-5G	*13.0	—	—	A2(I-2)	12c 中~13c	町青026	
235	青磁蓮弁文碗	龍泉窯系中国	KB1	C-4GNo. 1	*15.4	—	—	B1(I-5)	13c	町青029	
236	青磁碗	龍泉窯系中国	KB1	一括	—	—	—	A3(I-3)	12c 中~13c	町青042	
237	青磁碗(端反碗)	龍泉窯系中国	KB1	C-20GNo. 10	—	*5.1	—			青001	
238	青磁碗	龍泉窯系中国	KB1	A-5G	—	—	—			青002	
239	青磁碗	龍泉窯系中国	KB1	B-12? G	—	—	—	B1(I-5)		青005	
240	青磁碗	龍泉窯系中国	KB1	B-12G	—	—	—	B1(I-5)		青006	
241	青磁碗	龍泉窯系中国	KB1	C-5G	—	—	—	A2(I-2)	13c~14c	青008	
242	青磁碗	龍泉窯系中国	KB1	C-5G	—	—	—	A4(I-4)	13c~14c	青009	
243	青磁碗(端反碗)	龍泉窯系中国	KB1	A-14G 溝、A-13GNo. 39	*15.0	—	—	D		青007	
244	青磁蓮弁文鉢	龍泉窯系中国	KB1	A-19G	*18.8	—	—			町青038	
245	白磁皿	中国	KB1	B-6G	—	—	—			白004	
246	白磁皿	中国	KB1	A-12GNo. 13	—	—	—			白005	
247	白磁皿	中国	KB1	A-15G	*10.0	—	—	IX	13c~14c	白007	
248	白磁皿	中国	KB1	表採	*11.0	—	—	IX	13c~14c	白008	
249	白磁大皿	漳州窯系	KB1	A-7GNo. 39	*20.6	—	—			町白40	
250	白磁小坏	中国	KB1	(A-2GNo. 65)?	*9.8	—	—			白002	
251	壺	中国	KB1	A-6GNo. 50	—	—	—			町白032	
252	染付皿	中国	KB1	A-6GNo. 32	—	*6.0	—	E	16c 中~後	染001	
253	染付皿	中国	KB1	一括	—	*6.0	—	E	16c 中~後	染002	
254	甕	常滑	KB1	B-16GNo. 20	—	—	—	6a	13c 後	袋014	
255	甕	常滑	KB1	A-9GNo. 98	—	—	—			袋015	
256	甕	常滑	KB1	B-20GNo. 6	—	—	—	10	15c 後	袋016	
257	片口鉢	常滑	KB1	A-3GNo. 19	*30.6	—	—	05、I	13c 前	町鉢188	
258	片口鉢	常滑	KB1	? -19GNo. 35	—	—	—	5・6a、I	13c	鉢012	
259	片口鉢	常滑	KB1	A-10GNo. 112、A-13GNo. 1	—	*13.5	—	5・6a、I	13c	鉢015	
260	片口鉢	常滑	KB1	表土	—	—	—	5・6a、I	13c	鉢011	
261	片口鉢	常滑	KB1	C-12GNo. 6	—	—	—	5・6a、I	13c	鉢043	
262	片口鉢	常滑	KB1	B-4G	—	—	—	6b、II	13c 後	鉢027	
263	片口鉢	常滑	KB1	A-13GNo. 52・76	*35.4	—	—	7 II	14c 前	鉢022	
264	片口鉢	常滑	KB1	C-20GNo. 31	—	*10.2	—	11 II	16c 前	鉢013	
265	片口鉢	常滑	KB1	B-17GNo. 15	—	—	—	5 II	13c 前	鉢016	
266	山茶碗	常滑	KB1	B-6G	—	*7.6	—	5	13c 前	碗018	
267	平碗	瀬戸美濃	KB1	B-4G	16.0	—	—	古後III・IV(古)	15c 前~中	町平003	

第13表 土器類一覽表 4



( ) は残存値、\* は不確定な推定復元値

法量の単位は cm

図版 No.	器種	産地	地区	出土地点	口径	底径	器高	形式	年代	器種 No.	備考
268	平碗	瀬戸美濃	KB1	A-14GNo. 23	* 18.0	—	—	古中IV	14c 中(後)	町平004	
269	天目	瀬戸美濃	KB1	B-5G	* 11.5	—	—	大2	16c 前~中	町天004	
270	天目	瀬戸美濃	KB1	A-5GNo. 7、A-4G	* 11.4	—	—	大3		天010	
271	天目	瀬戸美濃	KB1	B-11GNo. 36	* 12.5	—	—	大3		天005	
272	天目	瀬戸美濃	KB1	B-4G	—	—	—	登1		天008	
273	天目	瀬戸美濃	KB1	B-5G	—	4.2	—	大3後		天011	
274	天目	瀬戸美濃	KB1	A-8GNo. 36、A-?No.?	* 12.0	5.0	5.6	大4	16c 末~17c 初	町天023	
275	天目	瀬戸美濃	KB1	B-9GNo. 58	* 12.0	—	—	大4		天006	
276	天目	瀬戸美濃	KB1	A-9GNo. 115、? G	12.2	—	—	登1	17c 前	天012	
277	天目	瀬戸美濃	KB1	A-13GNo. 67	* 11.0	—	—	登1		天004	
278	天目	瀬戸美濃	KB1	A-13GNo. 39	* 11.0	—	—	大4後		天007	
279	天目(白天目)	瀬戸美濃	KB1	C-11GNo. 16	—	—	—	登2・3	17c 中	天013	
280	小碗	瀬戸美濃	KB1	B-19G	* 7.8	* 5.2	2.4	大4~登1 <sup>ホ</sup>		碗002	
281	筒形碗	瀬戸美濃	KB1	B-4GNo. 13、A-6GNo. 87	* 11.0	—	—	大4	16c 末~17c 初	碗011	瀬戸黒
282	丸碗	瀬戸美濃	KB1	B-7G、B-7GNo. 61	* 12.0	—	—	登1		碗003	
283	丸碗	瀬戸美濃	KB1	B-14GNo. 32	* 11.0	—	—	登1		碗004	
284	丸碗	瀬戸美濃	KB1	C-10GNo. 30	* 10.0	—	—	登1	17c 前	碗010	
285	志野丸碗	瀬戸美濃	KB1	C-9GNo. 22・?	* 11.4	—	—	登1		碗013	
286	志野丸碗	瀬戸美濃	KB1	B-2G	—	* 5.7	—	大4末		碗014	
287	湯呑み	瀬戸美濃	KB1	表土	—	* 3.0	—		19c	碗019	
288	卸皿	瀬戸美濃	KB1	B-14GNo. 15	—	* 6.0	—	古中	13c 後~14c 中	皿039	
289	縁釉小皿	瀬戸美濃	KB1	B-11GNo. 10・13	* 14.0	* 6.0	2.8	大1	15c 末~16c 前	皿026	
290	丸皿	瀬戸美濃	KB1	A-13G、A-14GNo. 2、一括	10.6	5.6	2.5	大3	16c 中~末	町皿016	
291	丸皿	瀬戸美濃	KB1	B-6G	* 10.5	—	—	大3		皿009	
292	丸皿	瀬戸美濃	KB1	B-6G	* 11.4	* 7.0	2.4	大2後		皿035	
293	丸皿	瀬戸美濃	KB1	B-19G、B-20G	* 10.0	* 6.0	2.2	大3		皿045	
294	内禿皿	瀬戸美濃	KB1	C-4GNo. 7	—	* 5.8	—	大3		皿046	
295	稜皿	瀬戸美濃	KB1	A-4GNo. 26	* 10.4	—	—	大3後		皿040	
296	丸皿	瀬戸美濃	KB1	A-11GNo. 54	* 9.0	* 4.2	—	大4		皿047	
297	志野丸皿	瀬戸美濃	KB1	B-7G	* 11.8	* 6.0	2.8	大4	16c 末~17c 初	町皿081	
298	志野丸皿	瀬戸美濃	KB1	A-13GNo. 56	* 11.0	* 6.8	2.0		17c 末~18c?	皿003	
299	志野丸皿	瀬戸美濃	KB1	A-7GNo. 54	* 12.0	* 7.0	2.1	大4	16c 末~17c 初	皿020	
300	志野丸皿	瀬戸美濃	KB1	B-19G、C-18G、C-19G	* 11.0	* 7.0	1.8	登2	17c 後	皿022	
301	丸皿	瀬戸美濃	KB1	B-15GNo. 9	* 13.0	* 7.0	2.6		17c 後	皿030	
302	志野丸皿	瀬戸美濃	KB1	B-6G	* 12.2	* 6.6	3.2	登1		皿033	
303	志野丸皿	瀬戸美濃	KB1	C-7G、B-5G、B-?G	* 11.5	* 6.4	2.4	登1		皿038	赤志野
304	志野菊皿	瀬戸美濃	KB1	A-9GNo. 9・43・44、A-8GNo.?	* 12.2	* 6.8	2.4	大4後		皿006	
305	志野丸皿	瀬戸美濃	KB1	B-7GNo. 63	12.0	6.4	3.1	登1	17c 初~前	町皿010	
306	反り皿	瀬戸美濃	KB1	一括	* 13.0	—	—		17c 後	皿014	
307	灯明皿(受け皿)	瀬戸美濃	KB1	一括	* 11.5	* 6.8	2.0		18c 後	皿024	
308	灯明皿(受け皿)	瀬戸美濃	KB1	一括	* 8.2	* 5.0	1.5		18c 中	皿044	
309	灯明皿	瀬戸美濃	KB1	A-12GNo. 14	* 7.4	* 3.0	1.5		19c	皿043	
310	織部皿	瀬戸美濃	KB1	一括	—	8.7	—	登1		町皿071	
311	青織部皿	瀬戸美濃	KB1	?GNo. 83	—	—	—	登1	17c 前	皿027	
312	鉄絵皿	瀬戸美濃	KB1	A-7GNo. 75	—	* 8.0	—		17c 後	皿031	
313	鉄絵皿	瀬戸美濃	KB1	A-4G	* 12.4	* 7.5	2.6		17c 後	皿037	
314	鉄絵皿	瀬戸美濃	KB1	B-2G	—	—	—		17c 末~18c 中	皿036	
315	石皿	瀬戸美濃	KB1	A-3GNo. 1	—	10.0	—		江戸後期	皿023	
316	摺絵皿	瀬戸美濃	KB1	B-4GNo. 15	—	* 6.8	—		18c 中	皿041	
317	折縁深皿	瀬戸美濃	KB1	A-12GNo. 67	—	—	—	古後IV(古)		皿049	
318	搦鉢	瀬戸美濃	KB1	B-19GNo. 4、一括	* 27.0	—	—		18c 初~中	町鉢122	
319	搦鉢	瀬戸美濃	KB1	C-17G	—	—	—	大3後	16c 後	町鉢239	
320	搦鉢	瀬戸美濃	KB1	A-15G、B-14GNo. 42	—	—	—	大3前	16c 後	町鉢223	
321	搦鉢	瀬戸美濃	KB1	A-6GNo. 97	—	—	—	大2	16c 前	町鉢225	
322	搦鉢	瀬戸美濃	KB1	B-7GNo. 31	—	—	—	大4、I	16c 末~17c 初	町鉢233	
323	搦鉢	瀬戸美濃	KB1	一括	—	—	—	大3、I	16c 後	町鉢236	
324	搦鉢	瀬戸美濃	KB1	B-13GNo. 29	—	—	—	大4、I	16c 末~17c 初	町鉢226	
325	搦鉢	瀬戸美濃	KB1	B-19G	—	—	—	大4後、II	16c 末~17c 初	町鉢155	
326	搦鉢	瀬戸美濃	KB1	A-5GNo. 20	—	—	—	大4後	16c 末~17c 前	町鉢159	鉢296に類似
327	搦鉢	瀬戸美濃	KB1	A-7GNo. 6	—	—	—	登1・2		鉢024	
328	搦鉢	瀬戸美濃	KB1	A-9GNo. 75	—	—	—	登1		鉢031	
329	搦鉢	瀬戸美濃	KB1	C-19GNo. 47	—	—	—		17c 末	鉢018	
330	搦鉢	瀬戸美濃	KB1	C-19GNo. 13	—	* 11.0	—		17c~	鉢032	
331	黄瀬戸鉢	瀬戸美濃	KB1	A-20GNo. 2、KB5 2溝 B-2GNo. 77、KB5 3溝	* 30.0	* 18.8	5.5	登2	17c 前~中	町鉢076	
332	鉄絵鉢	瀬戸美濃	KB1	B-14GNo. 35・?	* 22.6	* 11.6	4.7	登1		鉢010	
333	片口	瀬戸美濃	KB1	A-5GNo. 4・5、A-5G、B-4G、B-5G	* 19.0	* 9.8	8.7		17c 後	鉢038	
334	花瓶	瀬戸美濃	KB1	B-4G	—	—	—	古中	14c 初~中	他002	
335	搦鉢形小鉢	瀬戸美濃	KB1	A-10GNo. 85	—	5.8	—	古後		他009	
336	灯明具	瀬戸美濃	KB1	A-9GNo. 82	* 13.2	* 6.2	2.2		18c 前	他003	
337	半胴	瀬戸美濃	KB1	A-11GNo. 10	* 16.8	—	—		18c	他005	

第14表 土器類一覽表 5

( ) は残存値、\* は不確定な推定復元値

法量の単位は cm

図版 No.	器種	産地	地区	出土地点	口径	底径	器高	形式	年代	器種 No.	備考
338	小坏	瀬戸美濃	KB1	C-19G	*7.0	—	—		16c	他006	
339	小坏	瀬戸美濃	KB1	一括	*6.0	—	—		19c	他012	
340	蓋	瀬戸美濃	KB1	C-19GNo. 54	*13.0	—	—		17c 前	他007	
341	織部向付	瀬戸美濃	KB1	C-4GNo. 2	—	—	—	登1		他008	
342	香炉	瀬戸美濃	KB1	A-10GNo. 70	—	—	—		18c	香002	
343	香炉	瀬戸美濃	KB1	C-20GNo. 13	*11.9	—	—		18c	香003	
344	香炉	瀬戸美濃	KB1	B-19GNo. 7・表土	*11.0	—	—		18c	香004	
345	筒形香炉	瀬戸美濃	KB1	一括	*6.0	—	—	大		香005	
346	四耳壺	瀬戸美濃	KB1	A-6GNo. 90	—	—	—	古中		袋020	
347	梅瓶	瀬戸美濃	KB1	B-5GNo. 47	—	—	—	古後		袋019	
348	德利	瀬戸美濃	KB1	?GNo. 68	3.4	—	—		18c 前	袋013	
349	德利	瀬戸美濃	KB1	B-4G	—	*8.1	—		18c 中	袋008	
350	有耳壺	瀬戸美濃	KB1	A-6GNo. 117(12溝)	*14.5	—	—		18c 後	袋011	
351	有耳壺	瀬戸美濃	KB1	B-19GNo. 1・3・16・22、C-19GNo. 16・31	—	*13.6	—		18c 後	袋012	
352	有耳壺	瀬戸美濃	KB1	B-19G、B-19GNo. 13	*11.6	—	—		18c 後	袋010	
353	天目	肥前(唐津)	KB1	A-8GNo. 87	*12.0	—	—		16c末-17c初	天009	
354	呉器手碗	肥前(陶器)	KB1	B-14GNo. 20	—	4.8	—		17c 後	碗001	
355	刷毛目文碗	肥前(唐津)	KB1	B-17GNo. 14	*10.6	—	—		17c 後	碗016	
356	呉器手碗	肥前(陶器)	KB1	C-16G	*10.3	—	—		17c後-18c前	碗017	
357	京焼風陶器皿	肥前(陶器)	KB1	一括	—	*9.0	—		17c後-18c前	皿007	
358	皿	肥前(唐津)	KB1	一括	—	—	—		16c末-17c初	皿011	
359	皿	肥前(唐津)	KB1	B-9GNo. 45	*10.8	—	—		16c末-17c初	皿032	
360	皿	肥前(唐津)	KB1	A-7GNo. 68	—	*5.0	—		16c末-17c初	皿034	
361	皿	肥前(陶器)	KB1	C-17GNo. 6、B-2G	—	6.2	—		17c後-18c前	皿021	
362	大皿	肥前(唐津)	KB1	A-13GNo. 45	—	—	—		17c	皿016	
363	大皿	肥前(唐津)	KB1	A-13?GNo. 65	—	—	—		17c	皿012	
364	大皿	肥前(唐津)	KB1	C-19GNo. 19	—	—	—		17c	皿013	
365	德利	備前(陶器)	KB1	C-3G	*7.2	—	—		16c末-17c初	袋009	
366	灯明皿	志戸呂	KB1	B-14GNo. 41	10.4	4.2	2.8		18C	町皿025	
367	丸皿	志戸呂	KB1	C-3G	*9.8	*5.6	1.9		16c 後	町皿037	
368	小皿	志戸呂	KB1	A-10GNo. 62	*8.0	—	—		16c 後	皿017	
369	大皿	志戸呂	KB1	A-8GNo. 42、A-7GNo. 66、B-7G	—	*13.0	—		16c 後	皿029	
370	大皿	志戸呂	KB1	B-5G	*24.4	—	—		16c 後	皿028	
371	水差又は建水	志戸呂	KB1	C-13GNo. 21	*15.2	—	—		16c 後	他004	
372	搦鉢	堺又は備前	KB1	A-8GNo. 4	—	—	—		19c	鉢023	
373	搦鉢	堺又は備前	KB1	A-6GNo. 21	—	—	—		18C 後	鉢030	
374	搦鉢	丹波	KB1	A-8GNo. 108	—	—	—		17c 末	鉢014	
375	搦鉢	丹波	KB1	B-5GNo. 27	—	—	—		17c 末	鉢021	
376	搦鉢	丹波	KB1	A-7GNo. 55	—	—	—		17c 末	鉢025	
377	搦鉢	丹波	KB1	A-6GNo. 82	—	—	—		17c 中	鉢026	
378	碗	肥前(磁器)	KB1	C-20GNo. 7	—	*4.3	—		18C 前	伊003	
379	碗	肥前(磁器)	KB1	A-3GNo. 18	*11.0	*4.8	5.9		17c 後	伊005	
380	碗	肥前(磁器)	KB1	A-10GNo. 6	*9.2	—	—		18C	伊010	
381	碗	肥前(磁器)	KB1	A-8GNo. 2	*10.0	—	—		18C	伊013	
382	碗	肥前(磁器)	KB1	A-7GNo. 1	—	*4.8	—		17c 中	伊016	
383	碗	肥前(磁器)	KB1	B-5G	*9.0	—	—		18C	伊019	
384	碗	肥前(磁器)	KB1	B-1G	*9.8	—	—		18c 前	伊021	
385	碗	肥前(磁器)	KB1	A-4GNo. 10	*10.2	—	—		17c 中	伊022	
386	猪口	肥前(磁器)	KB1	(C-6GNo. 54)?	*8.0	—	—		18C	伊017	
387	筒形碗	肥前(磁器)	KB1	B-4G	—	—	—		18c末-19c初	伊020	
388	仏花瓶	肥前(磁器)	KB1	A-12GNo. 78、KB5	—	6.0	—		17c 後	伊001	
389	香炉	肥前(磁器)	KB1	B-6GNo. 30	*7.0	—	—			伊002	
390	皿	肥前(磁器)	KB1	B-5G、B-5GNo. 6・30	*13.4	*7.4	—		18c 前	伊006	
391	皿	肥前(磁器)	KB1	B-3G	—	*4.8	—		17c 中	伊007	
392	皿	肥前(磁器)	KB1	A-3GNo. 18	*13.4	—	—			伊008	
393	皿	肥前(磁器)	KB1	A-7GNo. 8	—	*8.0	—		17c 後	伊011	
394	鉢	肥前(磁器)	KB1	B-4G	—	—	—		18C	伊009	
395	瓶	肥前(磁器)	KB1	B-3G、KB2 6-33	—	*4.8	—		18C	伊031	
396	かわらけ	在地	KB1	B-7GNo. 65・67、A-7GNo. 67	*11.0	*6.5	2.4			K001	
397	かわらけ	在地	KB1	12溝(B-12GNo. 43)、B-12GNo. 45・?	10.9	6.8	3.0~3.6			K002	
398	かわらけ	在地	KB1	C-13GNo. 3	11.4	*6.0	3.1			K007	
399	かわらけ	在地	KB1	B-12GNo. 27	11.4	6.4	3.2			K008	
400	かわらけ	在地	KB1	B-5G	10.0	6.0	2.1			K010	
401	かわらけ	在地	KB1	B-6GNo. 61、B-?G	10.3	*5.8	2.1			K011	
402	かわらけ	在地	KB1	A-10GNo. 11	8.0	4.5	1.2			K012	
403	かわらけ	在地	KB1	A-8GNo. 90	*10.4	*6.5	2.3			K013	
404	かわらけ	在地	KB1	B-4G	11.0	6.2	2.8			K015	
405	かわらけ	在地	KB1	C-8GNo. 2	11.5	6.5	3.0			K016	
406	かわらけ	在地	KB1	B-6GNo. 56・59	11.0	6.7	2.4~2.6			K018	
407	かわらけ	在地	KB1	B-12GNo. 13・30・?	11.4	7.0	2.7			K019	

第15表 土器類一覧表6

( ) は残存値、\* は不確定な推定復元値

質量の単位は cm

図版 No.	器種	産地	地区	出土地点	口径	底径	器高	形式	年代	器種 No.	備考
408	かわらけ	在地	KB1	A-5GNo. 25・26	9.0	5.5	2.5			K020	
409	かわらけ	在地	KB1	C-11G	*9.4	6.0	2.1			K021	
410	かわらけ	在地	KB1	B-5G	*10.8	*7.5	2.2			K023	
411	かわらけ	在地	KB1	A-8GNo. 50	*10.0	*7.0	2.5			K024	
412	かわらけ	在地	KB1	C-8GNo. 16・17	10.8	—	—			K026	
413	かわらけ	在地	KB1	B-5G、A-5G	*10.6	*6.5	2.4			K027	
414	かわらけ	在地	KB1	A-7GNo. 73・?	*12.1	*7.5	2.2			K028	
415	かわらけ	在地	KB1	B-12GNo. 42	11.5	6.8	3.0			K043	
416	かわらけ	在地	KB1	C-10GNo. 8	*11.0	*7.4	2.6			K044	
417	かわらけ	在地	KB1	B-6GNo. 22	*12.0	—	—			K045	
418	かわらけ	在地	KB1	A-7G 溝	*11.6	—	—			K046	
419	かわらけ	在地	KB1	C-8G	*12.0	—	—			K047	
420	かわらけ	在地	KB1	B-9GNo. 48	—	6.3	—			K050	
421	かわらけ	在地	KB1	A-16GNo. 3	*10.0	*4.5	2.9			K051	
422	かわらけ	在地	KB1	C-5GNo. 12	*10.0	*6.0	2.7		16c 末~	K052	
423	かわらけ	在地	KB1	一括	—	6.5	—			K053	
424	かわらけ	在地	KB1	B-6GNo. 21	*11.0	—	—			K057	
425	かわらけ	在地	KB1	B-12GNo. 18	*12.0	—	—			K058	
426	かわらけ	在地	KB1	B-17G	*9.0	*6.0	1.8			K059	
427	かわらけ	在地	KB1	B-1G	*9.0	*6.0	1.9		17c~	K060	
428	かわらけ	在地	KB1	B-6GNo. 3	*10.0	*5.5	2.7			K062	
429	かわらけ	在地	KB1	C-17G	*10.0	*6.5	2.0		17c~	K063	
430	かわらけ	在地	KB1	一括	*12.0	—	—			K064	
431	土鍋	在地	KB1	B-6G	*36.6	—	—		15c 後	D002	
432	土鍋	在地	KB1	A-5GNo. 11・17、B-4G	*30.4	—	—		15c 後	D003	
433	土鍋	在地	KB1	A-4G	*32.2	—	—		15c 後	D004	
434	土鍋	在地	KB1	B-5G、A-6GNo. 99	*37.0	—	—		15c 後	D005	
435	土鍋	在地	KB1	A-4G	*30.0	—	—		15c 後	D007	
436	土鍋	在地	KB1	B-4G	*31.0	—	—		15c 後	D008	
437	土鍋	在地	KB1	B-6GNo. 60	—	—	—		15c 後	D006	
438	土鍋	在地	KB1	A-14GNo. 16	*30.0	—	—		15c 前	D011	
439	ほうろく	在地	KB1	B-4GNo. 44、B-4G	*34.7	*32.0	6.1			H004	
440	ほうろく	在地	KB1	A-20G、A-20GNo. 1	*35.5	*34.0	5.7			H005	
441	ほうろく	在地	KB1	B-6GNo. 64、B-6G	*35.0	*33.0	5.5			H006	
442	ほうろく	在地	KB1	B-5GNo. 21、B-4G、C-4G	*36.0	*33.0	5.9			H008	
443	ほうろく	在地	KB1	B-11GNo. 34、A-11GNo. 68?、12溝	*37.0	*35.0	5.8			H009	
444	ほうろく	在地	KB1	A-5G、B-5G	*37.4	*34.0	5.2			H010	
445	ほうろく	在地	KB1	A-10GNo. 121	—	—	5.4~5.5			H020	
446	ほうろく	在地	KB1	B-9GNo. 35・54	*38.0	*37.6	5.8			H021	
447	ほうろく	在地	KB1	A-7GNo. 72	*32.0	*30.0	5.5			H023	
448	ほうろく	在地	KB1	A-7GNo. 41	*35.0	*30.0	5.6			H024	
449	ほうろく	在地	KB1	B-5G	—	—	5.5			H026	
450	ほうろく	在地	KB1	A-10GNo. 127	—	—	6.0~6.2			H027	
451	ほうろく	在地	KB1	B-9GNo. 42・56	*36.0	*34.0	5.8			H028	
452	ほうろく	在地	KB1	C-11GNo. 9	—	—	5.8			H030	
453	ほうろく	在地	KB1	C-9GNo. 36	—	—	5.4			H033	
454	ほうろく	在地	KB1	A-9GNo. 93	—	—	6.0			H034	
455	ほうろく	在地	KB1	B-8GNo. 21	—	—	6.3			H036	
456	ほうろく	在地	KB1	B-11GNo. 25・35、A-11GNo. 87・123	*35.0	—	—			H035	
457	ほうろく	在地	KB1	B-4G	*34.0	—	—			H037	
458	ほうろく	在地	KB1	A-8GNo. 95、B-8GNo. 22	*32.0	*30.0	5.7			H038	
459	ほうろく	在地	KB1	B-6GNo. 2	—	—	6.2			H039	
460	ほうろく	在地	KB1	A-10GNo. 95	—	—	5.9			H040	
461	ほうろく	在地	KB1	A-8GNo. 40	—	—	6.2			H041	
462	ほうろく	在地	KB1	C-4G、B? -5G	*35.0	*31.4	—			H044	
463	片口鉢	在地	KB1	A-12GNo. 54	*28.0	—	—		13c 後	鉢005	
464	片口鉢	在地	KB1	A-9GNo. 102	*36.4	—	—		14c 後	鉢006	
465	片口鉢	在地	KB1	C-19GNo. 53	*30.0	—	—		14c 後	鉢044	
466	片口鉢	在地	KB1	A-12GNo. 76	—	*9.0	—			鉢007	
467	片口鉢	在地	KB1	A-12GNo. 58	—	*12.0	—			鉢008	
468	片口鉢	在地	KB1	A-10GNo. 90、C-4GNo. 5	—	*12.0	—			鉢045	
469	搦鉢	在地	KB1	A-11GNo. 93・94、B-12G	*26.0	—	—			鉢039	
470	搦鉢	在地	KB1	B-5G、B-5GNo. 18、B-7GNo. 60、A-7GNo. 62	*31.0	13.4	12.9		16c	町鉢063	外面工具痕
471	搦鉢	在地	KB1	A-10G、? No. 102	*25.0	—	—			鉢040	
472	搦鉢	在地	KB1	B-6GNo. 24	*28.0	—	—			鉢041	
473	搦鉢	在地	KB1	A-10GNo. 88	*30.0	—	—			鉢042	
474	火鉢	在地	KB1	A-13GNo. 46	—	—	—			火鉢002	
475	香炉	在地	KB1	B-3G	*14.2	*11.0	5.3			素他003	
476	風炉	在地	KB1	A-8GNo. 71、B-7G、A-6GNo. 42、KB2 H-4GNo. 62、KB2 25溝 K-7GNo. 59、私武14、私武44 6溝 No. 11	*33.0	*22.0	—			素他008	
477	丸瓦	在地	KB1	A-2GNo. 22	—	—	—			瓦003	

第16表 土器類一覽表7

出土した遺物

( ) は残存値、\* は不確定な推定復元値

法量の単位は cm

図版 No.	器種	産地	地区	出土地点	口径	底径	器高	形式	年代	器種 No.	備考
478	平碗	瀬戸美濃	KB2	1溝(P-8GNo. 7)	—	5.4	—	古後Ⅲ	15c 前	町平013	
479	梅瓶	瀬戸美濃	KB2	1溝(表採)、KB1 A-13GNo. 20、KB1	—	—	—	古中	14c	町他024	
480	かわらけ	在地	KB2	2溝	*10.6	—	—		16c 後~末	K059	
481	碗	瀬戸美濃	KB2	7溝(L-11GNo. 94)、L-11GNo. 5	*9.0	3.7	5.0		19c 前	町碗006	
482	折縁皿	瀬戸美濃	KB2	7溝(L-11GNo. 82)	*11.0	—	—	大3後		皿022	
483	香炉	瀬戸美濃	KB2	7溝(L-11GNo. 34)	*11.0	—	—		18c 中	香005	
484	播鉢	瀬戸美濃	KB2	7溝(L-11GNo. 40)、L-11GNo. 11	—	*11.0	—	古後Ⅳ(新)		鉢013	
485	稜皿	志戸呂	KB2	7溝(L-11GNo. 62)	—	*6.3	—		16c 後	皿032	
486	播鉢	丹波	KB2	7溝(L-11GNo. 36)	—	—	—		17c 中	鉢022	
487	播鉢	丹波	KB2	7溝(L-11GNo. 100)	—	—	—		17c 末	鉢025	
488	かわらけ	在地	KB2	7溝(L-11No. 111)	*11.6	7.0	2.5			K097	
489	香炉	瀬戸美濃	KB2	8溝(K-9GNo. 59)	*10.6	—	7.9		17c 後	町香001	
490	筒形香炉	瀬戸美濃	KB2	8溝	*11.0	—	—	大3		香003	
491	梅瓶	瀬戸美濃	KB2	8溝(K-9GNo. 43)	—	—	—	古中		袋003	
492	片口	瀬戸美濃	KB2	8溝(L-9GNo. 16)、9・12溝合流(K-12GNo. 5)、6-32区	—	10.6	—		17c 後	鉢029	
493	播鉢	瀬戸美濃	KB2	8溝(4-8区 No. 2)	—	*10.0	—	大2~4		鉢004	
494	染付碗	肥前(磁器)	KB2	8溝(L-9GNo. 39)	—	4.8	—		17c 後	伊016	
495	かわらけ	在地	KB2	8溝(K-9GNo. 13)	*9.6	*5.6	1.9		17c 後	K043	
496	ぼうろく	在地	KB2	8溝(K-9GNo. 48)	—	—	5.8			H004	
497	稜皿	瀬戸美濃	KB2	9溝、K-11GNo. 21、表採	*10.0	*5.6	2.3	大2		町皿163	
498	かわらけ	在地	KB2	9・12溝合流	*11.0	—	—			K068	
499	かわらけ	在地	KB2	9・13溝合流	*10.0	—	—			K065	
500	かわらけ	在地	KB2	9・13溝合流	*11.0	—	—			K067	
501	小瓶	瀬戸美濃	KB2	10溝(M-11GNo. 91)	—	5.2	—		17c 後~18c 前	袋005	
502	播鉢	瀬戸美濃	KB2	11溝(P-8GNo. 11)	—	—	—	大3後、I		町鉢230	
503	染付皿	中国	KB2	12溝(L-11GNo. 125)	*12.8	—	—	皿 E		町染002	
504	丸皿	瀬戸美濃	KB2	12溝(L-11GNo. 141)	*10.0	*5.6	2.4	大2		皿040	
505	小壺	瀬戸美濃	KB2	12溝(L-11GNo. 136)	*4.0	—	—	登		袋004	
506	かわらけ	在地	KB2	18溝(N-12GNo. 41)	*11.4	6.0	2.7		16c 後~末	K004	
507	かわらけ	在地	KB2	18溝(N-12GNo. 26)	*10.6	*6.0	2.3		17c 前	K044	
508	かわらけ	在地	KB2	18溝(N-12GNo. 16)	*10.0	—	—		17c 前?	K058	
509	かわらけ	在地	KB2	18溝(N-12GNo. 40)、N-13GNo. 39	*10.0	*6.2	2.6		17c 前?	K101	
510	かわらけ	在地	KB2	18溝(N-12GNo. 40-42)	*11.6	*7.2	2.8		17c 前	K103	
511	かわらけ	在地	KB2	18溝(N-12GNo. 51)	*10.8	*5.4	3.4		16c 中	K106	見込ナデ 瓶目
512	かわらけ	在地	KB2	18溝(N-12GNo. 15?・一括)	9.4	5.8	2.0		17c 前	K108	
513	青磁碗	龍泉窯系中国	KB2	19溝	—	—	—	A6(I-6)		町青021	
514	青磁碗	同安窯系中国	KB2	25溝(K-8GNo. 61・63)	—	*4.5	—	B(I)		町青070	
515	卸皿	瀬戸美濃	KB2	25溝(K-8GNo. 74)	—	*8.2	—	古前	13c	町皿174	
516	折縁深皿	瀬戸美濃	KB2	25溝(K-8GNo. 54)	—	—	—	古後Ⅳ(古)		皿044	
517	総縁部皿	瀬戸美濃	KB2	25溝(K-7G)、6-33区南	*17.0	—	—	登1	17c 初~前	町皿050	
518	縁袖小皿	瀬戸美濃	KB2	25溝(K-7GNo. 60)	*10.6	*4.9	2.4	大1	15c 末~16c 初	町皿052	
519	丸皿	瀬戸美濃	KB2	25溝(K-8GNo. 45)	*10.2	*5.4	2.3	大3後		町皿218	
520	播鉢	瀬戸美濃	KB2	25溝(K-8GNo. 75)	*30.5	—	—	大3後		鉢018	
521	播鉢	志戸呂	KB2	25溝(K-7GNo. 41)	—	—	—		16c 後	町鉢241	
522	かわらけ	在地	KB2	25溝(K-8GNo. 70)	*7.4	*4.0	2.1		16c 中?	町 K273	油煙
523	かわらけ	在地	KB2	25溝(J-7GNo. 89)	*6.2	3.2	2.4		不明	町 K274	小型 油煙
524	かわらけ	在地	KB2	25溝(K-7GNo. 73)	9.6	4.6	3.1		16c 中	町 K275	見込ナデ 瓶目
525	かわらけ	在地	KB2	25溝(K-7GNo. 45)	*9.4	*6.6	1.9		17c 前	町 K276	
526	かわらけ	在地	KB2	25溝(K-7GNo. 19)、K-7GNo. 2・3	*10.4	5.1	3.5~3.8		16c 中	町 K278	見込ナデ 痕
527	ぼうろく	在地	KB2	25溝(K-7GNo. 77)、J-7GNo. 39	*34.0	*30.8	4.9			H005	
528	甕	在地	KB2	25溝(K-7GNo. 29・66)	—	—	—			町袋106	
529	甕	在地	KB2	25溝(K-7GNo. 24)、6-33区	—	—	—			町袋107	
530	甕	在地	KB2	25溝(J-7GNo. 78)	—	*14.0	—		13~14c	袋007	
531	火鉢	在地	KB2	25溝(K-7GNo. 25、K-8GNo. 57)	—	—	—			火鉢001	
532	かわらけ	在地	KB2	26溝(K-8GNo. 77)	6.9	3.8	2.2			町 K248	
533	茶入	瀬戸美濃	KB2	28溝	—	—	—	古後		他003	
534	かわらけ	在地	KB2	28溝(J-7GNo. 97・100)	*7.0	3.0	2.0			K048	小型
535	かわらけ	在地	KB2	28溝(J-7GNo. 111、一括)	*7.0	*3.5	1.6		不明	K050	油煙 小型
536	かわらけ	在地	KB2	28溝(J-7GNo. 99)	*8.0	*4.2	1.8		不明	K066	油煙 小型
537	かわらけ	在地	KB2	28溝	12.1	7.7	2.8~3.1		15c 中~16c 前	町 K238	
538	かわらけ	在地	KB2	28溝(J-7G)	*11.0	6.0	3.0		15c 中~16c 前	町 K279	見込ナデ 痕
539	染付碗	肥前(磁器)	KB2	33溝(H-8GNo. 171)	*11.4	—	—		17c 後	伊017	
540	色絵碗	肥前(磁器)	KB2	33溝(H-8GNo. 152)	—	4.4	—		18c	伊018	
541	碗	肥前(磁器)	KB2	33溝(H-8GNo. 155)	*11.2	4.6	5.7		17c 後~18c	町伊008	
542	染付皿	肥前(磁器)	KB2	33溝(H-8GNo. 156・167カ、H-8G)	13.4	5.0	3.0		1630~1650	伊007	
543	染付鉢	肥前(磁器)	KB2	33溝(H-8GNo. 168)	—	—	—		17c~	伊019	
544	壺	肥前(磁器)	KB2	33溝(H-8GNo. 169)、H-8GNo. 1	*7.2	—	—			町袋034	
545	かわらけ	在地	KB2	33溝(H-8GNo. 153)	*9.6	6.4	2.2		17c 前	K002	
546	かわらけ	在地	KB2	33溝	*8.6	5.0	2.1		17c 前	K014	
547	かわらけ	在地	KB2	33溝(H-8GNo. 154)	*8.0	*6.0	1.6		17c 前	K046	
548	かわらけ	在地	KB2	33溝	*8.0	*6.5	1.7		17c 前	K049	

第17表 土器類一覧表 8

( )は残存値、\*は不確定な推定復元値

質量の単位は cm

図版 No.	器種	産地	地区	出土地点	口径	底径	器高	形式	年代	器種 No.	備考
549	反り皿	瀬戸美濃	KB2	34溝(H-8GNo.123)、4-8区	*11.5	*6.2	2.8		17c 後	町皿161	
550	搦鉢	瀬戸美濃	KB2	34溝(H-9GNo.27)、37溝(G-9GNo.63)、9井、G-9GNo.4・7・10・40・44・47、4-8区、4-8区 No.133、一括	*29.6	11.2	13.6	登1		町鉢018	
551	搦鉢	丹波	KB2	34溝(H-8GNo.95・105)、G-8GNo.2、H-8G?No.44	—	—	—		17c 中	鉢027	
552	搦鉢	丹波信楽	KB2	34溝(N-5GNo.101)、H-8GNo.40・42・45・47・49・52・53・54、H-9GNo.5・7・8・9・15・18、G-8GNo.1、4-8区、GNo. ?、? GNo.130、一括	*31.8	—	13.9		17c ~ 18c?	町鉢073	
553	染付皿	肥前(磁器)	KB2	34溝、33・37溝 合流、4-8区、H-9GNo.6、H-8GNo. ?、? GNo.130、一括	12.4	4.8	3.0		1640 ~ 1650	伊014	
554	碗	肥前(磁器)	KB2	34溝(H-9GNo.29)、?	*10.6	*4.3	7.1		1630 ~ 50	町伊014	
555	かわらけ	在地	KB2	34溝(H-8GNo.79)、H-8GNo.28	—	*5.8	—		不明	K009	
556	かわらけ	在地	KB2	34溝(H-8GNo.91・103)	*10.6	—	—		17c 前	K012	
557	かわらけ	在地	KB2	37溝(H-9GNo.25)	*8.6	*6.0	1.8		17c	K045	
558	かわらけ	在地	KB2	34溝(H-8GNo.69・70)、H-8GNo.30	*12.2	*7.0	2.8		16c 中	K104	
559	土鍋	在地	KB2	34溝(H-8GNo.136・137・138)	*30.0	—	—		15c 後	D001	
560	ほうろく	栃木	KB2	34溝(H-8GNo.68・94・109・117・118・131、一括)、H-8GNo.24・51、H-9GNo.1、G-9GNo.6	*31.8	—	—			H003	金雲母
561	片口	瀬戸美濃	KB2	34b 溝(H-9GNo.31)、37溝(G-9GNo.46)、G-9GNo.5・15・41、H-9GNo.13・14、4-8区、	*17.7	11.0	8.9		17c 末 ~ 18c	町鉢074	
562	搦鉢	丹波	KB2	34b 溝(H-9GNo.30)、37溝(F-9GNo.20・21)	*34.0	—	—		17c 後	鉢026	
563	反り皿	瀬戸美濃	KB2	37溝(F-9GNo.17)	13.2	7.5	2.5		17c 中 ~ 後	町皿048	
564	搦鉢	瀬戸美濃	KB2	37溝(F-9GNo.18)	—	*10.0	—	大2~4		鉢008	
565	德利	瀬戸美濃	KB2	37溝(H-9GNo.20)	—	*7.2	—	大3		袋001	
566	鉢	肥前(唐津)	KB2	37溝(F-9GNo.11)、I-7GNo.4	*26.0	—	—		17c 末 ~ 18c	鉢028	
567	搦鉢	丹波	KB2	37溝(G-9GNo.73)	—	—	—		17c 中	鉢023	
568	青磁大皿	波佐見	KB2	37溝(G-9GNo.54)、G-9GNo.36	—	—	—		1630 ~ 1680	伊001	
569	青磁碗	波佐見	KB2	37溝(G-9GNo.64)	—	*4.3	—		1650 ~ 1680	伊015	
570	染付碗	肥前(磁器)	KB2	37溝(G-9GNo.51)	*10.0	—	—		1650 ~ 1660	伊013	
571	かわらけ	在地	KB2	37溝(G-9GNo.57、一括)	*10.4	*7.0	1.9		17c 前	K055	
572	かわらけ	在地	KB2	37溝(G-9GNo.48)	*9.0	*4.2	1.9		17c	K060	
573	かわらけ	在地	KB2	37溝(G-9GNo.66)	*12.0	*7.3	2.2		不明	K061	油煙
574	かわらけ	在地	KB2	37溝	*11.0	*9.0	2.0		18c?	K062	
575	かわらけ	在地	KB2	37溝	*8.0	*4.8	1.8		不明	K063	
576	かわらけ	在地	KB2	37溝、H-4GNo.14	*10.0	—	—		17c 前	K069	
577	かわらけ	在地	KB2	37溝、9井	9.6	5.8	2.0~2.2		17c 前	K099	
578	ほうろく	在地	KB2	37溝(F-9GNo.10)、42溝(4-8区)、E-10G、4-8区	*34.0	*30.0	5.5			H002	
579	ほうろく	在地	KB2	37溝(F-9GNo.6・7)、4-8区	*34.0	*30.0	5.9			H007	
580	青磁皿	同安窯系中国	KB2	42溝、H-8GNo.36	*11.0	—	—	I-2	12c 中 ~ 13c	町青081	
581	青磁碗	龍泉窯系中国	KB2	42溝	—	—	—		15c ~	青008	
582	軟質施釉陶器碗	不明	KB2	42溝(E-10GNo.40・41、一括)、4-8区	*15.0	—	—		16c 末 ~ 17c	碗003	
583	軟質施釉陶器碗	不明	KB2	42溝、4-8区	*12.0	—	—		17c 前	碗015	
584	搦鉢	丹波	KB2	42溝(4-8区)、4-8区、E-10G(No.1・2)	35.3	—	13.5		17c 後	町鉢072	
585	白磁碗	肥前(磁器)	KB2	42溝(4-8区)	*11.2	—	—		17c ~	伊028	
586	袴腰形香炉	瀬戸美濃	KB2	44溝	*10.0	—	—	古後II		香001	
587	甕	常滑	KB2	45溝(I-7GNo.29?)、J-6GNo.84	—	—	—	5形式		町袋100	
588	かわらけ	在地	KB2	45溝(I-8No.64)	6.4	3.0	2.3		16c 中?	K095	見込ナデ痕 小型
589	かわらけ	在地	KB2	45溝(I-8GNo.68)	8.4	4.4	1.9		不明	K080	油煙 小型 見込ナデ痕
590	片口鉢	在地	KB2	34溝(H-8GNo.116)	30.0	—	—		14c 後	鉢032	
591	かわらけ	在地	KB2	1井	—	*5.0	—		17c 前?	K013	
592	火鉢	在地	KB2	1井(O-9GNo.17・26)	*41.2	*33.0	9.6			町鉢273	丸
593	火鉢	在地	KB2	1井(O-9GNo.15・16・18・20・21・23・25、一括)	*42.0	*36.0	14.4			町鉢276	丸
594	丸皿	瀬戸美濃	KB2	8井(4-8区)	12.0	6.6	2.7		17c 末 ~ 18c 前	町皿047	
595	鉄絵皿	瀬戸美濃	KB2	6井	—	*7.0	—	大4	16c 末 ~ 17c 初	皿029	
596	かわらけ	在地	KB2	6井?、9井	*10.0	—	—		17c 後?	K010	
597	かわらけ	在地	KB2	6井、9井	9.5	6.0	2.6		17c 前	K105	
598	かわらけ	在地	KB2	8井	*10.0	*7.0	1.9		17c 前	K064	
599	白磁皿	中国	KB2	9井	—	*7.0	—	C-1		白001	
600	小碗	瀬戸美濃	KB2	9井	*9.0	—	—	登1		碗006	
601	搦鉢	瀬戸美濃	KB2	9井	—	—	—	登2		鉢030	
602	染付碗	肥前(磁器)	KB2	9井	—	*4.5	—		1640 ~ 1650	伊026	
603	かわらけ	在地	KB2	9井	9.2	6.0	2.1		17c	K098	
604	縁釉小皿	瀬戸美濃	KB2	10井	*11.0	—	—	古後II		皿025	
605	志野丸皿	瀬戸美濃	KB2	10井、4-8区	*12.0	*6.6	2.0	大4後		町皿080	
606	天目	瀬戸美濃	KB2	10井	*12.0	—	—	大3		天006	
607	搦鉢	瀬戸美濃	KB2	10井	*32.0	—	—	大3前、II		町鉢120	
608	青磁碗	龍泉窯系中国	KB2	12井	—	—	—	A3(I-3)		青002	
609	青磁碗	龍泉窯系中国	KB2	27壇	—	—	—	B1(I-5)		青007	
610	かわらけ	在地	KB2	42壇(L-10GNo.10)	11.7	6.6	2.5~2.7		16c 中 ~ 17c 前	町 K236	
611	かわらけ	在地	KB2	43壇	*12.0	*7.5	3.7		^ 16c 中	K042	
612	かわらけ	在地	KB2	43壇	—	*6.8	—		^ 16c 中	K051	

第18表 土器類一覽表9



出土した遺物

( ) は残存値、\* は不確定な推定復元値

法量の単位は cm

図版 No.	器種	産地	地区	出土地点	口径	底径	器高	形式	年代	器種 No.	備考
613	かわらけ	在地	KB2	43墳	*12.2	*6.8	2.2		15c中~16c前	K052	
614	かわらけ	在地	KB2	77墳(No. 109、一括)	*11.0	*7.0	2.4		16c後?	K047	
615	かわらけ	在地	KB2	77墳(No. 109)、6-33区	*11.0	7.0	3.0		16c後~末	K102	
616	かわらけ	在地	KB2	79墳	13.9	5.9	3.2~3.7		~16c前	町 K247	
617	かわらけ	在地	KB2	101墳(I-8GNo. 59)	11.5	5.5	3.8~4.0		15c中~16c前	町 K237	見込ナデ痕
618	かわらけ	在地	KB2	106墳(H-8GNo. 161)	11.8	5.3	3.2~4.0		15c中~16c前	K001	見込ナデ痕 板目
619	瓶	肥前(唐津)	KB2	115墳(F-10GNo. 1)、KB1B-8GNo. 18	—	4.8	—		16c末~17c前	町袋051	
620	端反皿	瀬戸美濃	KB2	48P(O-9GNo. 10)	*10.6	*5.2	3.4	大1	15c末~16c初	町皿029	
621	かわらけ	在地	KB2	90P、M-10GNo. 2	10.5	5.8	2.2~2.5		16c後~末	K016	
622	かわらけ	在地	KB2	154P(M-11GNo. 21)	9.5	5.6	2.2~2.6		17c前	K015	見込ナデ痕
623	青磁皿	龍泉窯系中国	KB2	F-9GNo. 24	—	*3.8	—	劃花文(I-2)		町青014	
624	青磁碗	同安窯系中国	KB2	6-33区用水	—	—	—	B(I)	12c中~13c末	青001	
625	青磁碗	龍泉窯系中国	KB2	4-8区	—	—	—	B1(I-5)	15c~	青003	
626	青磁碗	龍泉窯系中国	KB2	6-33区	—	—	—	B1(I-5)		青004	
627	青磁碗	龍泉窯系中国	KB2	6-31区北	—	—	—	B1(I-5)		青005	
628	青磁碗	龍泉窯系中国	KB2	L-11GNo. 1	—	—	—	B1(I-5)		青006	
629	染付碗	中国	KB2	6-32区西	—	*5.3	—	E		町染030	
630	染付碗	中国	KB2	H-8GNo. 34・35	*10.0	—	—	E		染009	
631	染付碗	中国	KB2	4-8区県道際	—	—	—	E		染010	
632	染付碗	中国	KB2	6-33区	—	*5.6	—	C	15c中~16c末	染011	
633	染付皿	中国	KB2	6-32区	—	—	—	E	16c末~17c	染001	
634	染付皿	中国	KB2	H-8GNo. 32	—	—	—	E	16c末~17c	染002	
635	染付皿	中国	KB2	H-5GNo. 2	—	*6.2	—	E	16c末~17c	染003	
636	染付皿	中国	KB2	6-33区用水	—	*6.0	—	E	16c末~17c	染004	
637	染付皿	中国	KB2	6-33区用水	—	—	—	E	16c末~17c	染005	
638	染付皿	中国	KB2	6-33区用水	—	—	—	E	16c末~17c	染006	
639	染付皿	中国	KB2	4-8区	—	*10.0	—	E	16c末~17c	染007	
640	染付皿	中国	KB2	6-33区	—	*8.0	—	B-1	15c中~16c末	染008	
641	染付小坏	中国	KB2	6-33区	*6.0	—	—		16c後~17c	染012	
642	染付大皿又は盤	漳州窯系中国	KB2	6-33区	—	—	—		16c末~17c	染014	
643	染付碗	漳州窯系中国	KB2	G-9GNo. 33、4-8区	—	*5.7	—		16c末~17c	染013	
644	つば皿	中国	KB2	4-8区	*13.8	—	—	F		町染057	
645	片口鉢	常滑	KB2	J-7GNo. 117(6・25溝)	—	—	—	5・6a		鉢031	
646	三筋壺	常滑	KB2	6-33区、J-6GNo. 22、K-8GNo. 90(77墳)、6-33区南	—	—	—	3ヵ4		町袋048	
647	天目	瀬戸美濃	KB2	H-9GNo. 19	*11.6	—	—	大2	16c前~中	町天011	
648	天目	瀬戸美濃	KB2	一括	—	4.2	—	大3		天005	
649	天目	瀬戸美濃	KB2	H-4GNo. 72	*12.0	—	—	大3		天007	
650	天目	瀬戸美濃	KB2	H-4GNo. 8	*11.0	—	—	大4末		天009	
651	天目	瀬戸美濃	KB2	一括	*12.0	*5.3	6.4	登1	16c末~17c初	町天030	
652	天目	瀬戸美濃	KB2	E-11GNo. 12	—	3.6	—	登1		天001	
653	天目	瀬戸美濃	KB2	6-31区北	*12.0	—	—	登2		天002	
654	天目	瀬戸美濃	KB2	4-8区	*11.0	—	—	登2		天003	
655	天目	瀬戸美濃	KB2	6-33区	*11.0	—	—	登2		天004	
656	天目(白天目)	瀬戸美濃	KB2	J-6GNo. 27、6-33区	*11.0	—	—	登2・3	17c中	天008	
657	丸碗	瀬戸美濃	KB2	6-33区	*10.0	—	—	登1・2		碗008	
658	丸碗	瀬戸美濃	KB2	6-33区	*11.8	*4.4	7.7	登2	17c前	町碗015	掛け分け碗
659	丸碗	瀬戸美濃	KB2	H-4GNo. 73	—	4.8	—	登1		碗001	
660	織部黒茶碗	瀬戸美濃	KB2	6-33区	—	—	—	登1		碗004	
661	丸碗	瀬戸美濃	KB2	4-8区	*9.5	—	—	登1・2		碗007	
662	湯飲み	不明	KB2	6-33区	*8.4	*3.0	4.7			碗009	
663	丸碗	瀬戸美濃	KB2	K-9GNo. 1	*9.0	—	—		17c前	碗010	
664	丸碗	瀬戸美濃	KB2	一括	—	*5.0	—	登1・2		碗014	
665	卸皿	瀬戸美濃	KB2	6-33区	*13.0	—	—	古後IV(古)		町皿173	
666	緑釉小皿	瀬戸美濃	KB2	一括	*11.0	—	—	古後III		皿026	
667	緑釉皿	瀬戸美濃	KB2	6-33区	*12.0	—	—	大1		皿042	
668	端反皿	瀬戸美濃	KB2	一括	*12.0	—	—	大1		皿004	
669	端反皿	瀬戸美濃	KB2	一括	*11.0	—	—	大1		皿005	
670	端反皿	瀬戸美濃	KB2	一括	*9.0	—	—	大1		皿006	
671	端反又は丸皿	瀬戸美濃	KB2	一括	—	5.1	—	大1・2		皿039	
672	端反又は丸皿	瀬戸美濃	KB2	6-32区	—	*6.0	—	大1・2		皿041	
673	丸皿	瀬戸美濃	KB2	6-33区用水	*9.0	—	—	大2		皿014	
674	丸皿	瀬戸美濃	KB2	6-31区	*11.0	—	—	大2		皿016	
675	丸皿	瀬戸美濃	KB2	6-33区	*12.0	—	—	大2		皿017	
676	丸皿	瀬戸美濃	KB2	E-11GNo. 23・27、4-8区県道際	*13.6	5.0	2.3	大2	16c前~中	町皿042	
677	丸皿	瀬戸美濃	KB2	6-32区	*12.0	—	—	大3		皿012	
678	丸皿	瀬戸美濃	KB2	6-32区西	*11.0	—	—	大3		皿013	
679	丸皿	瀬戸美濃	KB2	一括	*12.0	—	—	大3		皿015	
680	丸皿	瀬戸美濃	KB2	KB2ヵ3?	*11.3	6.5	2.6	大2	16c前~中	町皿018	

第19表 土器類一覽表10

( ) は残存値、\* は不確定な推定復元値

質量の単位は cm

図版 No.	器種	産地	地区	出土地点	口径	底径	器高	形式	年代	器種 No.	備考
681	丸皿	瀬戸美濃	KB2	L-9GNo. 4	*10.0	*5.8	1.7	大4		皿018	
682	稜皿	瀬戸美濃	KB2	4-8区	*10.0	—	—	大3		皿019	
683	襷皿	瀬戸美濃	KB2	H-4GNo. 2	*11.0	—	—	大3		皿020	
684	折縁皿	瀬戸美濃	KB2	4-8区	*12.0	—	—	大3後		皿001	
685	折縁皿	瀬戸美濃	KB2	4-8区	*12.0	—	—	大3後		皿002	
686	折縁皿	瀬戸美濃	KB2	K-7GNo. 8	*12.0	—	—	大4前		皿003	
687	折縁皿	瀬戸美濃	KB2	4-8区西	*11.0	—	—	大4		皿023	
688	折縁皿	瀬戸美濃	KB2	6-32区西	*11.0	—	—	大4		皿024	
689	志野丸皿	瀬戸美濃	KB2	D-11GNo. 11	*13.2	*8.0	2.3	大4後		皿007	
690	志野丸皿	瀬戸美濃	KB2	一括	*13.0	—	—	大4後		皿008	
691	志野丸皿	瀬戸美濃	KB2	4-8区	*13.0	—	—	大4後		皿009	
692	志野丸皿	瀬戸美濃	KB2	4-8区	*12.0	—	—	大4後		皿010	
693	志野丸皿	瀬戸美濃	KB2	E-11GNo. 2	*11.0	—	—	大4後		皿011	
694	志野丸皿	瀬戸美濃	KB2	4-8区	*12.0	—	—	登1		皿021	
695	志野丸皿	瀬戸美濃	KB2	E-10GNo. 22、E-11GNo. 6	*12.0	*6.6	2.9	登1		皿034	
696	志野丸皿	瀬戸美濃	KB2	G-9GNo. 8	*11.2	*6.0	1.8	登3		皿033	
697	鉄絵皿	瀬戸美濃	KB2	K-11GNo. 14	*13.0	7.7	2.8	登2	17c前~中	町皿056	
698	鉄絵皿	瀬戸美濃	KB2	6-33区	*12.0	*7.0	2.5	登2		皿027	
699	鉄絵皿	瀬戸美濃	KB2	6-33区用水	*12.0	—	—	登2		皿028	
700	皿	瀬戸美濃	KB2	?溝(No. 144)	13.8	7.2	3.0	登2カ3	17c前~後	町皿049	
701	灯明皿	瀬戸美濃	KB2	6-31区北	*9.0	*3.0	1.5		18c後	皿035	
702	灯明皿	瀬戸美濃	KB2	O-14GNo. 1、表採	*10.8	*5.8	1.9		18c~	皿046	
703	灯明皿(受皿)	瀬戸美濃	KB2	I-8GNo. 38	*11.0	—	—		18c後	皿036	
704	灯明皿(受皿)	瀬戸美濃	KB2	6-32区	*10.0	—	—		18c後~	皿037	
705	灯明皿(受皿)	瀬戸美濃	KB2	6-31区北	*10.0	*4.8	2.2		18c後~	皿038	
706	御深井釉皿	瀬戸美濃	KB2	L-11GNo. 3	—	—	—	登2	17c前~中	町皿165	
707	御目付大皿	瀬戸美濃	KB2	E-10GNo. 6	—	—	—	古後Ⅲ		鉢001	
708	播鉢	瀬戸美濃	KB2	6-33区	—	—	—	古後Ⅳ(衝)・大1		鉢015	
709	播鉢	瀬戸美濃	KB2	E-11GNo. 5	—	—	—	古後Ⅳ(衝)・大1		鉢016	
710	播鉢	瀬戸美濃	KB2	6-33区	—	—	—	古後Ⅳ(衝)・大1		鉢017	
711	播鉢	瀬戸美濃	KB2	K-7GNo. 10	—	*10.0	—	大2~4		鉢005	
712	播鉢	瀬戸美濃	KB2	G-9GNo. 27	—	—	—	大2~4		鉢006	
713	播鉢	瀬戸美濃	KB2	F-10GNo. 10	—	*10.0	—	大2~4		鉢007	
714	播鉢	瀬戸美濃	KB2	I-7GNo. 1	—	*10.0	—	大2~4		鉢009	
715	播鉢	瀬戸美濃	KB2	E-11GNo. 4	—	—	—	大2~4		鉢010	
716	播鉢	瀬戸美濃	KB2	J-7GNo. 37	*29.6	—	—	大3後、I		町鉢206	
717	播鉢	瀬戸美濃	KB2	E-11GNo. 7	—	—	—	大3後、I		町鉢229	
718	播鉢	瀬戸美濃	KB2	一括	—	—	—	大3後		鉢019	
719	播鉢	瀬戸美濃	KB2	6-33区用水	—	—	—	大4前		鉢012	
720	播鉢	瀬戸美濃	KB2	6-31区南	*30.0	—	—	大4前、I		町鉢211	
721	播鉢	瀬戸美濃	KB2	G-9GNo. 45	—	—	—	大4後、Ⅱ		鉢020	
722	播鉢	瀬戸美濃	KB2	4-8区	*30.4	—	—		17c後	鉢011	
723	黄瀬戸鉢	瀬戸美濃	KB2	6-33区	—	—	—	登1・2		鉢002	
724	黄瀬戸鉢	瀬戸美濃	KB2	6-33区	—	—	—	登1・2		鉢003	
725	筒形香炉	瀬戸美濃	KB2	6-31区	*10.8	—	—	古後ⅠカⅡ		町香011	
726	香炉	瀬戸美濃	KB2	6-32区西	—	—	—	古中Ⅲ・Ⅳ		香002	
727	香炉	瀬戸美濃	KB2	G-9GNo. 43・74、G-9G、4-8区	—	*10.0	—		17c~	香004	
728	香炉	瀬戸美濃	KB2	6-33区 No. 43	*10.0	—	—		19c前	香006	
729	梅瓶	瀬戸美濃	KB2	H-8GNo. 56?、KB1 A-8G	—	*10.0	—	古中		袋002	
730	梅瓶	瀬戸美濃	KB2	4-8区西	—	—	—	古中Ⅰ・Ⅱ		町他025	
731	小壺	瀬戸美濃	KB2	D-11GNo. 24	—	5.2	—	登3		町他017	
732	志野向付	瀬戸美濃	KB2	D-11GNo. 1	—	—	—	大4後		他001	
733	志野向付	瀬戸美濃	KB2	4-8区県道際、4-8区	—	—	—	大4後		他002	
734	蓋	瀬戸美濃	KB2	6-33区北	*12.0	—	—		17c~	他005	
735	合子	瀬戸美濃	KB2	E-11GNo. 23	*4.3	—	—	古後Ⅲ		他040	
736	碗	肥前(唐津)	KB2	一括	—	*5.0	—		16c末~17c前	碗002	
737	輪禿皿	肥前(陶器)	KB2	6-33区	—	*5.4	—		17c後	皿047	
738	鉄絵皿	肥前(唐津)	KB2	6-33区	—	5.4	—		16c末~17c前	皿030	
739	大皿	肥前(唐津)	KB2	L-11GNo. 27	—	—	—		16c末~17c前	鉢014	
740	大皿	肥前(唐津)	KB2	6-33区	—	*13.0	—		17c	皿045	
741	丸皿	志戸呂	KB2	6-31区	*8.0	—	—		16c後	皿031	
742	播鉢	志戸呂	KB2	6-33区用水	—	—	—		16c後	町鉢243	
743	播鉢	志戸呂	KB2	6-33区	—	—	—		16c後	鉢021	
744	折縁皿	初山	KB2	6-33区	*11.0	—	—		16c後	皿043	
745	水注	初山	KB2	6-33区	—	—	—		16c後	他004	
746	丸碗	京都・信楽	KB2	4-8区	—	4.7	—		18c中~	碗011	
747	丸碗	京都・信楽	KB2	L-9GNo.?	*10.0	—	—		18c中~	碗012	
748	丸碗	京都・信楽	KB2	6-33区	*11.0	—	—		18c中~	碗013	
749	青磁碗	波佐見	KB2	4-8区	*12.0	—	—		1630~1680	伊002	
750	青磁香炉	波佐見	KB2	G-9GNo. 17	*11.0	—	—		1650~1740	伊003	

第20表 土器類一覽表11

( ) は残存値、\* は不確定な推定復元値

法量の単位は cm

図版 No.	器種	産地	地区	出土地点	口径	底径	器高	形式	年代	器種 No.	備考
751	白磁碗	肥前 (磁器)	KB2	6-33区	*11.0	—	—		17c~	伊029	
752	白磁碗	肥前 (磁器)	KB2	6-33区	*11.0	—	—		17c~	伊030	
753	白磁小坏	肥前 (磁器)	KB2	4-8区	*6.0	—	—		17~18c	伊004	
754	白磁小坏	肥前 (磁器)	KB2	6-31区	*6.0	—	—		17~18c	伊005	
755	白磁小坏	肥前 (磁器)	KB2	6-32区西	*6.0	—	—		17~18c	伊006	
756	白磁小坏	肥前 (磁器)	KB2	一括	—	*2.8	—		17c~	伊032	
757	染付碗	肥前 (磁器)	KB2	一括	—	—	—			碗005	
758	染付碗	肥前 (磁器)	KB2	6-33区	*10.4	4.4	5.9		17c後~18c	町伊010	
759	染付碗	肥前 (磁器)	KB2	6-33区	*11.2	4.3	6.0		17c後	町伊013	
760	染付碗	肥前 (磁器)	KB2	6-33区	*11.6	—	—		17c後~18c初	伊008	
761	染付碗	肥前 (磁器)	KB2	F-9 GNo. 8	*11.0	—	—		1640~1650	伊009	
762	染付碗	肥前 (磁器)	KB2	G-9 GNo. 26	*11.0	—	—		1640~1650	伊010	
763	染付碗	肥前 (磁器)	KB2	G-9 GNo. 31	*11.0	—	—		1640~1650	伊011	
764	染付碗	肥前 (磁器)	KB2	6-33区	*11.0	—	—		17c後	伊012	
765	染付碗	肥前 (磁器)	KB2	4-8区	*9.6	—	—		17c~	伊020	
766	染付碗	肥前 (磁器)	KB2	4-8区	*8.0	—	—		1710~1750	伊022	
767	染付碗	肥前 (磁器)	KB2	6-33区	—	4.4	—		1690~1720	伊024	
768	染付碗	肥前 (磁器)	KB2	6-33区用水	—	—	—		17c~	伊025	
769	染付碗	肥前 (磁器)	KB2	4-8区	*10.5	—	—		1640	伊027	
770	染付碗	肥前 (磁器)	KB2	J-6 GNo. 14	—	*4.0	—		18c	伊031	
771	染付筒碗	肥前 (磁器)	KB2	6-33区	—	—	—		1780~1810	伊021	
772	染付小坏	肥前 (磁器)	KB2	6-33区南	—	3.7	—		17c中	伊023	
773	色絵婦人像	肥前 (磁器)	KB2	4-8区	—	—	—		17c~	伊035	
774	人形 (鳥)	肥前 (磁器)	KB2	E-10GNo. 16	—	—	—		18c~	伊033	
775	かわらけ	在地	KB2	一括	11.2	*6.5	3.7			K003	
776	かわらけ	在地	KB2	I-7 GNo. 8、4-8区	*11.4	5.0	2.8			K005	
777	かわらけ	在地	KB2	6-32区	11.4	7.0	2.6			K006	
778	かわらけ	在地	KB2	6-33区	11.4	6.5	2.5~2.7			K007	
779	かわらけ	在地	KB2	4-8区、E-11GNo. 18、13?	*9.0	5.8	2.8			K008	
780	かわらけ	在地	KB2	6-32区	*12.0	7.0	2.8			K011	
781	かわらけ	在地	KB2	M-10GNo. 3、6-32区	*10.5	6.0	2.3~2.7			K017	
782	かわらけ	在地	KB2	6-33区	12.5	7.5	2.6			K018	
783	かわらけ	在地	KB2	6-33区	*9.0	*6.4	1.9			K019	
784	かわらけ	在地	KB2	6-33区	10.0	6.5	2.6			K020	
785	かわらけ	在地	KB2	6-33区、I-5 GNo. 4	*9.0	5.6	2.1			K021	
786	かわらけ	在地	KB2	6-33区	9.2	6.2	2.5			K022	
787	かわらけ	在地	KB2	4-8区	9.0	6.0	1.8			K023	
788	かわらけ	在地	KB2	I-7 GNo. 9	11.6	6.7	2.7			K024	
789	かわらけ	在地	KB2	I-7 GNo. 11	9.9	6.0	2.5~2.9			K026	
790	かわらけ	在地	KB2	E-11GNo. 18	8.5	4.6	2.6~2.7			K028	
791	かわらけ	在地	KB2	L-11GNo. 13・21	11.5	6.2	2.6~3.0			K027	
792	かわらけ	在地	KB2	N-10GNo. 1	*11.0	*7.0	2.2			K029	
793	かわらけ	在地	KB2	D-11GNo. 35	11.0	6.6	2.8			K025	
794	かわらけ	在地	KB2	I-8GNo. 31	*11.5	5.5	3.2			K030	
795	かわらけ	在地	KB2	I-7GNo. 10	9.8	6.0	2.5			K031	
796	かわらけ	在地	KB2	D-11GNo. 40	*11.8	7.2	2.6			K032	
797	かわらけ	在地	KB2	I-8GNo. 25	11.5	5.0	3.1~3.6			K033	
798	かわらけ	在地	KB2	I-8GNo. 43 (28溝)	10.6	6.7	2.7~2.9			K034	
799	かわらけ	在地	KB2	J-7GNo. 34	6.8	3.0	2.7~3.0			K035	
800	かわらけ	在地	KB2	G-9GNo. 23、4-8区	9.0	5.5	1.6			K036	
801	かわらけ	在地	KB2	一括	*12.0	*8.5	3.0			K037	
802	かわらけ	在地	KB2	J-7GNo. 13	*13.5	*7.8	2.7			K038	
803	かわらけ	在地	KB2	J-7GNo. 32	*11.0	*5.6	2.6			K039	
804	かわらけ	在地	KB2	I-8GNo. 17、I-8G、T	*10.8	*6.5	3.0			K040	
805	かわらけ	在地	KB2	K-8GNo. 6・11	*10.0	*6.0	2.1			K041	
806	かわらけ	在地	KB2	6-31区、6-31区南	*12.0	—	—			K053	
807	かわらけ	在地	KB2	J-7GNo. 16	*10.0	*6.0	2.6			K054	
808	かわらけ	在地	KB2	I-8G	*7.0	*3.8	2.1			K056	
809	かわらけ	在地	KB2	6-33区	*6.4	*3.2	2.1			K057	
810	かわらけ	在地	KB2	表採	11.6	5.0	3.4~3.6			K070	
811	かわらけ	在地	KB2	H-4GNo. 46	11.6	5.0	2.6~3.0			K071	
812	かわらけ	在地	KB2	L-11GNo. 19	12.2	5.4	3.4			K072	
813	かわらけ	在地	KB2	M-10GNo. 20	*11.2	7.6	2.8			K073	
814	かわらけ	在地	KB2	M-11GNo. 2、6-31区?	*11.0	6.2	3.4			K074	
815	かわらけ	在地	KB2	E-10GNo. 44	*8.8	5.2	1.8~2.4			K075	
816	かわらけ	在地	KB2	E-10G、E-10GNo. 23・46	9.0	6.4	1.8~2.0			K076	
817	かわらけ	在地	KB2	I-8GNo. 5	*10.6	*6.6	2.8			K077	
818	かわらけ	在地	KB2	J-7GNo. 31	*11.4	*6.0	2.8			K078	
819	かわらけ	在地	KB2	I-7GNo. 29	*6.6	5.0	1.9			K079	
820	かわらけ	在地	KB2	J-7G、6-33	*6.5	3.8	1.8			K081	

第21表 土器類一覧表12

( ) は残存値、\* は不確定な推定復元値

法量の単位は cm

図版 No.	器種	産地	地区	出土地点	口径	底径	器高	形式	年代	器種 No.	備考
821	かわらけ	在地	KB2	K-8GNo. 18	6.3	3.6	2.2			K082	
822	かわらけ	在地	KB2	一括	*6.4	3.7	1.9~2.3			K083	
823	かわらけ	在地	KB2	J-6GNo. 29	*10.0	*6.4	2.3			K084	
824	かわらけ	在地	KB2	H-8GNo. 39	*12.0	—	—			K085	
825	かわらけ	在地	KB2	E-11GNo. 29	*9.0	*6.5	1.8			K086	
826	かわらけ	在地	KB2	E-11GNo. 20	*11.0	*6.8	2.6			K087	
827	かわらけ	在地	KB2	J-7GNo. 21.6-33区	*12.0	—	—			K088	
828	かわらけ	在地	KB2	I-8GNo. 28, I-8G, T	*7.0	*4.2	2.1			K089	
829	かわらけ	在地	KB2	D-11GNo. 30	*12.0	*7.2	3.1			K090	
830	かわらけ	在地	KB2	J-6GNo. 13	*11.0	*7.8	2.5			K091	
831	かわらけ	在地	KB2	D-10GNo. 1	*9.0	*6.0	1.6			K092	
832	かわらけ	在地	KB2	I-7GNo. 7	*11.0	—	—			K093	
833	かわらけ	在地	KB2	4-8区	*12.0	—	—			K094	
834	かわらけ	在地	KB2	I-8GNo. 49, T (45溝)	7.8	3.0	2.0			K096	
835	かわらけ	在地	KB2	E-10GNo. 19	12.0	6.2	3.0			K100	
836	かわらけ	在地	KB2	D-11GNo. 33	12.0	7.8	2.8			K107	
837	ほうろく	在地	KB2	6-33区用水	*34.0	*31.0	5.7			H001	
838	ほうろく	在地	KB2	I-5GNo. 1-17	*32.0	*28.0	5.1			H006	
839	片口鉢	在地	KB2	一括	—	—	—		13c 後	鉢033	
840	片口鉢	在地	KB2	J-7G6-33区	—	—	—		14c 後	鉢034	
841	片口鉢	在地	KB2	6-33区	*28.0	—	—		13c 後	鉢035	
842	片口鉢	在地	KB2	J-7GNo. 9	—	—	—		13c 後	鉢036	
843	香炉	在地	KB2	6-33区	*12.0	*8.4	4.0			素他001	
844	香炉	在地	KB2	J-7GNo. 50	*13.4	*11.0	4.1			町素他016	
845	火鉢	在地	KB2	H-4GNo. 33・67 (136墳)	—	—	—			火鉢002	
846	甕	在地	KB2	E-10GNo. 12	—	—	—		14c	袋006	
847	置きカマドカ	在地	KB2	6-33区	—	—	—			素他003	
848	土製円盤	瀬戸美濃	KB1	12溝 (A-6G)	5.5	4.8	0.9			つぶて石1	
849	土製円盤	瀬戸美濃	KB1	A-4G	4.6	3.5	0.4	登1・2		つぶて石3	
850	土製円盤	瀬戸美濃	KB1	B-5GNo. 9	4.0	3.2	0.5	大カ		つぶて石4	
851	土製円盤	肥前 (陶器)	KB1	A-9GNo. 37	7.1	6.0	2.3		17c~後	皿010	
852	土製円盤	常滑	KB2	H-4GNo. 23	6.0	—	1.2			つぶて石2	
853	土製円盤	常滑	KB2	J-6G	3.5	—	0.8			つぶて石3	
854	土製円盤	常滑	KB2	J-7GNo. 2	3.5	—	1.2			つぶて石4	
855	土製円盤	瀬戸美濃	KB2	6-33区用水	2.3	—	0.5	登		他006	
856	土製円盤	瀬戸美濃	KB2	6-32区西	2.2	—	0.5	登		他007	
857	土製円盤	瀬戸美濃	KB2	6-33区	2.1	—	0.5	大		他008	
858	土製円盤	瀬戸美濃	KB2	4-8区	4.2	—	1.1	登1・2		つぶて石1	
859	土製円盤	肥前 (磁器)	KB2	4-8区	4.5	—	1.2		17c~	伊034	
860	転用陶器片	常滑	KB1	12溝 (B-16GNo. 16)	5.0	7.4	1.4			他013	
861	転用陶器片 (片口鉢)	在地	KB2	8溝 (L-9GNo. 33)	7.5	6.0	1.2		13c 後~14c	素他002	
862	鞆の羽口	在地	KB1	12溝 (A-9GNo. 109)	(7.5)	(6.9)	—			素他004	
863	鞆の羽口	在地	KB1	12溝 (B-7G)	(6.5)	(6.5)	—			素他001	
864	鞆の羽口	在地	KB1	B-3GNo. 23	(4.6)	(4.0)	—			素他002	

第22表 土器類一覧表13

## 第2節 木製品

今回は生活、生産用具である櫛、桶の側板、漆椀、茶器、田下駄などが出土した。

出土地点は1・2・4・5・7・8がKB1区、3・6がKB2区である。

### ○生活に関するもの

衣の櫛（1）はKB1の12号溝から出土。把手を持つ解櫛である。把手部は一部欠損しているが穿孔を確認できた。歯間は粗い。また、きちんと削り出されていない箇所が見受けられるため完成品か留意する必要もある。棟には沈線を2本巡らしているが、凹の明確な面が観察できる一方、反対面はかすかに沈線の痕跡が残るのみである。

貯蔵の桶の側板（2・3）は2点ある。2はKB1の12号溝から出土。樹種はスギで目が均一でタガの痕跡も観察できる。柾目取り。

3はKB2の6号井戸から出土。両端欠損しており詳細不明。板目取り。

食膳の漆椀（4・5・6）は3点あり、4はKB1の17号土壇から出土。内外共に黒色の漆椀である。高台脇から腰部にかけてゆるやかに立ち上がり、口縁部にかけてはやや外側に開く。高台裏には「一」の赤色文字が描かれている。この文字は製作の集団又は所有者を表している可能性もある。高台裏の掘り込みは浅い。横挽き。

5はKB1の12号溝から出土。樹種はトネリコで内赤外黒色の漆椀である。高台脇から胴部に向けてゆるやかに湾曲しながら立ち上がる。胴部外面にかすかながら赤色漆の痕跡があり、文様が施されていた可能性がある。また、内面は黒色漆の上に赤色漆が施されているようであるが漆の剥落が著しく確定できない。高台部の形状は不明である。横挽き。

6はKB2の6号井戸から出土。内外ともに黒色漆の漆椀である。漆膜は薄く硬質な感じ。高台脇から腰部にかけてほぼ平行に広がり腰部から口縁部にかけて垂直に立ち上がる。高台部は欠損。横挽き。前述の4・5に比べると漆の質、腰の立ち上がり具合からやや新しいものではないかと思われる。

喫茶の茶器（7）と推定されるものは、KB1の12号溝から出土。内赤外黒色漆である。底部からほぼ垂直に立ち上がり胴部に凸線がめぐる。残念ながら口縁部が欠損しているため全体像は明らかになっていない。蓋があった可能性もある。

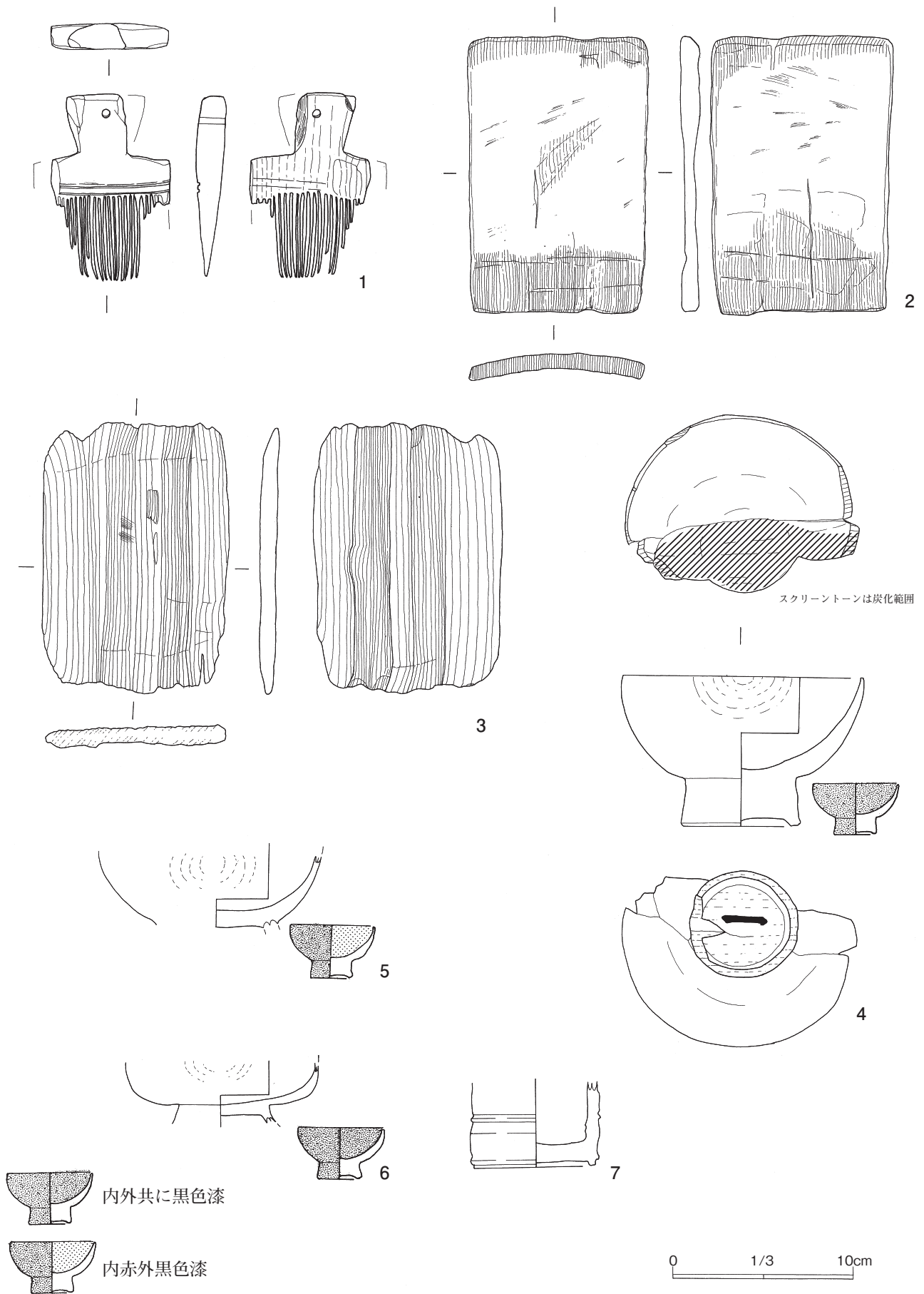
### ○生産に関するもの

耕作の田下駄（8）は、KB1の12号溝から出土。緒穴が四角で3箇所残る。前緒穴付近が炭化している。カンジキ\*1のように木杵と組み合わせて使用された可能性もある。ちなみに片面が著しく傷みが激しい。遺物の遺存状態による可能性がある。樹種は肉眼観察によりスギと推測される。板目取り。

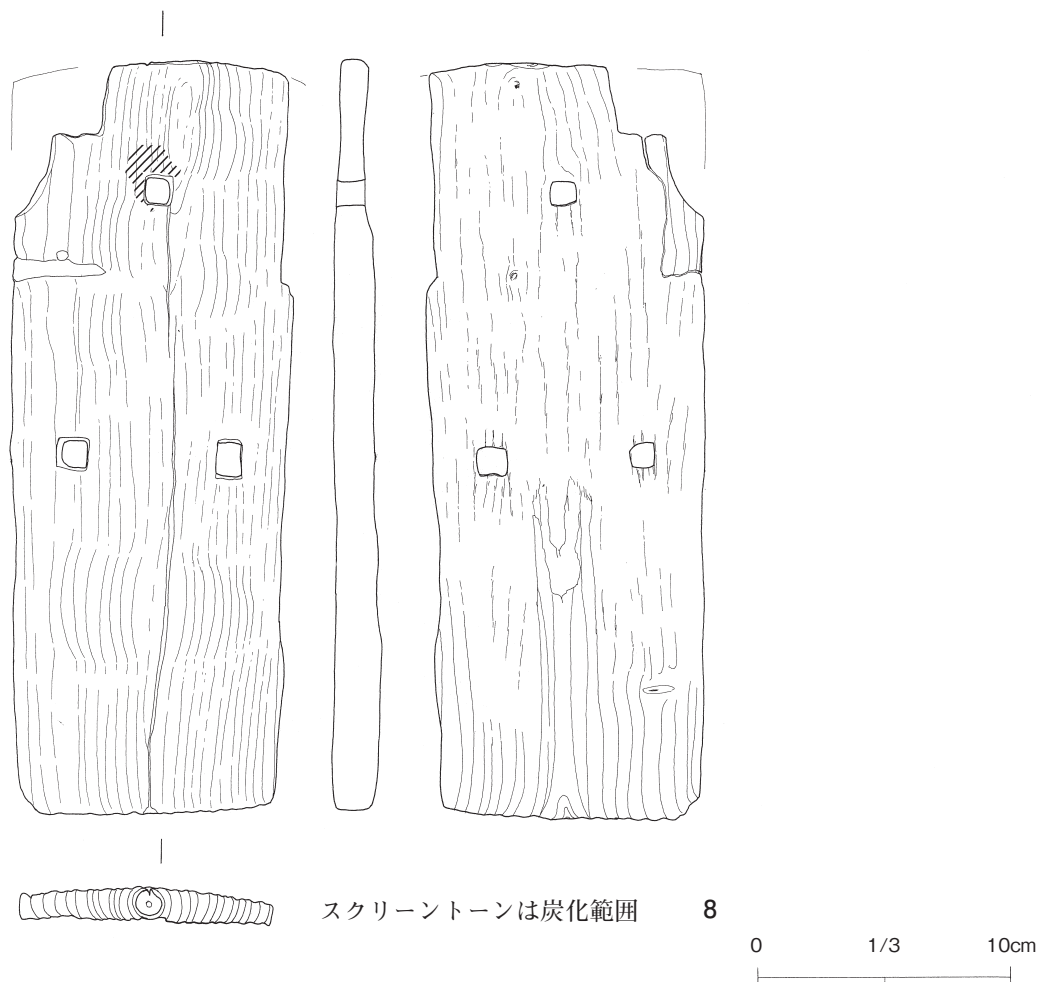
この他に含水率が高いなど遺物の状態が悪く凶化できなかった加工材、板材などが出土している。これらについてはデータを一覧表に掲載した。

\*1 『北武蔵野農具』埼玉県立さきたま資料館





第69図 木製品1



スクリーントーンは炭化範囲

8

第70図 木製品 2

( ) は残存値、\* は不確定な推定復元値

法量の単位は cm

図 No.	遺物名	出土地点	法量 (cm)	特徴	備考	遺物 ID
1	櫛	KB1 12号溝 B-3G No38	長さ10.2/幅(6.6)/厚さ1.5	把手に穿孔有り。	把手部等一部欠損。	0001-0002
2	桶-側板	KB1 12号溝 B-5G	長さ15.2/幅9.8/厚さ1.8	スギ。柾目取り。		0001-0006
3	桶-側板	KB2 6号井戸	長さ15.0/幅10.0/厚さ0.8	板目取り。	両端欠損か？	0002-0002
4	漆椀	KB1 B-17G 17号土壙	口径13.6/高台径6.0/器高8.2	内外黒色漆。横挽き。	口縁~胴部にかけて大きく欠損。見込み周辺は炭化。	0001-0009
5	漆椀	KB1 12号溝 B-5GNo48	口径不明/高台径≒70/器高(4.0)	トネリコ。内赤外黒色漆。横挽き。	口縁部、高台欠損。漆の剥落著しい。一部炭化。	0001-0012
6	漆椀	KB2 6号井戸	口径不明/高台径≒5.8/器高(3.5)	内外黒色漆。横挽き。	口縁部、高台欠損。漆の剥落著しい。一部炭化。	0002-0001
7	茶器	KB1 12号溝 B-4G No43	口径不明/底径6.8/器高(4.8)	内赤外黒色漆。	口縁部欠損。	0001-0003
8	田下駄	KB1 12号溝 A-10GNo113	長さ29.5/幅11.0/厚さ1.8	板目取り。	片面が著しく劣化。	0001-0004
-	加工材	KB1 12号溝B-5G	長さ14.5/幅2.5/厚さ1.0	角を作り出している。	含水率高く状態悪い	0001-0005
-	板材	KB1 12号溝B-5G	長さ7.5/幅3.5/厚さ0.5	板目取り。	小破片	0001-0005
-	クワイの裏か	KB1 12号溝C-18G	径2.5			0001-0007
-	板材	KB1 17号土壙	長さ17.8/幅2.1/厚さ0.2	非常に薄い。	他に小破片あり。接合関係は確認できず。	0001-0010
-	板材	KB1 B-16GNo23	長さ9.5/幅2.6/厚さ1.1	片面炭化	他に小破片あり。接合関係は確認できず。	0001-0011
-	漆椀	KB1 C-11G 13号井戸	口径不明/厚さ0.8	内外面黒色漆。	小破片のため詳細不明。	0001-0008

第23表 木製品一覧表

### 第3節 金属製品

金属製品は鉄製品と銅製品がある。それぞれ用途別に記述するが、銭貨は銅製のみ別に扱う。出土地点は遺構外が多く、溝出土も流れ込みである。

#### (1) 鉄製品

##### ○生活に関するもの

灯りの火打金(1・2)はいずれも山形であるが、全形が三角形ではなく頂部がつまみ状になるものである。頂上部・端部を欠損している。

住の釘(3~8)は断面角のものを選んだ。3~5は錆化せず形態が明瞭である。3・4上端を潰した後折り曲げ頭部を形成している。3は平折釘或いはざっぱ釘。5はそのまま折り曲げている。6・8はクリーニング時の成形か。

生業の刀子(9・10)は、刃幅が3cm程度の中型のもので9は茎が明瞭にあり三角形のもの、10は刃部が折れ曲がるが鎌状の形態に類する。

##### ○いくさに関するもの

甲冑の部品で小札(11~16)としては6点ある。うち11・12・14は威穴が明瞭でいずれも2列7穴と思われる。13はX線画像による。札頭は11は碁石頭か。15は形状は似るが札頭丸く威し穴は確認されない。鯨肌状の16とともに小札の可能性を想定しておく。

鏢(17)は小型で玩具という指摘もあったが報告しておく。小型で幅5.8cmで、中央に刃の身・小柄筭を挿す穴が備えられ、その周囲に窪みが鑄出されている。

刀子(18~22)は小柄の刀身部と思われ刃部幅はほぼ同様である。19~21は茎が確認できる。

鎌(23~27)は、錆により表面が剥落した27を除き形態が観察できる。23・24は鎌身が扁平で楕円形に近い。25は長方形、26は肉厚で方形である。

##### ○経済や流通に関するもの

銭貨(30)と思われるもので、中央の孔及び周縁の厚みが確認されが錆により詳細は不明である。

#### (2) 銅製品

##### ○生活に関するもの

衣の簪状製品(31)は小型で全形が伺えないが、

表面に花文、裏面に小粒文が施される。32は鏡の縁か。断面三角形である。

住の釘(33~35)は、いずれも断面円形で34は鉄であるか。35のみ頭部作出はない。

##### ○生活に関するもの

嗜好・遊びの煙管(39~46)は雁首と吸口があり雁首は火皿・首の形態が個体ごとに異なるが、大略39~41は首が長く42・43は短い。39は羅字が遺存する。40は火皿に穿孔を有する。吸口も同様に多様であるが44は唯一段(肩)を備える。44・47は羅字が遺存する。

##### ○信仰に関するもの

36は蓋で下面に固定のための稜を有する。37は盤、38は碗でいずれも高台のみが遺存する。用途が不明であるが仏具を想定しておく。

##### ○流通や経済に関するもの

分銅(48)は重さ33.7gである。表面は剥落・発錆により不明瞭だが、正面に重量表示の?両・中央に桐文、裏面には作者名の後藤+花押が線刻されている。その上部3ヶ所及び側面全周に径3mmの円形文が打刻されている。重量は博多出土例から壱両か。

##### ○いくさに関するもの

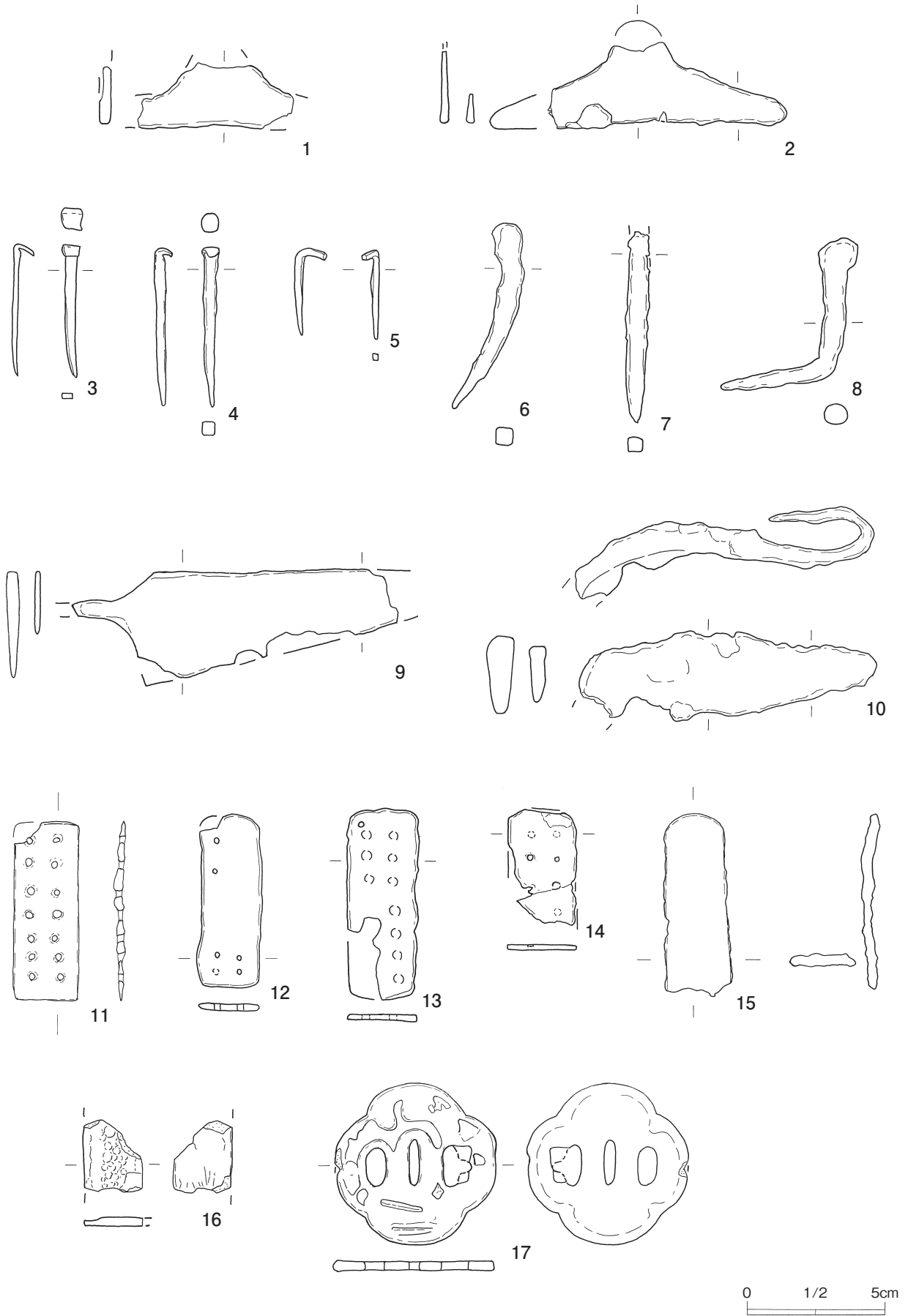
甲冑の部品の鞆(49・50)で50には炭化した紐状のものが遺存する。縁金具(51)は覆輪の可能性はある。取付け用の孔が3ヶ所確認できる。

刀装具類では目貫(52・53)は52は龍文・53は文様不明であるが金箔が貼り付けられる。切羽(52)は縁が細かい輪花状で4つ折りされている。復元長4.3cm幅3.5cmである。はばき(55)は薄く幅狭であるが37次で同様のものが出土している。小柄の柄(56・57)では、56は小口が折れ曲がり、57は表面に魚々子状の文様が施される。

弾丸(58~62)は60はバリや鬆(す)があり製作失敗品である。当地で製作を証明する。58は中央に銚型合わせ目の稜が、59の疵は製作時のものか。62の疵は製作時か使用時のものである。

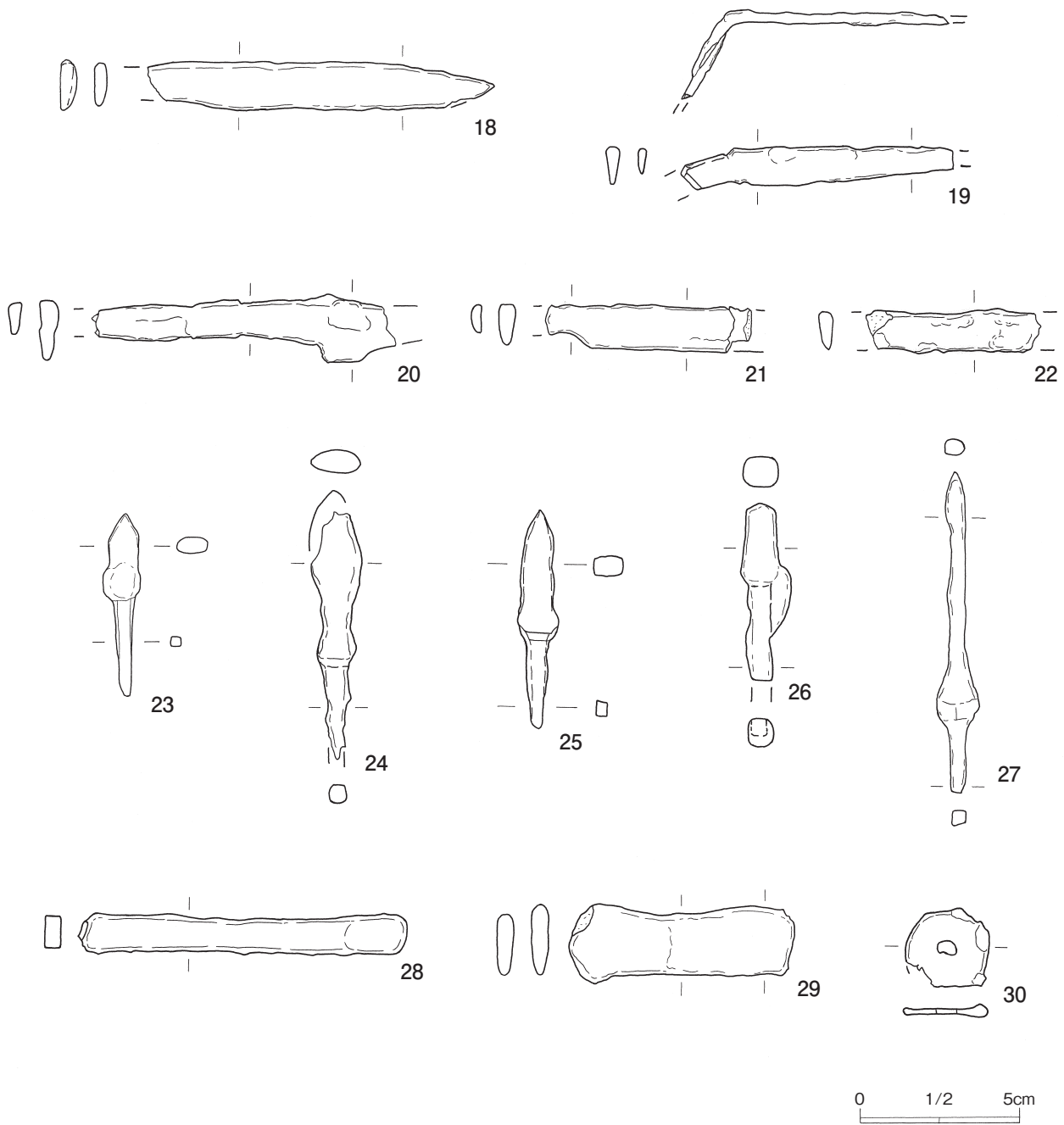
##### ○ほか

63は端金物で下端は解放している。64は板状製品で用途は不明である



0 1/2 5cm

第71図 金属製品1 (鉄1)



第72図 金属製品2 (鉄2)

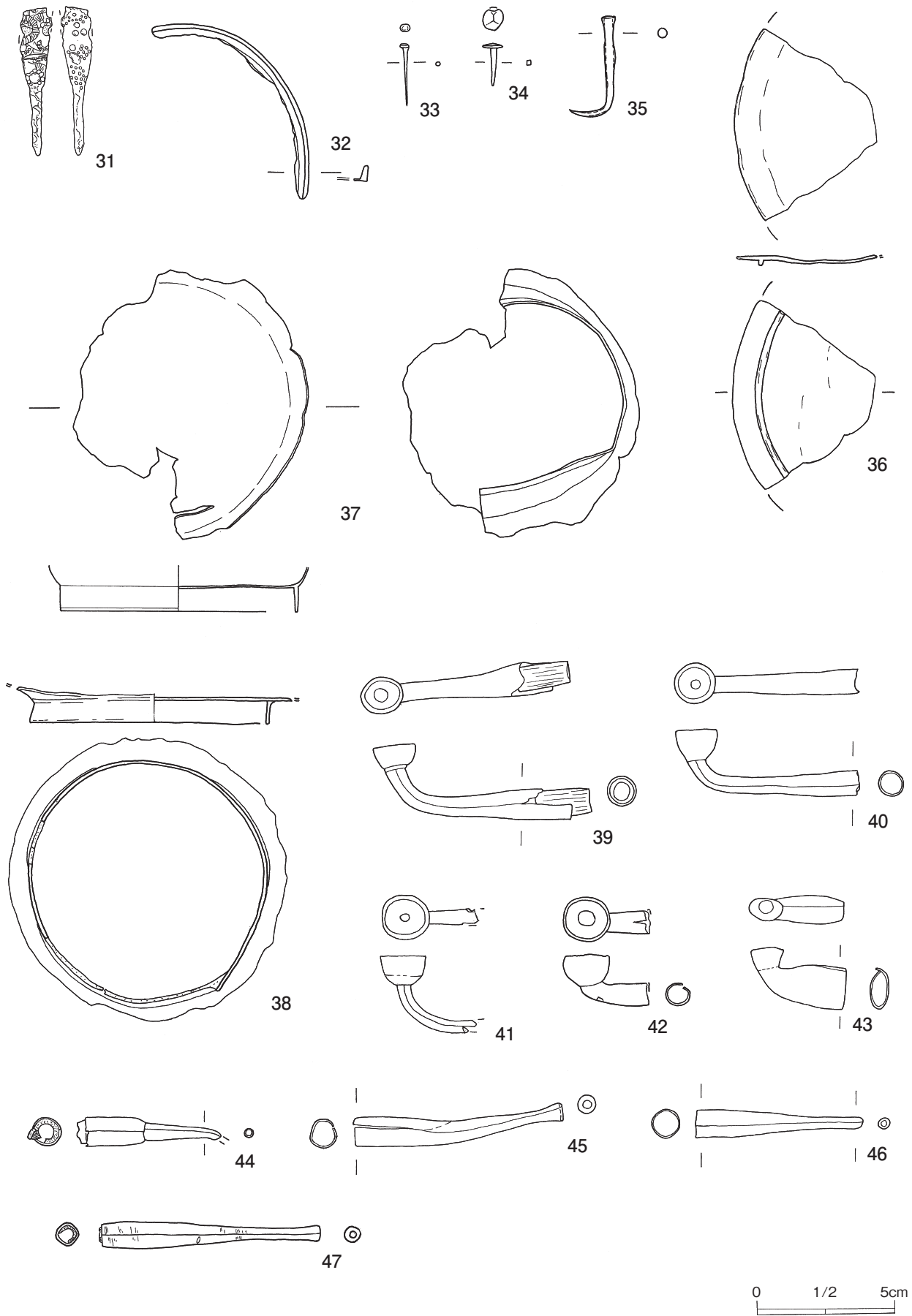


( ) は残存値、\* は不確定な推定復元値

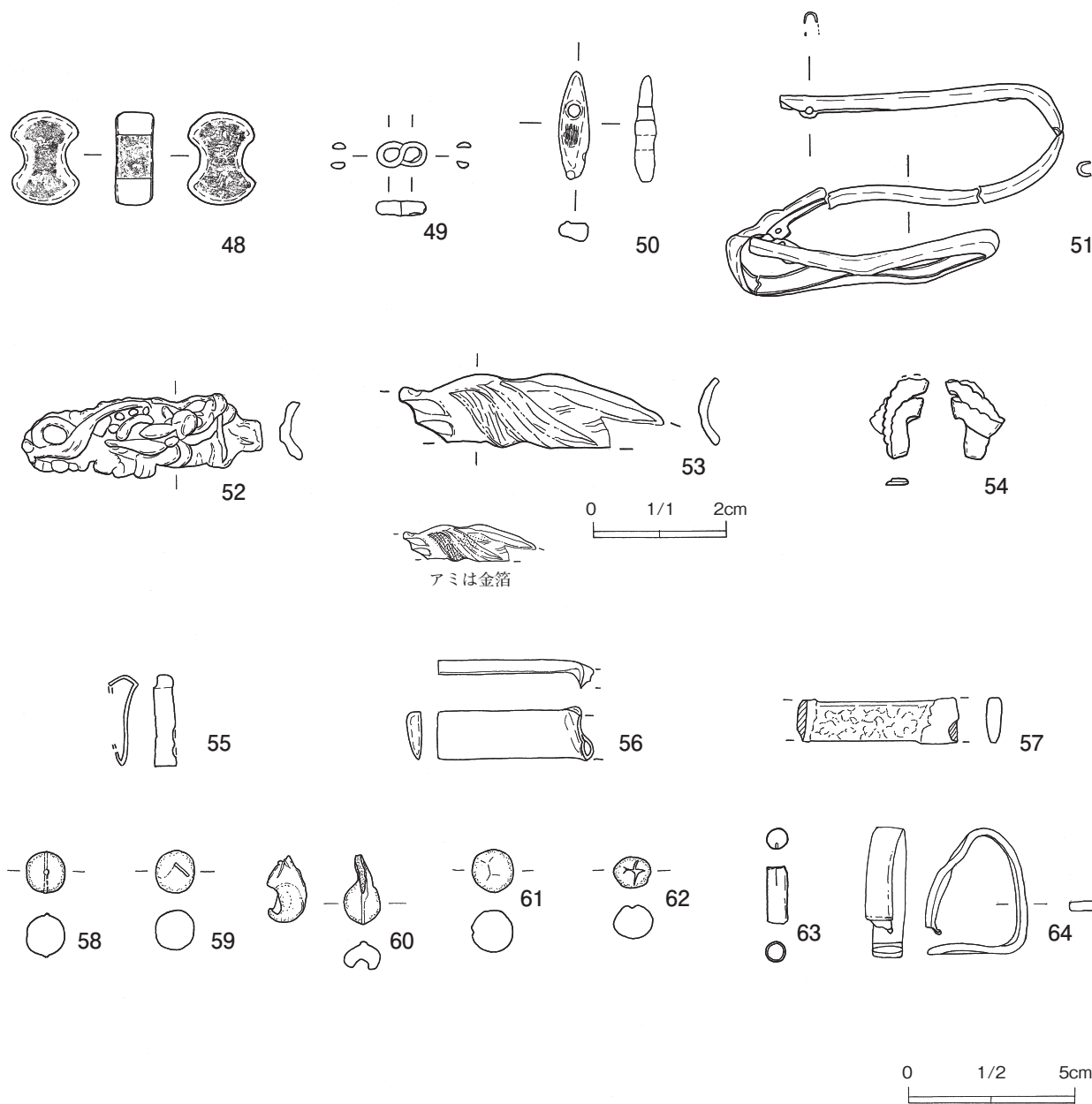
法量の単位は cm

図 No.	器種	産地 (材質)	調査区	出土地点	口径 (長さ)	底径 (幅)	器高 (厚さ)	遺物 ID	遺物 ID2	備考
1	火打金	鉄	KB1	B-16G	(5.7)	(2.3)	0.4	0001-0022		山形
2	火打金	鉄	KB2	P-8GNo. 2	(8.6)	(3.2)	0.3	0002-0016		山形
3	釘(角)	鉄	KB1	J-2GNo. 12	4.7	0.3	—	0001-0031		断面長方形
4	釘(角)	鉄	KB2	28溝(J-7G)	5.8	0.4	—	0002-0002		原型
5	釘(角)	鉄	KB2	28溝	3.2	0.2	—	0002-0005		原型
6	釘(角)	鉄	KB1	A-7GNo. 46	6.8	0.6	—	0001-0005		錆落とし時成形
7	釘(角)	鉄	KB2	6-32区西	(7.0)	0.5	—	0002-0019		断面矩形
8	釘	鉄	KB2	44溝	5.4	0.8	—	0002-0003		錆落とし時成形
9	刀子	鉄	KB1	B-15GNo. 30	(11.7)	3.9	0.4	0001-0021		錆落とし時成形
10	刀子	鉄	KB1	A-11GNo. 103	(11.8)	3.1	1.0	0001-0008		屈曲
11	小札	鉄	KB2	H-4GNo. 87	6.5	2.3	0.3	0002-0012	町金67	碁石頭
12	小札	鉄	KB2	H-4GNo. 53	8.3	2.2	0.25	0002-0009		
13	小札	鉄	KB2	H-4GNo. 56	6.9	2.6	0.2	0002-0011		威穴は X 線による
14	小札	鉄	KB2	J-6GNo. 63	(4.1)	2.4	0.2	0002-0014		威穴7ヶ
15	小札状製品	鉄	KB2	H-4GNo. 55	(6.5)	2.4	0.4	0002-0010	町金28	
16	小札状製品	鉄	KB1	B-16G	(2.6)	2.2	0.3	0001-0023		鯨肌状
17	鏝	鉄	KB1	表土	5.8	5.8	0.4	0001-0038		
18	刀子	鉄	KB1	A-8GNo. 62	(10.8)	1.5	0.4	0001-0006		
19	刀子	鉄	KB2	6-32区	(8.6)	1.2	0.4	0002-0023		
20	刀子	鉄	KB2	6-33区用水	(9.3)	2.1	0.4	0002-0026		
21	刀子	鉄	KB2	一括	(6.4)	1.4	0.5	0002-0034		
22	刀子	鉄	KB2	4-8区	(5.5)	1.4	0.4	0002-0030		
23	鉄鏃	鉄	KB1	一括	5.8	1.1	0.5	0001-0041	町金63	
24	鉄鏃	鉄	KB2	K-8GNo. 20	(8.0)	1.5	0.7	0002-0015		
25	鉄鏃	鉄	KB2	一括	6.9	2.2	0.6	0002-0037	町金18	
26	鉄鏃	鉄	KB2	6-32南	(5.5)	1.3	0.9	0002-0018		断面長方形
27	鉄鏃	鉄	KB2	4-8区	10.0	1.3	0.5	0002-0028		全面剥落
28	角棒状製品	鉄	KB1	C-16GNo. 6	10.0	1.3	0.5	0001-0025		
29	火打金状製品	鉄	KB2	6-33区	7.0	2.5	0.5	0002-0024		鍛造・両端丸
30	銭貨	鉄	KB 大	B-9GNo. 56	2.9	—	0.2	0020-0003		
31	簪状製品	銅	KB2	25溝	2.8	0.6	0.1	0002-0005		花文?
32	鏡(縁)	銅	KB2	1溝(P-8GNo. 16)	(8.3)	—	0.6	0002-0001	町金167	断面三角形
33	釘(丸)	銅	KB1	一括	2.3	0.2	—	0001-0016		表面剥落
34	釘(角)	銅	KB2	6-33区	1.5	0.2	—	0002-0038		頭部円形
35	釘(丸)	銅	KB2	6-32区西	3.6	0.3	—	0002-0031	町金151	断面円形
36	蓋	銅	KB2	6-33区	(5.2)	(6.8)	0.5	0002-0035		
37	銅碗	銅	KB 大	一括	(4.7)	0.8	0.1	0020-0002	町金160	
38	盤(高台)	銅	KB2	J-6GNo. 30	(10.0)	1.0	—	0002-0018		
39	煙管(雁首)	銅	KB1	5溝(A-12G)	7.9	1.6	2.5	0001-0001	町金78	
40	煙管(雁首)	銅	KB1	B-7G	6.8	1.5	2.5	0001-0008	町金77	
41	煙管(雁首)	銅	KB1	C-20G	(3.4)	1.7	2.8	0001-0019		
42	煙管(雁首)	銅	KB2	Q-8GNo. 4	3.2	1.8	1.8	0002-0021		
43	煙管(雁首)	銅	KB2	6-32区西側	3.5	1.5	1.1	0002-0030	町金80	
44	煙管(吸口)	銅	KB1	A-14GNo. 12	(4.8)	1.0	—	0001-0005		羅宇遺存
45	煙管(吸口)	銅	KB2	不明	7.5	1.0	—	0002-0017	町金81	
46	煙管(吸口)	銅	KB2	J-7GNo. 20	6.0	1.1	—	0002-0020	町金79	
47	煙管(吸口)	銅	KB2	4-8区	7.9	0.8	—	0002-0026		
48	分銅	銅	KB 大	西	3.3	2.1	1.1	0020-0001	町金163	重さ33.7g
49	高紐鞋	銅	KB2	H-4GNo. 45	1.6	0.8	0.5	0002-0013	町金148	
50	高紐鞋	銅	KB2	H-4GNo. 64	3.5	1.0	0.3	0002-0015	町金168	紐炭化
51	縁金具	銅	KB2	H-4GNo. 63	10.1	0.5	0.1	0002-0014	町金152	
52	目貫	銅	KB2	8溝(K-9GNo. 66)	3.6	1.2	0.4	0002-0003		龍文
53	目貫	銅	KB2	6-31区北側	(3.9)	1.1	0.5	0002-0029		
54	切羽	銅	KB2	E-10GNo. 14	2.5	1.5	0.1	0002-0010		
55	ハバキ	銅	KB2	6-31区北側	2.7	0.7	0.1	0002-0028		
56	小柄	銅	KB1	B-16GNo. 7	(4.5)	1.4	0.4	0001-0009		
57	小柄	銅	KB2	E-10GNo. 5	(4.8)	1.3	0.4	0002-0009		魚々子状
58	弾丸	鉛	KB1	B-12G	1.2	—	—	0001-0011		重さ8.2g
59	弾丸	鉛	KB2	37溝(F-9GNo. 27)	1.2	—	—	0002-0006		重さ11.0g
60	弾丸	銅	KB2	一括	2.0	1.1	—	0002-0041		重さ6.2g
61	弾丸	銅	KB2	6-33区北側	1.2	—	—	0002-0033		重さ7.3g
62	弾丸	銅	KB2	H-4GNo. 18	1.2	—	—	0002-0012		重さ4.5g
63	端金物	銅	KB1	C-5G	1.6	0.6	—	0001-0012		接合痕
64	板状製品	銅	KB1	C-16G	3.8	0.9	0.3	0001-0018		

第24表 金属製品一覧表 1



第73図 金属製品3 (銅1)



第74図 金属製品4 (銅2)

(3) 銭貨

総数255枚が確認されている。うち近世の寛永通宝が6点、近現代の半銭?が1点、他は中世以前の渡来銭である。

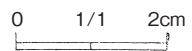
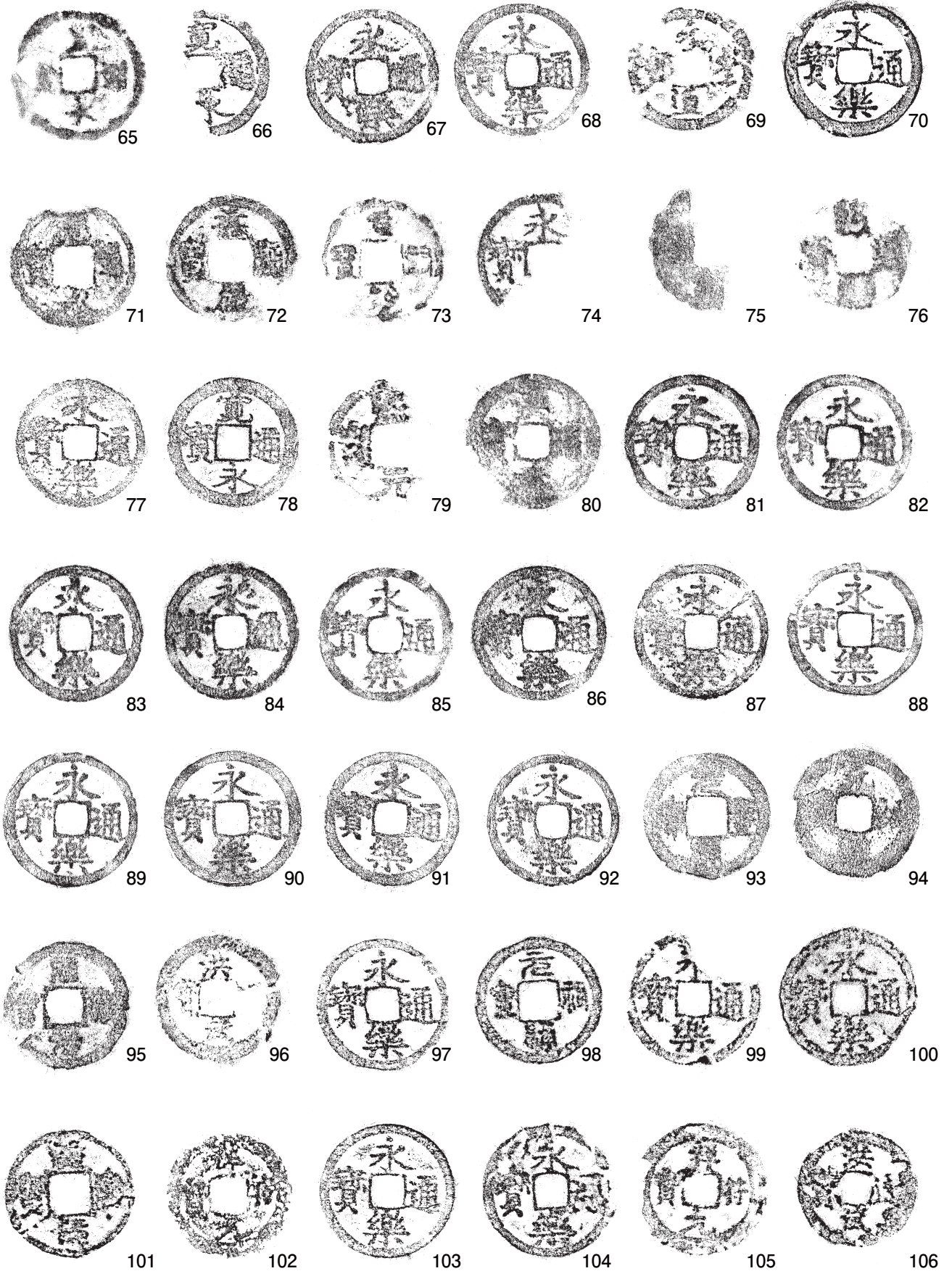
寛永通宝は古と新があり、214~216は寛永銭と渡来銭が同一No.で取り上げられている。

出土状況は、遺構に伴うものは土壌から6枚前後副葬品として出土している。ほかに溝や表土中より単体あるいは複数枚出土するが、やはり墓壙に由来するものが多数を占められると思われる。

No.	調査区	出土地点	銭種 (銭貨名は貼付順)
65	KB 大	D-8 GNo. 1	寛永通宝 (古)
66	KB 1	7溝 L-11GNo. 83	寛永通宝 (古)
67-68	KB 1	7溝 L-11GNo. 120	永楽通宝 2
69	KB 1	12溝 B-17G	元豊通宝
70	KB 1	A-7 GNo. 83	永楽通宝
71	KB 1	A-12GNo. 15	寛永通宝 (新)
72-73	KB 1	B-3 G	嘉祐通宝、元祐通宝
74	KB 1	B-13GNo. 1	永楽通宝
75	KB 1	C-7 G	皇宋通宝
76	KB 1	C-8 GNo. 21	朝鮮通宝
77	KB 1	C-13G	永楽通宝
78	KB 1	C-16G	寛永通宝 (古)
79	KB 2	E-10GNo. 18	熙寧元宝
80	KB 2	E-10GNo. 26	洪武通宝
81-86	KB 2	I-7 GNo. 3	永楽通宝 6
87-92	KB 2	I-7 GNo. 5	永楽通宝 6
93-95	KB 2	J-6 GNo. 12	元豊通宝、元祐通宝、聖宋元宝
96	KB 2	1溝 Q-8 GNo. 5	洪武通宝
97	KB 2	25溝 K-7 GNo. 26	永楽通宝
98	KB 2	25溝 K-8 GNo. 42	元祐通宝
99	KB 2	25溝 K-8 GNo. 43	永楽通宝
100	KB 2	25溝 K-8 GNo. 51	永楽通宝
101	KB 2	25溝 K-8 GNo. 55	熙寧元宝
102	KB 2	35溝 I-8 GNo. 60	祥符元宝
103	KB 2	45溝 I-7 GNo. 21	永楽通宝
104-109	KB 2	45溝 I-7 GNo. 24	永楽通宝、祥符元宝、洪武通宝、不明 3
110-115	KB 2	45溝 I-8 GNo. 66	永楽通宝 6
116	KB 2	12井 6-33区用水	天聖元宝
117	KB 2	15壙 O-10GNo. 3	皇宋通宝
118-122	KB 2	37壙	開元通宝 2、天禧通宝、天聖元宝、皇宋通宝
123-128	KB 2	45壙 M-11GNo. 19	祥符元宝 2、咸平元宝、天聖元宝、明道元宝、熙寧元宝
129-132	KB 2	48壙 L-11GNo. 146	天聖元宝、景定元宝、不明 2
133	KB 2	77壙	雁首銭
134-136	KB 2	79壙	宣和通宝、皇宋通宝、熙寧元宝
137-142	KB 2	95壙 I-7 GNo. 16	永楽通宝 6
143-145	KB 2	98壙 I-8 GNo. 53	政和通宝、朝鮮通宝、至和元宝
146	KB 2	98壙 I-8 GNo. 54	熙寧元宝
147-152	KB 2	100壙 I-8 GNo. 52	聖宋元宝、永楽通宝 5
153-159	KB 2	101壙 I-8 GNo. 58	淳化元宝、咸平元宝、景德元宝、元豊通宝、元祐通宝、慶元通宝、皇宋通宝
160-164	KB 2	101壙 4-8区	皇宋通宝、熙寧元宝、洪武通宝、永楽通宝 2
165-166	KB 2	124壙 4-8区 No. 1	永楽通宝、聖宋元宝
167-174	KB 2	124壙 4-8区 No. 2	祥符通宝、天禧通宝、天聖元宝、皇宋通宝、宣和通宝、嘉定通宝、洪武通宝 2
175-180	KB 2	124壙 4-8区	開元通宝、祥符元宝、皇宋通宝、元豊通宝、永楽通宝 2
181-182	KB 2	106壙 H-8 GNo. 162	元祐通宝、宣德通宝
183-186	KB 2	107壙 H-8 GNo. 172	大觀通宝、元豊通宝、洪武通宝 2
187-188	KB 2	122壙 H-8 GNo. 158	永楽通宝、祥符元宝
189	KB 2	122壙 H-8 GNo. 159	永楽通宝
190-195	KB 2	150壙 H-4 GNo. 69	天聖元宝、熙寧元宝、元符通宝、嘉祐通宝、嘉祐元宝、皇宋元宝
196-202	KB 2	155壙 J-6 GNo. 93	開元通宝、嘉祐通宝、元豊通宝、洪武通宝、紹聖元宝、永楽通宝、宣德通宝
203-208	KB 2	157壙 H-4 GNo. 80	皇宋通宝 3、嘉祐通宝、洪武通宝 2
209	KB 2	D-11GNo. 12	永楽通宝

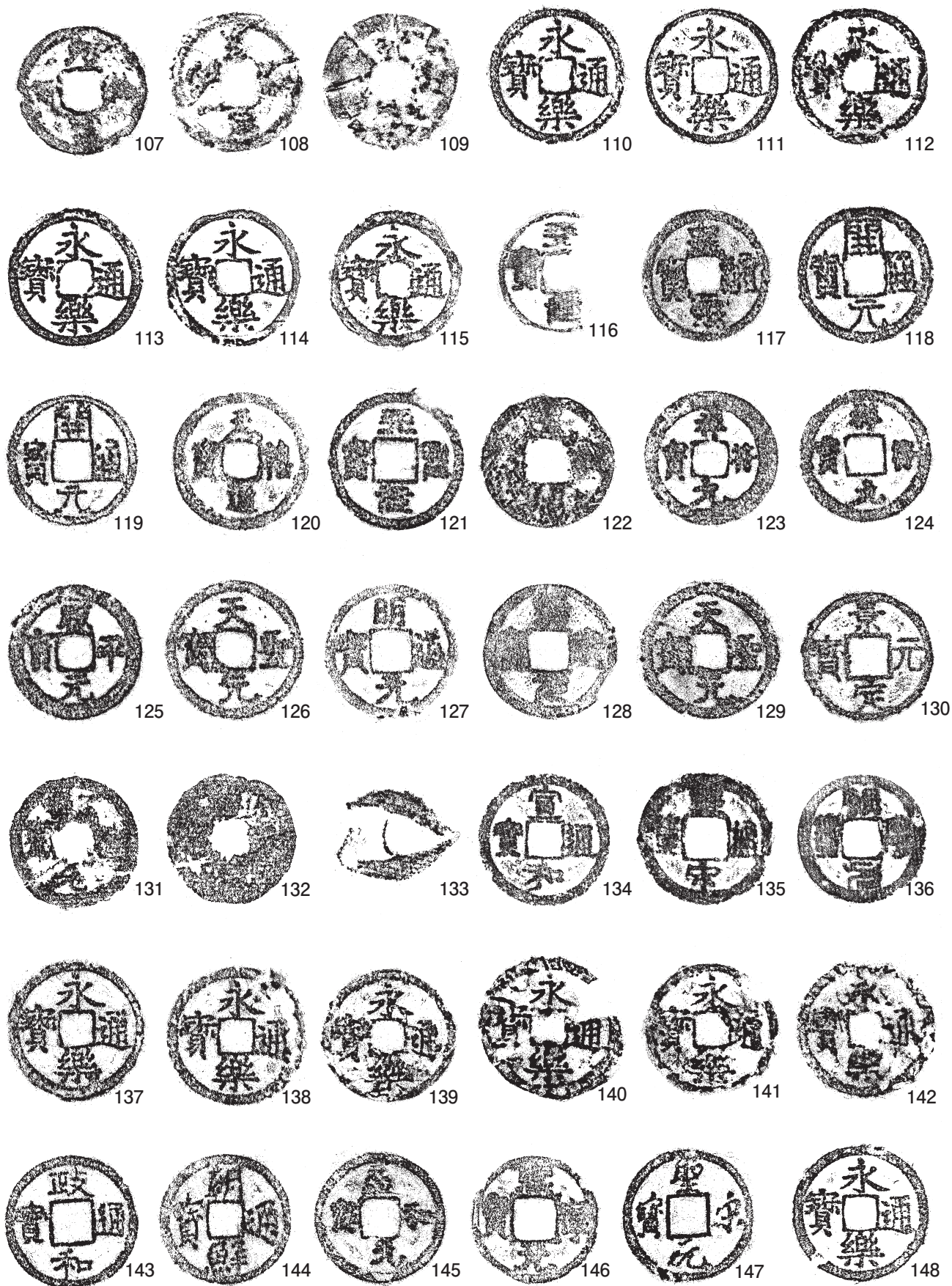
第25表 金属製品一覧表 2





第75図 金属製品5 (錢貨1)

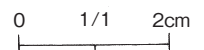
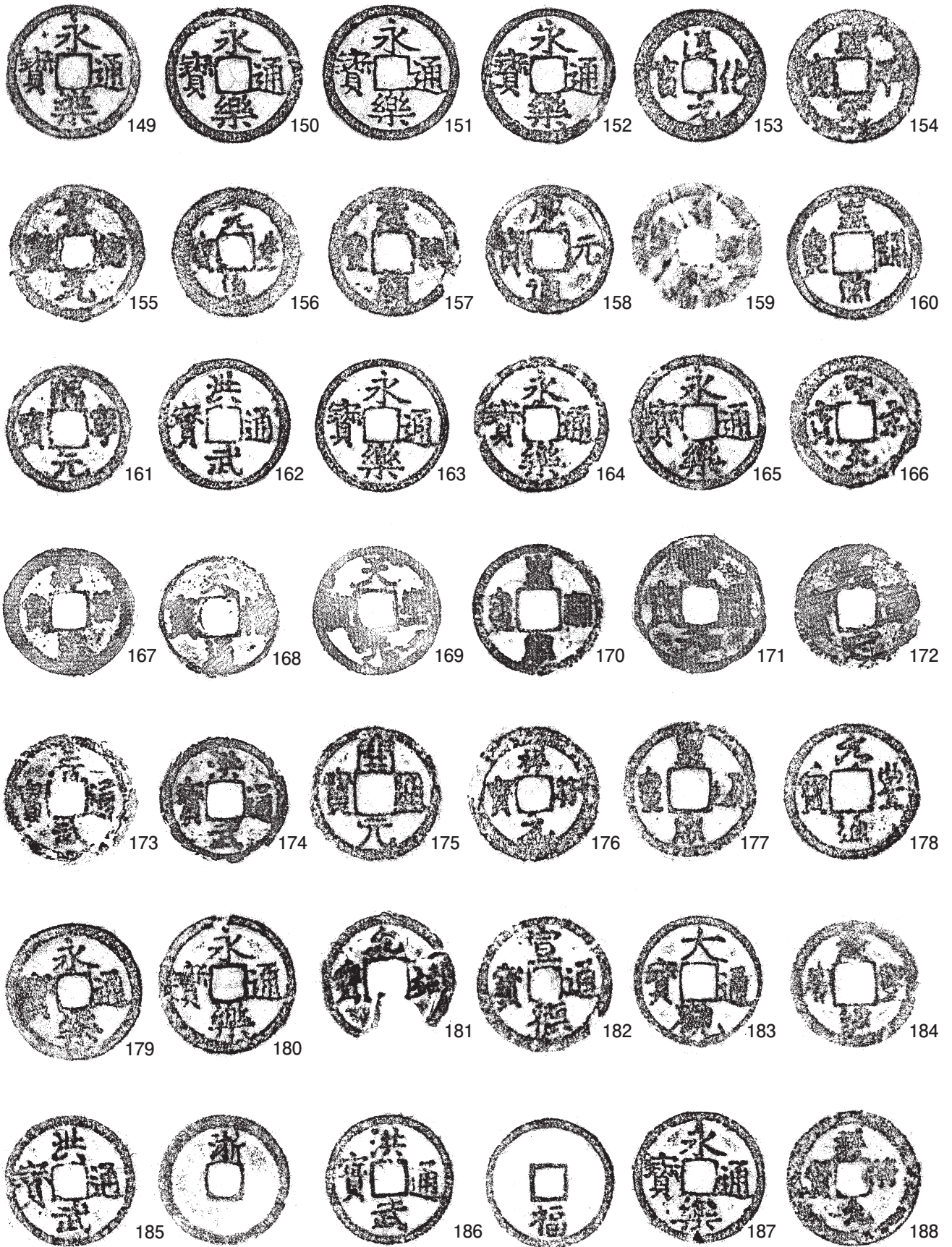




第76図 金属製品6 (錢貨2)

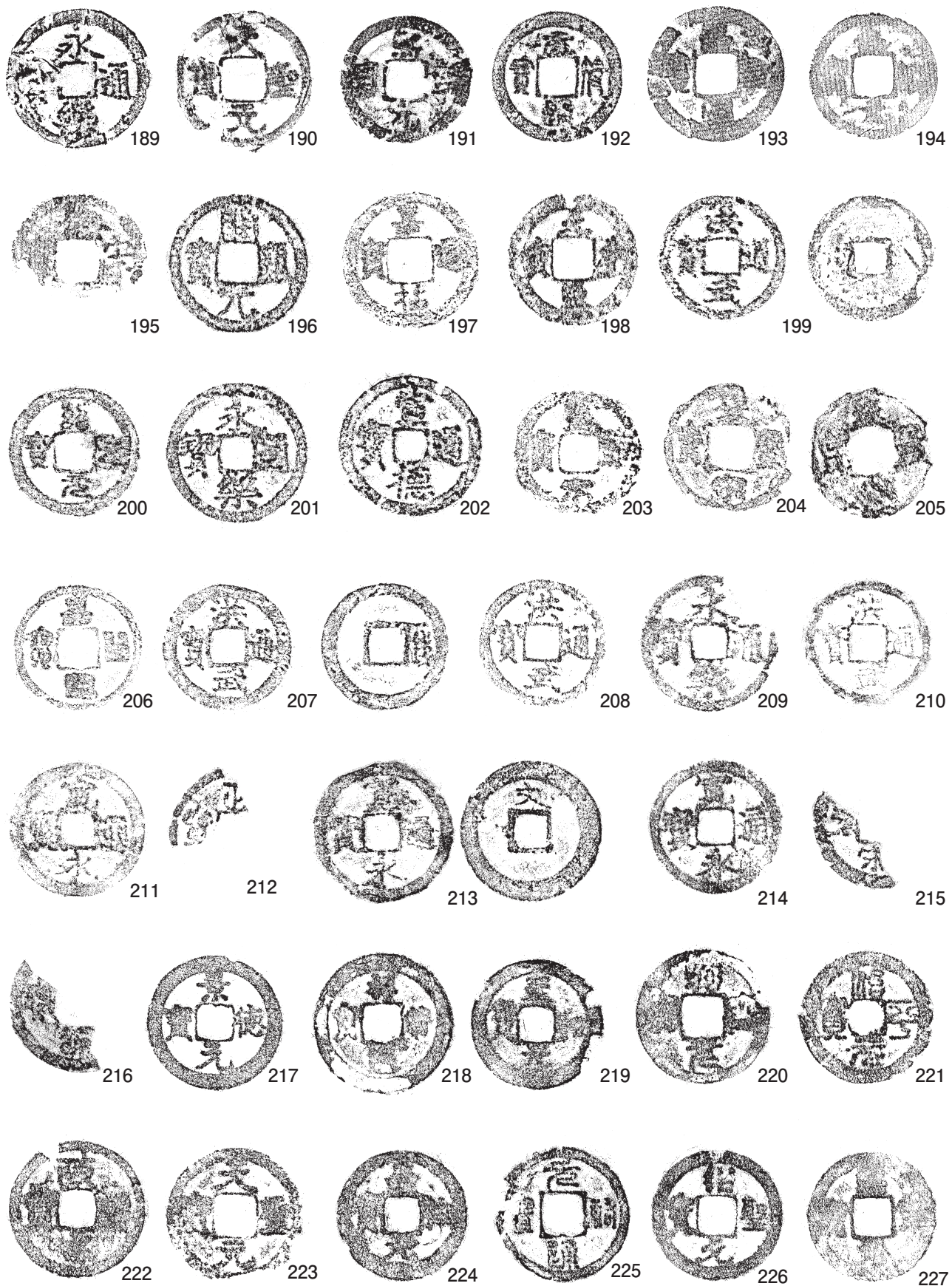
0 1/1 2cm





第77図 金属製品7 (錢貨3)

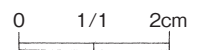
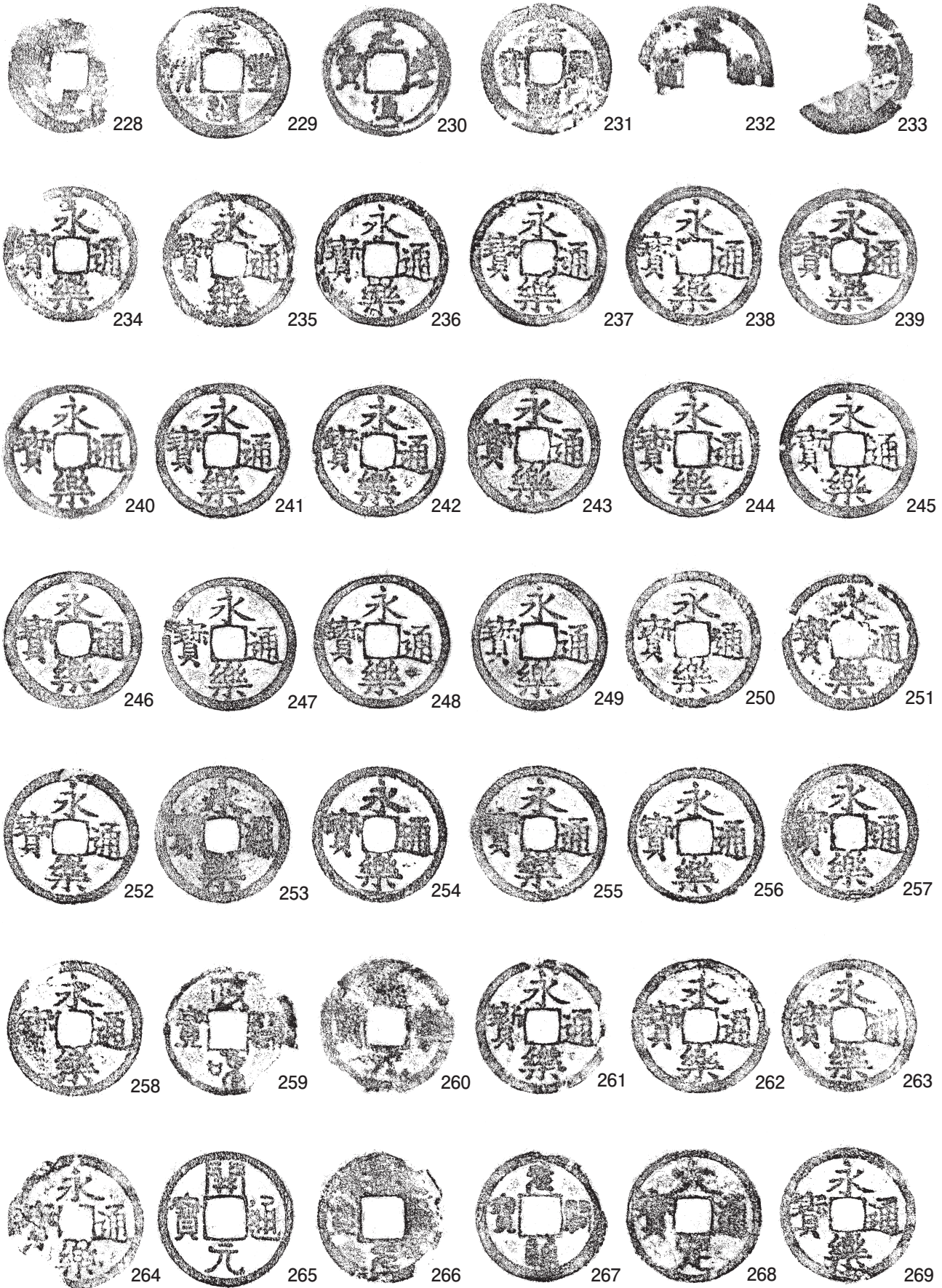




0 1/1 2cm

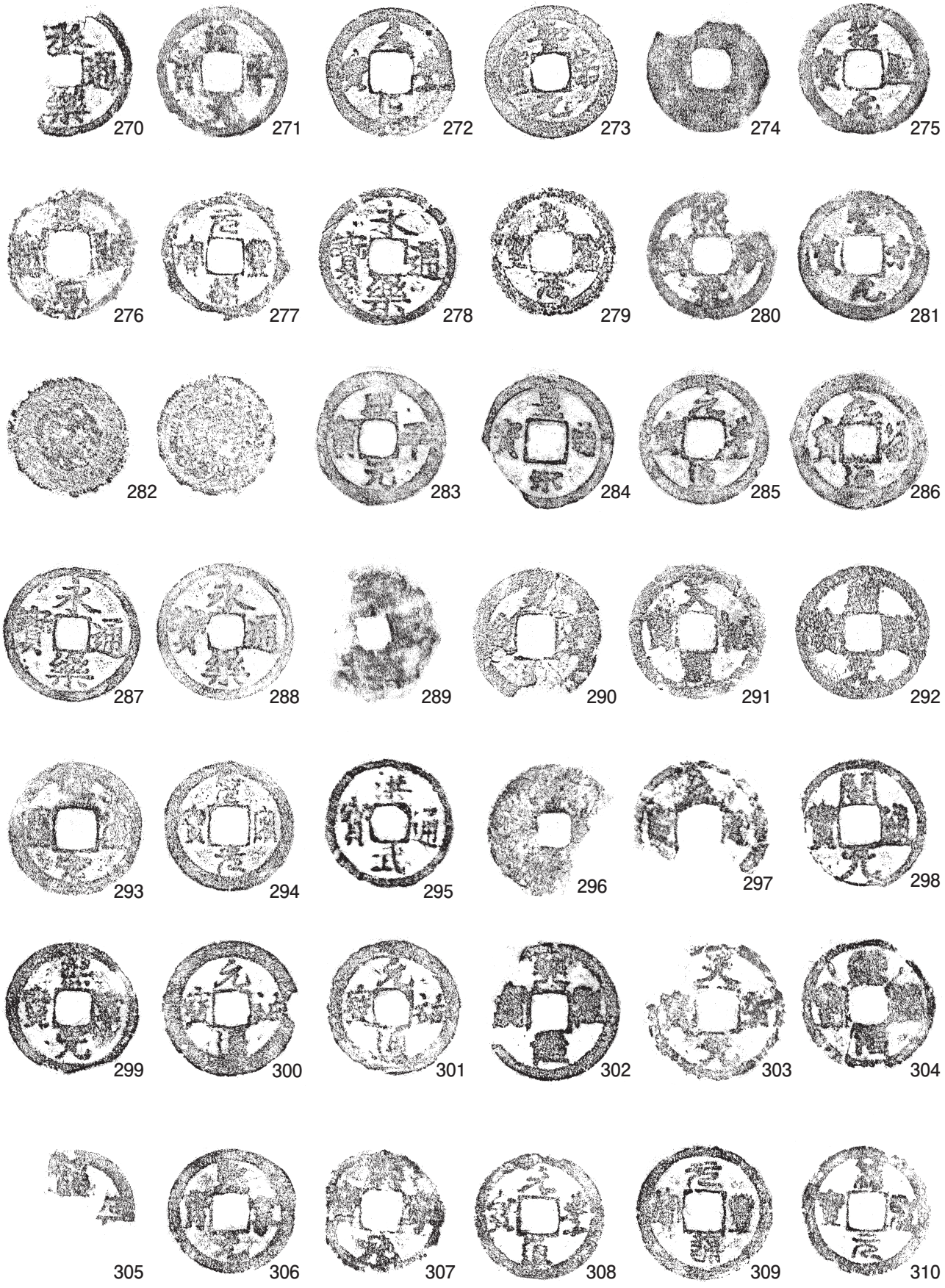
第78図 金属製品8 (錢貨4)



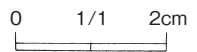


第79図 金属製品9 (錢貨5)

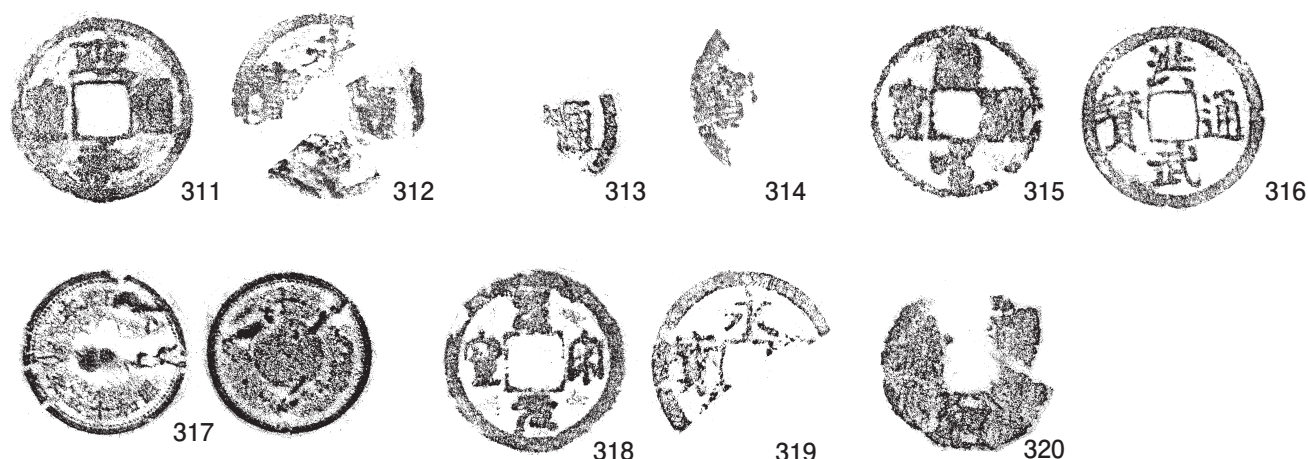




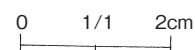
第80図 金属製品10 (錢貨6)







第81図 金属製品11 (錢貨7)



No.	調査区	出土地点	錢種 (錢貨名は貼付順)
210	KB 2	D-11GNo. 74	洪武通宝
211	KB 2	E-10GNo. 9	寛永通宝 (古)
212	KB 2	E-10G	政和通宝
213	KB 2	E-11GNo. 3	寛永通宝 (新)
214-216	KB 2	H- 4 GNo. 22	寛永通宝、皇宋通宝、不明
217-222	KB 2	H- 4 GNo. 27	景德元宝、祥符元宝、至和元宝、熙寧元宝、治平元宝、政和通宝
223-228	KB 2	158壙 H- 4 GNo. 78	天聖元宝、嘉祐元宝、元祐通宝、紹聖元宝、聖宋元宝、不明
229-231	KB 2	H- 5 GNo. 7	元豊通宝 2、元祐通宝
232	KB 2	H- 8 GNo. 121	天聖元宝
233	KB 2	H- 8 GNo. 164	元祐通宝
234	KB 2	I- 5 GNo. 8	永樂通宝
235-240	KB 2	I- 8 GNo. 1	永樂通宝 6
241-246	KB 2	I- 8 GNo. 42	永樂通宝 6
247-250	KB 2	I- 8 GNo. 46T	永樂通宝 4
251-252	KB 2	I- 8 GNo. 47T	永樂通宝 2
253-258	KB 2	I- 8 GNo. 48	永樂通宝 6
259	KB 2	I- 8 GNo. 56	政和通宝
260	KB 2	I- 8 GNo. 57	熙寧元宝
261-264	KB 2	I- 8 GNo. 65	永樂通宝 4
265-270	KB 2	I- 8 GNo. 70	開元通宝、嘉祐元宝、元祐通宝、大定通宝、永樂通宝 2
271-273	KB 2	I- 8 GNo. 73	治平元宝、元豊通宝、聖宋元宝
274	KB 2	J- 7 GNo. 48	不明
275	KB 2	K- 7 GNo. 15	紹聖元宝
276	KB 2	K- 7 GNo. 80	皇宋通宝
277	KB 2	K- 8 GNo. 9	元豊通宝
278	KB 2	K- 8 GNo. 14	永樂通宝
279	KB 2	K- 8 GNo. 30	紹聖元宝
280-281	KB 2	K-11GNo. 1	熙寧元宝、聖宋元宝
282	KB 2	K-11GNo. 8	半銭カ一銭
283-288	KB 2	L-11GNo. 20	咸平元宝、皇宋通宝、元豊通宝、元祐通宝、永樂通宝 2
289	KB 2	L-11GNo. 24	不明
290	KB 2	L-11G	元豊通宝
291-294	KB 2	M-11GNo. 4	天禧通宝、明道元宝、皇宋通宝、聖宋元宝
295	KB 2	6-31区北	洪武通宝
296	KB 2	6-32区 No. 17	不明
297	KB 2	6-32区西	不明
298-301	KB 2	6-32区側溝	開元通宝、熙寧元宝、元祐通宝 2
302-314	KB 2	6-33区	天聖元宝 2、明道元宝、治平元宝、熙寧元宝 2、元豊通宝 2、紹聖元宝、政和通宝、永樂通宝、不明 2
315-317	KB 2	4- 8 区	政和通宝、洪武通宝、十銭
318	KB 2	No. 18	聖宋元宝
319-320	KB 2	一括	永樂通宝、不明

第26表 金属製品一覽表 3

## 第4節 石製品類

ここでは成形したものを使用した石製品と使用による損耗形態を呈す石器を石製品として、墓標・供養塔である板碑・五輪等を石造物として扱う。

いずれの遺物も遺構出土があるが流れ込みであろう。

### (1) 石製品

石臼は1～31で、搗き臼(3～5・19・20・30)と粉挽き臼・茶臼(6・8・10・17・22・29・31)に大別される。いずれも破片で全形は伺えない。19は搗き臼の底部である。22は茶臼の上臼で細かい引目と把手を差し込む凹みが確認される。

硯は33で海の部分である。

34～37は、扁平で丸く径2cm前後の暗色の石で、碁石としておく。

砥石(40～92)は直方体・立方体を基本形とし、損耗により変形するものがある。泥岩質のものが多いとみられる。

磨石(93～138)は礫の原形が残る物が多く使用により形成された面が不規則に存在する。デイサイトが多数を占める。名称が縄文時代のものを連想させるが砥石と区別するために分割しておく。

砥石・磨石共に金属を砥いたことによる線条痕が残るものが見られ鎌や武器類などの刃物を対象としたものであろう。

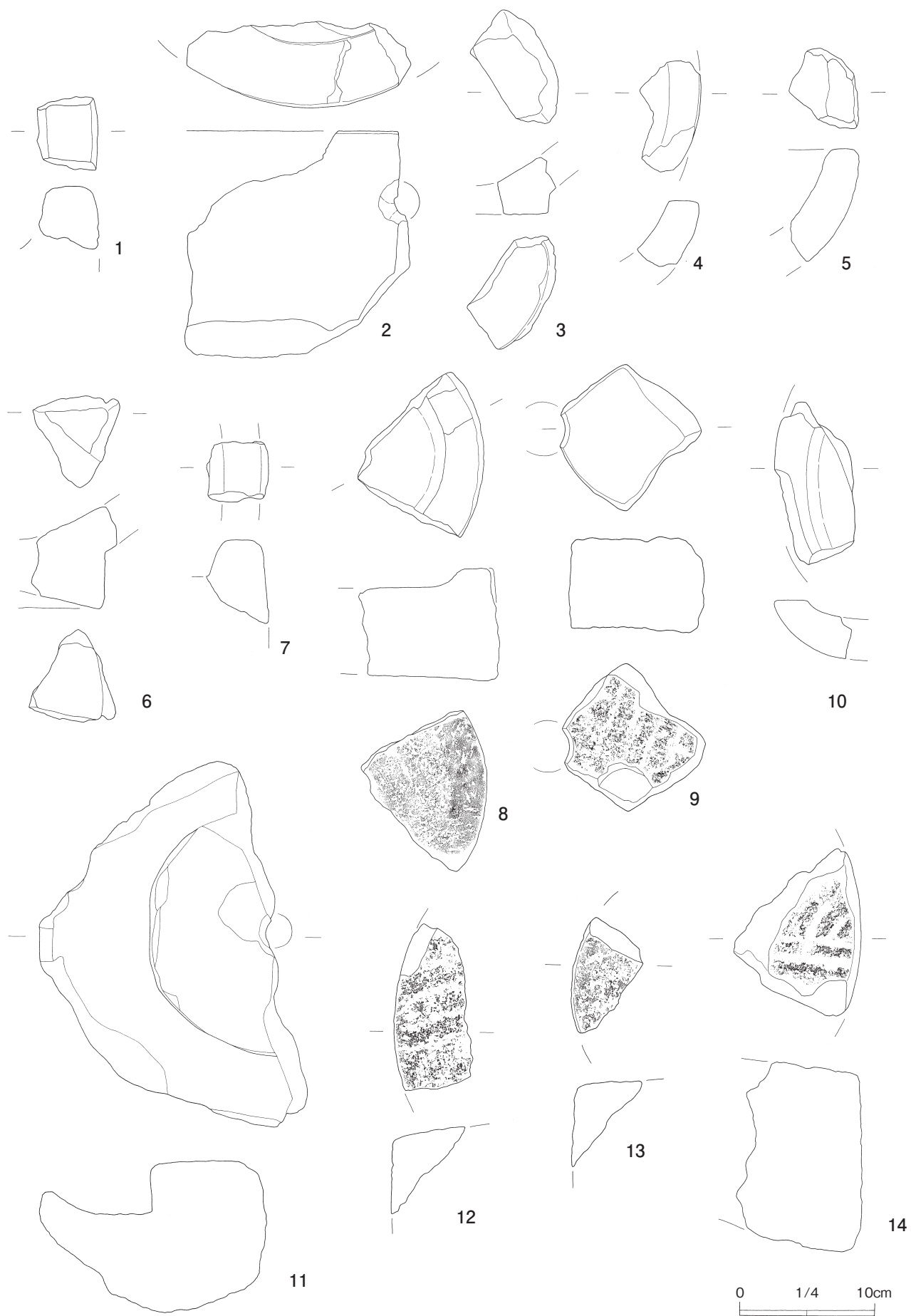
139～145は石英質で小形、擦痕・潰れが認められる物で火打石として扱った。判別は困難であるが火打金の出土例から当然存在するものとして想定しておくべきものである。

### (2) 石造物

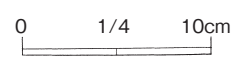
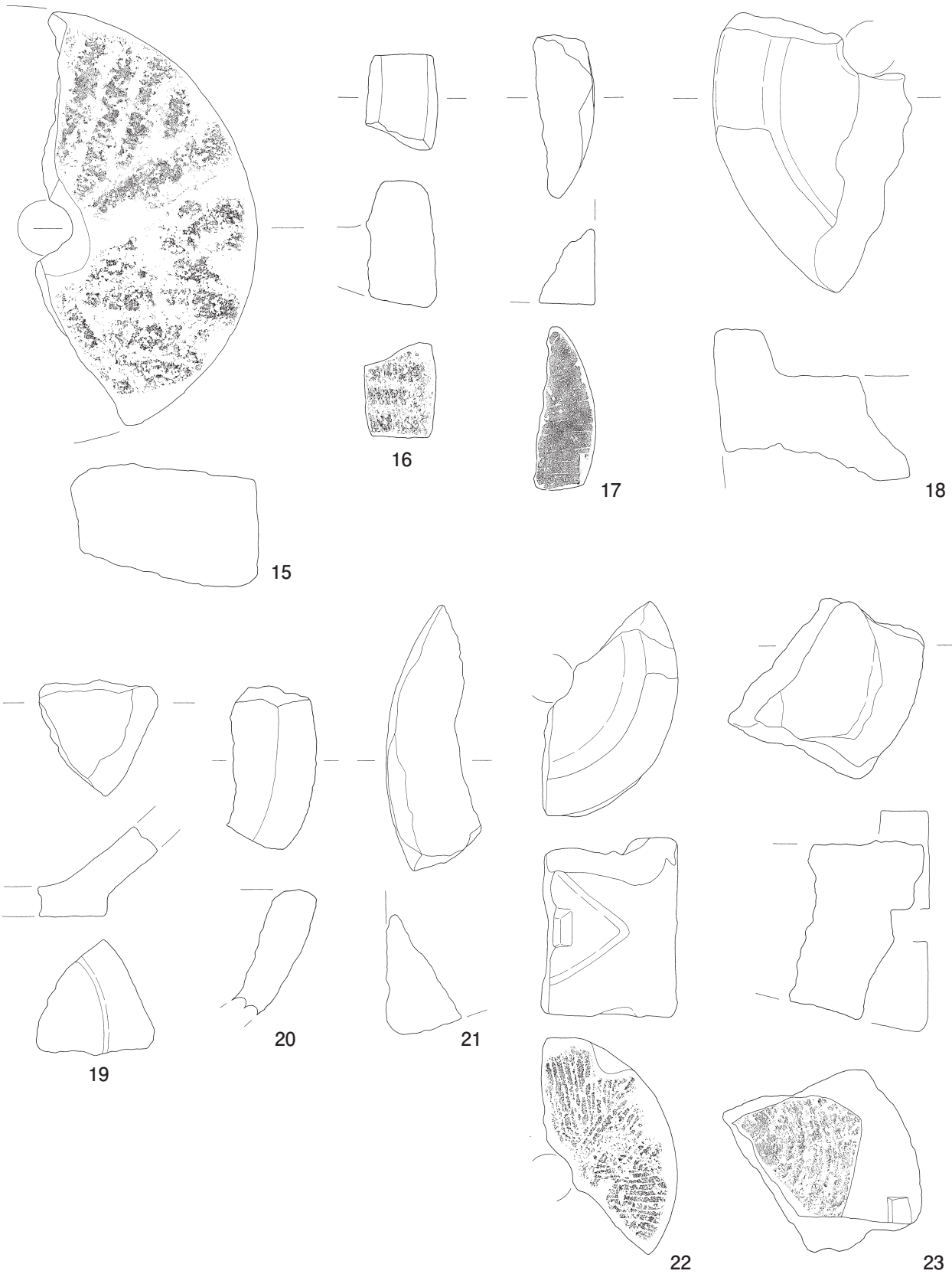
板碑は54点を数えるが、完形は25・28号溝出土の184・191のみで、他は破片である。年号がわかるものは184の応仁2年(1468)、191の寛正7年(1466)に加え、146の元亨年間(1321～24)、172の文和4年(1355)がある。製作時のものとして鑿痕が板材加工の裏面以外に側面146・147に加工痕、155・169はケガキ、184・191・197はケガキ状の枠線が確認できる。2次使用としては表面に摩耗痕が認められ

るものがあり(149・158・161・165・167・188・192)砥石として使用されたものであろう。また、廃棄以降であろうか、煤・炭化物が付着するものが多数あり、なんらかの焼却や戦乱時の燃焼に伴うものであろう。209は板状の成形に穿孔を有するもので板碑の台石の可能性はある。

五輪塔は7点を数える。火輪・水輪・地輪があり205は遺存状況がよい。種子周辺に墨が残り、年号は不明瞭であるが、明応(1492～1501)あるいは長祿(1457～60)であろうか。多くは2次的な使用として、面を形成するほどの摩耗痕がある。砥石として使用されたものであろう。

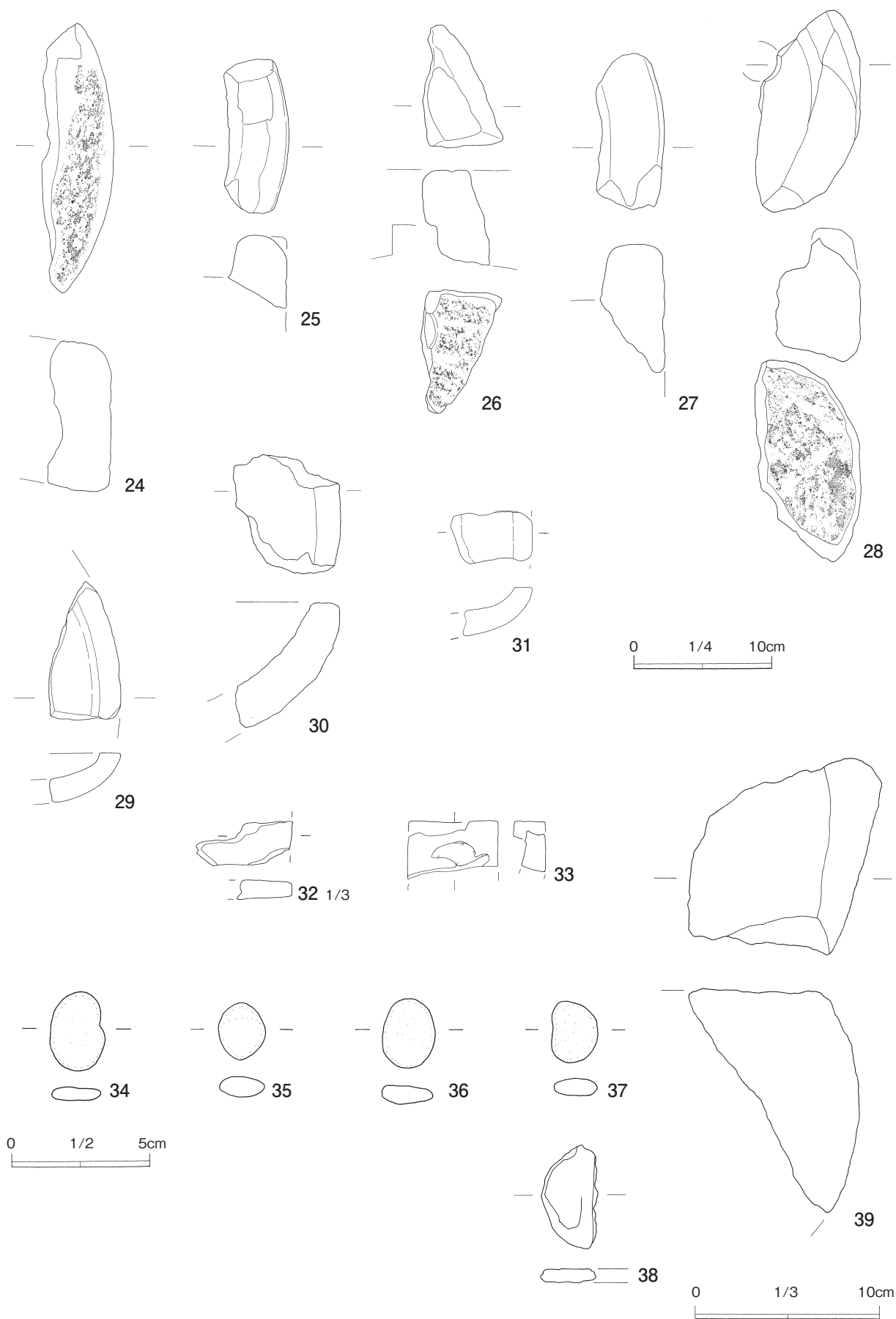


第82図 石製品1 (石白1)

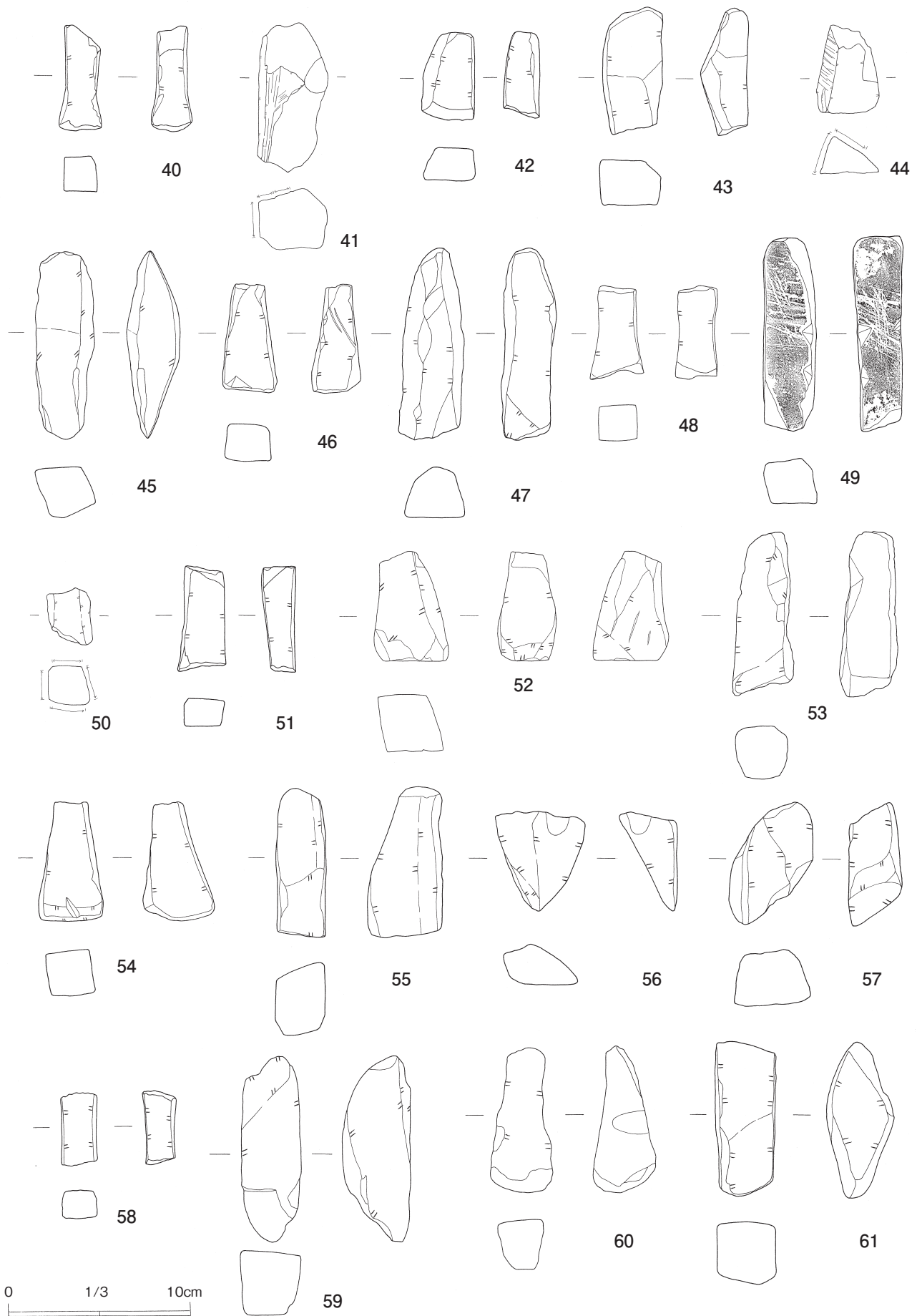


第83図 石製品 2 (石臼 2)

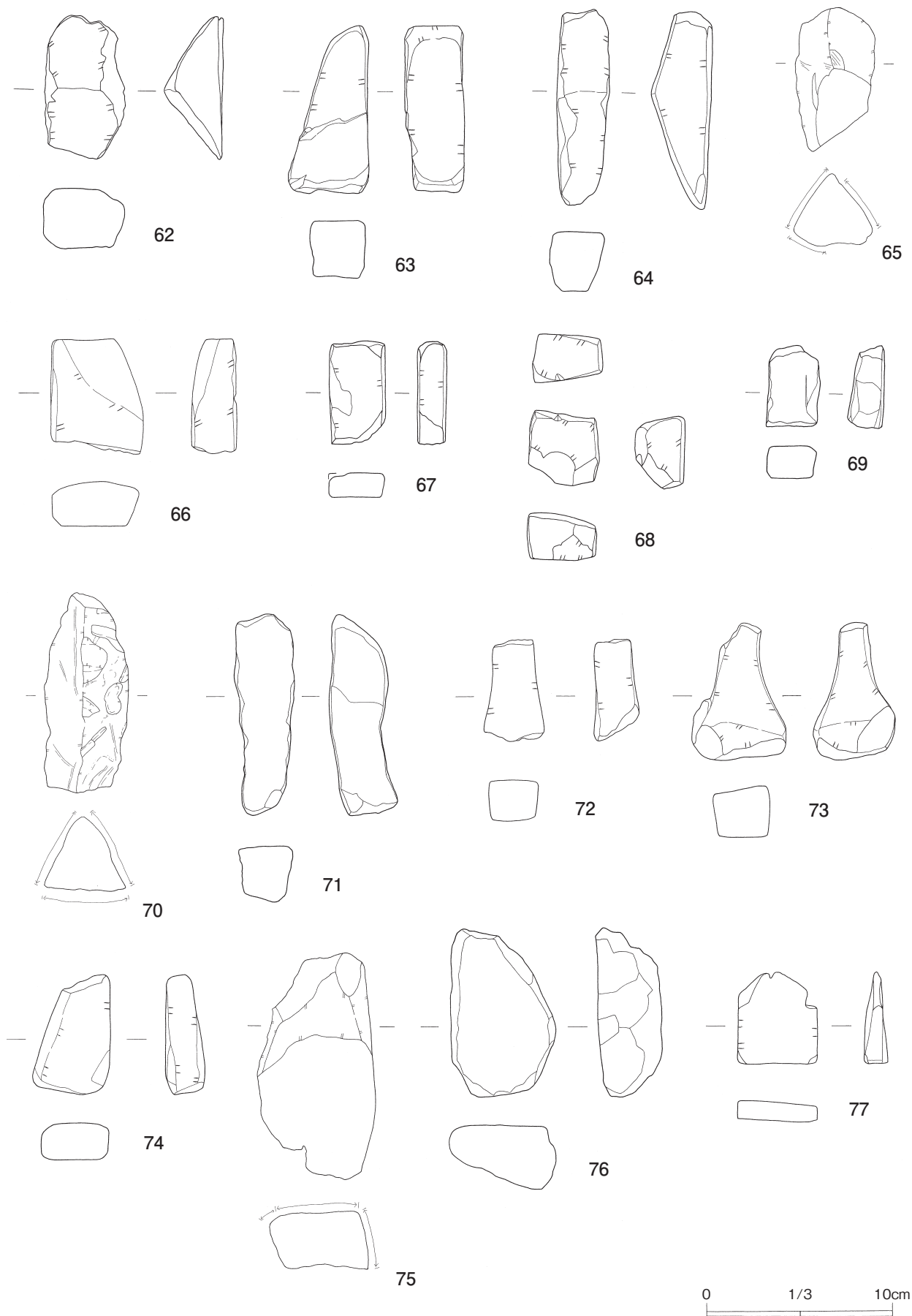




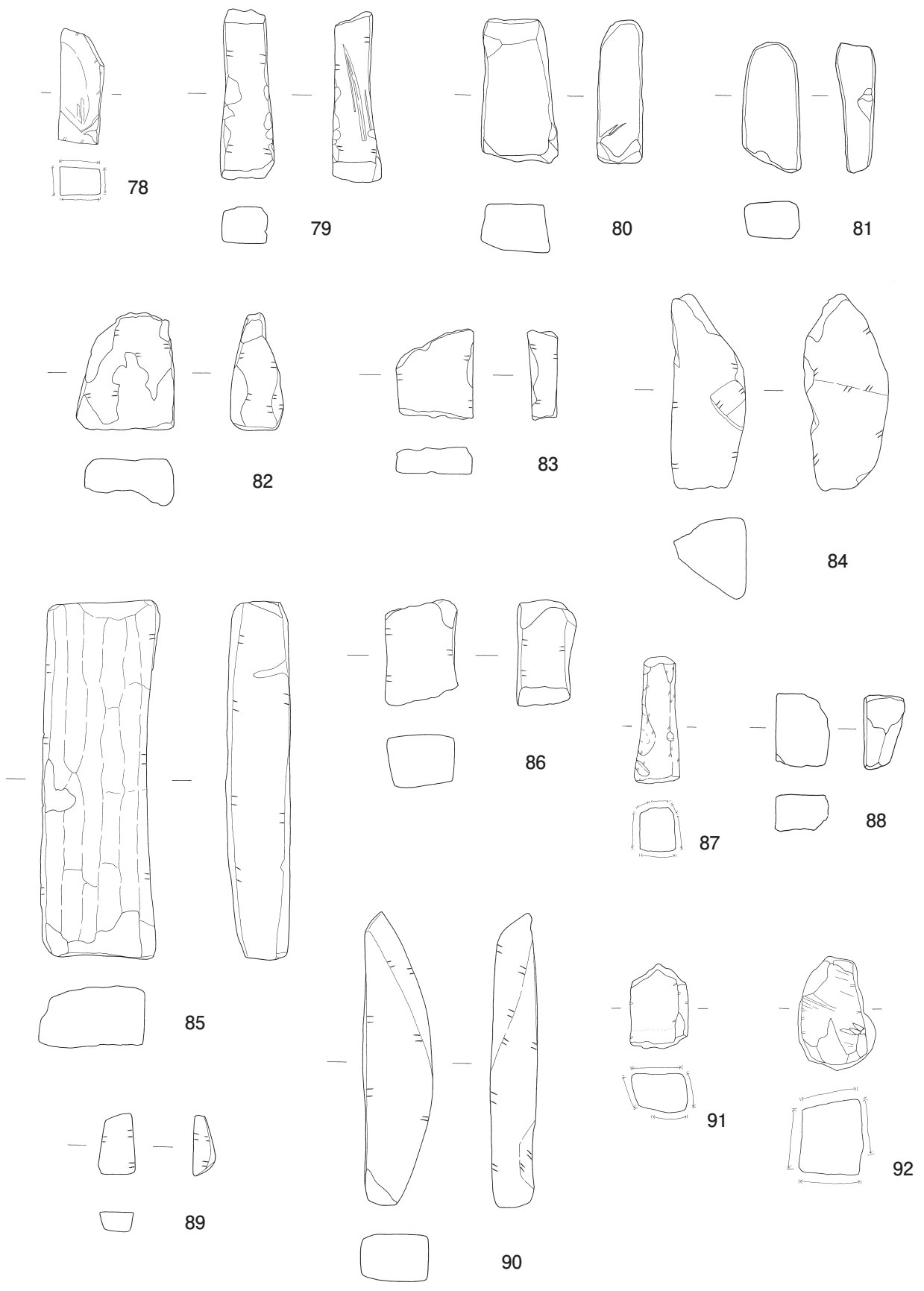
第84図 石製品3 (石臼ほか)



第85図 石製品4 (砥石1)

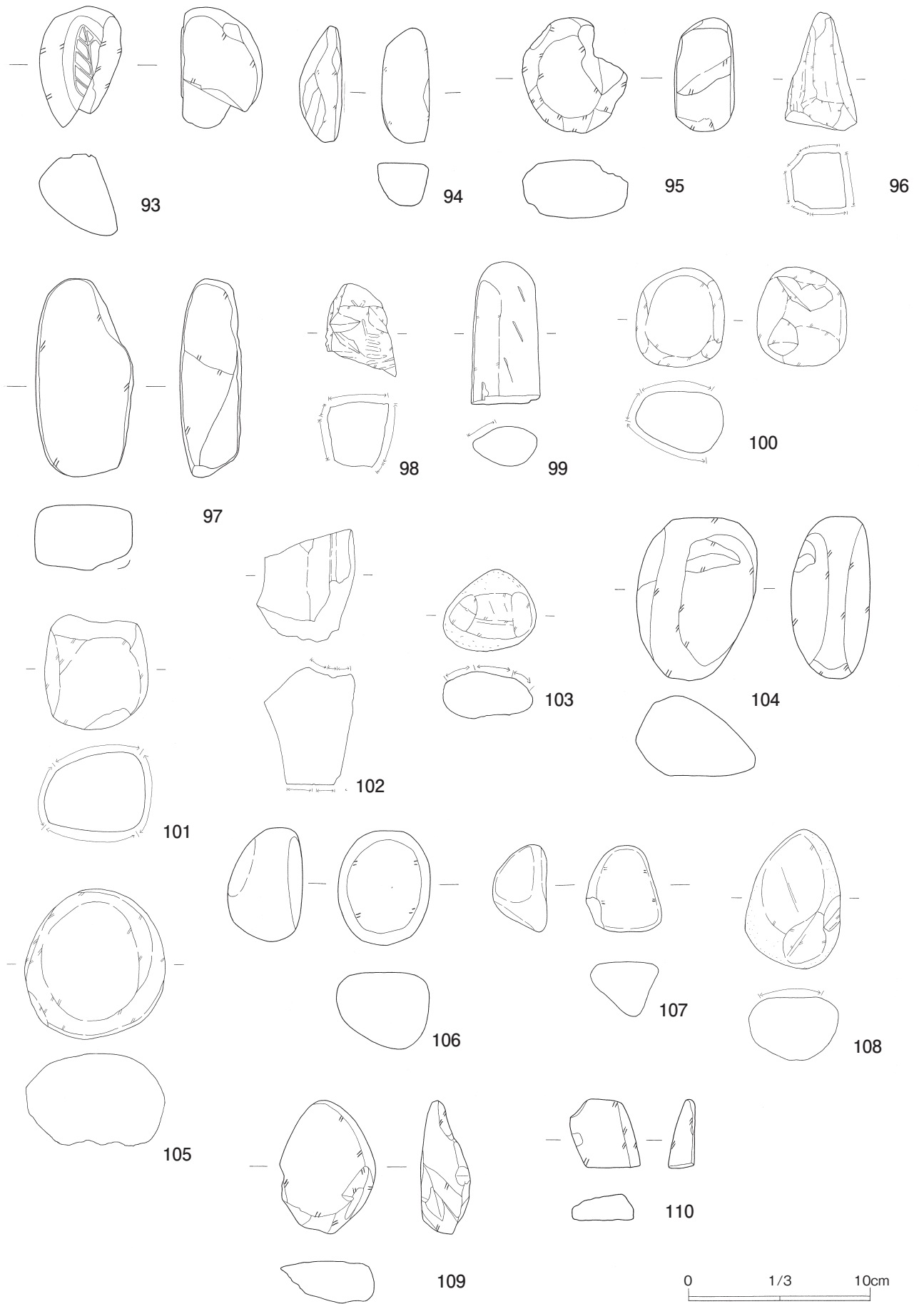


第86図 石製品5 (砥石2)

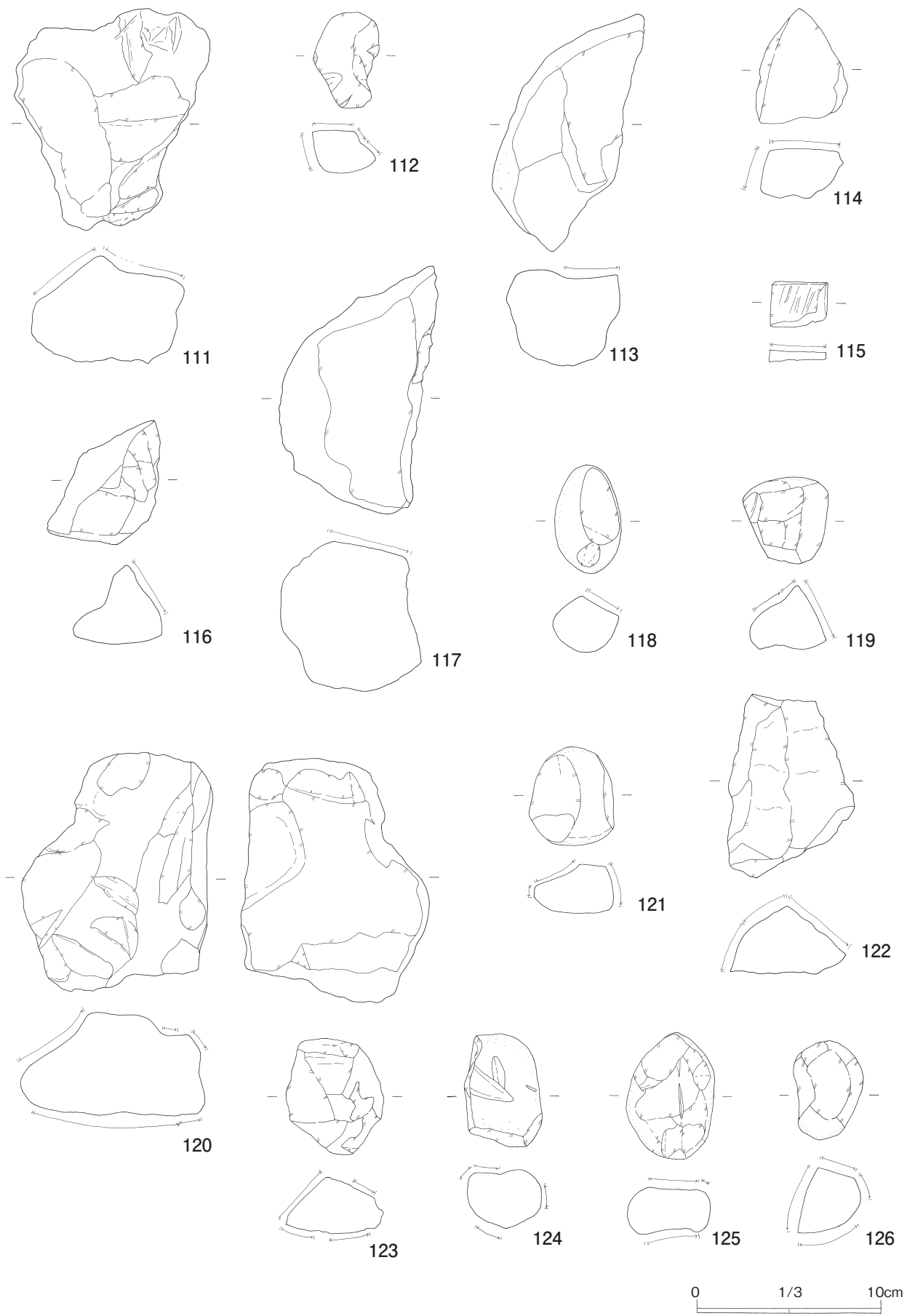


第87図 石製品6 (砥石3)

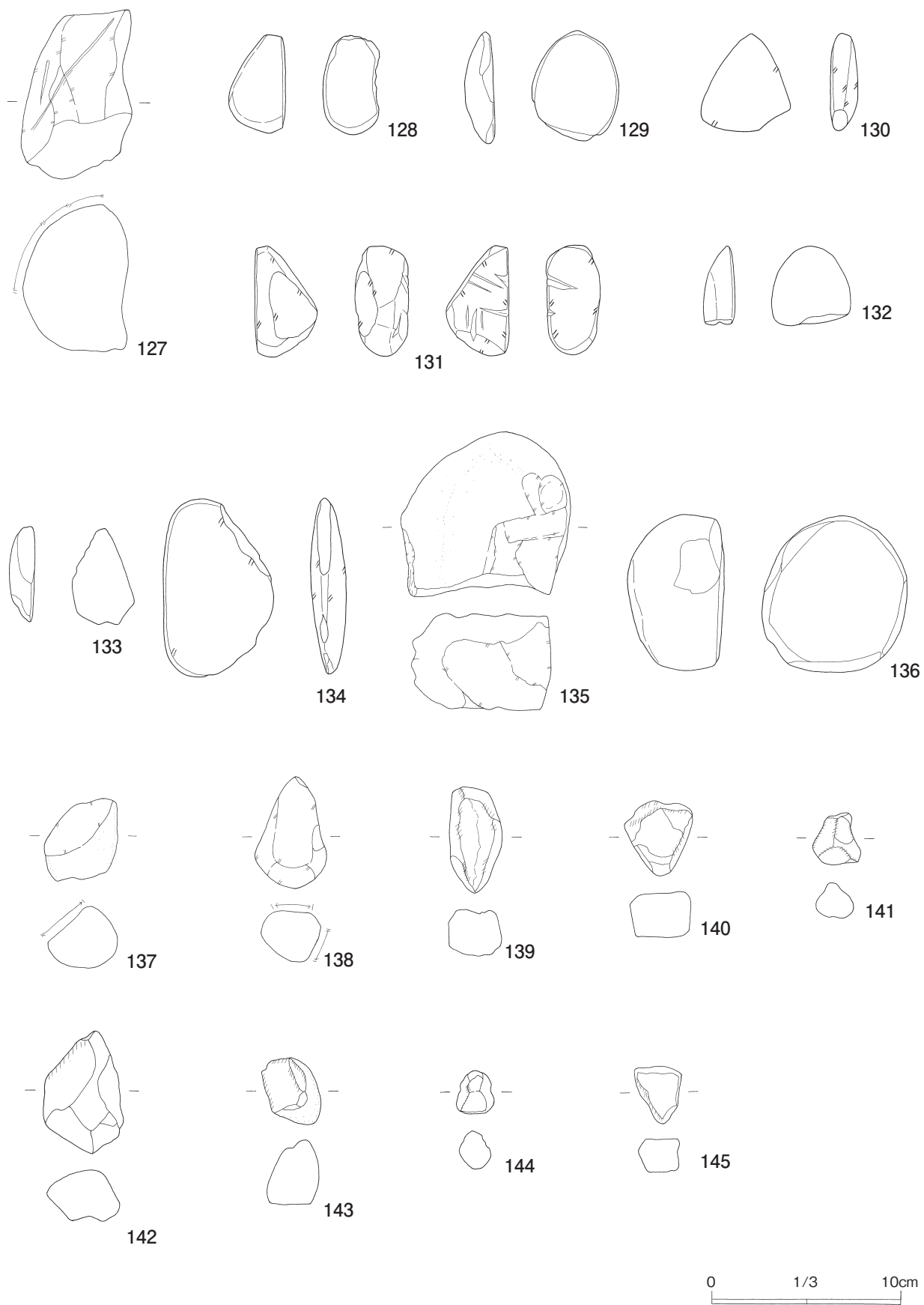




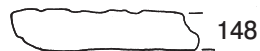
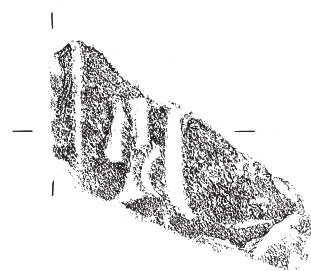
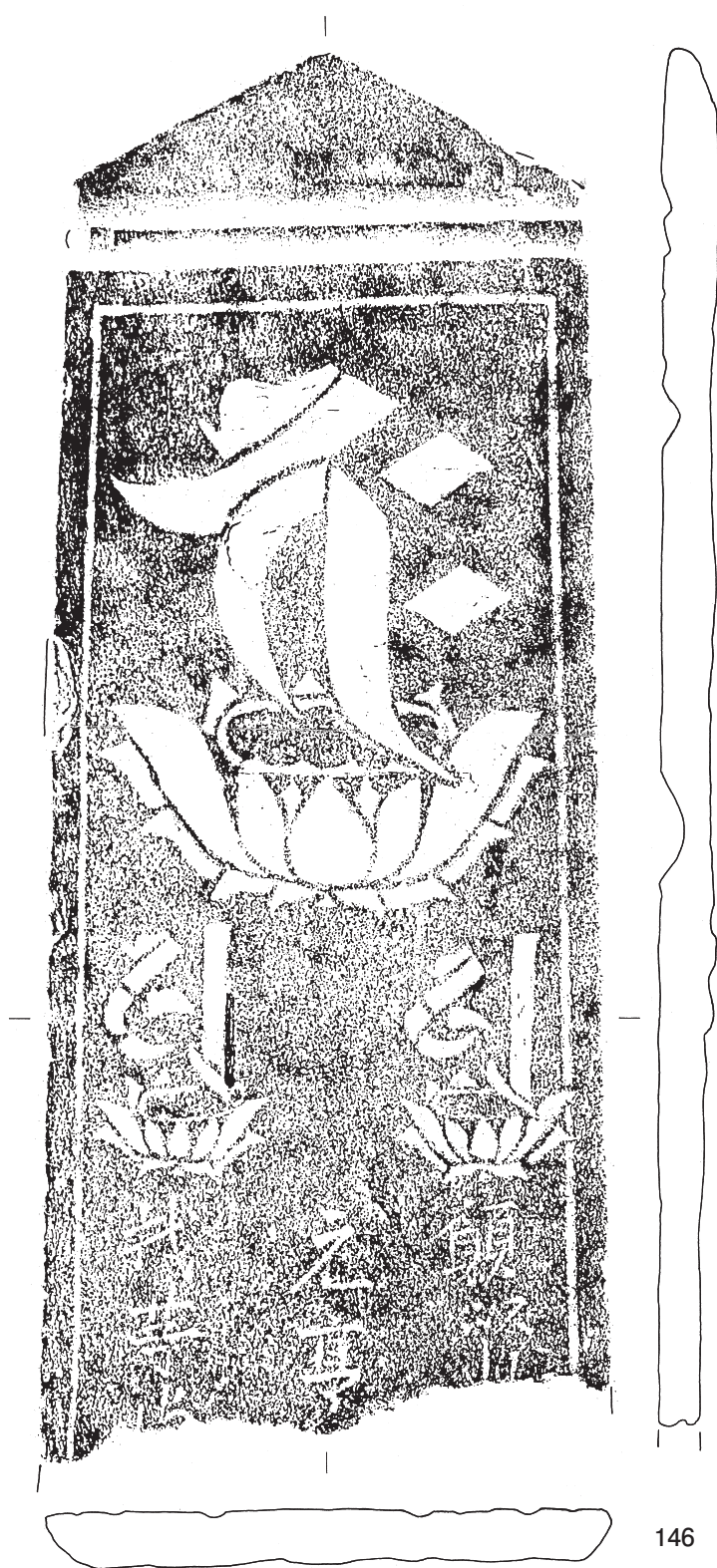
第88図 石製品7 (磨石1)



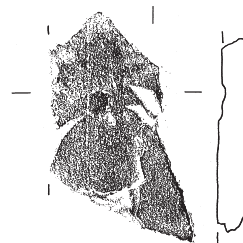
第89図 石製品8 (磨石2)



第90図 石製品9 (磨石3)

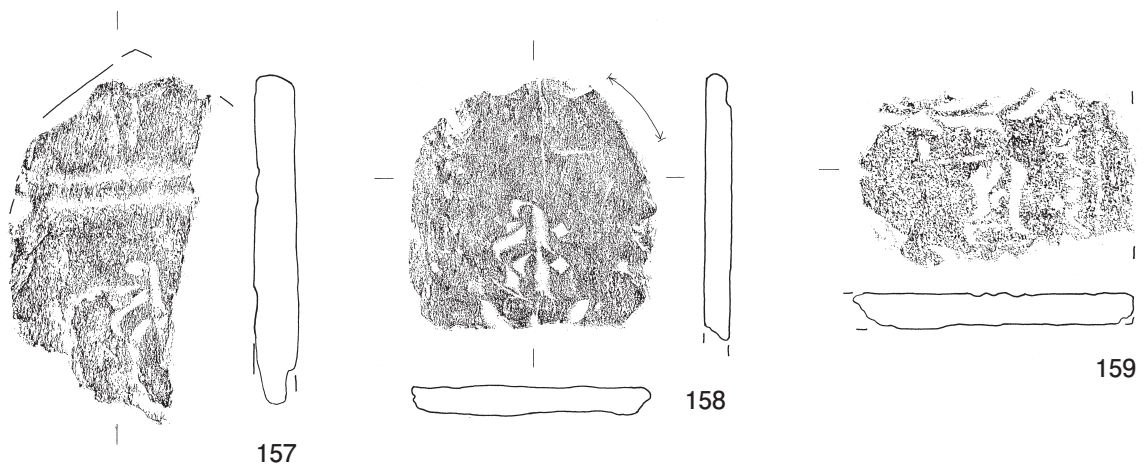
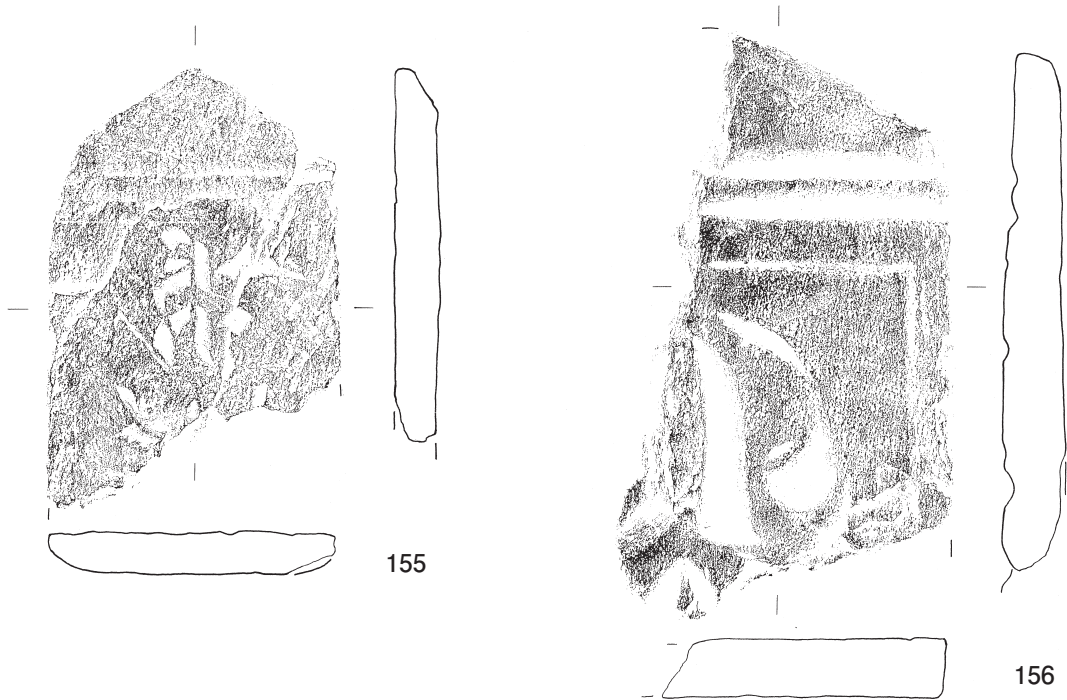
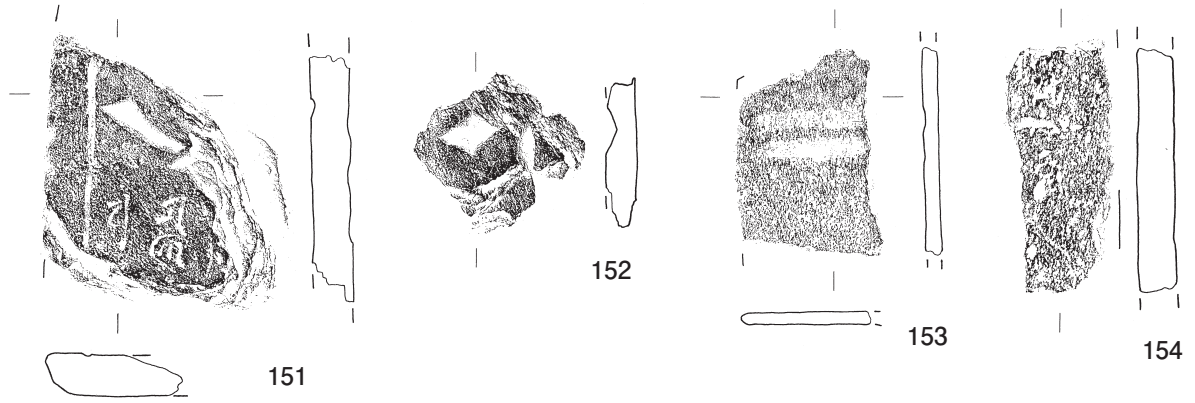


149



0 1/4 20cm

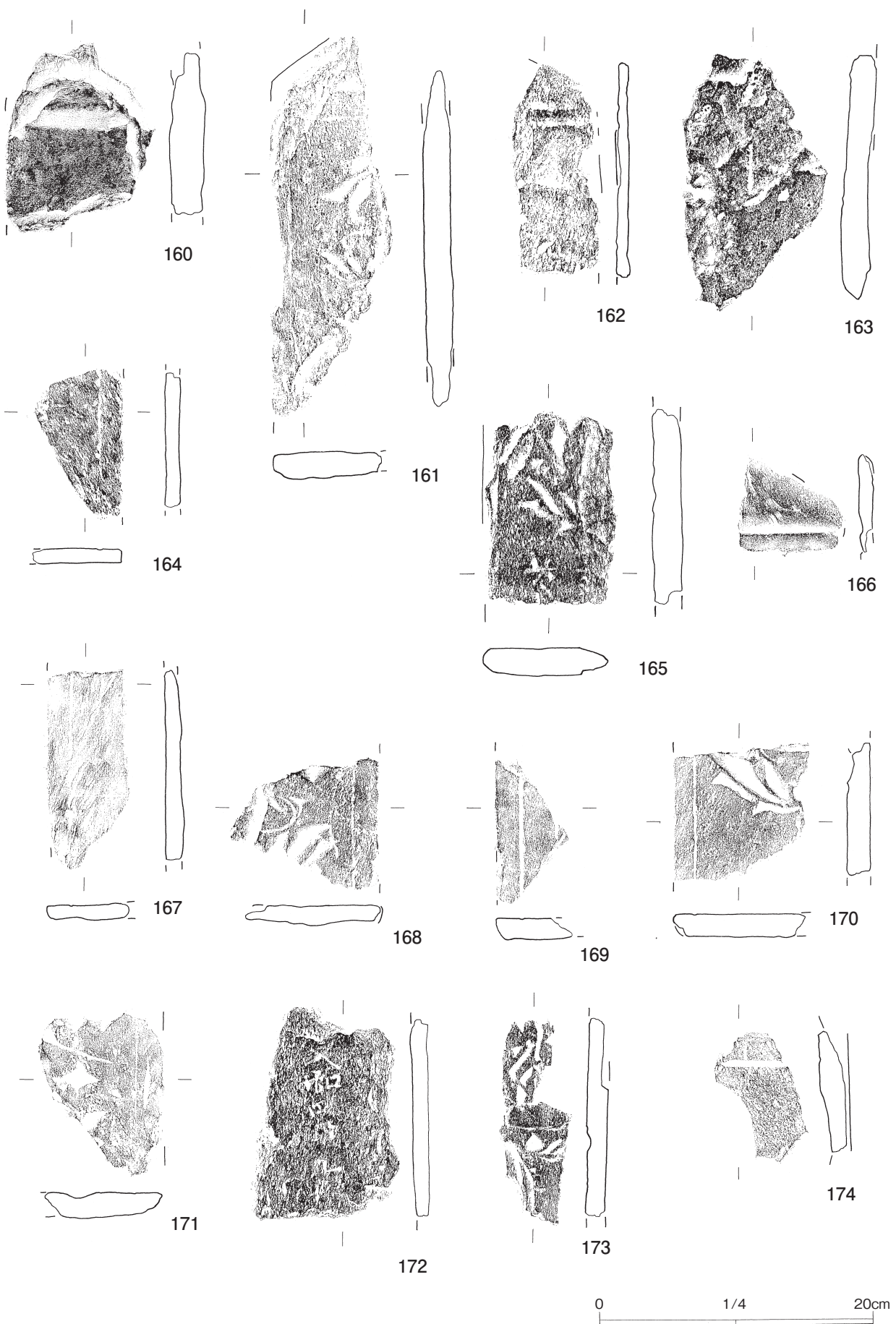
第91図 石製品10 (板碑1)



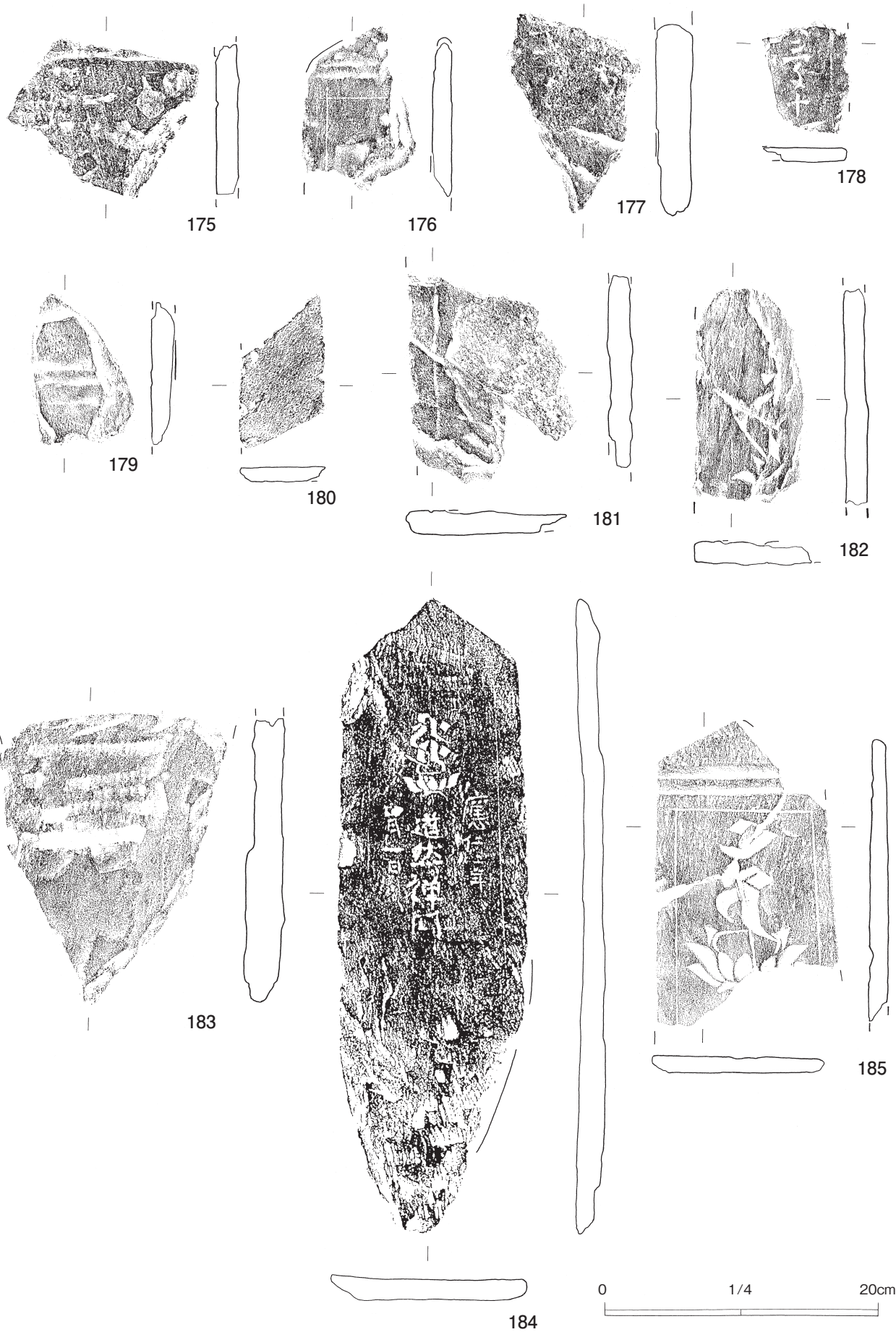
0 1/4 20cm

第92図 石製品11 (板碑2)



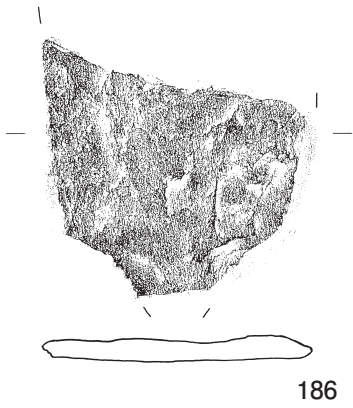


第93図 石製品12 (板碑3)

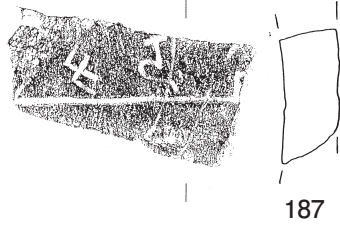


第94図 石製品13 (板碑4)

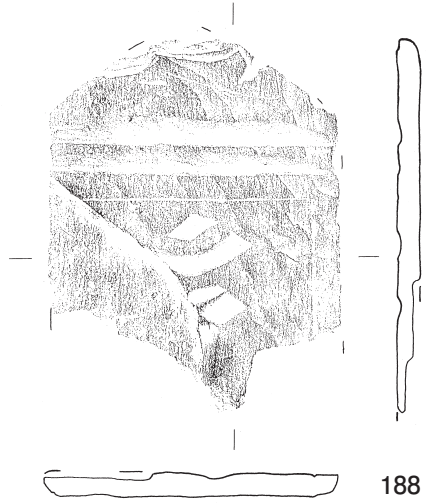




186



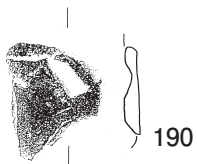
187



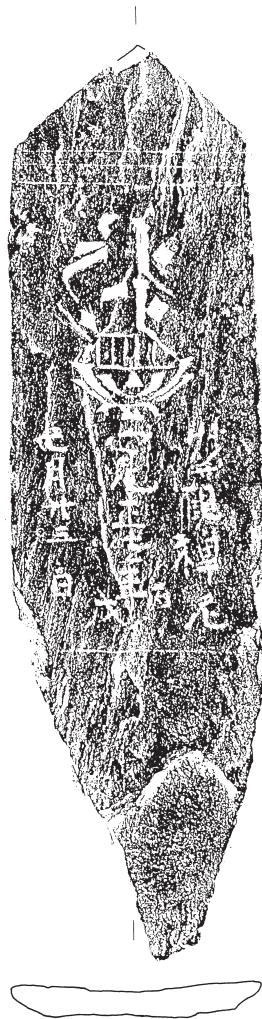
188



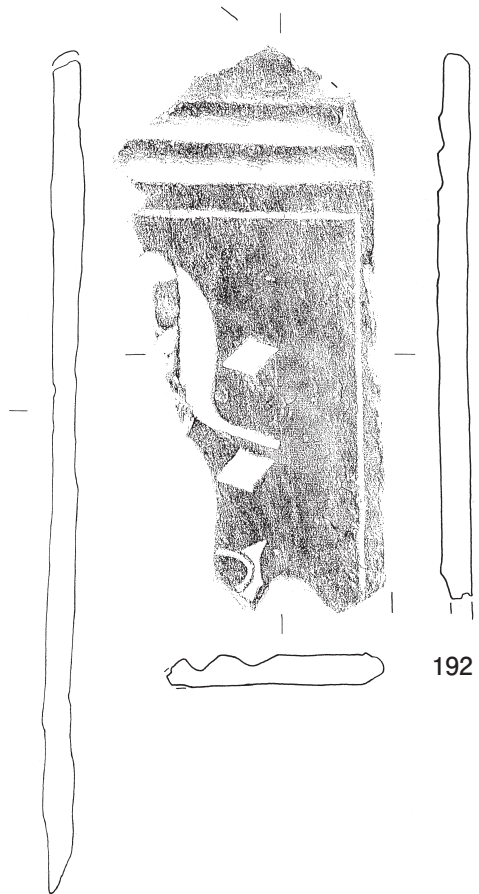
189



190



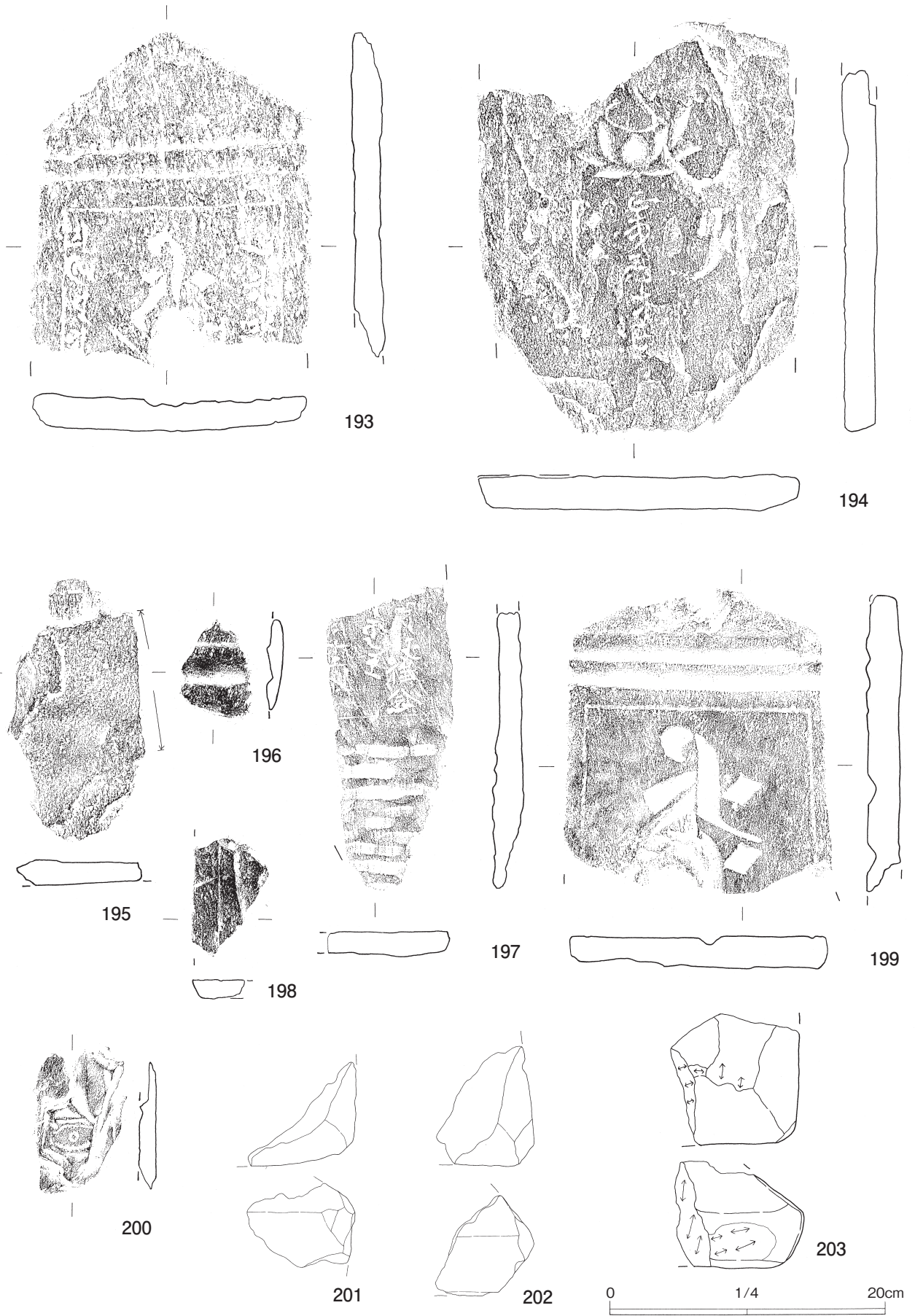
191



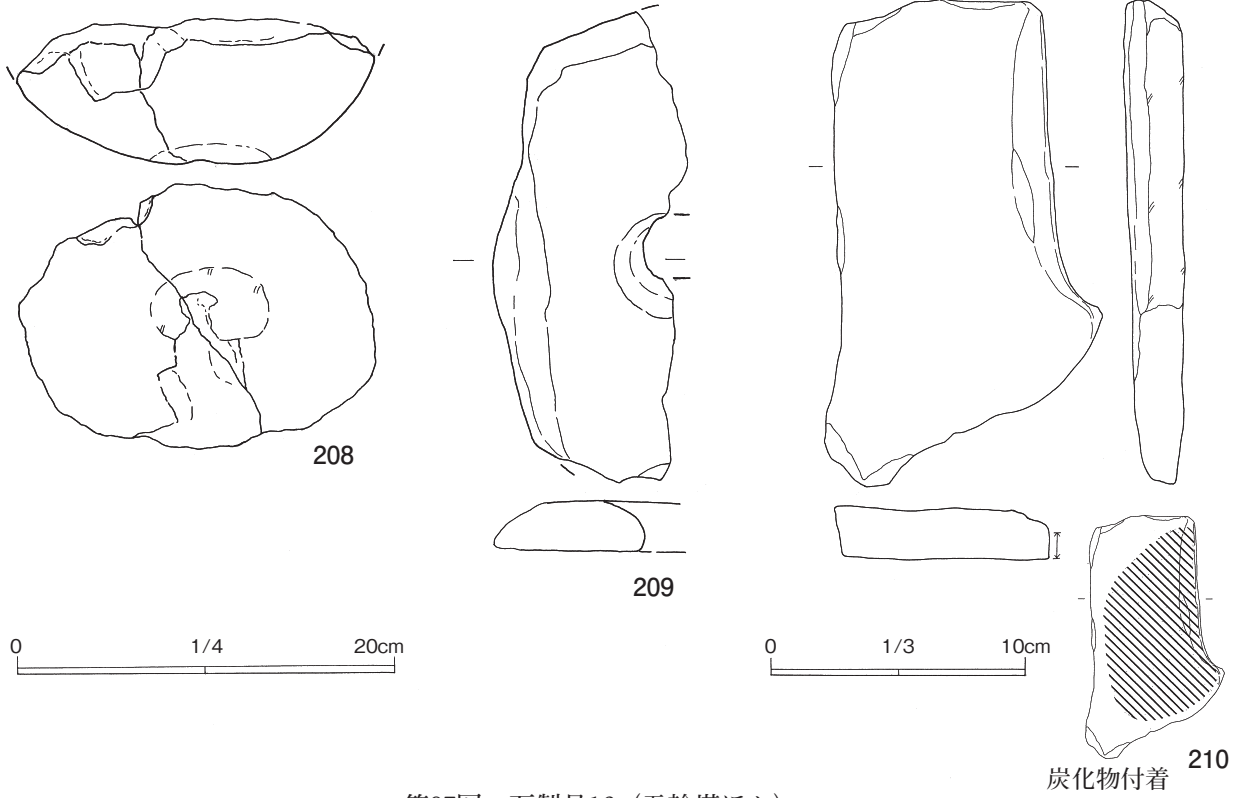
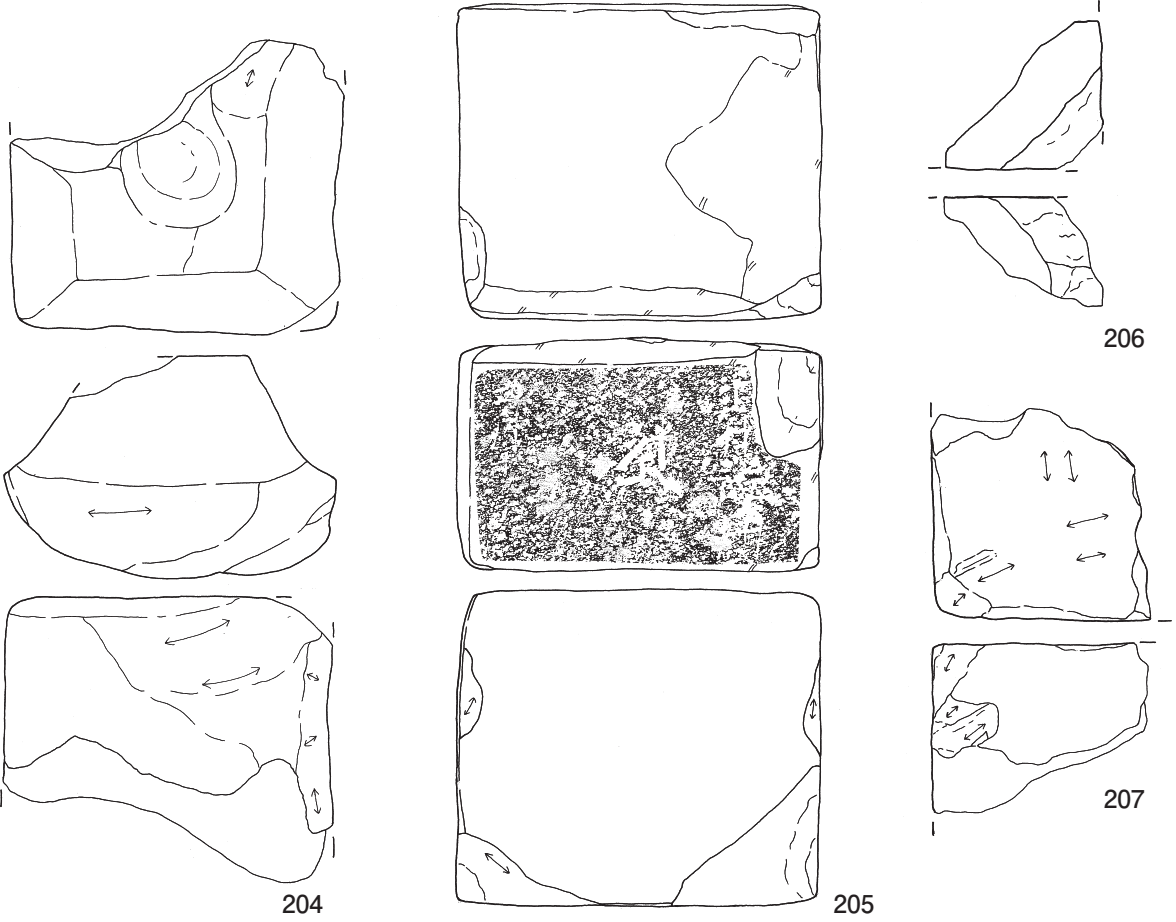
192

0 1/4 20cm

第95図 石製品14 (板碑5)



第96図 石製品15 (板碑・五輪塔)



第97図 石製品16 (五輪塔ほか)



( ) は残存値、\* は不確定な推定復元値

法量の単位は cm

図版 No.	遺物名	材質	地区	出土地点	長さ	幅	高さ	器種 No.	備考
01	粉挽き臼(上臼)	角閃石安山岩	KB1	12溝(A-12G)	—	(4.3)	(4.5)	石036	
02	粉挽き臼(上臼)	角閃石安山岩	KB1	12溝(B-15GNo. 11)	—	(6.4)	16.5	石038	
03	粉挽き臼(搗臼)	角閃石安山岩	KB1	12溝(A-13G)	—	(4.5)	(4.3)	石009	茶臼?
04	粉挽き臼(搗臼)	角閃石安山岩	KB1	12溝(A-7G)	—	(4.5)	(4.9)	石010	茶臼?
05	粉挽き臼(搗臼)	角閃石安山岩	KB1	12溝(A-6G)	—	(4.1)	(8.3)	石039	
06	茶臼(下臼)	角閃石安山岩	KB1	12溝(A-8G)	—	(6.0)	(7.5)	石013	
07	粉挽き臼(上臼)	デイサイト	KB1	17壙(B-7G)	—	(4.3)	(6.1)	石007	
08	茶臼(上臼)	安山岩	KB1	B-17GNo. 20	—	(10.3)	8.4	石034	
09	粉挽き臼(上臼)	角閃石安山岩	KB1	C-20GNo. 25	—	(9.9)	6.7	石037	2次使用
10	茶臼(下臼)	安山岩	KB1	B-2G	—	(5.8)	(4.4)	石011	受皿
11	粉挽き臼(下臼)		KB1	A-10GNo. 129	—	(27.0)	11.0	町石012	受皿
12	粉挽き臼(下臼)	角閃石安山岩	KB1	B-20GNo. 5	—	(5.5)	(5.5)	石012	
13	粉挽き臼(下臼)	角閃石安山岩	KB1	B-20GNo. 7	—	(4.9)	(6.0)	石035	
14	粉挽き臼(下臼)	角閃石安山岩	KB1	A-4GNo. 41	—	(9.4)	13.3	石008	
15	粉挽き臼(下臼)	安山岩	KB2	5溝(L-10GNo. 1)、5井(L-10No. 8)	—	(12.7)	7.7	石017	煤厚く付着
16	粉挽き臼(上臼)		KB2	8溝(K-9GNo. 12)	—	(4.9)	8.6	石019	
17	茶臼(上臼)		KB2	8溝(K-9GNo. 18)	—	(3.9)	(5.2)	石024	
18	粉挽き臼(上臼)	不明	KB2	26溝(K-8GNo. 81)	—	(13.3)	(8.5)	石008	
19	粉挽き臼(搗臼)	角閃石安山岩	KB2	28溝(J-7GNo. 92)	—	(8.1)	(6.2)	石015	
20	粉挽き臼(搗臼)		KB2	34溝(H-8GNo. 128)	—	(5.7)	(8.7)	石020	
21	粉挽き臼(下臼)	角閃石安山岩	KB2	1井(O-9GNo. 12)	—	(5.2)	(8.3)	石010	
22	茶臼(上臼)	不明	KB2	5井(L-10GNo. 3)上層	—	(7.6)	12.4	石016	
23	粉挽き臼(上臼)		KB2	5井(L-10GNo. 7)	—	(8.0)	(12.4)	石022	
24	粉挽き臼(下臼)	安山岩	KB2	5井(L-10GNo. 16)	—	(5.2)	10.7	石009	
25	粉挽き臼(上臼)	角閃石安山岩	KB2	L-10GNo. 13	—	(4.3)	(5.1)	石012	
26	粉挽き臼(上臼)	角閃石安山岩	KB2	G-9GNo. 65	—	(5.2)	6.6	石013	
27	粉挽き臼(上臼)	角閃石安山岩	KB2	H-8GNo. 61	—	(4.7)	(9.2)	石014	
28	粉挽き臼(上臼)		KB2	6-32区	—	(7.0)	(8.3)	石023	
29	茶臼(下臼)	角閃石安山岩	KB2	E-10GNo. 45	—	(5.2)	(3.3)	石011	
30	粉挽き臼(搗臼)		KB2	N-12GNo. 1	—	(7.5)	(9.0)	石021	
31	茶臼(下臼)	安山岩	KB2	4-8区	—	(3.4)	(3.5)		
32	硯様製品		KB2	6-32区	(2.2)	(5.2)	1.0		
33	硯		KB2	4-8区	(2.5)	4.8	1.7		
34	碁石		KB1	A-9G 溝	2.8	2.0	0.4		
35	碁石		KB2	6・29・30・31溝合流	3.0	1.7	0.7		
36	碁石		KB2	6-33区	2.5	1.9	0.6		
37	碁石		KB2	4-8区西	2.2	1.6	0.6		
38	石製円盤	緑泥片岩	KB1	12溝	5.5	3.0	0.7	つぶて石2	
39	加工石		KB2	25溝(J-7GNo. 62)	(10.5)	(9.2)	(12.0)	石025	
40	砥石	泥岩	KB1	10・12溝合流	(5.8)	2.4	2.3	石040	
41	砥石	泥岩	KB1	12溝(A-6G)	(8.0)	2.8	3.3		
42	砥石	泥岩	KB1	12溝(A-9G)	(4.8)	2.9	2.0	石026	
43	砥石	泥岩	KB1	12溝(A-13G)	(6.7)	3.3	2.5	石042	
44	砥石	泥岩	KB1	12溝(A-13G)	(4.9)	3.4	32.0		
45	砥石	泥岩	KB1	12溝(B-12G)	10.4	3.2	3.0	石045	
46	砥石	泥岩	KB1	12溝(B-16G)	(6.0)	3.0	2.7	石044	
47	砥石	泥岩	KB1	12溝	(10.6)	3.3	2.8	石028	
48	砥石	泥岩	KB1	8井(B-10GNo. 116)	(5.2)	3.2	2.3	石001	
49	砥石	泥岩	KB1	17壙(B-7G)	(10.7)	2.9	2.7	石047	
50	砥石	泥岩	KB1	A-10G	(3.1)	2.3	2.1		
51	砥石	泥岩	KB1	A-15G	(5.8)	2.2	1.5	石022	
52	砥石	泥岩	KB1	B-4G	(6.0)	4.0	3.2	石002	
53	砥石	泥岩	KB1	B-5GNo. 11	(9.0)	3.3	2.9	石043	
54	砥石	泥岩	KB1	B-7GNo. 38	(6.5)	3.5	3.9	石046	
55	砥石	泥岩	KB1	B-7GNo. 54	(8.2)	2.7	4.1	石048	
56	砥石	泥岩	KB1	B-12G	(5.5)	4.9	2.2	石025	
57	砥石	泥岩	KB1	B-12G	(6.8)	4.3	2.9	石041	
58	砥石	泥岩	KB1	B-14GNo. 40	(4.0)	2.0	1.5	石031	
59	砥石	泥岩	KB1	B-17GNo. 16	10.3	3.3	3.6	石021	
60	砥石	泥岩	KB1	C-7G	(8.0)	3.5	2.8	石029	
61	砥石	泥岩	KB1	C-13GNo. 15	8.5	3.3	3.5	石030	
62	砥石	泥岩	KB1	C-17GNo. 3	7.6	4.3	3.3	石023	
63	砥石	泥岩	KB1	C-19GNo. 15	9.0	4.4	3.2	石049	
64	砥石	泥岩	KB1	C-20GNo. 19	(10.6)	2.8	3.2	石024	
65	砥石	泥岩	KB1	表土	(7.3)	4.2	3.9		
66	砥石	泥岩	KB1	一括	(6.1)	5.0	2.4	石003	
67	砥石	泥岩	KB1	一括	(5.5)	3.0	1.3	石020	
68	砥石	泥岩	KB1	一括	4.0	3.8	2.5	石027	
69	砥石		KB 2	7溝(L-11No. 103)	(4.3)	2.7	1.8	石032	
70	砥石	不明	KB 2	7溝(L-11No. 112)	(10.7)	4.5	4.4		
71	砥石		KB 2	8溝(L-9GNo. 38)	(11.6)	3.2	3.1	石042	
72	砥石	泥岩	KB 2	34溝(H-8GNo. 113)	(5.4)	3.3	2.3	石038	
73	砥石	泥岩	KB 2	34溝(H-8GNo. 132)	(7.2)	5.1	4.4	石040	

第27表 石製品類一覧表 1

( )は残存値、\*は不確定な推定復元値

法量の単位は cm

図版 No.	遺物名	材質	地区	出土地点	長さ	幅	厚さ	器種 No.	備考
74	砥石	泥岩	KB2	34溝(H-8GNo.133)	(6.5)	4.1	2.0	石041	
75	砥石	泥岩	KB2	34溝(H-9GNo.28)	(12.3)	6.3	3.0		
76	砥石		KB2	37溝(H-9GNo.23)	(9.0)	5.7	3.4	石043	
77	砥石	泥岩	KB2	42溝(4-8区)	(4.9)	4.3	1.0	石030	
78	砥石	泥岩	KB2	2井	(6.9)	2.2	1.5		
79	砥石	泥岩	KB2	E-10GNo.43	(9.0)	2.9	1.9	石026	
80	砥石		KB2	F-9GNo.30	(7.5)	3.7	2.5	石033	
81	砥石		KB2	G-9GNo.32	(6.9)	3.1	2.1	石034	
82	砥石	泥岩	KB2	G-9GNo.35	(6.1)	5.2	2.5	石039	
83	砥石	泥岩	KB2	H-8GNo.8	(4.8)	4.0	1.4	石028	
84	砥石	泥岩	KB2	I-5GNo.10	(10.2)	4.5	4.3	石029	
85	砥石	泥岩	KB2	I-6GNo.2	19.0	6.0	3.3	石037	
86	砥石	泥岩	KB2	I-8GNo.71	(5.1)	3.8	3.1	石027	
87	砥石	泥岩	KB2	6-32区	(6.7)	2.4	2.4		
88	砥石		KB2	6-33区南	(3.9)	2.8	2.2	石035	
89	砥石	泥岩	KB2	6-33区	(3.2)	2.0	1.2	石031	
90	砥石	泥岩	KB2	6-33区	15.6	3.7	2.5	石036	
91	砥石	泥岩	KB2	4-8区西	(4.6)	3.0	2.1		
92	砥石	泥岩	KB2	4-8区	(6.0)	4.1	4.0		
93	磨石	デイサイト	KB1	1溝(A-14G)	(6.7)	(4.3)	4.5	石005	
94	磨石	デイサイト	KB1	12溝(A-9G)	6.4	2.7	2.3	石019	
95	磨石	デイサイト	KB1	12溝	6.3	5.9	3.3	石017	
96	砥石	泥岩	KB1	12溝(C-20G)	(6.3)	3.9	3.1		
97	磨石	デイサイト	KB1	4井(No.1)	11.0	5.4	3.6	石015	
98	砥石	泥岩	KB1	5井	4.2	3.4	3.5		
99	磨石	不明	KB1	8井(B-10G)	(7.9)	3.8	2.2		
100	磨石	デイサイト	KB1	A-6G	5.5	4.9	3.5		
101	磨石	安山岩	KB1	A-9GNo.66	(6.0)	5.7	4.4		
102	磨石	砂岩?	KB1	A-9GNo.106	(5.6)	4.9	6.5		
103	磨石	デイサイト	KB1	B-5G	5.0	4.4	2.6		
104	磨石	デイサイト	KB1	B-6GNo.57	11.0	6.5	4.4	石016	
105	磨石	デイサイト	KB1	B-6GNo.58	8.3	7.7	5.0		
106	磨石	デイサイト	KB1	B-8GNo.9	6.4	5.2	4.3	石014	
107	磨石	デイサイト	KB1	B-8G?	4.8	4.0	3.0	石004	
108	磨石	デイサイト	KB1	C-5GNo.1	7.7	5.3	3.5		
109	磨石	デイサイト	KB1	C-14GNo.12	7.4	5.3	2.3	石006	
110	磨石	デイサイト	KB1	一括	3.8	3.4	1.4	石018	
111	磨石	デイサイト	KB2	22溝(N-12GNo.8)	(11.5)	10.3	5.8		
112	磨石	デイサイト	KB2	27溝上層	5.3	3.5	2.3		
113	磨石	デイサイト	KB2	34溝(H-8GNo.128)	(13.5)	(6.4)	5.0		
114	磨石	デイサイト	KB2	6井	(6.0)	(4.2)	(2.7)		
115	磨石	不明	KB2	149壙	(2.4)	(3.0)	0.6		
116	磨石	角閃石安山岩	KB2	E-11GNo.15	(7.1)	4.7	4.3		
117	磨石	角閃石安山岩	KB2	F-10GNo.1	(13.7)	7.5	7.8		
118	磨石	デイサイト	KB2	I-5GNo.3	5.9	3.6	3.0		
119	磨石	デイサイト	KB2	J-6GNo.61	4.6	4.6	(3.5)		
120	磨石	デイサイト	KB2	J-7GNo.40	(12.7)	10.0	5.5		
121	磨石	デイサイト	KB2	J-7GNo.75	5.4	4.5	2.6		
122	磨石	不明	KB2	J-7GNo.86	(10.0)	6.8	3.6		
123	磨石	デイサイト	KB2	J-8G	6.2	5.2	3.0		
124	磨石	デイサイト	KB2	K-7GNo.79	6.0	4.0	3.1		
125	磨石	デイサイト	KB2	L-11GNo.138	7.0	4.6	2.5		
126	磨石	デイサイト	KB2	6-31区	5.2	3.7	3.6		
127	磨石	デイサイト	KB2	6-33区	(8.7)	5.7	7.8		
128	磨石	デイサイト	KB2	6-33区	5.2	2.8	3.0	石001	
129	磨石	デイサイト	KB2	6-33区南	5.8	4.5	1.5	石002	
130	磨石	デイサイト	KB2	6-33区南	5.1	4.7	1.5	石003	
131	磨石	デイサイト	KB2	6-33区用水際	5.8	2.8	3.3	石004	
132	磨石	デイサイト	KB2	6-33区南	(4.1)	4.1	1.6	石005	
133	磨石	デイサイト	KB2	6-33区南	(5.0)	3.0	1.3	石018	
134	磨石	デイサイト	KB2	6-33区南	9.3	5.8	1.9	石007	
135	磨石	デイサイト	KB2	6-33区南	(9.1)	8.8	5.0		
136	磨石	デイサイト	KB2	6-?区	8.3	7.5	5.0	石006	
137	磨石	デイサイト	KB2	一括	(4.0)	3.9	3.2		
138	磨石	デイサイト	KB大	C-6GNo.8	5.9	3.8	2.6		
139	火打石	チャート	KB1	12溝(B-16G)	5.6	2.8	2.3		
140	火打石	チャート	KB1	17壙(B-7G)	4.0	3.7	2.4		
141	火打石	石英	KB1	A-10GNo.39	2.7	2.5	1.8		
142	火打石	石英	KB1	B-4GNo.12	6.5	4.2	2.5		
143	火打石	石英	KB1	C-9GNo.25	3.4	2.8	3.4		
144	火打石	石英	KB2	6-31区	2.3	2.0	2.0		
145	火打石	石英	KB2	6-32区道際	3.1	2.5	1.8		

第28表 石製品類一覧表2

※ 1区 ≡ K B 1 2区 ≡ K B 2

法量の単位は cm 赤字は銘文

No.	遺物名	出土地点	縦×横×厚	備考
146	板碑	1区 1溝	70×31×3	側面ノ整形痕 ア(運座) 願以此□ バク(運座) 乎亨□ ア(運座) 我等与□
147	板碑	1区 8溝 A↑7 G	18×11×2	煤附着、右側面ノミにより平坦面 キリーク(運座)
148	板碑	1区 12溝 A↑6 G No.109	15×14×2	□□ (ママ) サ
149	板碑	1区 12溝 A↑6 G	13×7×1	表摩耗痕 砥石? 真言梵字の一部あり
150	板碑	1区 12溝 A↑8 G	14×10×2	蓮弁
151	板碑	1区 12溝 B↑3 G No.37	15×13×2	蓮弁 □□□ (光明真言)
152	板碑	1区 12溝 B↑6 G No.71	9×10×2	裏スス附着、本尊種子の一部
153	板碑	1区 12溝 B↑7 G	11×9×1	一条の溝を2条線か
154	板碑	1区 2井 B↑8 G No.7	14×7×2	紗口
155	板碑	1区 9井 No.2 B↑5 G	24×16×3	表裏炭化物附着、ケガキ線あり キリーク(運弁)
156	板碑	1区 9井 No.4	31×18×3	本尊種子は莊嚴体 キリーク? (運座)
157	板碑	1区 17土壙 B↑7 G	19×11×2	表面スス? 附着 キリーク
158	板碑	1区 17土壙 B↑7 G	14×13×2	磨痕あり(砥石?) 上端凹形に整形? キリーク(運座)
159	板碑	1区 17土壙 B↑7 G	11×15×2	右側面ノ砥石? (光明真言) サ? (運座)
160	板碑	1区 17土壙 B↑7 G	14×11×3	炭化物スス附着、一条線か
161	板碑	1区 A↑3 G No.17	28×9×2	裏摩耗痕ノ砥石? バク(運座)
162	板碑	1区 A↑6 G No.86	16×7×1	裏面擦痕ありノ砥石? (運弁)
163	板碑	1区 A↑8 G 8	20×12×2	裏平坦(みかき痕) (運弁?)
164	板碑	1区 A↑10 G No.109	11×7×1	
165	板碑	1区 A↑10 G No.133	15×10×2	裏面磨、スス附着
166	板碑	1区 A↑12 G No.91	7×8×1	
167	板碑	1区 A↑12 G No.92	16×7×1	裏面みかき痕
168	板碑	1区 A↑12 G No.96	10×11×2	本尊種子の一部あり (運座)
169	板碑	1区 A↑12 G No.97	12×6×2	枠線の外にケガキ線 (運座)
170	板碑	1区 A↑12 G No.98	10×10×2	
171	板碑	1区 A↑13 G No.73	12×9×2	キリーク(運座)
172	板碑	1区 A↑13 G No.77	16×11×1	裏面煤附着 真言梵字の一部あり 文和四年九月□
173	板碑	1区 B↑2 G B↑4 G No.42	15×6×2	キリーク(運座) □□ (文か)
174	板碑	1区 B↑3 G No.20	10×7×2	上端二条線 本尊種子の一部あり
175	板碑	1区 B↑5 G	12×15×2	
176	板碑	1区 B↑6 G	12×8×1	煤裏面附着 本尊種子の一部あり
177	板碑	1区 B↑14 G No.38	16×11×3	□□ (年)
178	板碑	1区 B↑17 G No.14	8×7×1	□三年十□

第29表 石製品類一覽表3

No.	遺物名	出土地点	縦×横×厚	備考
179	板碑	1区 表土	11×8×2	二条線+枠線
180	板碑	2区 8溝 K-9 G No. 39	11×6×1	
181	板碑	2区 25溝 J-7 G No. 76 K-7 No. 48	16×13×2	表側スス付着 蓮座あり
182	板碑	2区 25溝 K-7 G No. 20	16×9×2	キリク (蓮座)
183	板碑	2区 25溝 K-7 G No. 40	22×16×3	
184	板碑	2区 25溝 K-7 G No. 56	46×15×2	枠線ケガキ状。中央軸線ケガキ キリク (蓮座) 応仁二年 道慈禪門 四月一日
185	板碑	2区 25溝 K-7 G No. 57	23×14×1	バン (蓮座)
186	板碑	2区 25溝 K-7 G No. 68	14×14×1	下部片
187	板碑	2区 25溝 K-8 G No. 41	9×14×3	真言梵字あり・厚い→大型
188	板碑	2区 25溝 K-8 G No. 46	20×16×1	一ヶ所砥石として使用?
189	板碑	2区 25溝 K-8 G No. 79	28×20×3	キリク
190	板碑	2区 26溝 K-8 G No. 27	7×5×1	キリク?
191	板碑	2区 28溝 K-7 G No. 104	48×14×2	二条線・枠線はケガキ状 略完形 キリク (蓮座) 妙観禪尼 寛正七年戊戌 七月廿三日
192	板碑	2区 2井 D-9 G No. 9	30×15×2	側面摩耗再利用か キリク (蓮座)
193	板碑	2区 155 塚	24×21×2	表材悪くスがある キリク (光明真言) キリク (光明真言)
194	板碑	2区 10井 E-11 G No. 24	30×23×3	表面スス付着 サ (蓮座) 正安元年□月□ (七か) サク
195	板碑	2区 J-7 G No. 14	19×10×2	表面炭化物付着
196	板碑	2区 K-8 G No. 19	7×5×1	大形
197	板碑	2区 L-10 G No. 18	22×9×2	枠線ケガキ状 (光明真言) 唯念 □月十二日
198	板碑	2区 6-33区	9×6×2	
199	板碑	2区 6-33区	22×20×3	表裏に炭化物付着 キリク
200	板碑	2区 6-33区	11×7×1	本尊種子・蓮座の一部
201	五輪塔 (火輪)	1区 12溝 (A-9 G)	8×8×6	
202	五輪塔 (火輪)	1区 B-2 G No. 27	9×7×7	
203	五輪塔 (火輪)	2区 J-7 G No. 66	10×9×8	欠損後、砥作業による面、条線が残る。角閃石安山岩
204	五輪塔 (火輪)	2区 L-10 G No. 8	16×18×12	各面摩耗による面形成。角閃石安山岩
205	五輪塔 (地輪)	2区 31溝 J-6 K No. 77	17×19×13	種子周辺に墨付着。一部使用による摩耗面形成。底面 ノミ痕残 長髯? ア 四月廿一日 角閃石安山岩
206	五輪塔 (地輪)	2区 6-33	8×8×3	角閃石安山岩

第30表 石製品類一覽表4



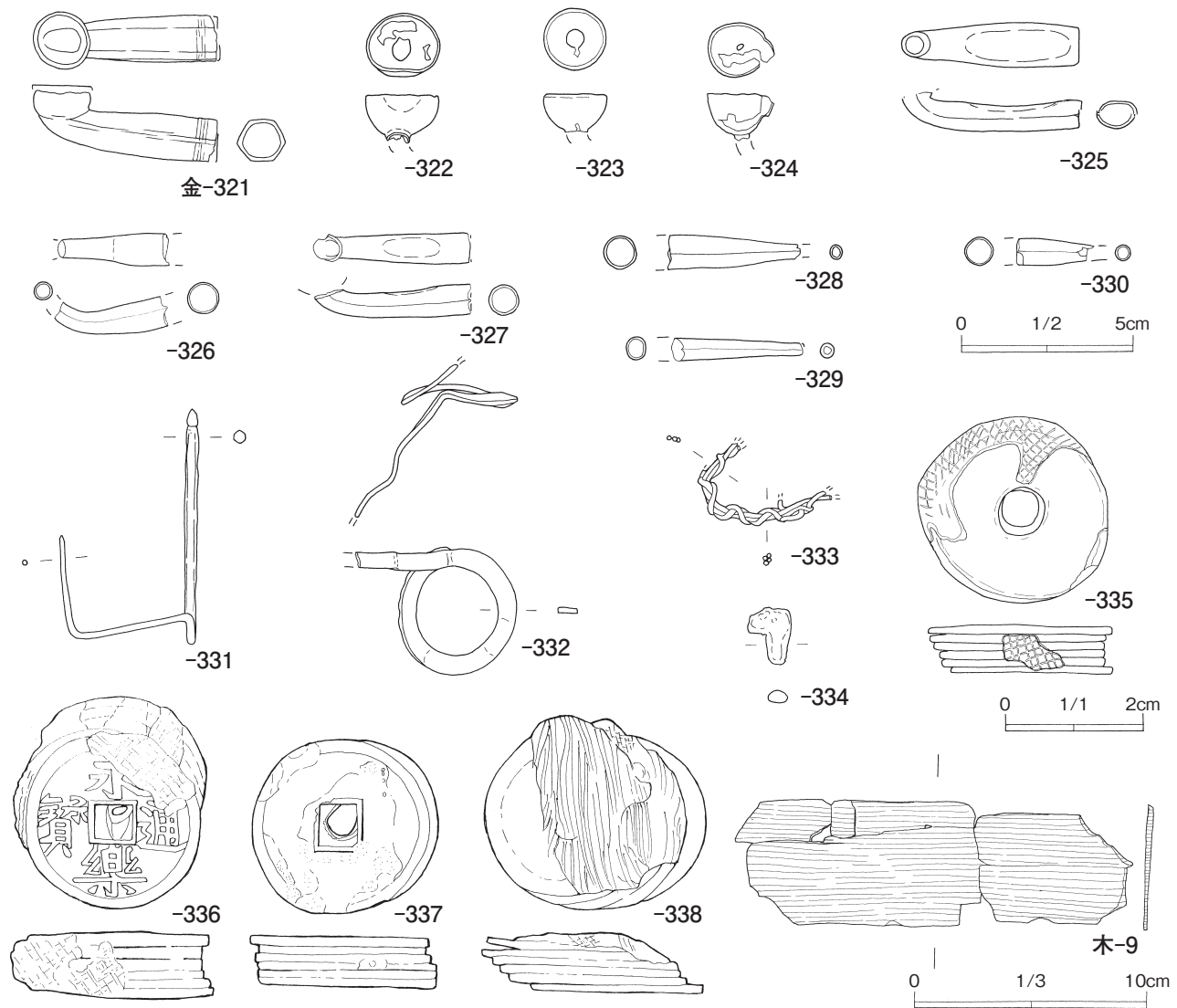
※ 1区 ≡ K B 1 2区 ≡ K B 2

法量の単位は cm 太字は銘文

No.	遺物名	出土地点	縦×横×厚	備考
207	五輪塔 (地輪)	2区 6   31	11×12×9	上面摩耗による凹凸面形成刃物状製品による砥跡、数カ所あり。角閃石安山岩
208	五輪塔 (水輪)	2区 34 溝日   8 G No. 127	14×19×8	正面中央に摩耗による平坦面形成使用によるものか？ 角閃石安山岩
209	板碑台石	1区 C   19 G No. 40	25×10×3	右側中央に穿孔あり、やや丸みをおびる上方は広がり、 下端に平坦面あり。緑泥片岩
210	砥石	1区 4 井 No. 2	20×11×2	側面は摩耗により平坦面形成板碑台石の2次利用か表面被熱、炭化物付着

第31表 石製品類一覧表5

# 第5節 補遺



第98図 出土遺物補遺 (木・銅)

( ) は残存値、\*は不正確な推定復元値

法量の単位はcm

図No	器種	材質	調査区	出土地点	口径 (長さ)	底径 (幅)	器高 (高さ)	遺物 ID	備考
金-321	煙管 (雁首)	銅	KB 1	B-7 G	5.3	1.6	2.0	0001-0017	
金-322	煙管 (雁首)	銅	KB 1	B-17 G No.8	2.1	1.8	(1.4)	0001-0010	火皿
金-323	煙管 (雁首)	銅	KB 2	J-6 G	1.8	1.8	(1.1)	0002-0019	火皿
金-324	煙管 (雁首)	銅	KB 2	4-8区	1.9	1.6	(1.3)	0002-0025	火皿
金-325	煙管 (雁首)	銅	KB 1	表土	(5.1)	1.2	(1.1)	0001-0015	
金-326	煙管 (雁首)	銅	KB 2	H-9 G No.12	(3.3)	0.9	(1.1)	0002-0016	
金-327	煙管 (雁首)	銅	KB 2	6-33区	(4.5)	0.8	(0.9)	0002-0034	
金-328	煙管 (吸口)	銅	KB 1	A-6 G No.91	(3.8)	0.9	-	0001-0002	
金-329	煙管 (吸口)	銅	KB 2	6-33区	(3.8)	0.6	-	0002-0040	
金-330	煙管 (吸口)	銅	KB 2	G-9 G No.18	(2.1)	0.8	-	0002-0011	
金-331	箸状製品	銅	KB 1	A-12 G No.32	6.8	4.0	0.35	0001-0004	
金-332	平紐状製品	銅	KB 1	A-9 G	(4.7)	3.6	0.1	0001-0003	
金-333	針金	銅	KB 2	7溝	(4.8)	2.5	0.4	0002-0002	
金-334	塊状品	銅	KB 1	A-19 G	1.7	1.2	0.4	0001-0007	
金-335	錢貨	銅	KB 2	45壙 M-11 G No.18					錆着・布痕
金-336	錢貨	銅	KB 2	79壙					錆着・布痕
金-337	錢貨	銅	KB 2	90壙 M-11 G No.20					錆着
金-338	錢貨	銅	KB 5	104壙 I-8 G No.55					錆着・布痕
木-9	曲物 (側板)	木	KB	B-5 G (12溝)	17.2	5.2	0.3	0001-0001	

第32表 出土遺物補遺一覽表

## 第V章 まとめ

ここでは特徴的な遺構を取り上げ年代・性格を考察し、最後にKB1・2区全体の変遷を追うこととする。

### 第1節 KB大英寺区

当調査区は、『武州騎西之絵図』の大英寺周辺と考えられ、現在地に比定すると現大英寺の境内地或いは西側に位置する。

1号溝は上層で検出された遺物集中はかわらけを主とし17世紀後半の年代を与えた。廃城後に埋没(埋め戻し)した窪みに廃棄されたもので、走行方向から参道に並行し、在城期に存在していた可能性が高い。

### 第2節 KB1区

#### ○溝

当調査区は『絵図』によると、武家屋敷の南西部南北に延びる堀周辺に当たると思われる(第99図)。

検出された12号溝はその堀に相当する位置にあり、規模・走行方向・年代が一致する。しかし『絵図』ほど北へ延びず、半ばで東へ屈曲してKB3区でクランクしてさらに東に向かっているが、その後の走行は『絵図』と一致するようである。

さて、絵図には溝半ばで幅が狭くなる様子が描かれているが、どこに比定するかで現在地への屋敷の割付が変わってくる。

**A:** 1号溝との合流点が形態的に類似する。しかし、絵図に比べ短い地点となる。

**B:** KB3区のクランクをその地点とすると屈曲する地点は絵図に近くなる。

現時点では両案を候補とし、今後結論付けたい。

12号溝の上層はテフラを含み18世紀後半まで窪んでいたものと思われる。その際上層に廃棄されたもので堀として機能した時期は絵図の時代に掛かっていたとしても齟齬はない。

#### ○井戸状遺構

井戸はほぼ中央から南にかけて分布する。用途としては生活・耕作用が考えられ、当該区が居住地あ

るいは畑地として機能していたものと思われる。年代は1・8・13号井戸が規模・底面標高等が近似し13~14世紀ごろか。3・4・6・10・11号井戸は16世紀後半から17世紀前半のものと思われ、在城時期のものが多数を占めるものであろう。

#### ○土壇

37号土壇は小規模な長方形の竪穴である。短辺に柱穴を設け、貼り床が施されるなど特徴的なものである。遺物が少なく性格・年代が確定できないが、同様な形態の遺構が博多で見られ、工房址と考えられている。現時点では工房を第一候補とし作業場的な空間を想定しておく。周辺から碗形滓等のスラグが出土していることに留意したい。

37・38号土壇も水平に薄く覆土が堆積するという特徴的な土壇で、性格は不明であるが重複関係から16世紀以前と考えられる。

17号土壇は特異な形態で骨が出土している。覆土は不明であるが地下式墳の一類型で、墓壇としての性格が考えられる。

また、円形の土壇群は規模・形態・覆土が大略同様で、機能が同一で同時期に機能していたと思われる。遺物が少なく年代が不明であるが廃城後耕作等に供したものとしておく。

#### ○ほか

調査区南側は現地形が南に傾斜しており、絵図以前に平坦となっていたものと思われる。13~16世紀の遺物がわずかに出土しているが、主体は12号溝の16~17世紀のものである。

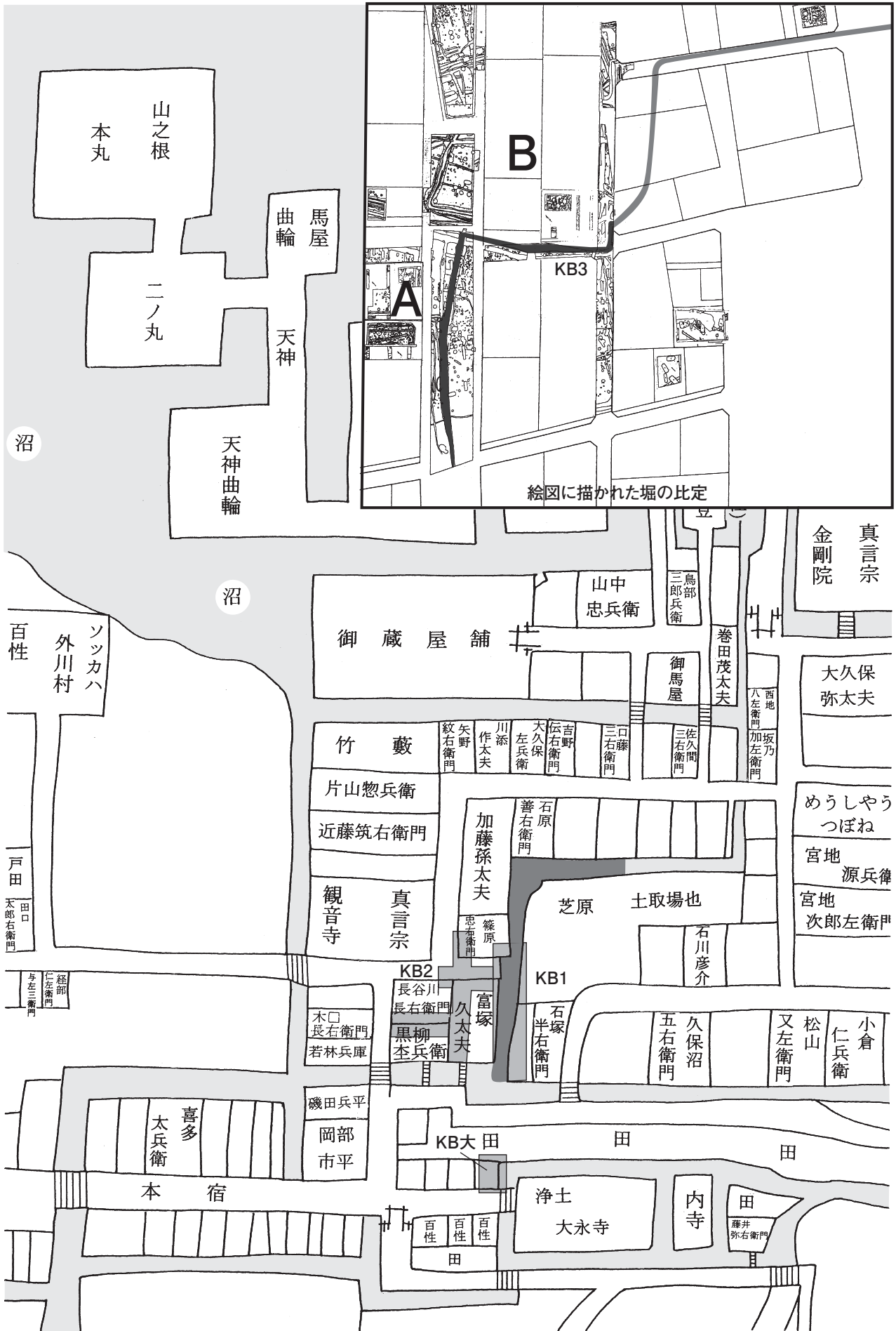
### 第3節 KB2区

#### ○溝

22号溝は時期不明であるが、36次の成果から16世紀前半とする。

1・2・14号溝はつながり、屈曲し南側を囲むものである。年代は16世紀代と思われ、41次の成果から16世紀中頃とする。18号溝も同時期であろう。

25・28号溝も屈曲し北西方向を囲む。溝の長さは短く15m×18mであり、覆土中位層以下に板碑や在地の甕・かわらけ・銭貨などがあることから、屋敷



第99図 『絵図』との対照図



地造成時に前段階に存在した墓域を破壊し埋め立てられたもので、16世紀後半から17世紀前半に機能していたものと思われる。

8号溝は17世紀後半、34号溝は17世紀末以降に比定される。

16号溝はロームブロック・粒子を多量に含み、盛土あるいは堀などの掘削により排出した土により埋め立てられたものか。

南北に縦走する6・19号溝は並行し、調査時に道の側溝を想定したが幅狭で決め手に欠ける。

#### ○井戸状遺構

ほぼ3ヶ所にまとめ、年代は用水際区の11～13号井戸は16世紀以前か。1・5・6号井戸は16世紀から17世紀前半頃、4～8号線区（8～10号井戸）は17世紀末から18世紀頃のものであろう。

#### ○土壙

骨・かわらけ・銭貨が出土する墓壙が多数ある。6～32号線交差点区（北墓域）と6～33号線南区・4～8号線東（南墓域）の2カ所に集中する。頭位は北が多い。北墓域は第41次の成果から16世紀中頃を含む時期に、南墓域は25号溝出土の板碑から15世紀中頃を含む時期に営まれたものと考えられる。

166号土壙（6～32西区）は階段を有する地下式土壙で当遺跡唯一の検出例である。室として使用したものか。

#### ○炭化物分布範囲

用水際区に所在し、甲冑の部品などが出土する。南墓域に近く、戦後処理を行うなど非日常生活区域が存在した時期があった。

## 第4節 遺構の変遷

溝については遺物の流れ込みや確認できなかった遺構に伴う遺物があり、さらに掘り返し・長い埋没時間など、時期決定に不確実な部分を伴うが今後の考察の叩き台として敢えて、KB1・2区を総括して年代の変遷を追う。（第100・101図）

ただし、各段階には他時期の遺構が併存するものである。

#### 【第1段階】16世紀前半まで

KB1区1号溝・KB2区6号溝が相当し、南北に

走行する。KB1区13号溝は覆土が6号溝と同様黒褐色で同時期か。また、南墓域は15世紀半ばから、KB1区の南側には板碑片・銭貨等17号土壙につながる墓域が展開していたものと思われる。作業場とした37号土壙もこの時期か。ほかに青磁・白磁・土鍋等の出土は13世紀以降に居館等が所在した可能性を提示する。

#### 【第2段階】16世紀前半から中頃

KB1区9a・KB2区18号溝（T1溝）とKB2区1・2・14・9号溝（T2溝）が相当すると思われる8mの間隔を持ち、並行して走行し東は直角に、西は弧状に屈曲している。KB1区10b号溝・KB2区22号溝（T3溝）はT1溝に並行し近接する時期で敷地拡張の結果であろうか。

北墓域が形成された時期でもあるが、時間幅は前後に広がるものと思われる。

KB2区の炭化物分布範囲など永禄・天正年間の戦乱に起因する遺構・遺物が多数所在すると思われる。

#### 【第3段階】16世紀後期～17世紀初頭

松平・大久保が城主の時期である。KB1区12号溝、KB2区16号溝が相当する。25・28号溝（T4溝）は走行軸にやや違和感があるが出土遺物からこの時期としておく。KB1区の井戸はこの時期に多い。

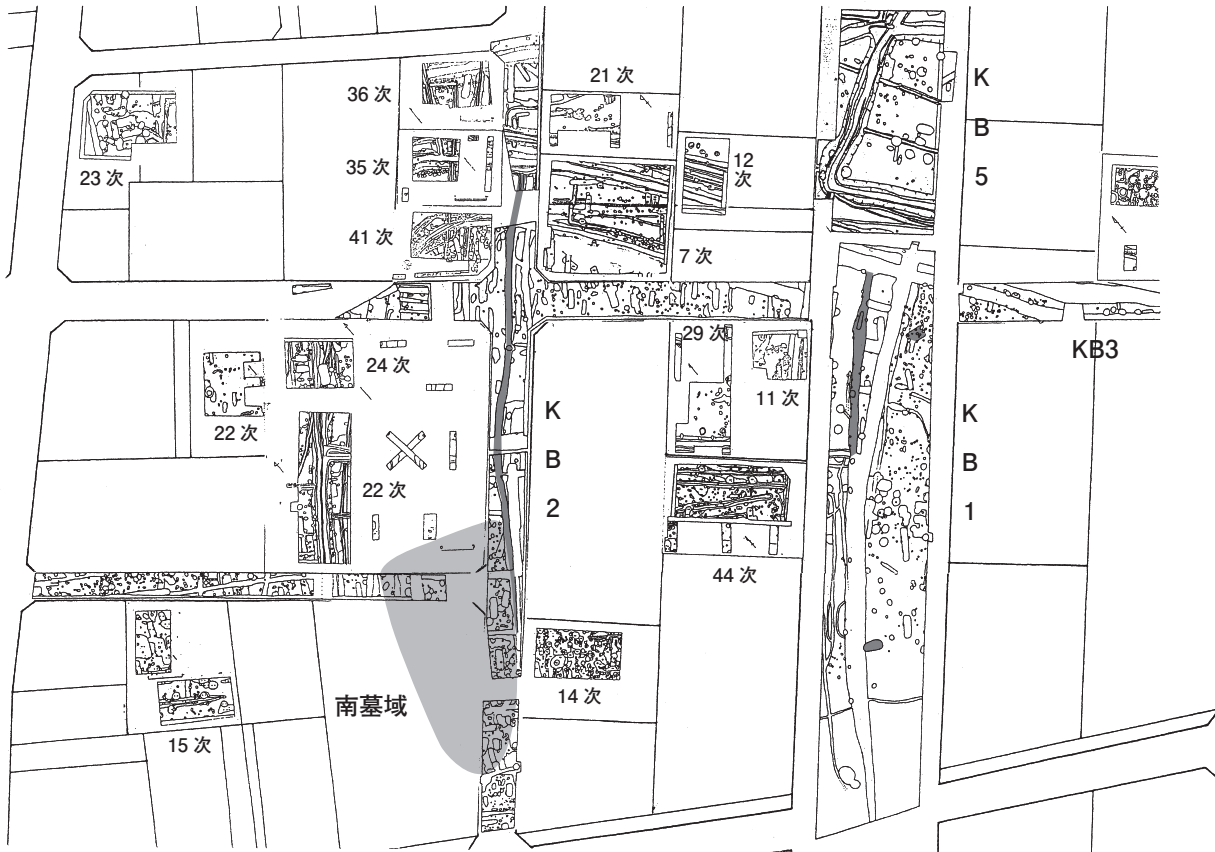
#### 【第4段階】17世紀後期（変遷図省略）

廃城後である。KB2区8・34号溝（T5溝）や37号溝が相当しT5溝は直角に屈曲する。

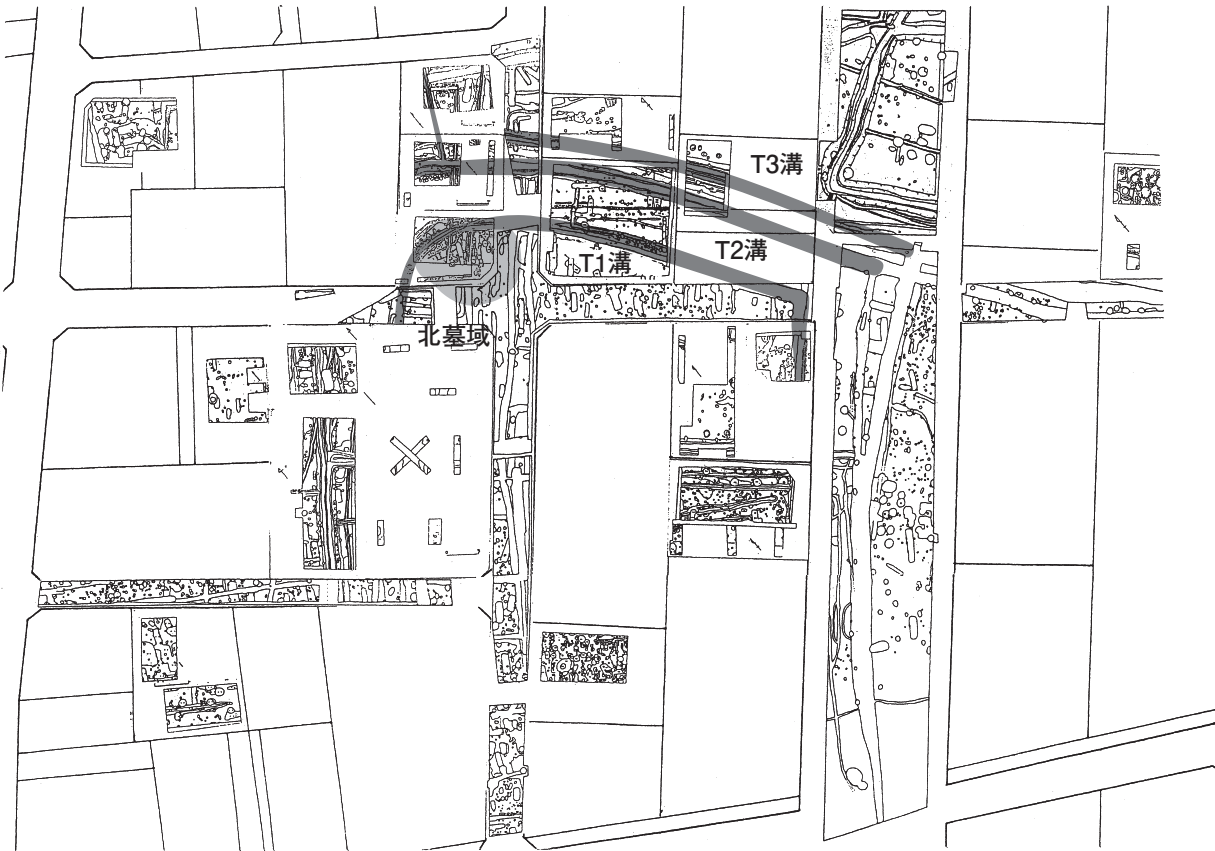
#### 【第5段階】18世紀（変遷図省略）

大規模な溝は少ない。KB2区7・12・33・43号溝や9・10号井戸が相当する。この時期にも居住空間が存在したようである。

以後も遺構遺物が確認されるがここでは省略する。



第 1 段階 (~16c前)



第 2 段階 (16c前~中)

第100図 遺跡の変遷 1



第 3 段階(16c後~17c初)



第 4 段階(17c後)

第101図 遺跡の変遷 2

## 参考文献

- 秋本 太郎 2008 「戦国期北関東のかわらけー戦国大名支配との関連ー」『中世東国の世界3 戦国大名北条氏』高志書院
- 大橋 康二 1984 「肥前陶磁の変遷と出土分布」『国内出土の肥前陶磁』佐賀県立九州陶磁文化館
- 小野 正敏 1982 「15、16世紀の染付碗、皿の分類とその年代」『貿易陶磁研究』No.2 貿易陶磁研究会
- 小野 正敏 2000 「遠江の出土陶磁器組成の特徴」『横地城跡 総合調査報告書 資料編』菊川町教育委員会
- 小畑 弘己 1992 「繭形分銅覚書」『法哈噠』1  
『騎西町史』考古資料編1 2001 騎西町教育委員会  
『騎西町史』考古資料編2 1999 騎西町教育委員会  
『騎西町史』通史編 2005 騎西町教育委員会  
『騎西城武家屋敷跡第7次発掘調査報告書』 騎西町遺跡調査会報告書第1集 1996 騎西町遺跡調査会  
『騎西城武家屋敷跡妙光寺第1・2次発掘調査報告書』 騎西町遺跡調査会報告書第2集 1997 騎西町遺跡調査会  
『騎西城武家屋敷跡、第14・27・44・45次調査』 2010 騎西町埋蔵文化財調査報告書 第5集 騎西町教育委員会
- 九州近世陶磁学会 2000 「九州陶磁の編年」九州近世陶磁学会
- 九州近世陶磁学会 2001 「国内出土の肥前陶磁」東日本の流通をさぐる九州近世陶磁学会
- 小林 義典ほか 2002 「小田原城三の丸 藩校集成館跡第Ⅲ・第Ⅳ地点」小田原市文化財調査報告書第100集 小田原市教育委員会
- 島村 範久 2005 「騎西（私市）城跡」『シンポジウム 埼玉の戦国時代 検証 比企の城』資料集 史跡を活用した体験と学習の拠点形成事業実行委員会  
2005 「騎西（私市）城跡」『戦国の城』高志書院
- 田中 信 1996 「川越市内出土の中世土師器についてー特に河越館跡および周辺出土を中心にー」『川越市埋蔵文化財調査報告書（X I）』川越市教育委員会  
2005 「山内上杉氏の土器（かわらけ）とは」『戦国の城』高志書院  
2005 「出土遺物からみた山内上杉（越後上杉氏）の城・陣所」『シンポジウム 埼玉の戦国時代 検証 比企の城』資料集 史跡を活用した体験と学習の拠点形成事業実行委員会  
2010 「葛西城と扇谷上杉氏のかわらけ」『葛西城と古河公方足利義氏』雄山閣
- 塚田 良道 1989 「忍城跡の発掘調査」『行田市郷土博物館研究報告』Vol.1 行田市郷土博物館
- 中野 晴久 1994 「生産地における編年について」『全国シンポジウム中世常滑焼をおって』資料集
- 中野 晴久 2005 「常滑・渥美窯」『陶磁器から見る静岡県の中世社会』菊川城館遺跡国指定記念シンポジウム資料集
- 服部 実喜 2008 「かわらけから見た北条氏の権力構造」『中世東国の世界3 戦国大名北条氏』高志書院
- 藤澤 良祐 1987 「本業焼の研究（1）」研究紀要Ⅵ 瀬戸市歴史民俗資料館
- 藤澤 良祐 1988 「本業焼の研究（2）」研究紀要Ⅶ 瀬戸市歴史民俗資料館
- 藤澤 良祐 1989 「本業焼の研究（3）」研究紀要Ⅷ 瀬戸市歴史民俗資料館
- 藤澤 良祐 2002 「瀬戸・美濃大窯の再検討」『財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター研究紀要』第10輯 財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター
- 藤澤 良祐 2008 「中世瀬戸窯の編年」
- 比佐陽一郎 2008 「金属製品」『中世都市を掘る』海鳥社



# 圖 版





調査前風景



1号溝 遺物出土



1号溝 完掘



1号溝 土層堆積



完掘





調査区 遠景



調査風景





12号溝 田下駄（木-8）出土



12号溝 櫛（木-1）出土



12号溝 茶器（木-7）出土



12号溝 漆碗 (木-4) 出土

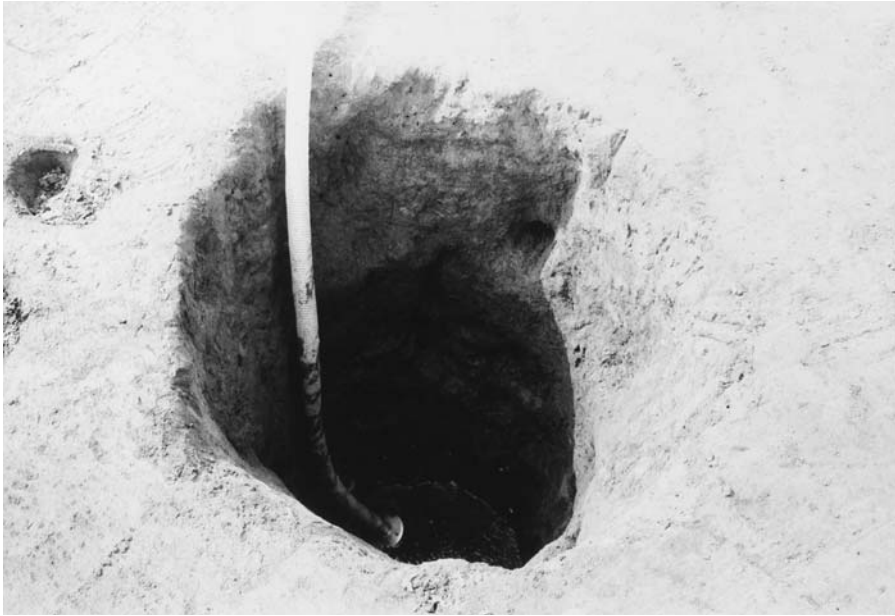


1号溝 板碑 (石-146) 出土

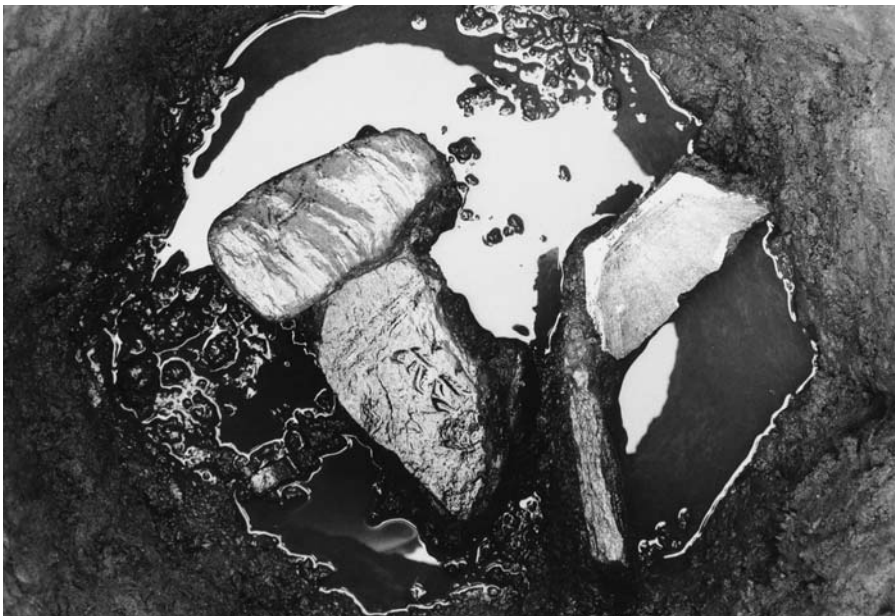


8号溝 大皿 (土-66) 出土





8号井戸 完掘



9号井戸 遺物出土



11号土坑 土層堆積



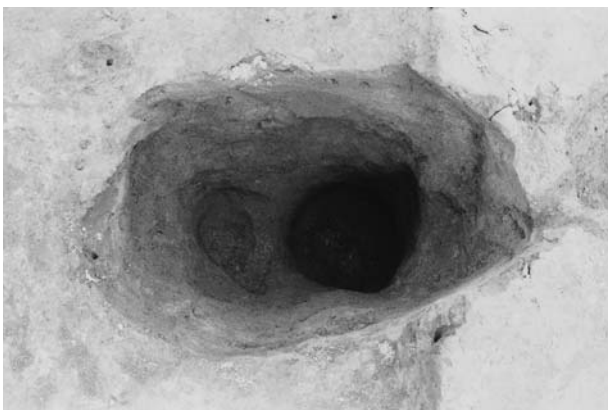
37号土壇 完掘



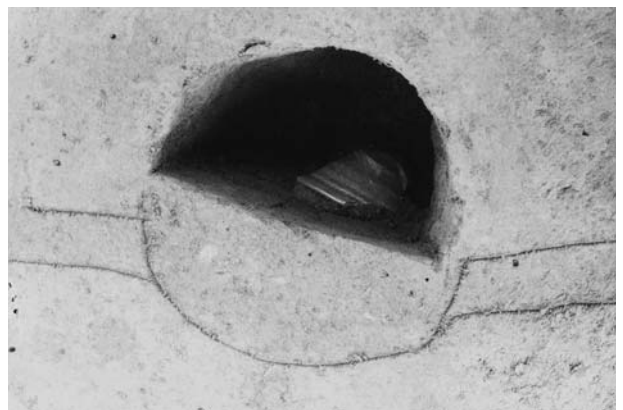
同 (西から)



同 (土層堆積)



同 柱穴



1号ピット 遺物出土





6-32号線東区 調査風景



6-32号線西区 完掘





6-31号線区 完掘



6-32号線交差点区 完掘



6-33号線北区 完掘（北から）



6-33号線南区 完掘（北から）





6-33号線南区 完掘 (南から)



4-8号線区 完掘 (東から)

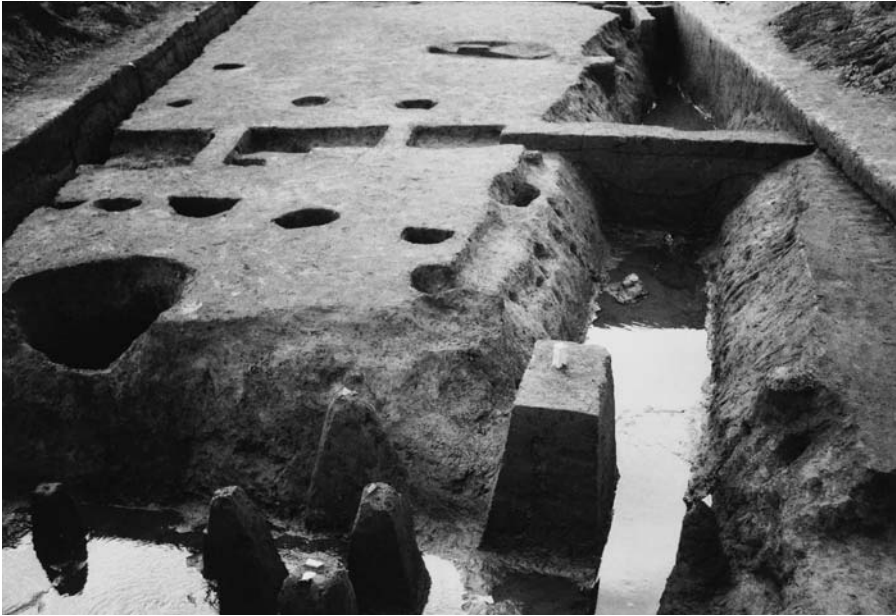




4-8号線区 完掘 (西から)



6-33号線用水際区 完掘 (南から)



1・21 (右) 号溝 遺物出土



1 (中) ・ 2 ・ 21 (右) 号溝 完掘



6 (右) ・ 19号溝 完掘





7 (右) · 10号溝 遺物出土



8号溝 完掘



16号溝 遺物出土



18号溝 遺物出土



22号溝 完掘



25号溝 完掘



25・28 (左) 号溝 完掘





25号溝 遺物出土 (北側)



25号溝 遺物出土 (南側)



25号溝 板碑 (石-191) 出土



28号溝 かわらけ (土-798) 出土



31号溝 地輪 (土-205) 出土



33 (左) ・35号溝 完掘





34号溝 遺物出土



34 (左) ・ 36 (右) ・ 45 (中央)  
号溝 完掘



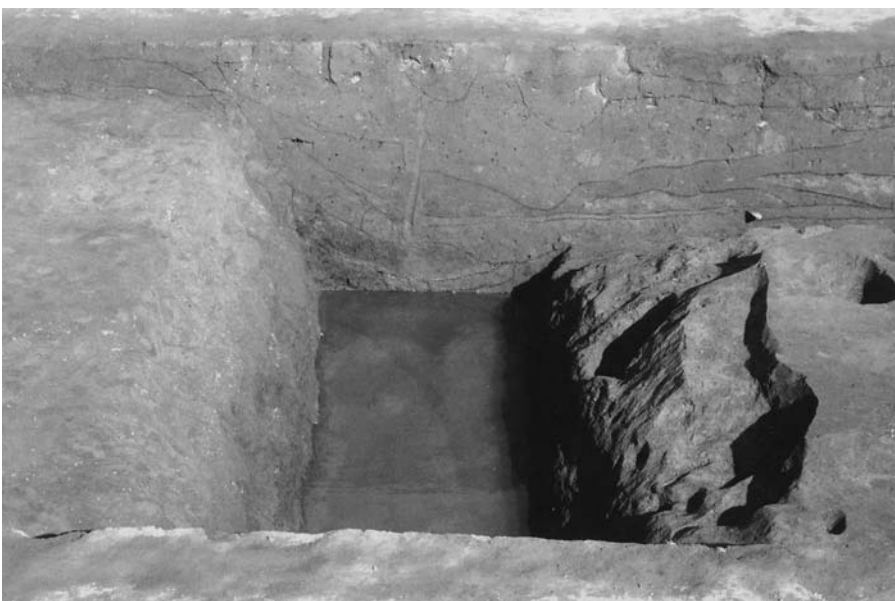
37号溝 反り皿 (土-563) 出土



42号溝 完掘



45号溝 かわらけ (土-588・589) 出土



46号溝 完掘





9号井戸 遺物出土



10号井戸 完掘



10号井戸 板碑(石-194)出土



45b号土壙 遺物出土



48号土壙 遺物出土





75号土壇 遺物出土



79号土壇 遺物出土





81・82 (手前) 号土壙 完掘



82号土壙 土層堆積





89号土壇 遺物出土



96号土壇 遺物出土





98号土壙 遺物出土



99号土壙 遺物出土





101号土壙 遺物出土



124号土壙 遺物出土





106号土壙 遺物出土



155号土壙 遺物出土



158号土壙 遺物出土





164号土壇 完掘



かわらけ出土



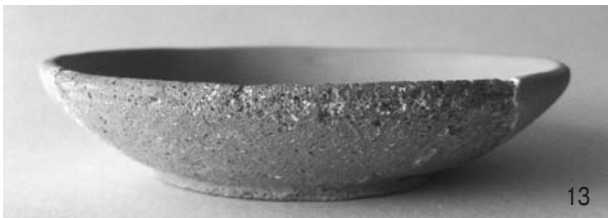
4-8号線区 かわらけ (土-836) 出土



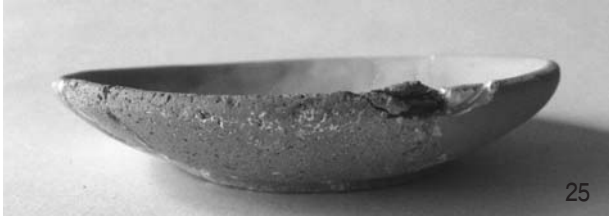
4-8号線区 かわらけ (土-793) 出土

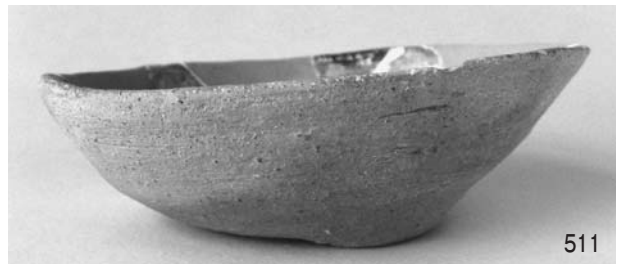
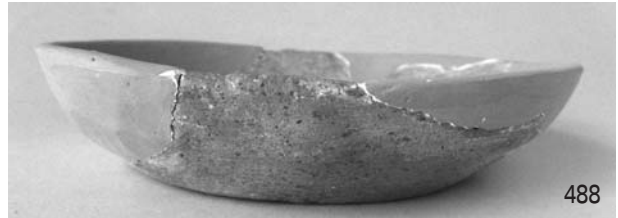


同 下出土皿

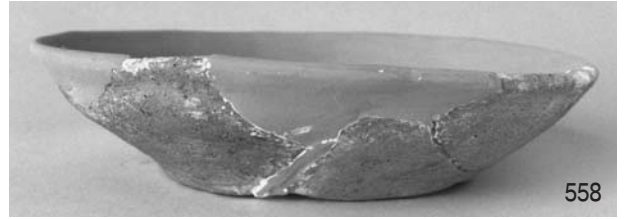








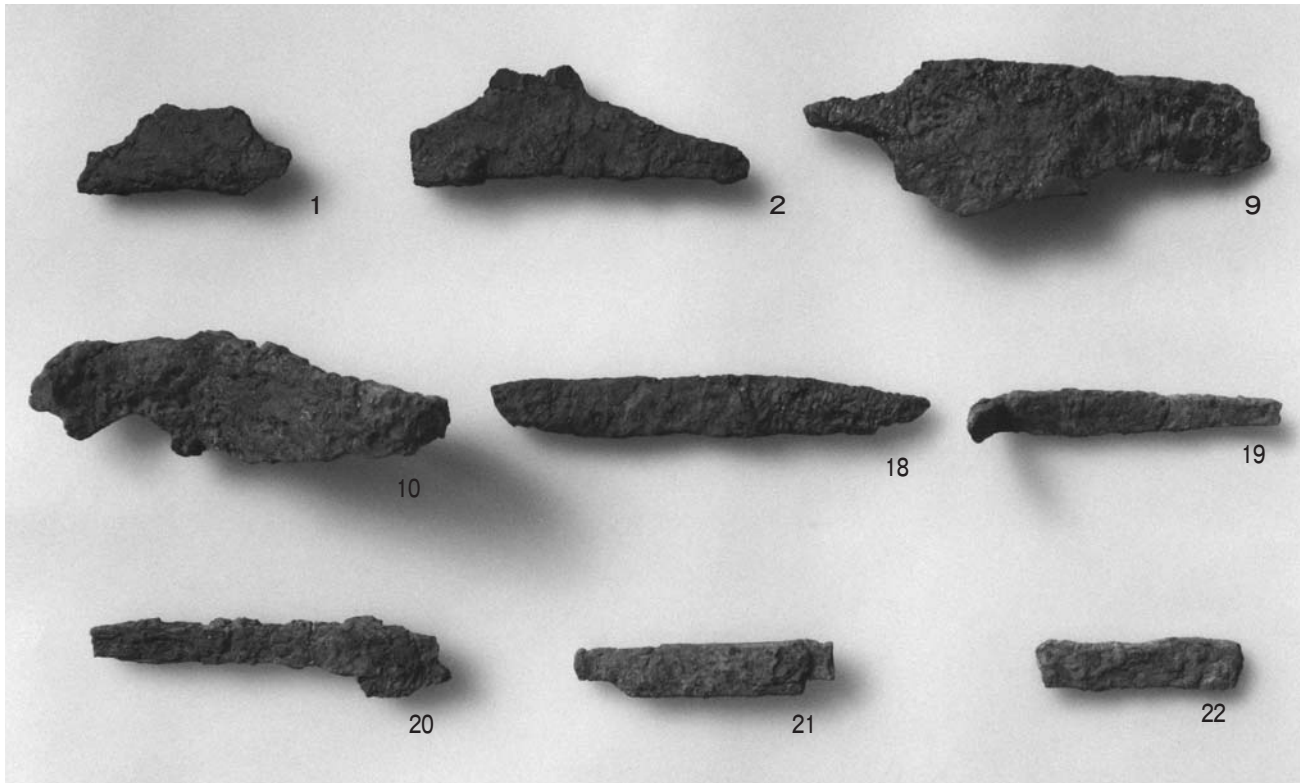








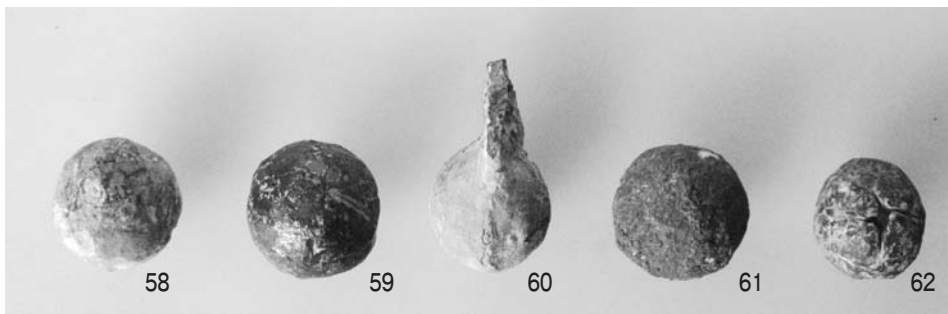




鉄製品



銅製品 (煙管)



弾丸



銭貨





粉挽き臼



側面

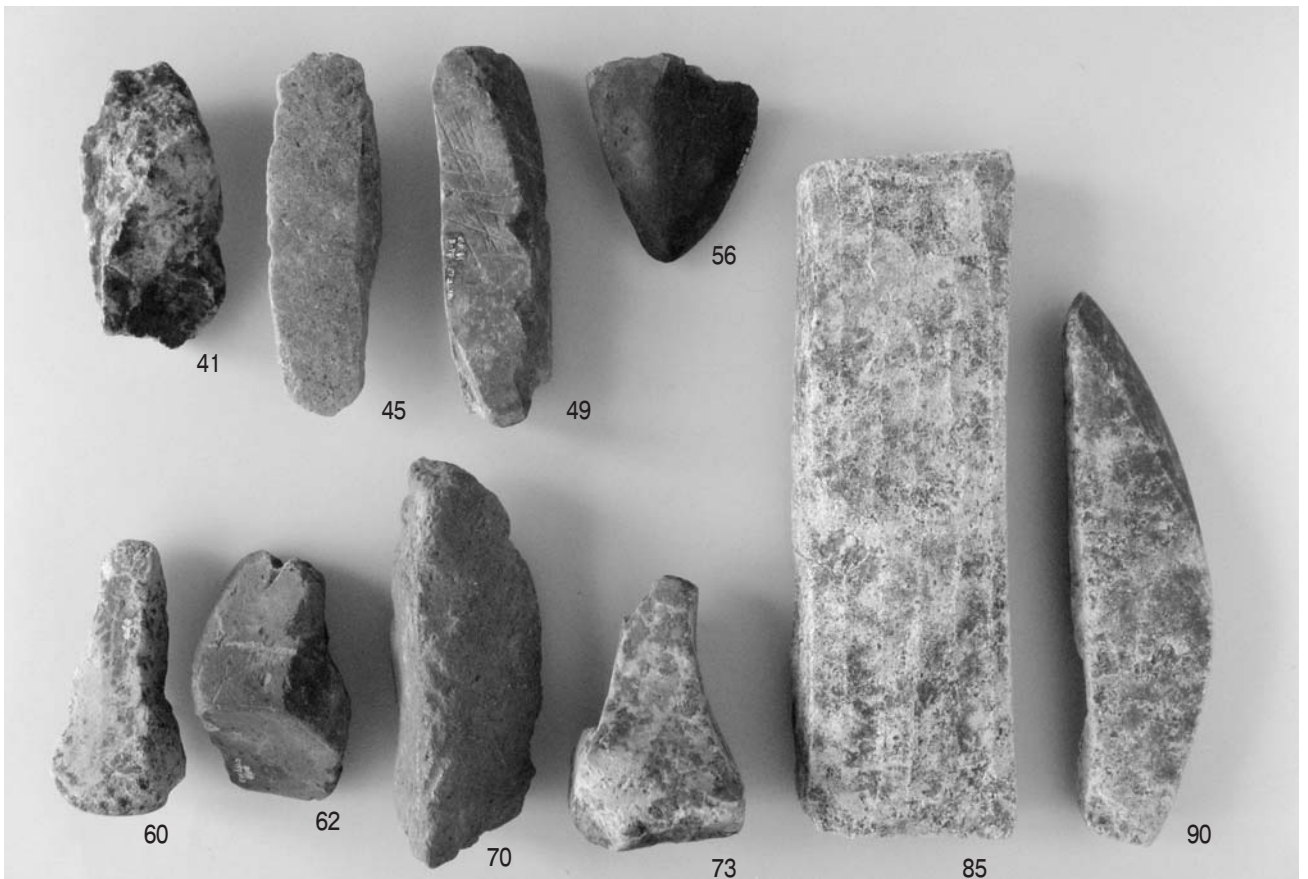


下面

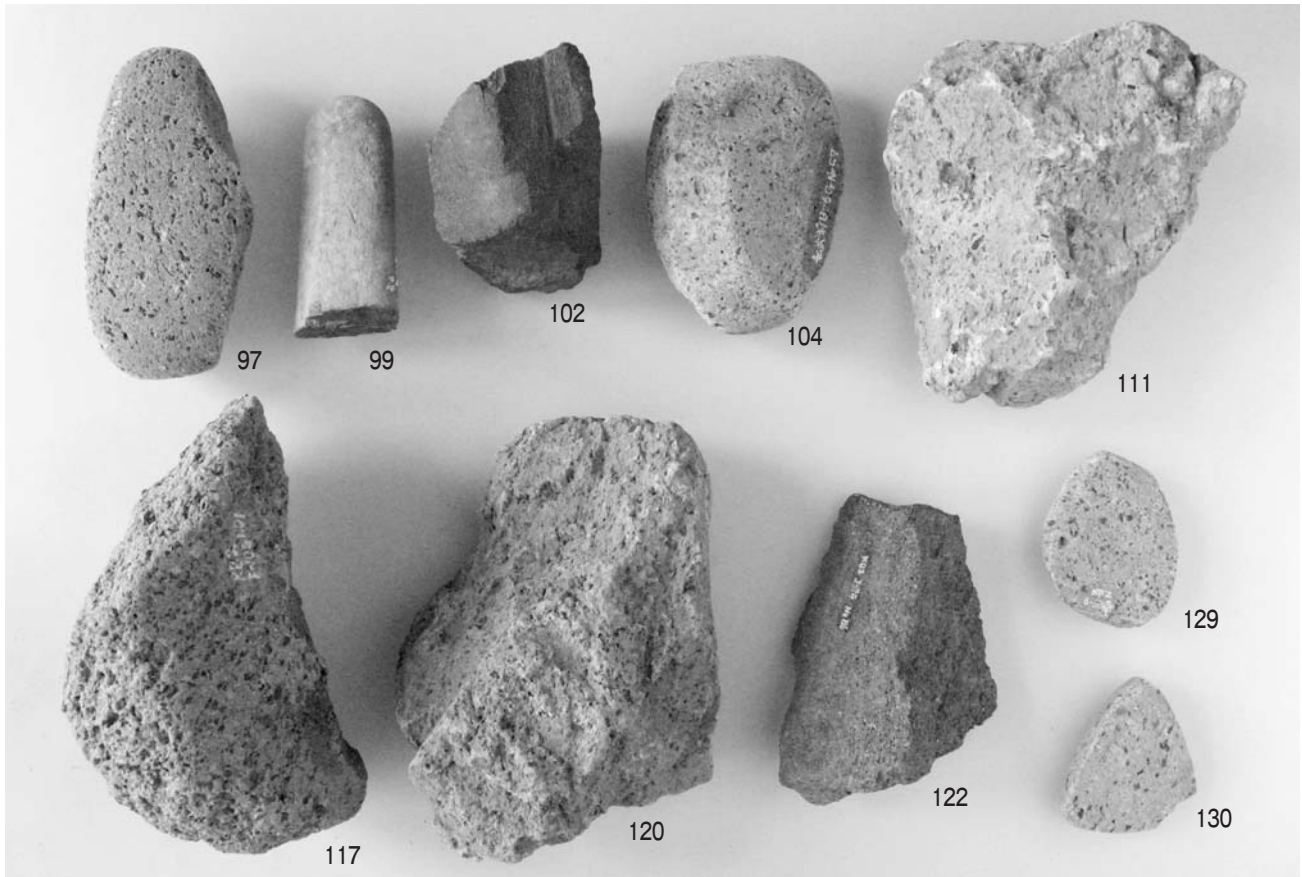
茶臼



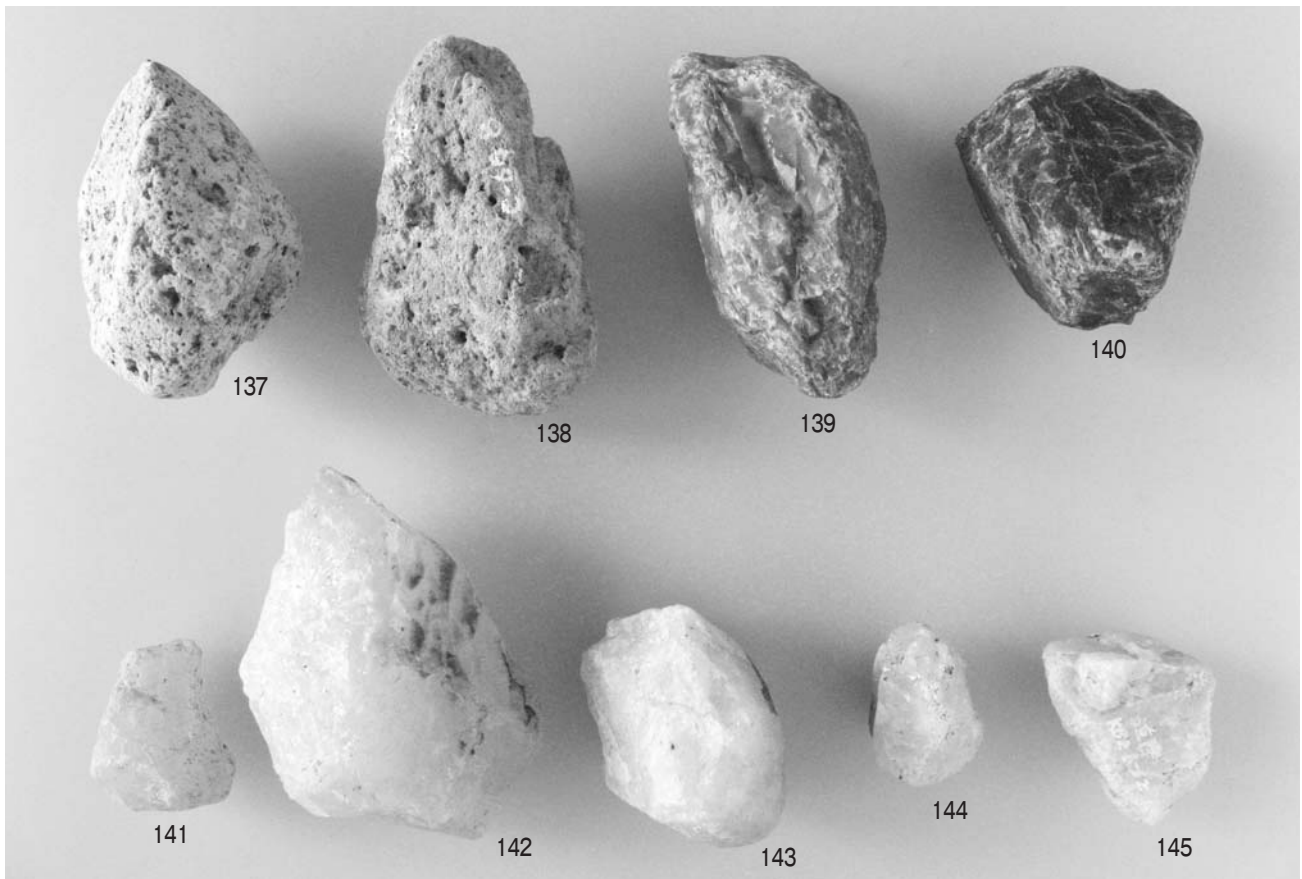
碁石



砥石



磨石



磨石・火打石





146



184



191

板 碑



209



205

地輪





## 報告書抄録

フリガナ	キサイジョウブケンシキアト							
書名	騎西城武家屋敷跡							
副書名	KB 大英寺・1・2区調査							
巻次								
シリーズ名	加須市埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第2集							
編著者名	嶋村英之 島村範久 嶋村薫							
編集機関	加須市教育委員会							
所在地	〒347-8501 埼玉県加須市下三俣290番地							
発行年月日	西暦2011年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m <sup>2</sup>	調査原因
		市町村	遺跡番号					
きさいじょう 私市城 武家屋敷跡	さいたまけんかぞし 埼玉県加須市 (旧騎西町) 大英寺区 騎西字町並 1078, 1079他 第1・2区 根古屋字前 67-4、67-8、 72、76他	11421	070	36°5'59"	139°34'55"	大英寺区 19830725～ 1015	1,108	土地区画 整理
				36°6'4"	139°35'0"	1区 19831115～ 19840612	1,440	
				36°6'6"	139°34'58"	2区 19830504～ 1129	1,100	
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
きさいじょう 私市城 武家屋敷跡	城館跡	大英寺区中近世	溝1条／井戸1基 ／土壇3基	陶磁器類・かわらけ・ 錘	17世紀後半の一括資料			
		第1区 中近世	溝16条／井戸14基 ／土壇47基	陶磁器類・漆椀・茶器 ・田下駄	絵図に記載する堀検出			
		第2区 中近世	溝47条／井戸13基 ／土壇152基	陶磁器類・鏃・小札・ 銭貨・弾丸	墓域2カ所確認			
要約	文献による騎西城は1455年から1632年の約180年間に亘るもので、江戸初期の絵図によりその城下は明らかとなっている。今回の調査では絵図に記載される堀を確認した。他にその前後の時期の堀や井戸・土壇などの遺構を検出した。							

加須市埋蔵文化財調査報告書 第2集

---

## 騎西城武家屋敷跡

---

KB 大英寺・1・2区調査

平成23年3月25日印刷

平成23年3月31日発行

発行 加須市教育委員会

〒347-8501 埼玉県加須市下三保290番地

印刷 関東図書株式会社